

三日市A遺跡8

2016

石川県野々市市教育委員会

三日市 A 遺跡 8

2016

石川県野々市市教育委員会



29次調査区 遠景（北西から）



13次調査区（北から）



17次調査区（北から）



27次調査区（東から）



29次調査区 SI1、SK5～9
SD12～15、SZ1（上空から）



35次調査区 SI2（上空から）



29・32次調査区 SK15～35、NR5～7（北から）



29・31・32次調査区 SI5・6, 14～16, NR6・7（上空から）

例　　言

- 1 本書は、三日市A遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は、石川県野々市市二日市町地内である。
- 3 調査原因は、野々市市北西部土地区画整理事業にともなうものである。
- 4 調査は、野々市市北西部土地区画整理組合からの依頼を受けて野々市市教育委員会が実施した。
- 5 調査にかかる費用は、野々市市北西部土地区画整理組合と野々市市が負担した。
- 6 現地調査の年度・期間・面積・担当者は以下のとおりである。

平成14年度 第7次

期　間 平成14年10月8日～平成15年3月28日　面　積 1,450m²

担当者 横山貴広 野々市町教育委員会文化課職員

平成15年度 第13次

期　間 平成15年9月1日～平成15年12月12日　面　積 2,350m²

担当者 横山貴広

立原秀明 野々市町教育委員会文化課職員（財石川県埋蔵文化財センター出向職員）

平成16年度 第17次

期　間 平成16年10月14日～平成16年12月9日　面　積 2,160m²

担当者 横山貴広

平成17年度 第23次

期　間 平成17年11月28日～平成18年1月19日　面　積 280m²

担当者 横山貴広

平成17年度 第24次

期　間 平成17年11月28日～平成18年1月12日　面　積 596m²

担当者 横山貴広

平成18年度 第25次

期　間 平成18年9月28日～平成18年10月5日　面　積 132m²

担当者 横山貴広

平成18年度 第27次

期　間 平成18年6月13日～平成18年6月30日　面　積 563m²

担当者 横山貴広

平成19年度 第29次

期　間 平成19年4月12日～平成20年2月21日　面　積 7,144m²

担当者 横山貴広

田村昌宏 野々市町教育委員会文化振興課職員

徳野裕子 野々市町教育委員会文化振興課職員

平成19年度 第31次

期　間 平成19年5月28日～平成20年2月8日　面　積 2,372m²

担当者 横山貴広 田村昌宏 徳野裕子

平成19年度 第32次

期　間 平成19年9月27日～平成20年2月8日　面　積 5,286m²

担当者 横山貴広 田村昌宏 徳野裕子

平成19年度 第34次

- 期間 平成19年12月10日～平成19年12月27日 面積 402m²
担当者 徳野裕子
- 平成20年度 第35次
期間 平成20年5月14日～平成20年7月30日 面積 1,150m²
担当者 横山貴広
- 平成20年度 第36次
期間 平成20年6月20日～平成20年11月14日 面積 1,271m²
担当者 横山貴広
- 7 出土品整理は平成25～27年度に野々市市教育委員会が実施した。
- 8 報告書の刊行は平成27年度に野々市市教育委員会文化課が実施した。担当及び執筆・編集は田村昌宏（野々市市教育委員会文化課職員）、編集補助、遺物写真撮影・レイアウトは菊地由里子（野々市市教育委員会臨時職員）が行った。
- 9 本書についての凡例は以下のとおりである。
- (1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅷ系に準拠している。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P.（東京湾平均海面標高）による。
 - (3) 出土遺物番号は、本文・観察表・挿図・写真に対応する。
 - (4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
 - (5) 土層図の注記は、農林水産省農林水産技術会事務局・財團法人 日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』に掲載した。
 - (6) 遺構名称の略号は以下のとおりである。
堅穴建物：堅穴状遺構：SI 犀立柱建物：SB 土坑：SK 井戸：SE 溝：SD
配石墓：ST 周溝墓：SZ 小穴：P 自然河道：NR
 - (7) 土層断面図に記しているSは石を表わす。
- 10 調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括して保管・管理している。



第1図 調査年次位置図

目 次

第1章 調査の経過		第9章 第25次調査の成果	
第1節 調査に至る経緯	1	第1節 遺構	66
第2節 発掘調査作業の経過	1	第2節 まとめ	66
第2章 遺跡の位置と環境		第10章 第27次調査の成果	
第1節 地理的環境	5	第1節 遺構	67
第2節 歴史的環境	5	第2節 遺物	68
第3節 まとめ		第3節 まとめ	68
第3章 調査の方法		第11章 第29次・31次・32次・35次調査の成果	
第1節 調査の方法	8	第1節 遺構	78
第2節 層序	8	第2節 遺物	92
第3節 まとめ		第3節 まとめ	93
第4章 第7次調査の成果		第12章 第34次調査の成果	
第1節 遺構	9	第1節 遺構	190
第2節 遺物	10	第2節 遺物	190
第3節 まとめ	10	第3節 まとめ	191
第5章 第13次調査の成果		第13章 第36次調査の成果	
第1節 遺構	18	第1節 遺構	197
第2節 遺物	20	第2節 遺物	199
第3節 まとめ	21	第3節 まとめ	199
参考文献		参考文献	209
写真図版 1～34			
第6章 第17次調査の成果			
第1節 遺構	38		
第2節 遺物	39		
第3節 まとめ	40		
第7章 第23次調査の成果			
第1節 遺構	50		
第2節 遺物	50		
第3節 まとめ	51		
第8章 第24次調査の成果			
第1節 遺構	53		
第2節 遺物	54		
第3節 まとめ	55		

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

本書収録の三日市A遺跡が所在する野々市市北西部地域は、整然とした水田が広がる農業振興地域であった。しかし、近年における周辺地域の都市化に伴い、本地域も住生活環境の変化が必要となり宅地化の促進が図られることになった。そこで、平成11年に野々市町北西部土地区画整理事業が施行されることが決定した。

北西部土地区画整理事業施行区域65.4ha内には、埋蔵文化財の存在する可能性があり、詳細な確認調査を行いう必要が生じた。そこで、平成11年8月25日付で野々市町産業建設部長から野々市町教育委員会教育長宛に土地区画整理事業区域内の埋蔵文化財の分布調査についての依頼が出され、同年8月31日付けで同区域での分布調査を行う旨の回答をした。これに基づき、北西部土地区画整理事業施行区域内に試掘坑352箇所を設定し、宅地化など掘削作業できない箇所を除いた337箇所を、同年9月27日～10月19日にかけて試掘調査を実施した。その結果、以前より存在が確認されていた二日市イシバチ遺跡の南側の範囲が確定したほか、新たに、三日市ヒガシタンボ遺跡、三日市A遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡を発見した。

この結果から、野々市町北西部土地区画整理事業組合、野々市町都市計画課、野々市町教育委員会と協議を重ね、埋蔵文化財包蔵地のうち、道路等恒久化する工事箇所と、民有地内で十分な遺跡の保護層が確保できない箇所については、発掘調査を行うことで合意した。平成12年4月13日付けで、野々市町と野々市町北西部土地区画整理事業組合との間で野々市町北西部土地区画整理事業地区内埋蔵文化財に関する協定書が交わされた。

二日市イシバチ遺跡、三日市ヒガシタンボ遺跡、三日市A遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡に関する文化財保護法第57条の3に基づく届出については、北西部土地区画整理事業組合から文化庁長官宛に提出されたものを、平成12年3月29日付けで野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会教育長宛に送達した。これを受けて、同年3月30日付けで石川県教育委員会教育長から野々市町教育委員会教育長宛に埋蔵文化財発掘調査の届出に関する通知がなされた。

以上の手続きを終えて、平成13年度より上記5遺跡の発掘調査が開始された。

第2節 発掘調査作業の経過

第7次（平成14年度調査）

第7次発掘調査は、土地区画整理事業地区内の区画道路工事に伴う箇所の調査である。

平成14年9月20日、野々市町北西部土地区画整理事業組合（当時以下、北西部組合と呼称する。）から野々市町（当時）に当該地域における発掘調査の依頼があった。9月25日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は10月8日より開始し、平成15年3月28日に完了した。

出土遺物の整理作業については、出土遺物の洗浄及び記名・分類・接合・復元を平成27年5月26日から6月2日にかけて実施し、遺物の一部を選別しての実測作業を6月1日から6月9日の間に行った。6月8日～6月10日までには実測した遺構と遺物の製図を行い、7月1日には実測した遺物の写真を撮影した。平成28年1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。

第13次（平成15年度調査）

第13次発掘調査は、土地区画整理事業地区内の民有地内で十分な遺跡の保護層が確保できない箇所の調査である。

平成15年4月1日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。同月同日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書

に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は9月1日より開始し12月12日に完了した。

出土遺物の整理作業については、出土遺物の洗浄及び記名・分類・接合・復元を平成27年6月11日から6月15日にかけて実施し、遺物の一部を選択しての実測作業を6月16日から6月24日の間に行った。6月25日～6月30日までは実測した遺構と遺物の製図を行い、7月24日～7月27日にかけては実測した遺物の写真を撮影した。平成28年1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。

第17次（平成16年度調査）

第17次発掘調査は、土地区画整理地区内の区画道路工事及び調整池工事に伴う箇所の調査である。

平成16年9月22日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。9月27日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は10月14日より開始し、12月9日に完了した。

出土遺物の整理作業については、出土遺物の洗浄及び記名・分類・接合・復元を平成27年4月8日から4月16日にかけて実施し、遺物の一部を選別しての実測作業を4月17日から5月7日の間に行った。5月1日～5月15日までは実測した遺構と遺物の製図を行い、5月18・19日には実測した遺物の写真を撮影した。平成28年1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。

第23次（平成17年度調査）

第23次発掘調査は、土地区画整理地区内の石川県警機動隊施設工事に伴う箇所の調査である。

平成17年11月14日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。11月21日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は11月28日より開始し、平成18年1月19日に完了した。

出土遺物の整理作業については、遺物の実測作業を平成27年5月12・13日に行い、実測した遺物の製図を6月3日に実施した。実測した遺物の写真撮影は、6月8日に行い、平成28年1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。

第24次（平成17年度調査）

第24次発掘調査は、土地区画整理地区内の調整池工事に伴う箇所の調査である。

平成17年11月14日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。11月21日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は11月28日より開始し、平成18年1月12日に完了した。

出土遺物の整理作業については、遺物の実測作業を平成27年5月12日から6月2日の間に行い、実測した遺構と遺物の製図を6月3日～6月5日にかけて実施した。6月8日には実測した遺物の写真を撮影し、平成28年1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。

第25次（平成18年度調査）

第25次発掘調査は、土地区画整理地区内の区画道路工事に伴う箇所の調査である。

平成18年9月25日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。9月27日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は9月28日より開始し、10月5日に完了した。

出土遺物の整理作業については、平成23年度に実施しているが、本調査区において実測できる遺物は

なかったため、本報告では遺構図のみの掲載となっている。1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。

第27次（平成18年度調査）

第27次発掘調査は、土地区画整理地区移転代替地によるマンション施設建設工事に伴う調査である。

平成18年6月1日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。6月13日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は6月13日より開始し、6月30日に完了した。

出土遺物の整理作業については、遺物の洗浄及び記名・分類・接合・復元を平成27年6月1日から6月16日にかけて実施し、遺物の一部を選択しての実測作業を6月17日から7月7日の間に実施した。実測した遺構と遺物の製図を7月6日～7月16日にかけて実施し、平成28年1月8日には実測した遺物の写真を撮影した。1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。

第29次（平成19年度調査）

第29次発掘調査は、土地区画整理地内の区画道路及び、民有地内で十分な遺跡の保護層が確保できない箇所での調査である。

平成19年4月2日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。同月同日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は4月12日より開始し、平成20年2月21日に完了した。

出土遺物の整理作業については、遺物の洗浄及び記名・分類・接合・復元を平成25年4月1日から5月30日と、平成26年3月3日～3月31日にかけて実施し、遺物の一部を選択しての実測及び製図作業を平成27年3月2日から3月31日の間に実施した。その後、実測した遺物の写真を撮影し、平成28年1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。

第31次（平成19年度調査）

第31次発掘調査は、土地区画整理地区内の区画道路工事に伴う箇所の調査である。

平成19年4月2日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。同月同日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は5月28日より開始し、平成20年2月8日に完了した。

出土遺物の整理作業については、遺物の実測作業を平成27年10月1日～平成28年2月12日にかけて行い、実測した遺構や遺物の製図を11月4日～平成28年2月29日の間で実施した。実測した遺物の写真撮影は、12月21日～12月25日に行い、平成28年1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。

第32次（平成19年度調査）

第32次発掘調査は、土地区画整理地区内の店舗建設工事に伴う箇所の調査である。

平成19年9月25日、北西部組合から野々市町（当時）に当該地域における発掘調査の依頼があった。9月27日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は同月同日より開始し、平成20年2月8日に完了した。

出土遺物の整理作業については、遺物の実測作業を平成27年10月1日～平成28年2月12日にかけて行い、実測した遺構や遺物の製図を11月4日～平成28年2月29日の間で実施した。実測した遺物の写真撮影は、12月21日～12月25日に行い、平成28年1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。

第34次（平成19年度調査）

第34次発掘調査は、土地区画整理地区内の都市計画道路工事に伴う箇所の調査である。

平成19年11月28日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があり、11月29日、野々市町は石川県教育委員会に本調査における発掘届を提出して、12月10日より現地調査を開始した。調査は12月27日に完了した。

出土遺物の整理作業については、遺物の実測作業を平成27年10月1日～平成28年2月12日にかけて行い、実測した遺構や遺物の製図を11月4日～平成28年2月29日の間で実施した。実測した遺物の写真撮影は、12月21日～12月25日に行い、平成28年1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。

第35次（平成20年度調査）

第35次発掘調査は、土地区画整理地内の民有地内で十分な遺跡の保護層が確保できない箇所での調査である。

平成20年4月1日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。同月同日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は5月14日より開始し、7月30日に完了した。

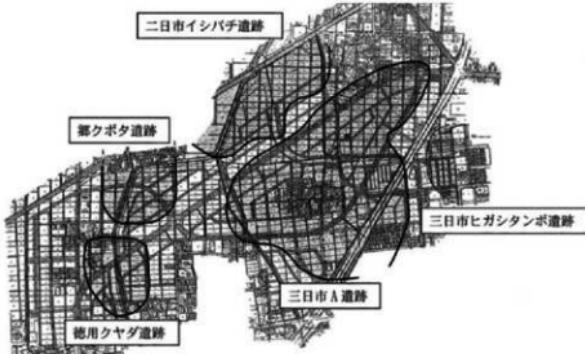
出土遺物の整理作業については、遺物の洗浄及び記名・分類・接合・復元を平成27年4月1日に実施し、遺物の一部を選択しての実測及び製図作業を4月2日から4月17日の間に行なった。4月20・21日には、実測した遺物の写真を撮影し、平成28年1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。

第36次（平成20年度調査）

第36次発掘調査は、土地区画整理地区内の店舗建設工事に伴う箇所の調査である。

平成20年5月23日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。5月30日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は6月20日より開始し、11月14日に完了した。

出土遺物の整理作業については、遺物の実測作業を平成27年11月10日～11月30日にかけて行い、実測した遺構や遺物の製図を11月30日～12月8日の間で実施した。実測した遺物の写真撮影は、12月21日に行い、平成28年1月12日からは報告書の執筆を開始し、編集作業を経て3月29日に発掘調査報告書を刊行した。



第2図 北西部土地区画整理事業地区遺跡位置図

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

野々市市は石川県のほぼ中央、石川平野の要地に位置する。市の大きさは南北約67km、東西45kmで、県内で最も面積の小さい自治体である。市域は靈峰白山を源とする県下第一級河川手取川によって形成された手取川扇状地の北東部にあたり、扇央部と扇端部の狭間に位置する。本市で最も高い標高地は50m、最も低い地点は10mで、なだらかな緩斜面となる地勢をみせている。

現在の野々市市は平坦な地形が広がっているが、従前は手取川から派生する多くの小河川によって形成された微高地と微低地が混在する地形であった。野々市で人々の生活が認められるのは縄文時代後期前半からで、集落の拠点は微高地であった。この時代は扇状地の大部分が未開の原野で、ススキや低木が生い茂る荒地であったようである。その後、稲作の伝わる弥生時代から石川平野の中で水田耕作が営まれるようになり、土地の開墾が始まっていた。古代以降、農耕具の発達などにより凸凹の多い土地は次々と開発されていき、未開発地は耕作地として生まれ変わっていた。明治時代以降は、田区改正による耕地整理が各地で急速に広がり、市内全域は起伏のない平坦な地形へと移り変わり、水田区画は碁盤目のように整然となった。このような、大きく広がった田園風景は昭和30年代ころまで見られた。

しかし、昭和40年代の高度経済成長期以降は、県庁所在地金沢市の隣接地という地理的条件から、住宅地や商業施設の建設などが著しくなり、急速に水田風景は失われていった。特に、北部の御経塚地区や南部の三納・粟田・新庄地区は区画整理事業が進み、住宅地として生まれ変わっていった。今回、発掘調査箇所となる市域北西部地区も区画整理事業の一貫として行われており、周辺地は大きな変貌を遂げてきている。また、市内の東部には金沢工業大学、南部には石川県立大学といった教育機関が置かれ、野々市市は、若者が多く集う学園都市としての性格も持ち合わせている。

今回の発掘調査地である三日市A遺跡は、標高約15mで、手取川から派生する小河川によって形成された微高地上に立地する。ただし、市域上流部と比較して、大きな川原石の堆積は少なく、微低地との高低差も大差ないことから、当時の生活拠点の場としては、適した地であったと思われる。



第3図 野々市市位置図

第2節 歴史的環境

三日市A遺跡周辺に点在する遺跡を、時代別に概観する。

縄文時代

本遺跡12より北東方約1km離れたところには国指定史跡となっている6御経塚遺跡が所在する。御経塚遺跡は、縄文時代後期中葉～弥生時代初頭にかけて営まれた地域における拠点集落である。当遺跡で発見された御経塚式土器は縄文時代晩期前半の基準資料となる。御経塚遺跡の近隣には、縄文時代後期後半～晩期後半の1チカモリ遺跡や縄文時代後期後半～晩期後半の2中屋サワ遺跡といった集落遺跡が点在し、御経塚遺跡の拠点集落を中心に展開した出村的な集落であったようである。これらの遺跡は標高6～10mに立地し、扇状地を伏流する地下水の湧水域であった。また、当時の生活に必要な落葉広葉樹と照葉樹が混在する豊かな林野が大きく広がっていた場所でもあったことから、この地帯は当時の人々にとって生活環境に最適な場であったようである。

本遺跡より南東約2kmのところには、縄文時代晩期の17長竹遺跡がある。長竹遺跡は縄文晩期後半の基準資料となる土器が出土した遺跡で、水田稻作農耕が西日本に波及した極めて重要な時期である。

なお、三日市A遺跡及び御経塚遺跡からは、当該時期の幅刃の圧痕のついた土器が出土している。

弥生時代

手取川扇状地一帯における弥生時代の遺跡分布を見ると、前期～中期にかけては極めて少なく、後期に数多く存在する。御経塚遺跡（ツカダ地区）、15乾遺跡からは、柴山出村式と呼ばれる弥生時代前期の土器が確認されているが、この時期は弥生文化の波及が十分ではなく、まだ縄文文化の影響が強く残っていたようである。

弥生時代後期になると、鉄器の普及などを要因とする生産力の向上から人口が増え、それに伴い手取川扇状地一帯にも集落が展開するようになる。本遺跡をはじめ、周辺にある5御経塚シンデン遺跡、御経塚遺跡、7長池ニシタンボ遺跡、9二日市イシバチ遺跡、10郷クボタ遺跡、13三日市ヒガシタンボ遺跡、14徳丸ジョウジャヤ遺跡などからは、堅穴建物や掘立柱建物などで構成される集落跡が見つかっている。これは、農耕社会が急速に広がったことから、安定した農耕地の確保が必要となったため、広範にわたってムラが形成していったと考えられる。

古墳時代

古墳時代前半については、本遺跡周辺で、弥生時代後期からの流れを汲む集落跡を確認することができるが、扇状地上での集落数は激減し、一旦収束傾向となる。ただし、本遺跡より北方1kmにある御経塚シンデン遺跡・御経塚シンデン古墳群では、弥生集落廃絶後に15基の前方後方墳、方墳からなる大古墳群を造立している。また、二日市イシバチ遺跡でも一辺約18mの規模を中心とした大小の方墳7基を確認しており、各地域を治める首長層の存在を伺うことができる。

古墳時代後半になると、本遺跡から南方約4kmの市上流域の扇状地扇央部で末松古墳や上林古墳など後期古墳が築かれるようになる。これは河川上流域における開発が広がり始めていったことを意味する。

古代

7世紀後半には、本市南端で手取川扇状地扇央部にあたる、県内最古級の古代寺院、末松庵寺が建立される。末松庵寺は、東に塔、西に金堂が置かれた法起寺式の伽藍配置をもち、この寺院建立以降、市内南部地域を含む手取川扇状地扇央部一帯で耕作地開発が急速に進み、特に8世紀後半以降は18三納トヘイダゴシ遺跡をはじめとする周辺各地に集落が増大していく。扇状地扇端部には、初期莊園の遺跡である3横江荘々家跡、4上荒屋遺跡が所在する。また、三日市A遺跡からは、9世紀頃に成立した古代の官道である北陸道の跡が見つかり、上記莊園遺跡との関係が指摘されている。

中世

11世紀後半～12世紀頃から、在地領主層の武士団の形成が図られるようになった。地元武士団である林氏や富樫氏は、手取川扇状地での新開発や再開発に大きな影響を与えた。ただし、市内において現在のところ中世前半にかけての遺跡はあまり多く確認されていない。中世の遺跡が多く認められるようになるのは、富樫氏が加賀国守護職に任命され、野々市に守護所を置く14世紀頃からである。加賀国守護所富樫館跡は、本市東端に位置する。当該時期の集落は、本遺跡をはじめ、近隣の郷クボタ遺跡や中屋サワ遺跡などで、溝に囲まれた中に建物などが配置される散居村のような景観の広がりが認められる。また、本遺跡南東方1.5kmにある16堀内館跡では、幅1.5m、深さ1mほどの大きな堀で囲まれた屋敷地の跡も確認されている。15世紀以降になると、本遺跡、8長池キタノハシ遺跡、11徳用クヤダ遺跡では、掘立柱建物、堅穴式造構などの主要造構が密集した村落形態を示し、14世紀頃までみられた散村から集村へと大きく変わる様相となる。

近世

現在見ることのできる集落は、近世に成立したと考えられる。御経塚集落内（御経塚遺跡アト地区）や郷町集落（徳用クヤダ遺跡）での発掘調査でも、近世の造構・遺物を発見している。また、乾遺跡や、三日市A遺跡からは、近世前半の墓地跡を確認している。



第4図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (S=1/20000)

第1表 野々市市と周辺の遺跡

番号	遺跡名	種別	時代
1	チカモリ遺跡	集落	縄文
2	中屋サワ遺跡	集落	縄文～中世
3	横江莊々家跡	莊園	古代
4	上荒屋遺跡	集落 莊園	縄文～中世
5	御経塚シンデン遺跡 御経塚シンデン古墳群	集落 古墳	弥生～中世
6	御経塚遺跡	集落	縄文～近世
7	長池ニシタンボ遺跡	集落	弥生
8	長池キタノハシ遺跡	集落	中世
9	二日市イシバチ遺跡	集落	縄文 弥生 古墳 中世
10	鷹クボタ遺跡	集落	弥生 古代 中世
11	徳用クヤダ遺跡	集落	弥生 古代 中世 近世
12	三日市A遺跡	集落	縄文 弥生 古代 中世
13	三日市ヒガシタンボ遺跡	集落	弥生 古代 中世
14	徳丸ジョウジャダ遺跡	集落	弥生 中世
15	乾遺跡	集落・墓地	縄文 弥生 古代 中世 近世
16	堀内館跡	館	中世
17	長竹遺跡	集落・散布地	縄文 弥生 古墳 中世
18	三納アラミヤ遺跡	集落	古代 中世

第3章 調査の方法

第1節 調査の方法

調査は、大型掘削機（重機）による表土の除去作業からはじめた。重機による掘削は、遺構面手前までとし、重機掘削完了後、作業員の人力で掘削作業を実施した。作業は、遺構面の検出を実施した後、遺構の地点を明確にするため、遺構略図を作成し、同時に遺構の掘削作業を行った。主要遺構や遺物が出土したものについては、図化記録をしてから完掘した。調査区内の遺構完掘後は、清掃作業を行ってから、空中写真測量及び個別遺構写真を撮影して現地調査を終えた。

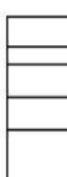
整理作業については、野々市市ふるさと歴史館内にある調査整理室で実施した。作業手順は、出土した遺物を、水で洗浄し乾燥させ、乾燥した遺物に遺跡名や出土した地点などを記名、及び同一個体となる遺物を接着剤で接合・復元した。記名・接合等後、一部の遺物は実測し、この遺物実測図や現地で表記した遺構実測図を製図トレースした。

これらの作業完了後、遺物の写真を撮影し、併行して調査担当者が原稿執筆、図面・写真的レイアウト等を行い、報告書を刊行した。

第2節 層序

層序については、第5図の土層断面図を基に説明していく。

1の灰色粘質土は土地区画整理事業以前まで行われていた水田耕作土である。2の橙灰色粘質土は、1水田耕作土の整地層にあたる。3の暗灰色粘質土は、近世から近代までの水田耕作土と考えられる。その下の暗灰褐色粘質土は古代以前の遺物包含層にあたり、中世の遺構面にも相当すると思われる。その下の5黄褐色粘質土は、古代より古い時期の遺構面（地山面）である。



- 1 灰色粘質土（水田耕作土）
- 2 橙灰色粘質土（水田耕作土整地層）
- 3 暗灰色粘質土
- 4 暗灰褐色粘質土（遺物包含層）
- 5 黄褐色粘質土（地山）

第5図 土層断面模式図

第4章 第7次調査の成果

第1節 遺構

本調査で発見された主要な遺構は、竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝などである。竪穴建物は第13次で見つかったSI1の一端で、詳細は第5章 第13次調査の成果で報告する。

① 堀立柱建物

SB1（第6・10図）

中世の総柱式堀立柱建物である。南北3間×東西2間の規模で、方位はほぼ真北である。建物の北東側半分は第13次調査区にかかる。柱間の長さは南北が2.1～2.8m、東西が2.2～2.5mである。柱穴は略円形で、直径35～60cm、深さ10～25cmを測る。

SB2（第7・10図）

中世の総柱式堀立柱建物である。建物の北西端の柱穴は第13次調査区で確認されている。ただし、南半は調査区外へと延びるため、全体規模はわからない。南北3間以上×東西4間で、方位はN5°Eである。柱間の長さは南北が2.5m前後、東西が2.3～2.5mである。柱穴は略円形で、直径35～55cm、深さ15～85cmを測る。穴の深さは15～30cmが一般的であるが、一部80cmを超えるものがある。

② 土坑

SK1（第8・10図）

略円形をした大型土坑である。直径約2.0m、深さ約125cmと大変深い。遺物は認められなかったが、周辺の調査成果から弥生時代後期の大型円筒土坑にあたると思われる。

SK2（第8・10図）

略円形をし、直径約1.3m、深さ約1mを測る。土層断面の様相から、柱穴のように見えるが、周囲に同様な穴は確認できず、建物にならないことから土坑とした。中から9、10の珠洲焼が認められた。

SK3（第8・10図）

南北に長い隅丸長方形プランの土坑である。南北長約1.9m、東西長約1.0m、深さが最深部で約45cmを測る。

③ 溝

SD1（第10図）

東西方向の中世溝で、東方で第13次調査区SD1、西方で第29次SD1と同じ遺構となる。全長約7m、幅40～70cm、深さ15～30cmを測る。方位は、W8°Nである。

SD2（第10図）

東西方向の中世溝で、東方にある第13次調査区や西方の第29次調査区でも認められる。第13次及び第29次調査区で確認した箇所も含めると、長さが約18m、幅45～60cm、深さ25～35cmを測る。方位は、SD1と同様のW8°Nである。

SD3（第10図）

東西方向の中世溝で、東方にある第13次調査区のSD2、西方にある第29次調査区SD2と同じ遺構となる。本調査区内での全長は約8.5m、幅65～85cm、深さ15cm前後を測る。方位は、SD1・2と同様、W8°Nである。

SD4（第8・10図）

東西方向の中世溝で、西方にある第29次調査区SD3と同じ遺構となる。全長約7.5m、幅30～35cm、深さ15～20cmを測る。方位はW4° Sである。

SD5（第8・10図）

東西方向の中世溝でSD4と並走する。西方にある第29次調査区SD4と同じ遺構となる。全長約8.5m、幅60～150cm、深さ55～70cmを測る。方位はW4° Sである。

SD6（第10図）

南北方向の溝で北方にある第13次調査区SD1とは同じ溝となる。全長約8.2m、幅30～50cm、深さ40～50cmを測る。方位はN3° Wである。

SD7（第10図）

南北方向の溝でSD6と並走する。北方にある第13次調査区SD2と同じ遺構となる。全長約8 m、幅40～60cm、深さ30～55cmを測る。方位はN5° Wである。

SD8（第10図）

南北方向の溝でSD6・7と並走する。北方にある第13次調査区SD6と同じ遺構となる。全長約7.8m、幅140～160cm、深さ45～65cmを測る。方位はN3° Wである。

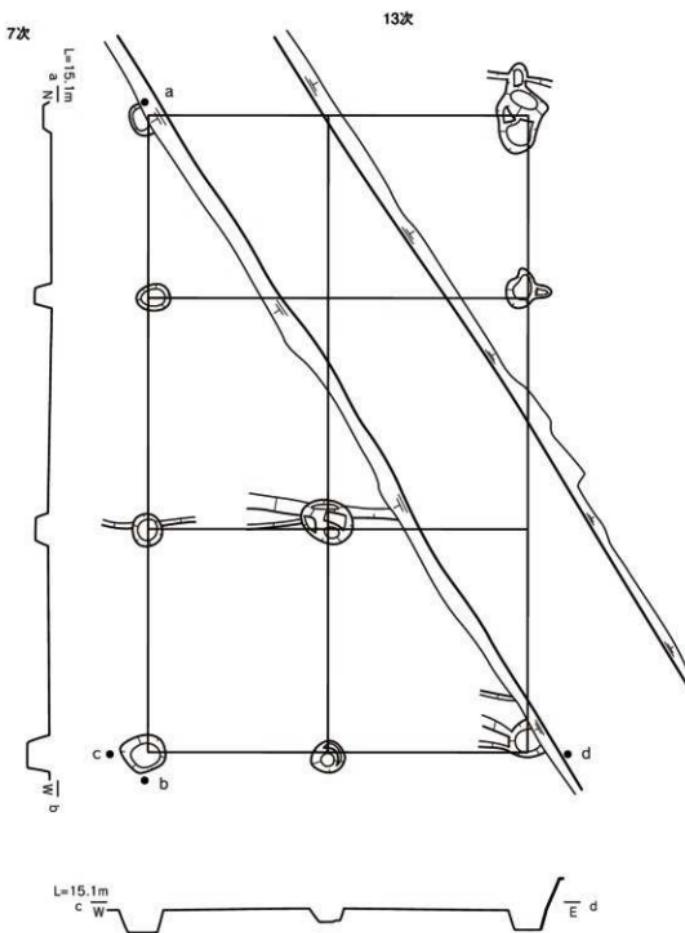
第2節 遺物

1の縄文土器浅鉢は晩期前葉の中屋式にあたる。第13次調査区SIIと同遺構にあたる堅穴建物内出土の2、3は弥生時代後期後半の擬凹線を有した有段口縁甕である。4は有段擬凹線をもった壺で、体部にも3本の凹線が2箇所あり、その間にはハケ目の化粧が施されている。この壺はP 3からの出土で完形品であり、埋納物と考えられる。5～8は中世土師器皿で、口縁端部に大きな変化のないAタイプである。9は珠洲焼甕で肩は強く張出す。

第3節 まとめ

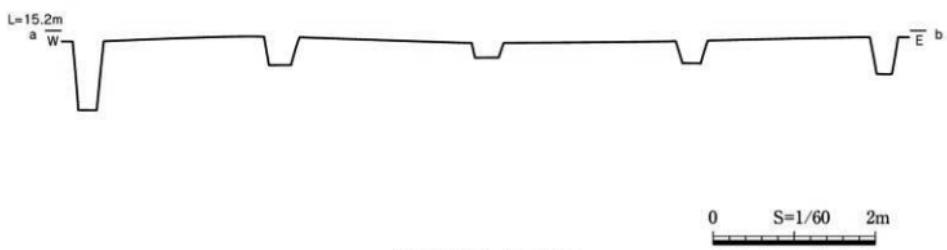
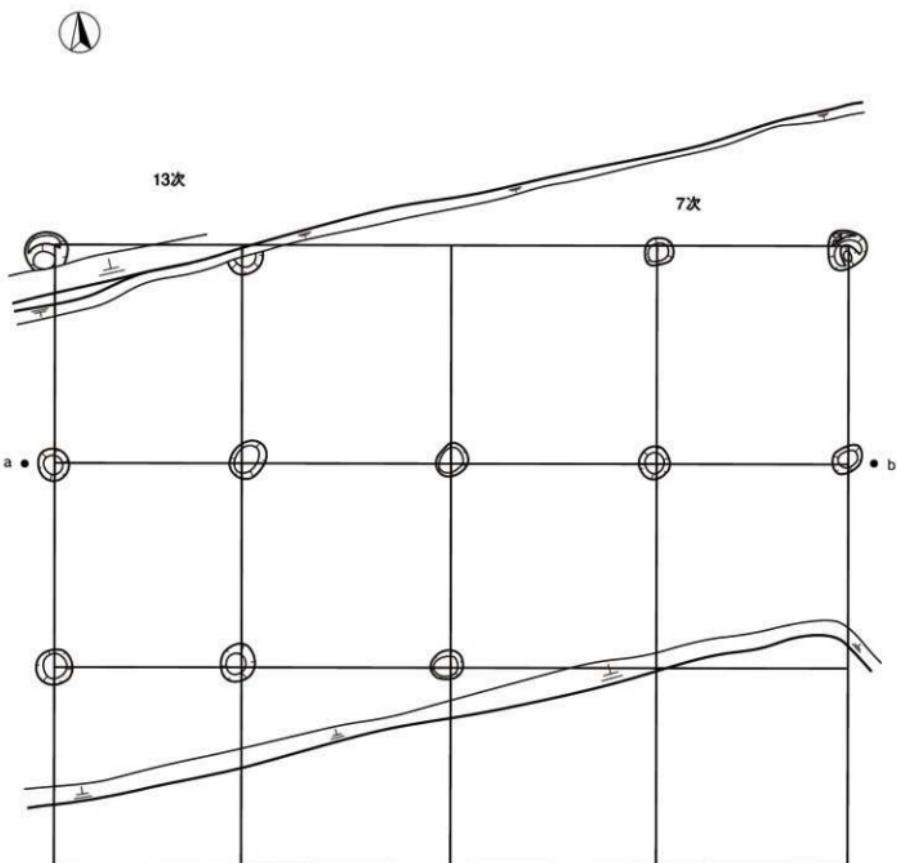
本調査区の主体は弥生時代後期と中世の集落跡である。弥生時代については、後述する第13次調査区の堅穴建物SIIや2を中心とした集落の一部となり、SK1はそれに付随した大型土坑にあたる。中世については、SBI及び2の総柱式掘立柱建物を中心とした居宅エリアが存在する集落配置が認められる。また、この建物時期と前後して、東西方、南北方の各溝SD1～SD8で囲繞された広大な空間地が構成される。この空間地は第13次、第26次、第29次調査区でも確認することができ、その規模は南北約30m、東西約70mを測る。また、SD1・2と3の間、SD4と5の間、SD6～8の間は道路跡の可能性がある。なお、中世の時期は第2節の遺物から13～14世紀と想定する。

(A)

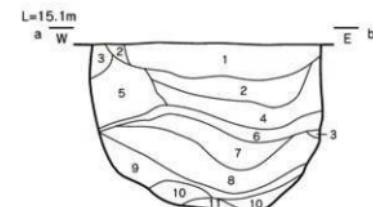
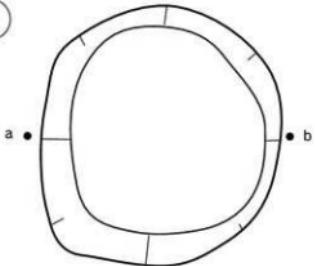


第6図 SB1 ($S = 1/60$)

0 S=1/60 2m

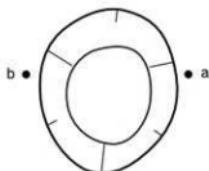


第7図 SB2 (S=1/60)



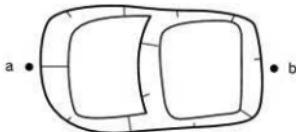
SK1

- | | |
|-------------------------|------------|
| 1. 淡褐色粘質土 | 7. 黄褐色粘質土 |
| 2. 褐灰色粘質土 | 8. 黑色粘質土 |
| 3. 褐灰色粘質土 (黄褐色ブロック土混じる) | 9. 黄褐色粘質土 |
| 4. 黑褐色粘質土 | 10. 黑褐色粘質土 |
| 5. 黑褐色粘質土 (黄褐色ブロック土混じる) | 11. 淡灰色粘質土 |
| 6. 鮮灰色粘質土 | |



SK2

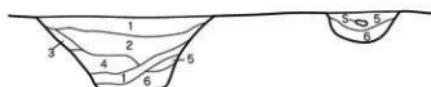
- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 鮮灰色粘質土 | 6. 黑色粘質土 |
| 2. 黑褐色灰粘質土 | 7. 黑色粘質土 (黄色ブロック土多く混じる) |
| 3. 鮮灰色粘質土 (黄色ブロック土多く混じる) | 8. 黄褐色粘質土 |
| 4. 淡黄色粘質土 | 9. 鮮暗黄色粘質土 |
| 5. 黑褐色粘質土 (黄色ブロック土混じる) | |



SK3

L=15.7m
a N
S b

SD4、5

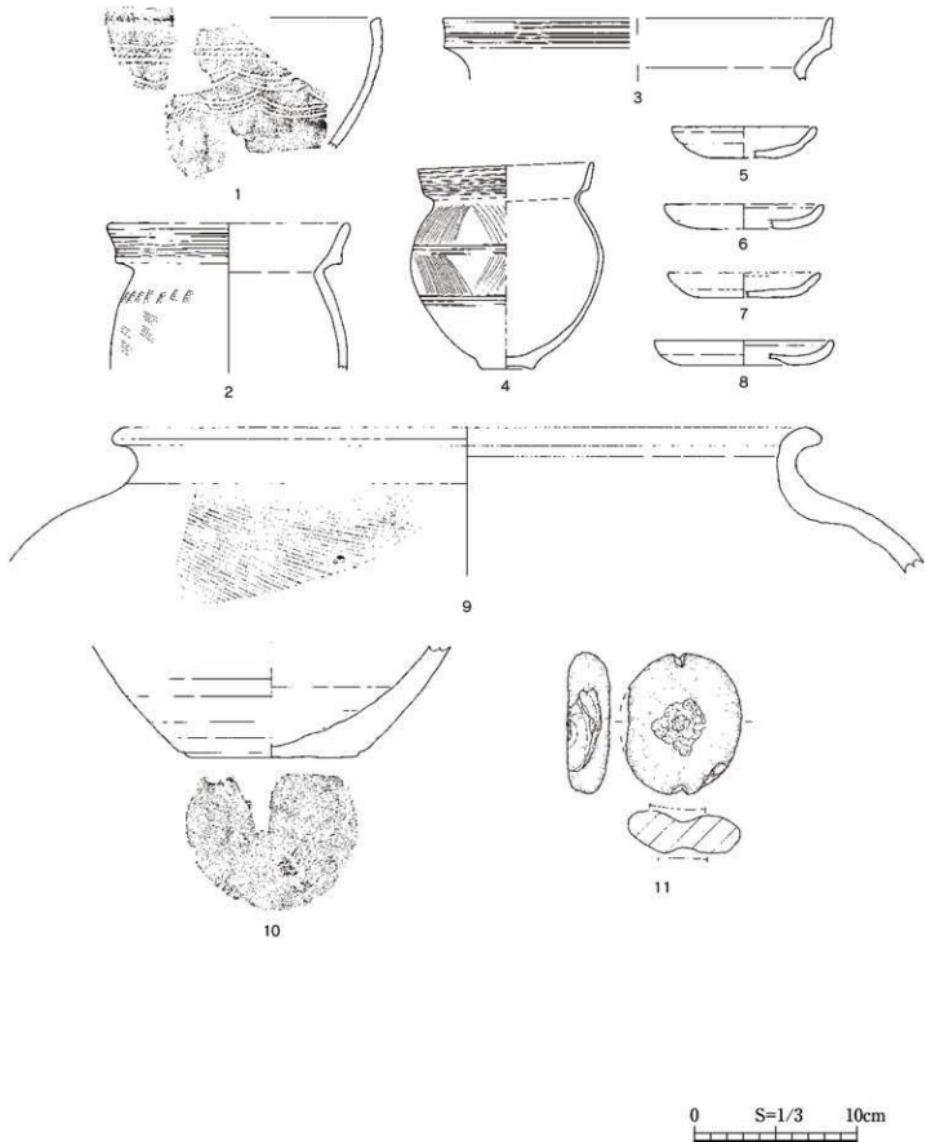


- | | |
|-------------------------|-----------|
| 1. 褐灰色粘質土 | 4. 黑褐色粘質土 |
| 2. 明褐色粘質土 | 5. 鮮灰色粘質土 |
| 3. 淡褐色粘質土 (黄褐色ブロック土混じる) | 6. 淡褐色粘質土 |

N b

0 S=1/40 2m

第8図 SK1～3、SD4、5 (S=1/40)



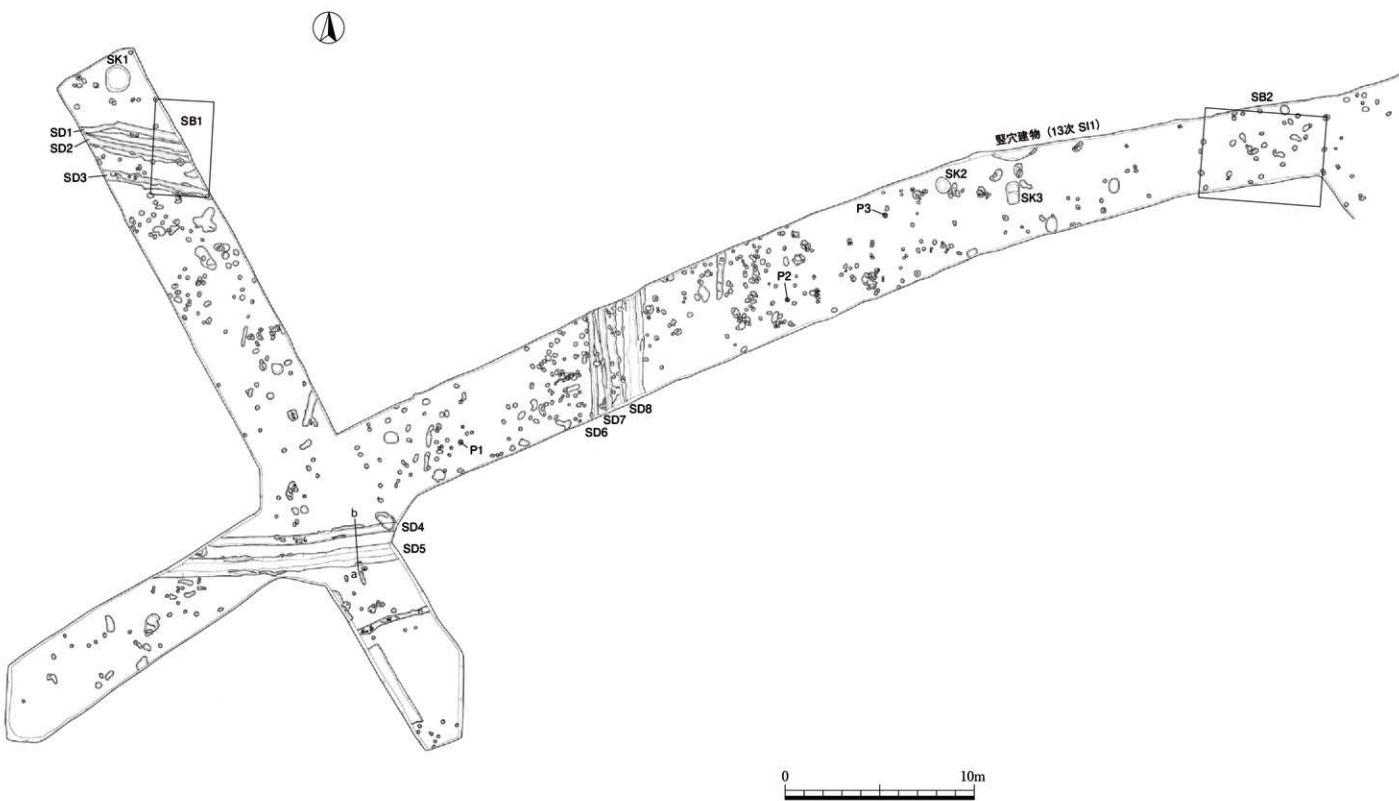
第9図 遺物実測図 ($S=1/3$)

第2表 土器・陶器観察表

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(内)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)		色調(内)	色調(外)			
1	7次	縄文土器				ミガキ	灰黄褐色、にぶい黄褐色、黒褐色			小片	条痕	N260
	P2	浅鉢				ミガキ	灰黄褐色、にぶい黄褐色、黒褐色					
2	13次	弦生土器	144			ハケ	浅黄褐色、にぶい橙褐色、黒褐色		1/4	擬凹線7条、刺突文 外面煤	N252	
	SII	甌				ヨコナデ	浅黄褐色、にぶい橙褐色					
3	13次	弦生土器	240			ヨコナデ	灰褐色、黒褐色		1/12	擬凹線5条 外面煤	N253	
	SII	甌				ヨコナデ	灰褐色、にぶい褐色、橙褐色					
4	7次	弦生土器	108	126	33	ミガキ、ハケ	明黄褐色、黄褐色、褐灰色		完形	擬凹線6条、凹線3条	N251	
	P3	壺				ミガキ、ナデ	にぶい黄褐色、浅黄褐色					
5	7次	土師器	89	19	44	ヨコナデ	黒褐色、にぶい黄褐色、褐灰色		4/9	内外面煤	N257	
	P1	皿				ヨコナデ	黒褐色、にぶい黄褐色、褐灰色					
6	7次	土師器	98	15	56	ヨコナデ	黒褐色、灰黄褐色、褐灰色		1/5	内外面煤 撫幅10mm	N255	
	P1	皿				ヨコナデ	黒褐色、灰黄褐色、褐灰色					
7	7次	土師器	94	15	60	ヨコナデ	褐灰色、黒褐色、灰褐色		1/2	内外面煤 撫幅10mm	N254	
	P1	皿				ヨコナデ	褐灰色、黒褐色、灰褐色					
8	7次	土師器	111	15	78	ヨコナデ	黒褐色、灰黄褐色		口縁部1/6	内外面煤	N256	
	P1	皿				ヨコナデ	黒褐色、灰黄褐色					
9	7次	珠洲焼	436			ロクロナデ、タタキ	灰		1/10		N259	
	SK2	甌				ロクロナデ、タタキ	灰					
10	7次	珠洲焼		107		ロクロナデ	灰、灰白色		底部4/3	自然軸 静止系切り	N258	
	SK2	甌				ロクロナデ	灰、灰白色					

第3表 石製品観察表

番号	遺構	器種	最大長 (mm)		最大幅 (mm)		最大厚 (mm)		重量 (g)	石材	備考	実測 番号
			(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)				
11	7次	四石	87		72		26		191		完形	T307
	SD3											



第10図 第7次遺構全体図 ($S=1/200$)

第5章 第13次調査の成果

第1節 遺構

本調査で発見された主要な遺構は、竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝などである。以下、個別遺構を報告する。

① 竪穴建物

SI1 (第11・23図)

五もしくは六角形プランをした弥生時代後期の竪穴建物である。建物北端は調査区外となり、南端は第7次調査区で検出されている。竪穴の規模は、東西約8.4m、南北が7m以上、深さ約25cmで、床面には貼床が施してある。全周はしないが、竪穴壁際には幅25～35cm、深さ床面から約10cmの溝が巡る。主柱穴は5基（ア～オ）存在し、その間には支柱穴（カ～コ）が認められる。主柱穴と支柱穴の間に大型土坑サは特殊ピットと考えられる。主柱穴は略円形及び楕円形で、直径50～90cmと大型であるが、柱穴アは後世の搅乱により上面が削られ、直径約30cmと規模が小さくなっている。穴の深さは床面から45～80cmを測る。支柱穴は略円形を呈し、直径20～40cm、深さ30cm前後である。特殊ピットのサの規模は南北長約140cm、東西長約100cm、最深部約70cmを測る。

SI2 (第12・13・23図)

七角形プランをした弥生時代後期の竪穴建物である。竪穴の規模は、東西約10.0m、南北約9.1m、深さ約10cmと浅く、床面には貼床が認められる。SI1同様全周はしないが、竪穴壁際には幅20～40cm、深さ床面から約5cmの溝が巡る。主柱穴は6基（ア～キ）存在し、その間には支柱穴（ク～サ）が認められる。主柱穴は略円形及び楕円形で、直径65～100cm、深さが床面から45～100cmを測る。支柱穴は略円形を呈し、直径35～55cm、深さは床面から16～55cmである。竪穴中央部には東西に長い土坑SK9が存在し、特殊ピットの可能性はあるが、形態が従来見られるものより相違するため確信はできない。この竪穴建物より約2m外側には排水機能を有したと思われる溝が巡る。溝は幅20～80cm、深さ10～15cmを測る。溝は東方と北方で途切れしており、SI2の出入口になっていたかもしれない。

② 掘立柱建物

SB1 (第14・23図)

中世の総柱式掘立柱建物である。南北2間×東西3間の規模で、方位はN3° Eである。柱間の長さは南北が1.8～2.2m、東西が1.8～2.6mである。柱穴は隅丸方形と略円形で、直径25～60cm、深さ10～30cmを測る。

SB2 (第15・23図)

中世の総柱式掘立柱建物である。建物の東と西側の柱の間隔は短い。南北3間×東西4間で、方位はN6° Eである。柱間の長さは南北ラインが南端で約1.8m、その他が約2.8m、東西ラインが東と西端で約1.4m、その他で約2.3mである。柱穴は略円形で、直径25～45cm、深さ10～30cmを測る。

SB3 (第16・23図)

中世の大型総柱式掘立柱建物である。南北5間×東西4間の規模で、方位はN4° Eである。建物の北西端の柱穴は第7次調査区で確認できた。柱間の長さは南北が2.2～3.0m、東西が約2.5m前後である。柱穴は略円形で、直径35～65cm、深さ30～50cmを測る。

③ 土坑

SK1 (第17・23図)

略楕円形をした土坑で、北半は調査区外へと延びるため、全体の様相は不明である。南北長1m以上、東西長約1.4m、深さは最深部で約70cmを測る。穴内には不定形のテラスが複数認められる。

SK2 (第17・23図)

略円形をした土坑で、西半分は調査区外へと延びるため、全体の様相は不明である。直径約1.2m、深さは約55cmを測る。埋土は複数の層土がランダムに入っていることから人為的に埋められたかもしれない。

SK3 (第17・23図)

東西に長い略長方形をした土坑である。南北長約1.25m、東西長約2.0m、深さ約20cmを測る。

SK4 (第17・23図)

略円形をした土坑である。南北長約2.0m、東西長約1.8m、深さは約20cmを測る。穴内の南半には三日月形をした深さ約15cmのテラスが認められる。

SK5 (第18・23図)

略楕円形をした土坑で、南側には溝状造構が連なっているようになっているが、同一になるかはわからない。土坑の大きさは南北長約1.0m、東西長約60cm、深さは約50cmを測る。穴内からは22の土師器底部が出土した。

SK6 (第18・23図)

南北に長い略楕円形をした土坑である。大きさは南北長約1.1m、東西長約50cm、深さは約30cmを測る。穴内からは21の弥生土器甕が出土した。

SK7 (第18・23図)

中世掘立柱建物SB3の西隣に位置する略楕円形をした土坑である。大きさは長辺約1.1m、短辺約65cm、深さは約15cmを測る。穴内からは49の鉄製釘が出土した。

SK8 (第12・23図)

東西に長い方形土坑である。南北長約95cm、東西長約1.75m、深さ約70cmを測る。穴の側面形状は底の方で膨らむフラスコ状となる。

SK9 (第12・23図)

東西に長い略方形土坑で、弥生時代の堅穴建物SI2の中央に位置する。南北長約1.0m、東西長約2.0m、深さ約60cmを測る。穴の形状はSK8と同様フラスコ状となる。

SK10 (第12・18・23図)

正方形に近い土坑である。南北長約1.4m、東西長約1.25m、深さ約75cmを測る。土層の堆積状況から人為的に埋めた可能性がある。

SK11 (第12・23図)

東西に長い略方形土坑である。南北長約1.4m、東西長約2.2m、深さ約65cmを測る。

④ 溝

SD1 (第23図)

調査区西側で検出した東西方向の溝であるが、西から東方へ約28m進んだところで、南北方向へと向きを変える。南北方向になった際の溝は、第7次調査区SD6につながる。東西方での溝幅は45～65cm、深さ35～45cmを測る。方位はW8°Nである。南北方向の全長は第7次調査区を含めて約36m、幅が40～50cm、深さ20～50cmを測る。方位はN3°Wである。29、30の珠洲焼鉢など中世遺物が見つかっている。

SD2 (第23図)

SD1の南側に並走する東西方向の溝で、SD1と同様西から東方へ約28m進んだところで、南方へと向きを変える。南方向へ向きを変えた溝は、第7次調査区SD7につながり、更に南下する。東西方での溝幅は35～55cm、深さ10～45cmを測る。方位はW8°Nである。南北方向の溝の全長は第7次調査区を含めて約24m、幅が40～70cm、深さ25～40cmを測る。方位は、SD1と同様N3°Wである。

SD3（第23図）

調査区北西隅で検出した東西方向の近世溝である。西端は調査区際で検出したSK2にぶつかって終焉する。全長約6.7m、幅20～50cm、深さ5～10cmを測る。方位はW13°Nで、42の肥前磁器皿などが出土している。

SD4（第23図）

調査区北西隅で検出した南北方向の近世溝である。北及び南端は調査区外へと延びる。全長約5.6m、幅55～100cm、深さ10cm前後を測る。方位はN10°Eで、44の磁器皿が出土している。

SD5（第23図）

南北溝SD1・2や後述するSD6の間を走る南北方向の近世溝である。全長約36m、幅80～120cm、深さ30～50cmを測る。方位はN3°Wである。大量の近世陶磁器が出土している。

SD6（第23図）

南北方向のSD1・2・5と並走する溝である。全長約36m、幅100～160cm、深さ25～60cmを測る。本溝は緩く蛇行しているが、大枠の方位はSD1・5と同様、N3°Wと考えられる。覆土から多くの近世陶磁器が出土している。

SD7（第23図）

調査区南中央部で検出した南北溝である。北端は中世掘立柱建物SB3内に、南端は中世溝SD9とぶつかって終焉するが、34近世陶器皿が出土していることから、中世までさかのばらないと考える。全長約5.8m、幅45～55cm、深さ10cm前後を測る。方位はN7°Eである。

SD8（第23図）

円周状に巡る溝状遺構である。溝の周囲には不定形なピットが複数認められるが、本遺構には直接関係ないと思われる。周溝内の大きさは南北約2.6m、東西約2.7m、溝の幅は20～40cm、深さ10～20cmを測る。弥生時代の集落内で見られるニオ状遺構と考えられる。

SD9（第23図）

調査区南東隅で検出した東西方向の溝である。東及び西端は調査区外へと延びる。全長約26m、幅45～80cm、深さ50cm前後を測る。方位はW7°Sである。遺物は出土していないが、周辺調査区で見つかっている同様なタイプの溝から中世の時期と想定される。

第2節 遺物

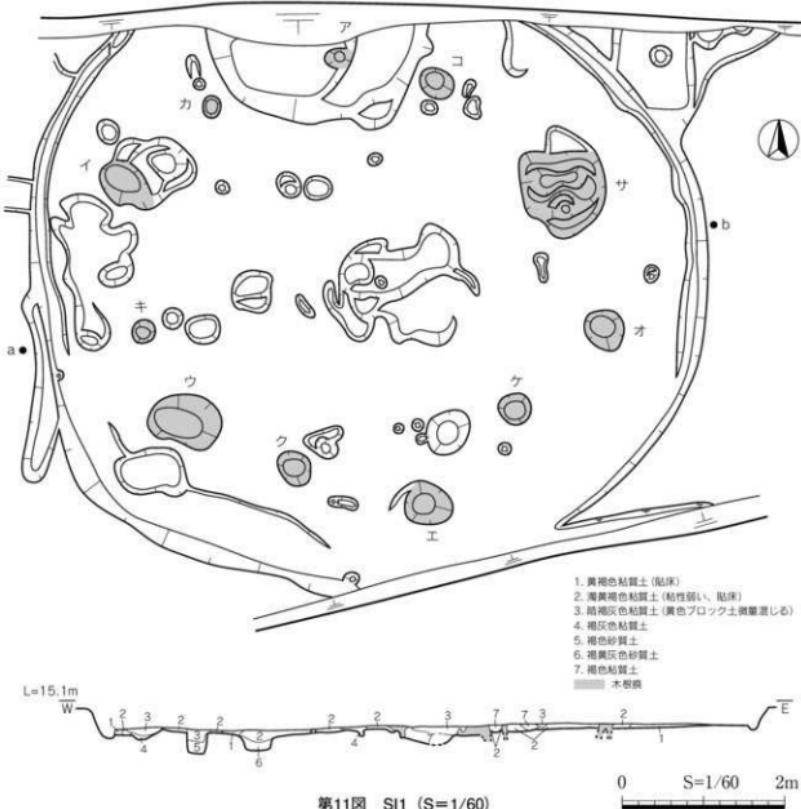
2～5はSI1、6～19はSI2から出土した弥生土器である。両堅穴建物から見つかった甕は口縁部が有段口縁のタイプがほとんどで、擬凹線をもつものともたないものがある。また、4と7については体部上半に刺突文を施している。これらの遺物から両堅穴建物は弥生時代後期後半以降のものであるが、SI2の方がSI1よりも古い様相を呈している。27は近世溝SD5から見つかった古代の軒丸瓦である。瓦当は六葉单弁蓮華文で、本遺跡から南に約3.5kmにある7世紀後半建立の末松庵寺跡金堂に葺かれていたものの同范にあたると考えられる。50は勾玉、51と52は管玉とその未成品である。石材は50が蛇紋岩、51、52は緑色凝灰岩である。

第3節 まとめ

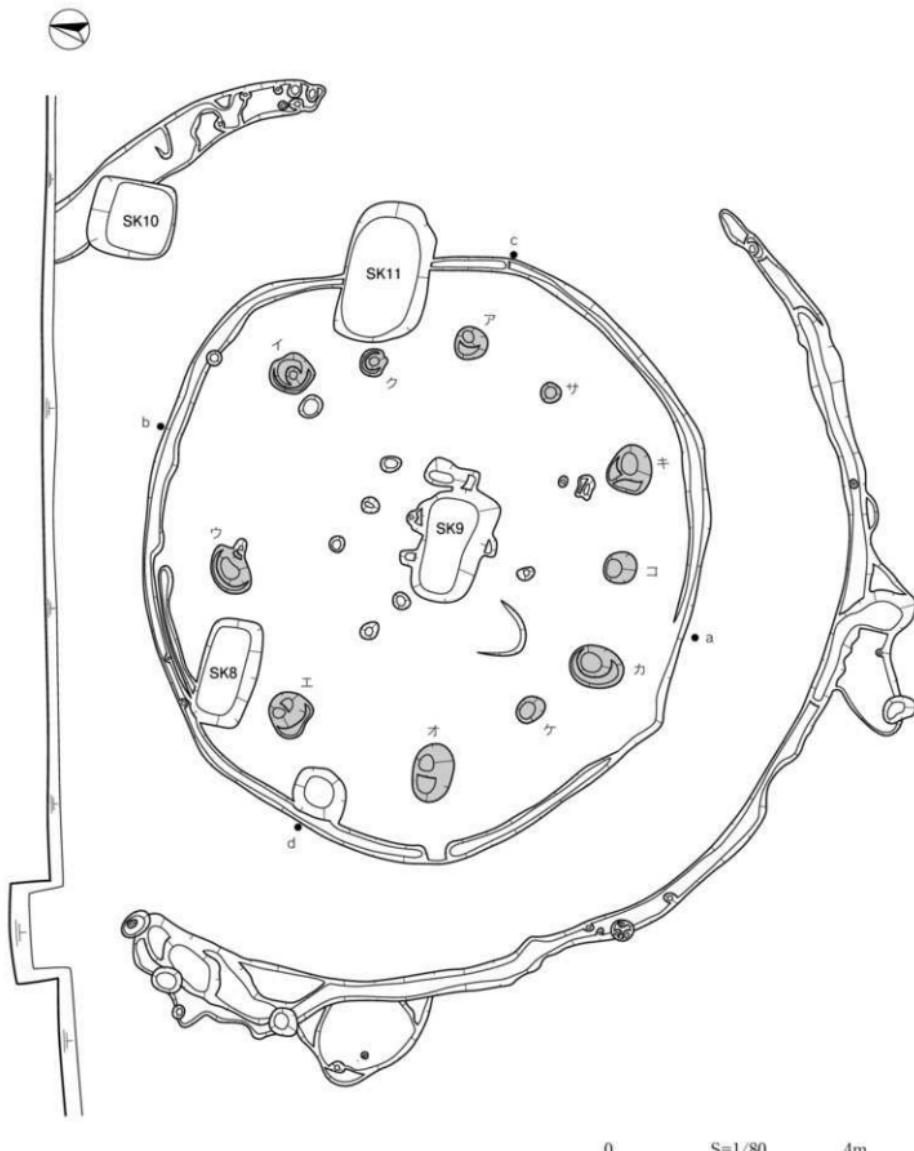
本調査区の主体は弥生時代後期後半と中世の集落跡であるが、古代の末松庵寺跡に葺かれていたとされる軒丸瓦27がSD5から出土した。SD5は近世溝のため後世の流れ込みの可能性が高いが、末松庵寺跡から本遺跡まで約2kmもの離れた箇所から出土したことは極めて興味深い。

弥生時代の堅穴建物SI1とSI2は多角形で、直径7m以上と規模が大きい。両堅穴建物は出土土器からSI2が古くSI1が新しい様相を見てとれ、同時期に存続はしていなかったようである。周囲には他の堅穴建物は存在しておらず、この建物が単体で建っていたことになることから、一般的な居住用施設ではないかもしれない。両建物からは玉製品が見つかっていることから、玉作りの専用の施設であった可能性もある。

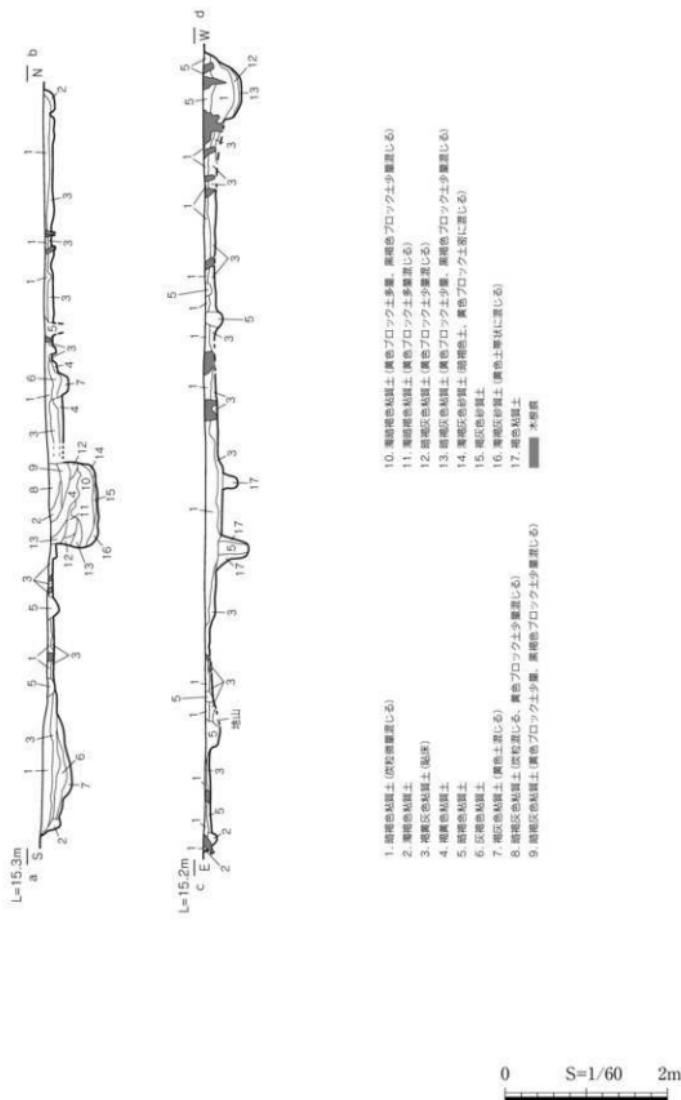
中世については、掘立柱建物が3棟見つかっている。特にSB3は5間×4間と規模が大きく、有力者の居宅にあたると考えられる。この建物の西にあるSD1～SD6の東西・南北溝は排水機能だけではなく、宅地や耕作地の区画も併せもっていたと考えられる。この溝の中には近世に掘られたものもあることから、中世の地割が江戸時代以降にも継承されていたことを示している。

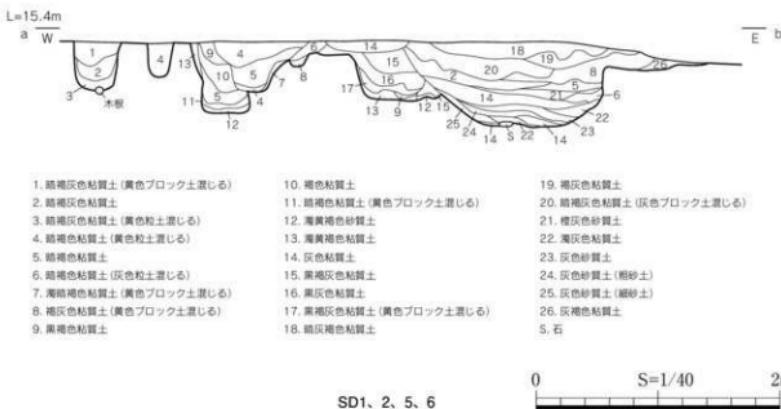
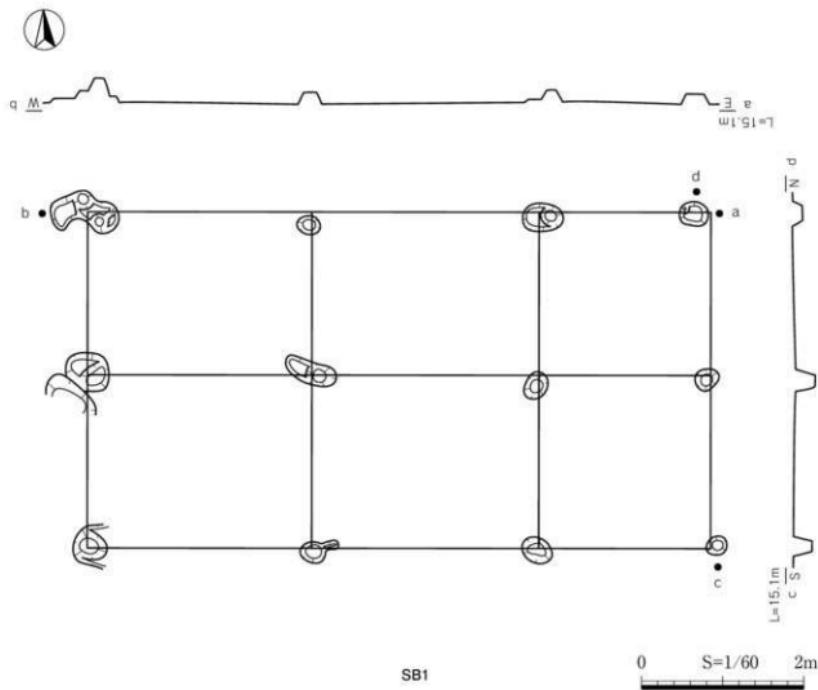


第11図 SI1 (S=1/60)

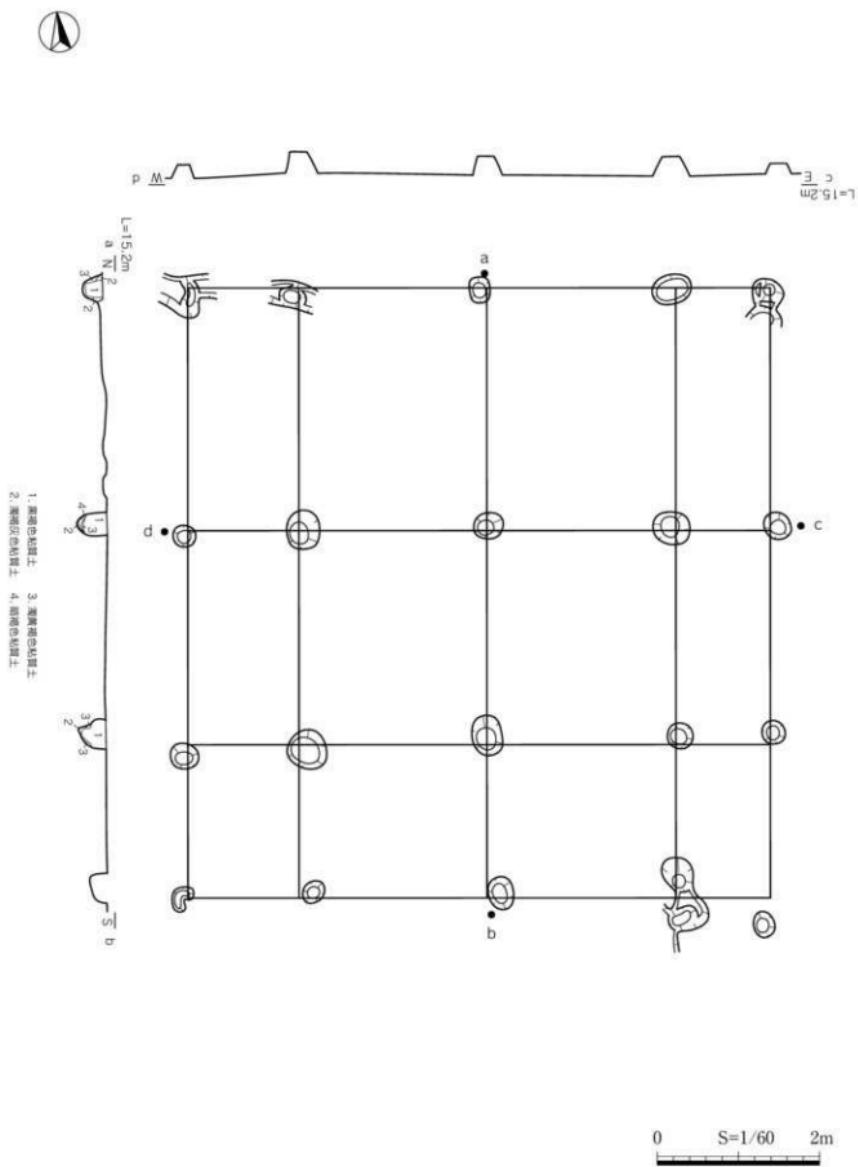


第12図 SI2平面図 (S=1/80)

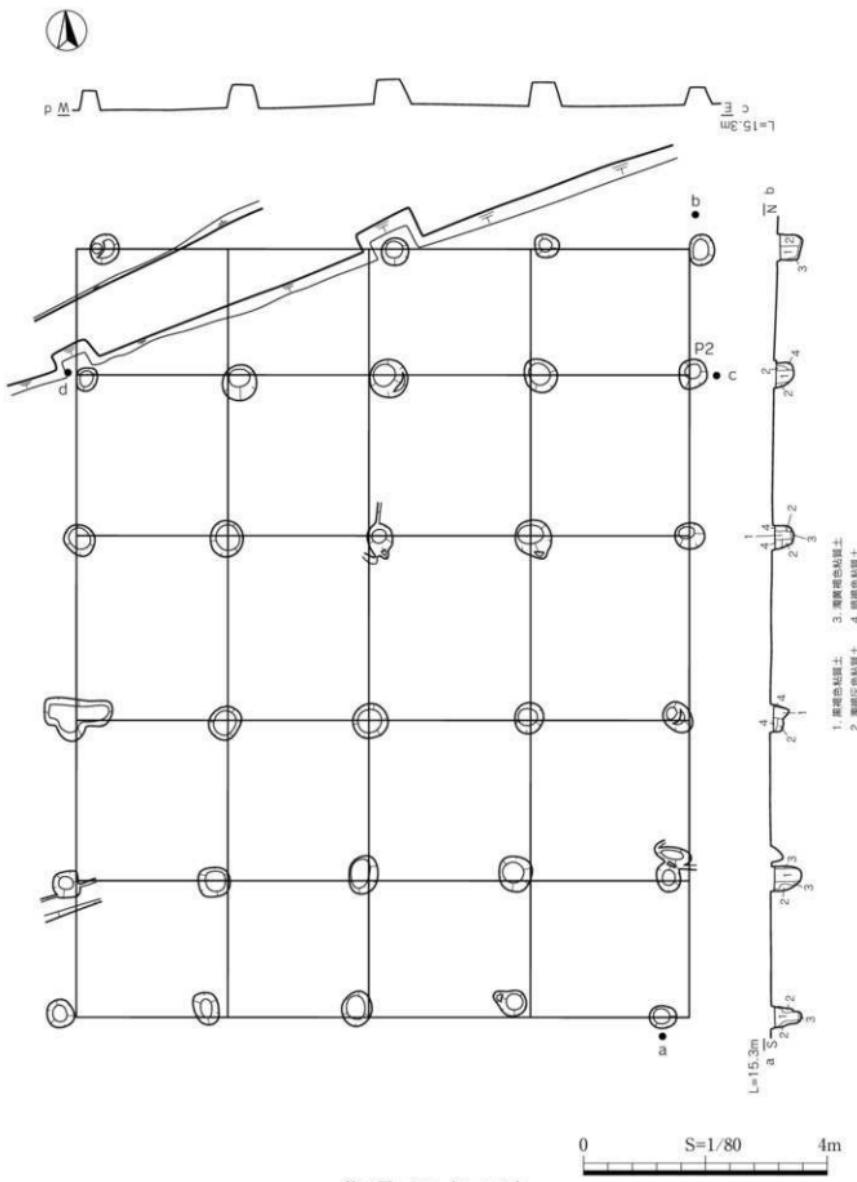




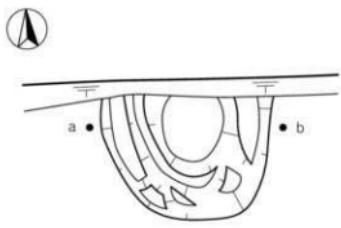
第14図 SB1 ($S=1/60$)、SD1、2、5、6 ($S=1/40$)



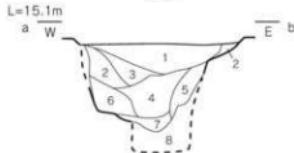
第15図 SB2 (S=1/60)



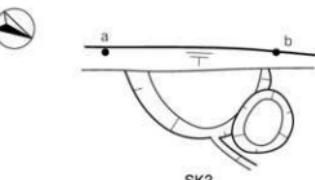
第16図 SB3 ($S=1/80$)



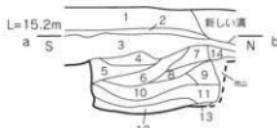
SK1



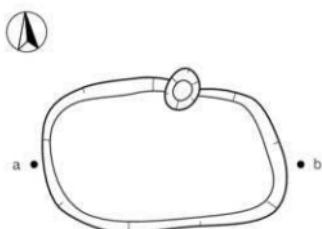
1. 褐褐色粘質土(炭粒混じる)
2. 褐色粘質土
3. 褐褐色粘質土(炭粒混じる。1層より淡い)
4. 褐褐色粘質土(暗い)
5. 薄褐色粘質土(黄褐色土混じる)
6. 褐色粘質土(2層より暗い)
7. 褐色粘質土(砂多い)
8. 褐色粘質土



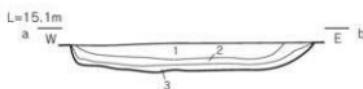
SK2



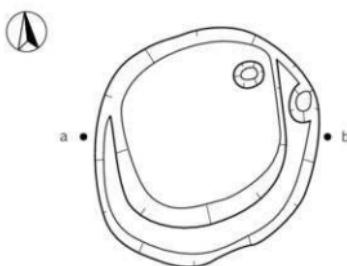
1. 反色粘質土(耕作土)
2. 淡灰褐色粘質土(未土)
3. 暗褐色粘質土(耕作土)
4. 暗褐色粘質土(炭粒混じる。黄色土少量混じる)
5. 暗褐色粘質土(黄色ブロック土1~3cm 大量混じる)
6. 薄褐色粘質土(黄色ブロック土1~2cm 大 50%混じる)
7. 薄褐色粘質土(黄色ブロック土1~2cm 大 30%混じる)
8. 薄褐色粘質土(黄色ブロック土1~2cm 大 50%混じる)
9. 暗褐色粘質土(黄色ブロック土 5mm~3cm 大 30%混じる)
10. 薄褐色粘質土(黄色ブロック土 5mm~3cm 大 50%混じる)
11. 薄褐色粘質土(黄色ブロック土 5mm~3cm 大 60%混じる)
12. 薄褐色粘質土(薄褐色土混じる)
13. 薄褐色粘質土
14. 墓色粘質土(中世以前の包埋層か?)



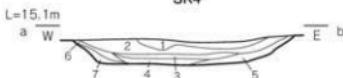
SK3



1. 暗褐色粘質土(炭粒混じる。黄褐色土 1cm 前後多量に混じる)
2. 前褐色粘質土(黄色土 1~2cm 前後斑に混じる)
3. 前褐色粘質土(黄色土 1~2cm 前後斑に混じる、粘性強い。2層より細い)

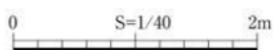


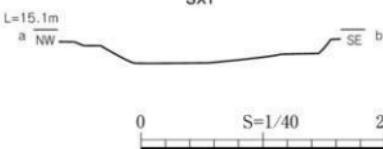
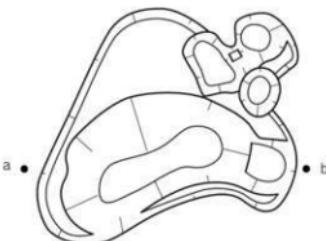
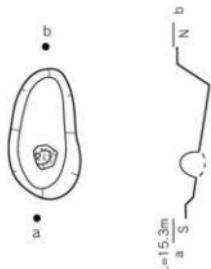
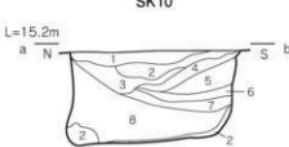
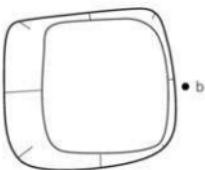
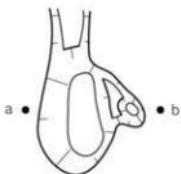
SK4



1. 暗褐色粘質土(炭粒混じる。黄色粘土多量混じる)
2. 暗褐色粘質土(黄色土斑に混じる)
3. 暗褐色粘質土(炭粒少量混じる。黄色ブロック土多量混じる)
4. 暗褐色粘質土(黄色ブロック土 40%混じる)
5. 暗褐色粘質土(若干暗い。黄色ブロック土 30%混じる)
6. 暗褐色粘質土(黄色ブロック土 10%混じる)
7. 暗褐色粘質土(若干暗い。無土粒微量混じる。黄色ブロック土 10%混じる)

第17図 SK1 ~ 4 (S=1/40)

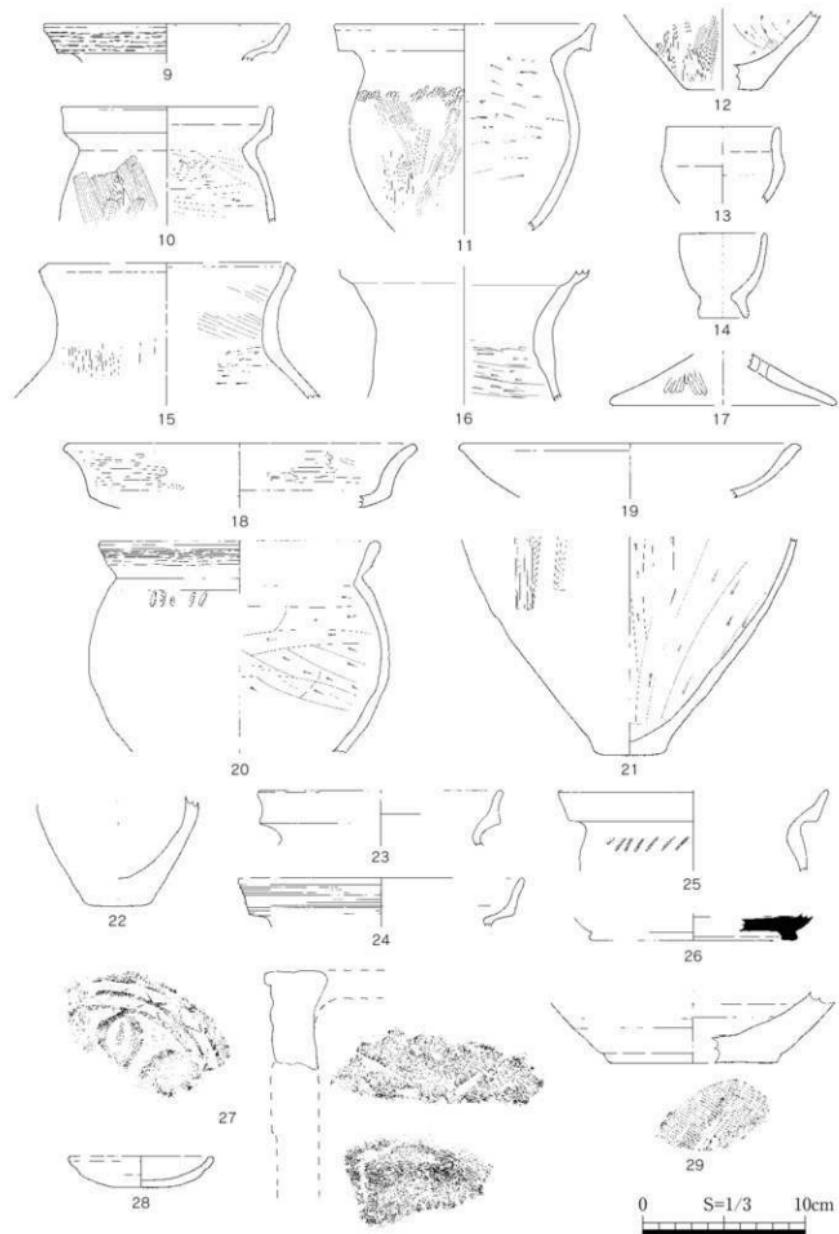




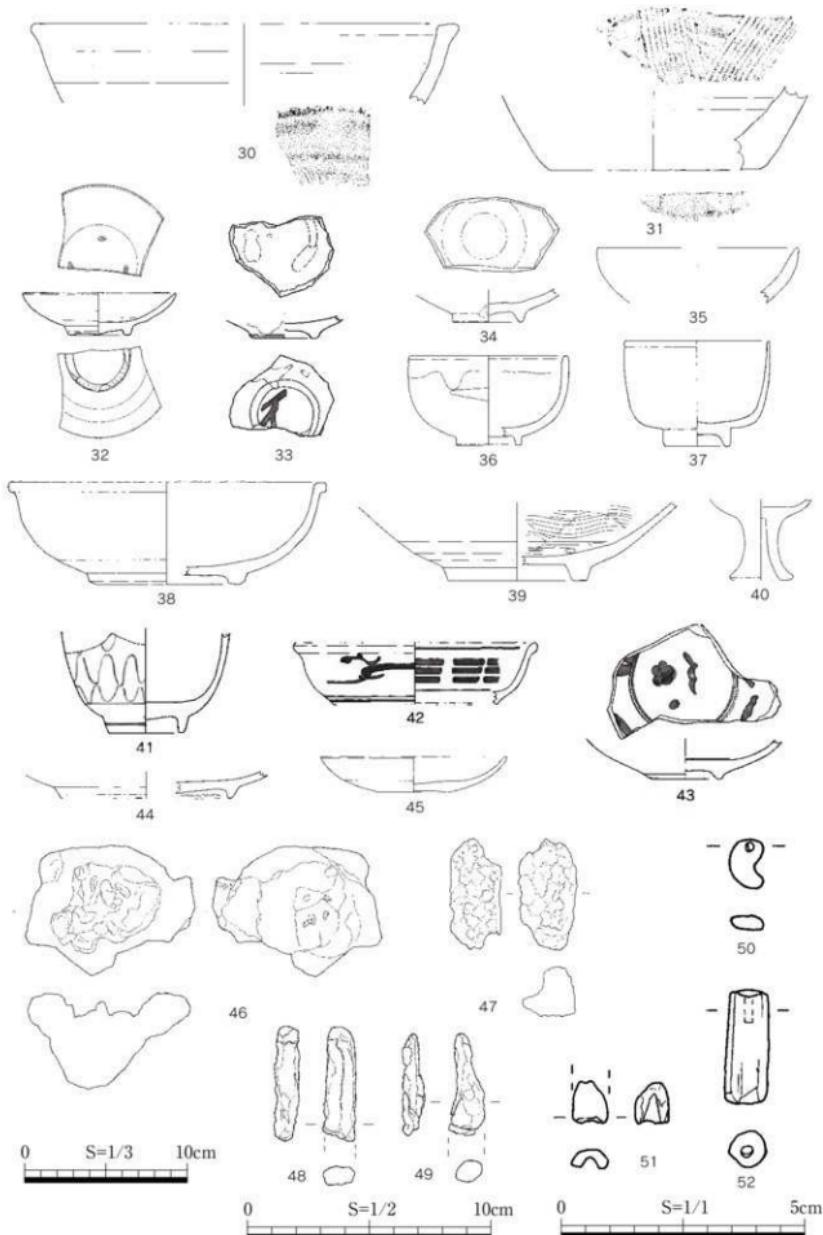
第18図 SK5～7、10、SX1 ($S=1/40$)



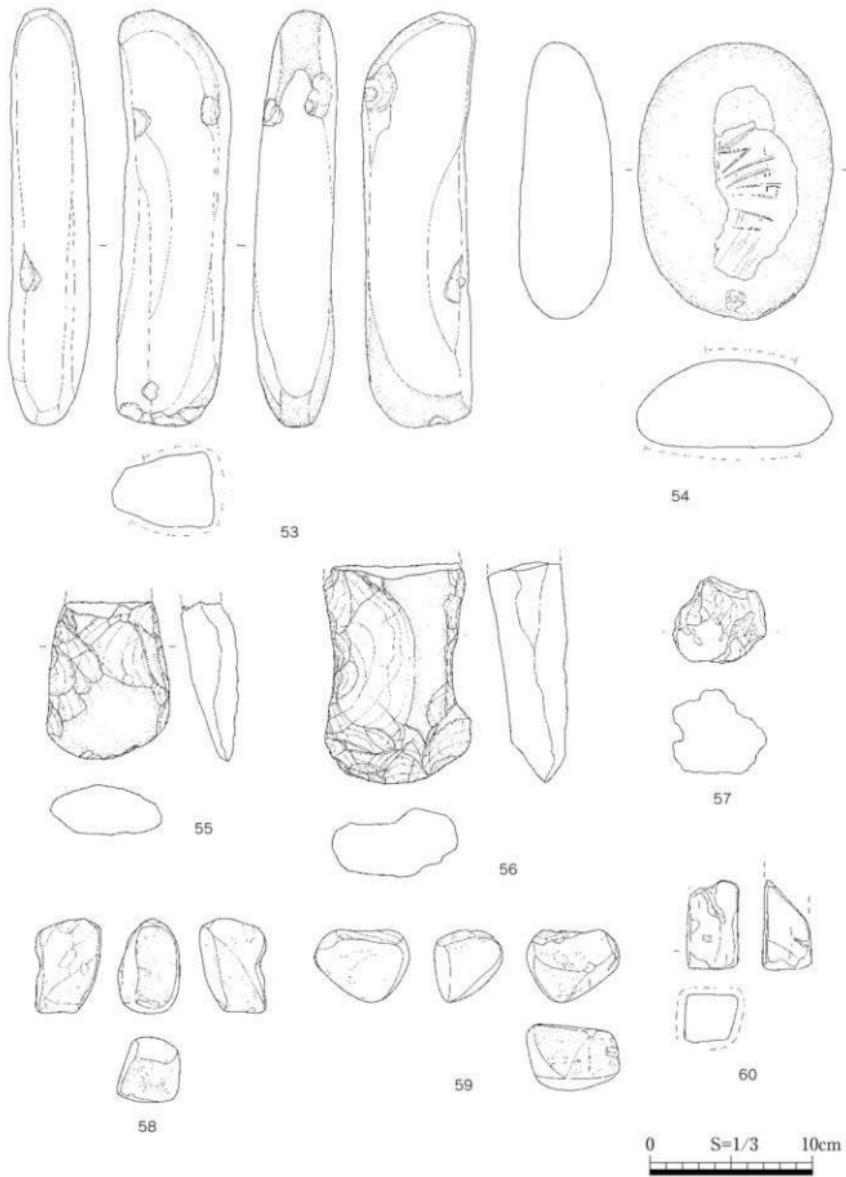
第19図 遺物実測図 1 ($S=1/3$)



第20図 遺物実測図2 (S=1/3)



第21図 遺物実測図3 (30～47 (S=1/3)、48、49 (S=1/2)、50～52 (S=1/1))



第22図 遺物実測図4 (S=1/3)

第4表 土器・陶磁器観察表

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	色調(外)			
1	13次 SX1	縄文土器 深鉢	254			ナデ	浅黄褐	口縁部1/12	沈縦3本	N578
						ナデ	灰黄褐			
2	13次 SI1	弥生土器 甕	144	132	26	ヨコナデ	にぶい黄褐、にせい黄褐、黒	口縁部7/9	外面煤	N557
						ヨコナデ、ケズリ	明黄褐、灰黄褐、褐灰、にぶい黄褐			
3	13次 SI1	弥生土器 甕	140			ヨコナデ	にぶい黄褐	口縁部2/9		T565
						ヨコナデ、ケズリ	灰黄褐			
4	13次 SI1	弥生土器 甕	184	378	40	ヨコナデ、カキハ、ヘラケズリ	にぶい黄褐、黒褐		刺突文	N561 N562
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐、褐灰			
5	13次 SI1	弥生土器 器台	303	286 ~ 298	230	ヨコナデ、カキハ	灰白、浅黄褐、褐灰	ほぼ完形	透孔4、擬凹線 スタンプ文、刺突文	N527
						ヨコナデ	灰白、浅黄褐			
6	13次 SI2	弥生土器 甕	179	預部径 141		ヨコナデ	浅黄褐、にぶい黄褐、明黄褐、黒褐	5/12	擬凹線10条、刺突文 外面煤	N541
						ヨコナデ、ケズリ	浅黄褐、黒褐、灰黄褐、褐灰			
7	13次 SI2	弥生土器 甕	182	預部径 152	体部径 212	ハケ	にぶい黄褐、にせい黄褐、暗褐、黒褐	口縁~体部 1/4	擬凹線7条、刺突文 外面煤	N537
						ナデ、ケズリ	にぶい黄褐			
8	13次 SI2	弥生土器 甕	202	預部径 170		ヨコナデ	にぶい黄褐、黒	1/6	擬凹線6条 外面煤	N545
						ヨコナデ	にぶい黄褐			
9	13次 SI2	弥生土器 甕	151			ヨコナデ	浅黄褐、にぶい黄褐、灰白、黒褐	1/6	擬凹線5条	N558
						ヨコナデ	浅黄褐、にぶい黄褐、灰白、黒褐			
10	13次 SI2	弥生土器 甕	132			ヨコナデ、ハケ	褐灰、浅黄褐	口縁部1/3	外面煤	T550
						ヨコナデ、ケズリ	褐灰			
11	13次 SI2	弥生土器 甕	160	預部径 123	体部径 141	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐、黒褐、灰黄褐	1/4	刺突文 外面煤	N543
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄褐			
12	13次 SI2	弥生土器 甕			45	ハケ	にぶい黄褐、褐灰	1/3		N548
						ケズリ	黒褐			
13	13次 SI2	弥生土器 小型土器	70			ナデ	にぶい黄褐	1/4		N559
						ナデ	にぶい黄褐、灰白			
14	13次 SI2	弥生土器 小型土器	54	52	30	ナデ	にぶい黄褐	口縁部7/18		T551
						ナデ	にぶい黄褐			
15	13次 SI2	弥生土器 甕	157	預部径 135		ヨコナデ	灰黄褐	1/7		N546 N547
						ヨコナデ、ケズリ	灰黄褐、褐灰			
16	13次 SI2	弥生土器 甕	153	預部径 108		ナデ	褐灰、灰黄褐、にぶい黄褐、浅黄褐	頂部完形		N538
						ナデ、ケズリ	褐灰、浅黄褐、にぶい黄褐			
17	13次 SI2	弥生土器 高杯			140	ミガキ	にぶい橙、灰白	1/12	脚部穿孔	T549
						ナデ	にぶい橙、橙			
18	13次 SI2	弥生土器 高杯	218			ミガキ	浅黄褐、黒褐、灰白	1/3		N539 N540
						ミガキ	浅黄褐、にせい黄褐、にぶい赤褐			
19	13次 SI2	弥生土器 高杯	209			ミガキ	黒褐、灰褐、灰黄褐、浅黄褐、にぶい橙	1/6		N544
						ミガキ	にぶい褐、にぶい黄褐、褐灰			
20	13次 P1	弥生土器 甕	174			ヨコナデ		口縁部1/9		T567
						ヨコナデ、ハケ				
21	13次 SK6	弥生土器 甕			44	ハケ、ナデ	黄褐	底部完形	外面煤	T531
						ケズリ	にぶい黄褐			
22	13次 SK5	土師器 底部			34	ナデ	浅黄、黄灰	底部完形	外面煤	T566
						ナデ	黄灰			
23	13次 SD8	弥生土器 甕	152			ロクロナデ	にぶい橙	口縁部1/9	外面煤	T533
						ロクロナデ、ヨコナデ	にぶい橙			
24	13次 SD8	弥生土器 甕				ヨコナデ	にぶい黄褐	5/36	外面煤 擬凹線6条	T534
						ヨコナデ	にぶい黄褐			
25	13次 SD8	弥生土器 甕	167			ロクロナデ	灰黄褐	5/36	刺突文	T535
						ロクロナデ、ヨコナデ	灰黄褐			

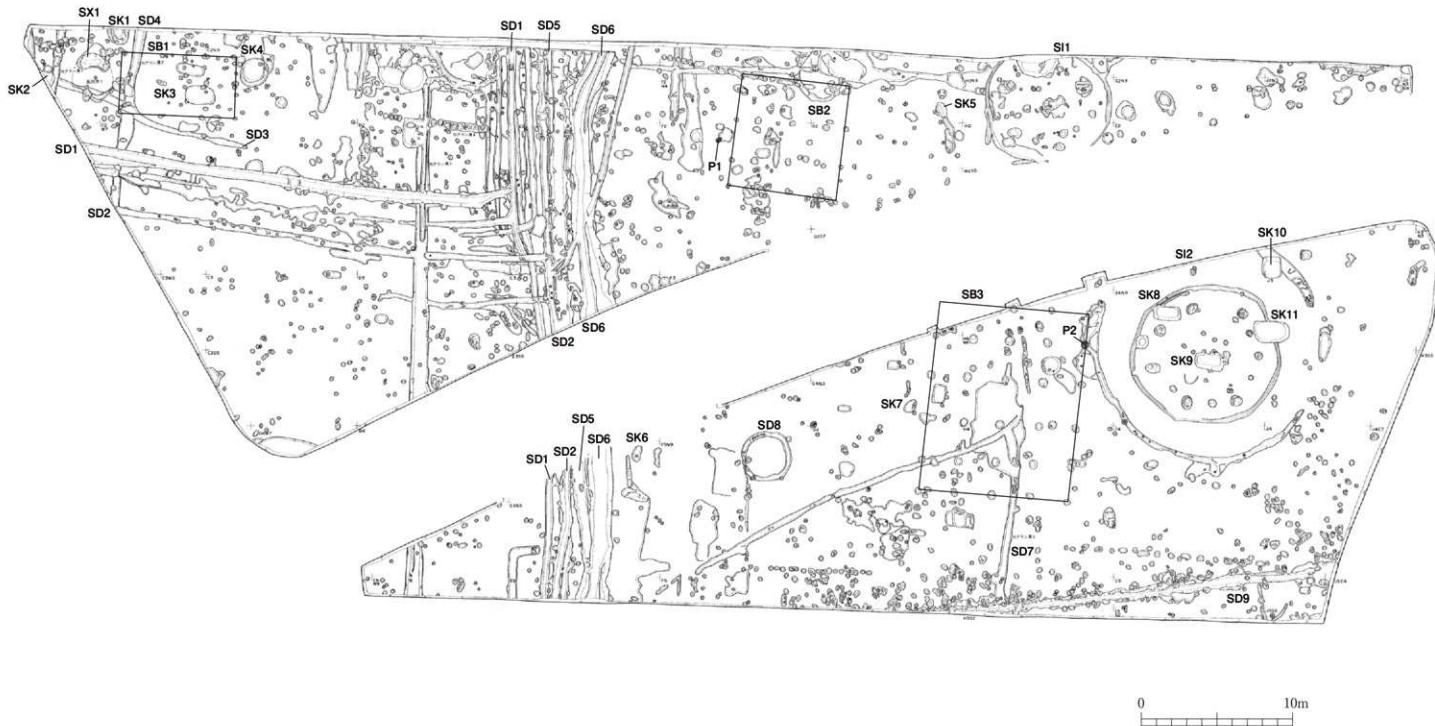
番号	造形	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
						調整(内)					
26	13次 SI1	須恵器 有台环		128		ロクロナデ	灰		1/4	回転ヘラ切り	N560
						ロクロナデ	灰				
27	13次 SD5	瓦 軒丸瓦	157				灰白、灰		1/4	末松廬寺跡出土同范	N569
							灰白、灰				
28	13次 P2	土師器 皿	90	19	40	ヨコナデ	橙		2/3		T532
						ナデ	橙				
29	13次 SD1	珠洲焼 搖鉢		105		ロクロナデ	灰		1/4	静止糸切り、板状压痕 外面指頭压痕	N568
						ロクロナデ	灰				
30	13次 SD1	珠洲焼 搖鉢	264			ロクロナデ	灰		1/12	鉢目	N556
						ロクロナデ	灰				
31	13次 SD5	珠洲焼 搖鉢		132		ロクロナデ	灰		1/4	静止糸切り 鉢目8~10条	N571
						ロクロナデ	灰				
32	13次 SD6	白磁 小坪	95	26	38		灰白		1/4	透明釉、胎土目3個 抉り高台	N554
							灰白				
33	13次 SD6	唐津 皿	高台径 43			にぶい橙			3/4	墨書き(解説不明)	H574
						にぶい黄橙					
34	13次 SD7	肥前陶器 皿	高台径 44			オリーブ灰、灰白		高台全周	1/4	透明釉、胎土目3個 抉り高台	O582
						オリーブ灰、灰白					
35	13次 SD6	陶器 碗	124			黒、にぶい褐		口縁部~脚部	1/9	口縁部~脚部 鉄軸	O577
						黒、にぶい褐					
36	13次 SD5	陶器 碗	97	55	40	灰白、暗オリーブ		口縁部~底部	1/7	白化粧土 鉄軸	O586
						灰白、暗オリーブ					
37	13次 SD6	陶器 碗	90	65	41	緑系、灰白		口縁部4/9 底部全形		N553	
						にぶい黄					
38	13次 SD5	陶器 鉢	196	63	97	灰、灰白、暗オリーブ褐、にぶい褐		口縁部1/2 底部はば全形		自混釉	N570
						灰、灰白、暗オリーブ褐、にぶい褐					
39	13次 SD5	陶器 皿			86	黄褐、灰白		高台部1/4	内面刷毛目文	O587	
						黄褐、灰白					
40	13次 SD5	肥前磁器 仏腹器		40		灰白		柱状部~底部	外面部噴釉 内面白磁釉	O585	
						灰白					
41	13次 SD6	肥前磁器 碗		47		明青灰、青灰		底部全形	透明釉 硅砂付着	N552	
						明絞灰					
42	13次 SD3	肥前磁器 皿	150	38	100	灰白		口縁部~脚部	1/7	透明釉	O579
						灰白					
43	13次 SD6	肥前磁器 皿		45		明絞灰		底部はば全形	透明釉、梅文	O588	
						明絞灰					
44	13次 SD4	肥前磁器 皿		105		灰白		高台部1/7	白磁釉	O580	
						灰白					
45	13次 SD5	白磁 皿	115	22	45	灰白		1/2	白磁釉	O584	
						灰白					

第5表 石製品観察表

番号	遺構	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考	実測 番号
			(mm)	(mm)	(mm)	(g)			
50	13次	勾玉	11.5	7	3	0.3	蛇紋岩		T525
	SI2								
51	13次	管玉	0.8	0.75	0.4	0.2	緑色凝灰岩		T564
	SI1								
52	13次	管玉未製品	24	0.9	0.75	2.5	緑色凝灰岩		T526
	SI2								
53	13次	石鑿	25.7	6.7	5.0	1.370		砾石に転用	T528
	包含層								
54	13次	磨石	17.0	12.0	5.7	1.660			T563
	SI1								
55	13次	石鍤	92.5	7.5	30.5	278	火山礫凝灰岩		H573
	SD6								
56	13次	石鍤	13.5	9.0	4.6	672	火山礫凝灰岩		H583
	SD1								
57	13次	砥石	5.2	5.7	5.1	18.7	軽石		H575
	SI1								
58	13次	砥石	5.8	3.8	4.0	14.3	軽石		H576
	SI2								
59	13次	砥石	4.4	5.7	4.2	28	軽石		H572
	SI2								
60	13次	砥石	5.5	3.2	3.0	65	凝灰岩	中砥石	O581
	SD4								

第6表 鉄製品観察表

番号	ダリッド 遺構	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	実測 番号
			(mm)	(mm)	(mm)	(g)		
46	13次	鉄滓	9.0	10.4	6.0	390		N555
	SD1							
47	13次	鉄滓	6.9	3.7	3.2	90		T529
	SK11							
48	13次	不明	4.7	1.3	1.7	10		T530
	SK10							
49	13次	鉄釘	4.2	1.5	0.9	8		T536
	SK7							



第23図 第13次遺構全体図 (S=1/250)

第6章 第17次調査の成果

第1節 遺構

本調査で発見された主要な遺構は、掘立柱建物、土坑、溝などである。以下、個別遺構を報告する。

① 掘立柱建物

SB1 (第24・30図)

中世の総柱式掘立柱建物である。南北3間×東西3間以上で、方位はN4°Wである。東側半分は調査区外へと延びる。柱間の長さは南北が2.8～3.5m、東西が3.0～3.5mである。柱穴の中には数が2基隣接する箇所があり、同一場所で建物の造り替えがあったかもしれない。柱穴の形状は略円形で、直径25～45cm、深さ15～25cmを測る。

② 土坑

SK1 (第25・31図)

東西に長い略長方形をした土坑である。南北長約2.0m、東西長約2.4m、深さは約90cmを測る。穴の側面は底で膨らむラスコ状となる。土層断面を観察すると、覆土は東から西方へ斜め状に堆積しており、人為的に埋めた可能性がある。

SK2 (第25・31図)

略正方形をした土坑である。一辺約1.6m、深さは約60cmを測る。穴の南側面は横穴状に掘りくぼめられている。

SK3 (第25・31図)

略方形をした土坑である。SK2と同様穴の南側面は横穴状に大きく掘りくぼめられている。しかし、現地調査の過程で南側の一部が崩落したことから、本来の形状等は明確ではない。南北長推定約2.2m、東西長約2.0m、深さは北側で約50cm、崩落した南側で1m以上を測る。土層埋積の状況については、全体を把握することはできないが、北から南へ土が斜め方向に堆積することが一部確認でき、人為的に埋めたものと考える。

SK4 (第25・31図)

略方形をした土坑である。南北長約2.2m、東西長約2.0m、深さは約90cmを測る。穴の東西側面は横穴状に膨らみラスコ状となる。土層断面を見ると東から西方へ土が斜めに堆積しており、人為的に埋めた可能性がある

SK5 (第26・31図)

略楕円形をした土坑である。南北長約1.8m、東西長約1.6m、穴の南側面は横穴状に膨らみ、穴内は北側と南側で深さが異なる。深さは北側が約30cm、南側が約60cmで、北から南方へ土が斜めに堆積しており、人為的に埋めたものと思われる。

SK6 (第26・31図)

東西に長い略長方形をした土坑である。南北長約1.0m、東西長約1.4m、深さは約80cmを測る。穴の側面は横穴状に膨らみラスコ状となる。一部覆土が互層になって堆積しており、人為的に埋めた可能性がある。

SK7 (第26・31図)

北西～南東が長い略楕円形をした土坑である。長辺約1.9m、短辺約1.4m、深さは約25cmを測る。覆土の堆積状況は不明で、形状等から上記SK1～6の土坑とは様相を異とする。

SK8（第26・31図）

東西に長い略長方形をした土坑である。南北長約1.3m、東西長約1.7m、深さは約40cmを測る。穴の南側面はやや膨らみをもつ。覆土の堆積状況から、人為的に埋めた可能性がある。

③ 溝

SD1（第27・31図）

調査区北端で検出した東西方向の溝であるが、東方から西方へ約30m進んだところで、北寄りに向きを変える。溝幅は65～160cm、深さ35～60cmを測る。方位はW12° Sである。

SD2（第27・31図）

調査区北方で検出した南北方向の溝であるが、北端で西方に直角に向きを変えて調査区外へと延びていく。南北方での長さは約33m、東西方での長さは約4mである。溝幅は30～75cm、深さ20～45cmを測る。方位は南北方がN16° Wで、東西方がW7° Nである。なお、本溝は自然河道NR1の東岸を並走している。

SD3（第27・31図）

調査区北方で確認した北東－南西から南北方へ緩くカーブを描く溝で、自然河道NR1の西岸に並走している。幅は50～165cm、深さは15～45cmを測る。

SD4（第27・31図）

SD3に隣接して並走する北東－南西方の溝で、北東端は調査区外へと延びる。幅は30～50cm、深さは10～15cmを測る。方位はW30° Sである。

SD5（第27・31図）

調査区中央で検出した東西方向の溝で、東方に所在する第36次調査区SD1とは同一になる。長さは約9mであるが、第36次調査区SD1まで含むと約40mとなる。溝幅は140～160cm、深さ30～40cmを測る。方位はW4° Nである。

SD6（第27・30図）

調査区南西側で確認した南北方向の溝である。長さは約33m、溝幅は120～170cm、深さ45～60cmを測る。方位はN4° Eで、SD5とは溝幅や深さが酷似しており、調査区外で連結するかもしれない。

SD7（第30図）

調査区南西側で確認した南北方向の溝で、SD6の東隣に所在する。長さは約42m、溝幅は45～100cm、深さ10～20cmを測る。方位はN8° Wである。

④ 自然河道

NR1（第31図）

調査区北方で確認した自然河道で、調査区内で300度に近い大きな蛇行をしている。幅は約8m、深さは100～140cmを測り、第29次、32次調査区など周辺調査区で確認されている自然河道と同じ流路と考えられる。

第2節 遺物

1から6は縄文時代晚期頃の土器で、1の深鉢の口縁部には紐通しと考えられる穴が2ヶ所確認できた。7は弥生時代後期後半の擬凹線を有した壺である。8と9は法量が違うが、タイプが同じである弥生時代の長頸壺で、2個とも内外面に赤彩を施す。13と14は中世白磁皿で、13は口縁部に大きめの玉縁を有する。21～30は石製品である。21～23は砥石で、21は小型品で中世の中砥と考えられる。22と23は自然石をそのまま使用した大型の部類で、弥生時代以降のものと推測する。23は全体に煤が付着して

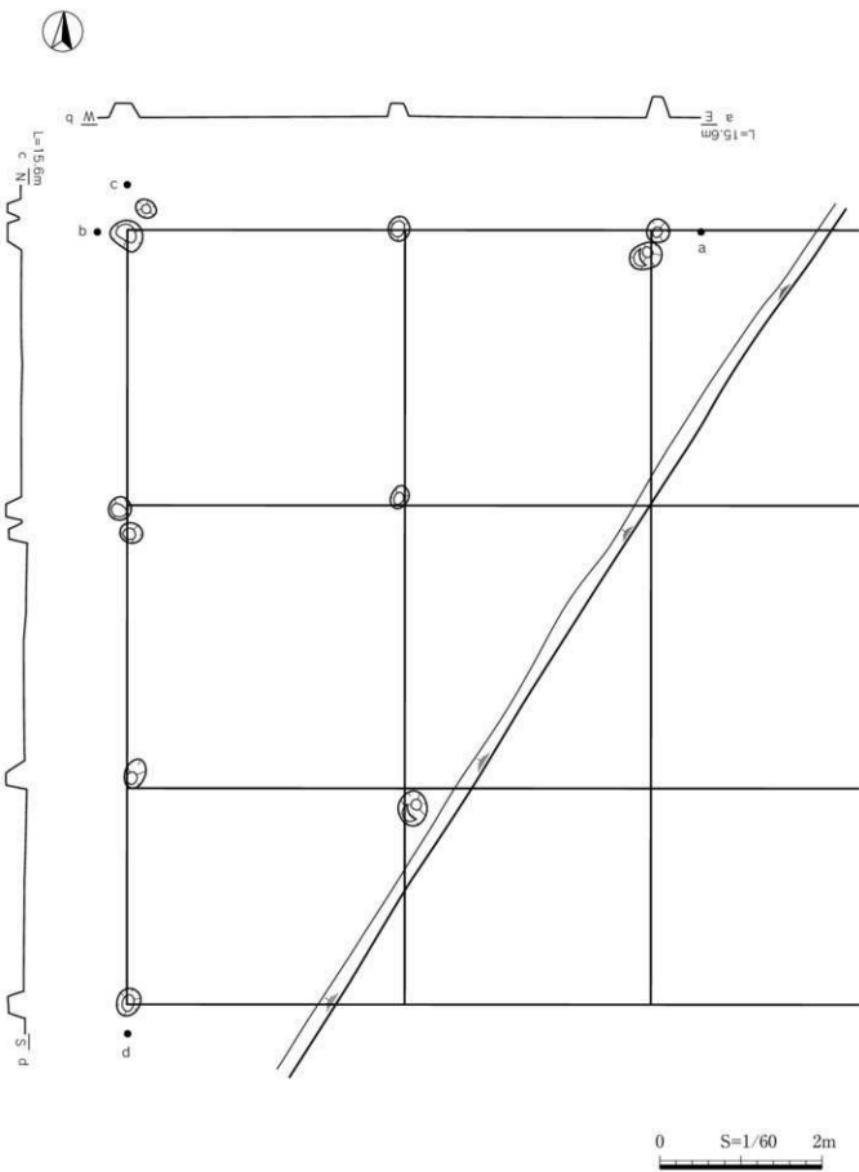
いる。25～28は石鎚で、いずれも欠損が認められ、使用後廃棄したものと考えられる。29の磨製石斧も使用痕が認められるうえに欠損もしている。30は石鎚未成品である。製作工程がわかる貴重な資料といえる。

第3節　まとめ

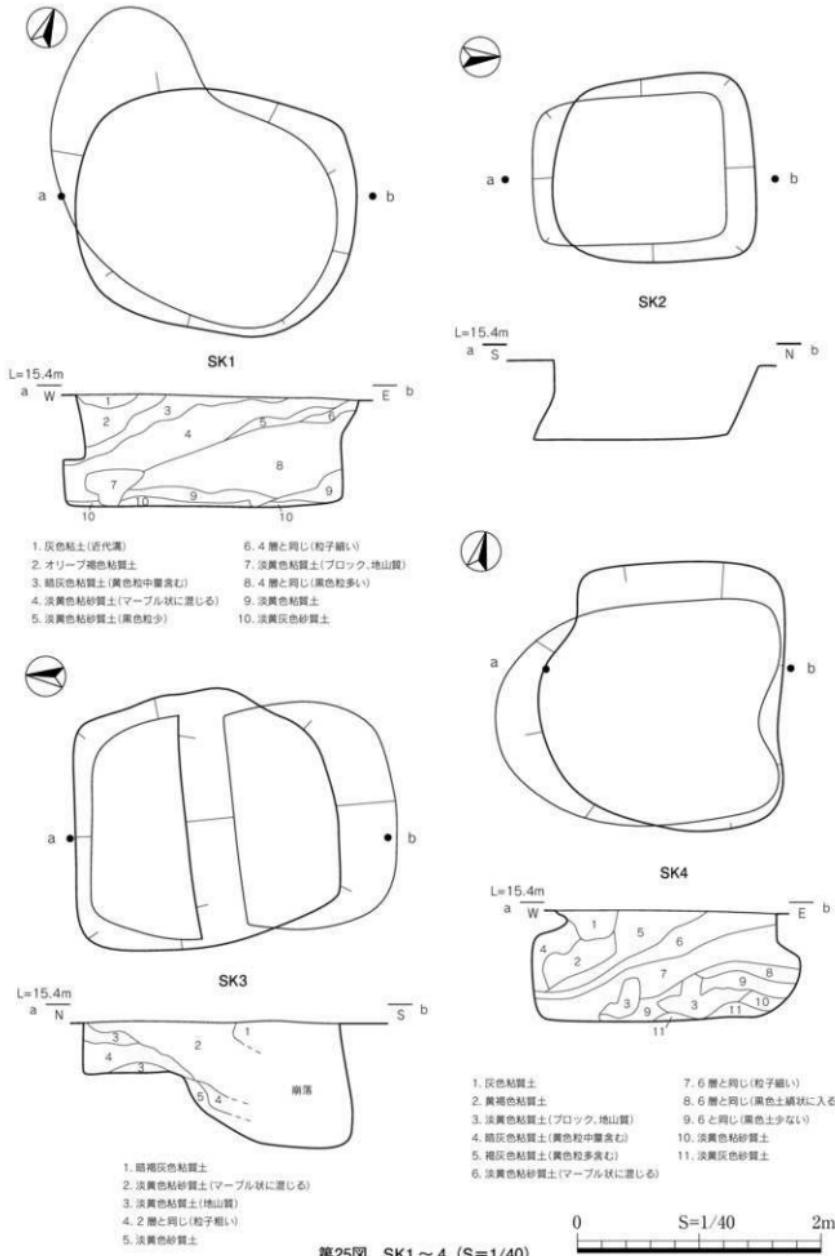
本調査区の北側には自然河道NR1を確認することができる。NR1は前述のとおり、本調査区より南西方向にあたる第29次・第32次調査区で発見されている自然河道と同じ流路であることが考えられる。この自然河道は他調査区での覆土から弥生時代後期後半を中心とした土器などが見つかっていることから、弥生期までは河道として流水していたようである。このNR1の流路を並走して掘られているSD2～SD4はこの自然河道を意識した造構であることは明確であるが、時期については遺物が出ていないため不明である。

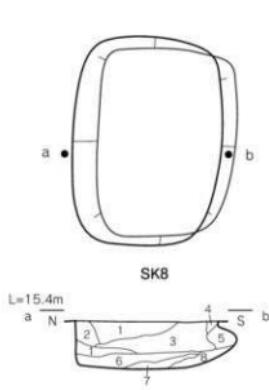
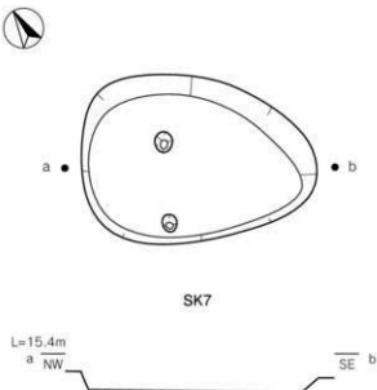
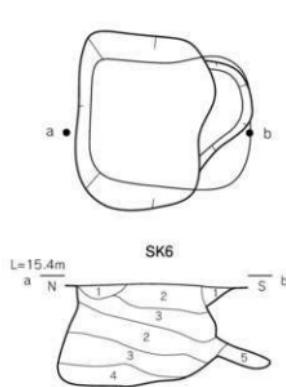
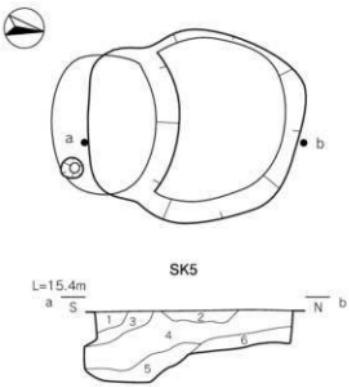
このNR1の北側にはSK1～SK8の土坑群が認められる。SK7以外の土坑は、略方形といった形状や、規模、深さ50～60cmと酷似している。また、いずれも埋まっている土は自然堆積ではなく、人為的に埋めた痕跡が認められ、遺物についてはSK4から白磁皿が出土していることから、その立地状況や土坑の規模・形態などを勘案して、中世の土坑墓群と考えたい。

調査区南側には中世掘立柱建物SB1を確認したことから、中世集落が存在していたようである。SB1の近隣には、東西溝SD5、南北溝SD6が存在し、両溝とSB1の建物の方位がほぼ合致することから、同一時期と考えられる。以上から、SD5及び6で囲まれた中にSB1を有した中世の居宅が存在した景観を復元することができる。



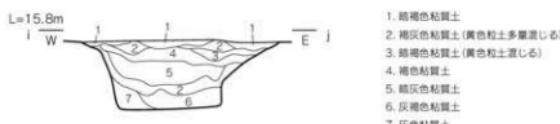
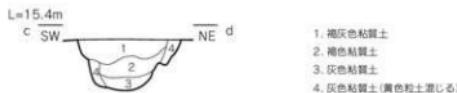
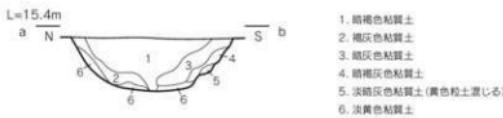
第24図 SB1 ($S=1/60$)



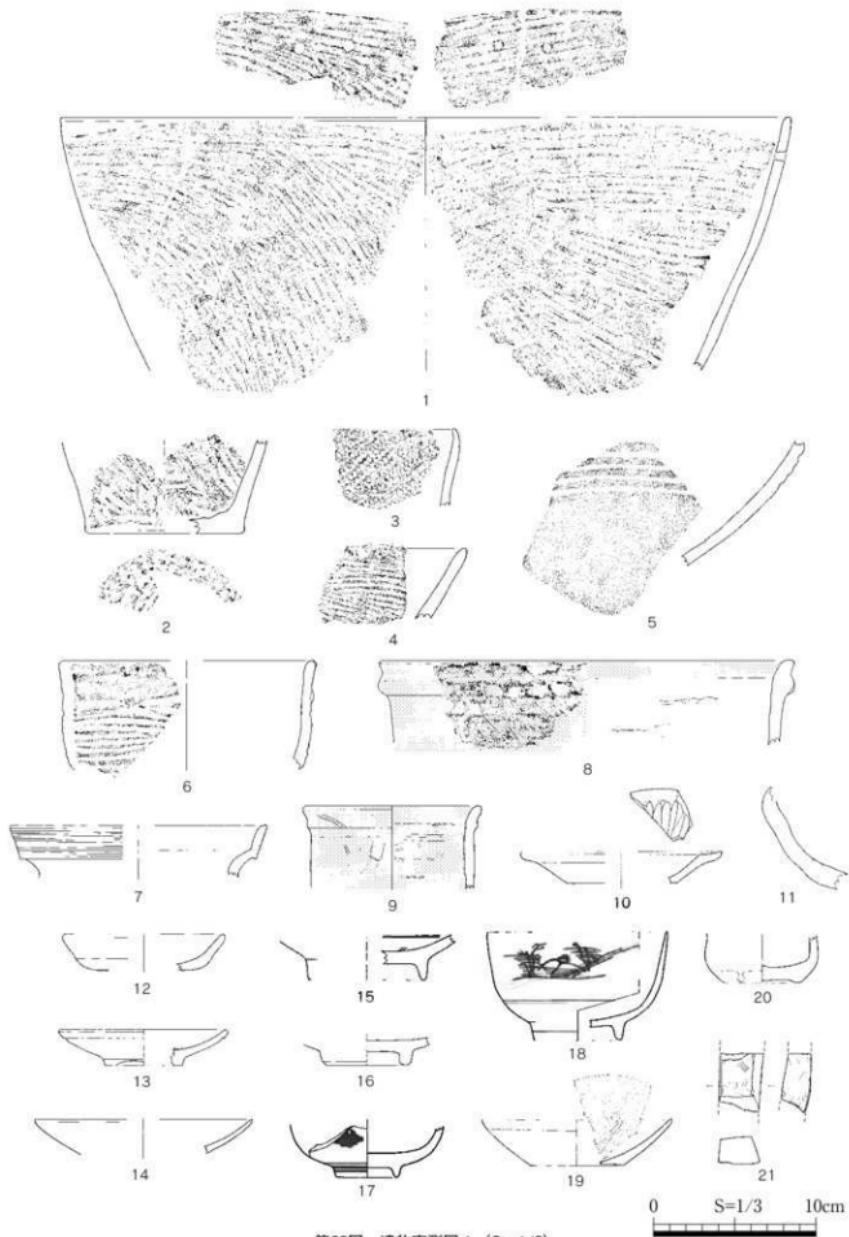


0 S=1/40 2m

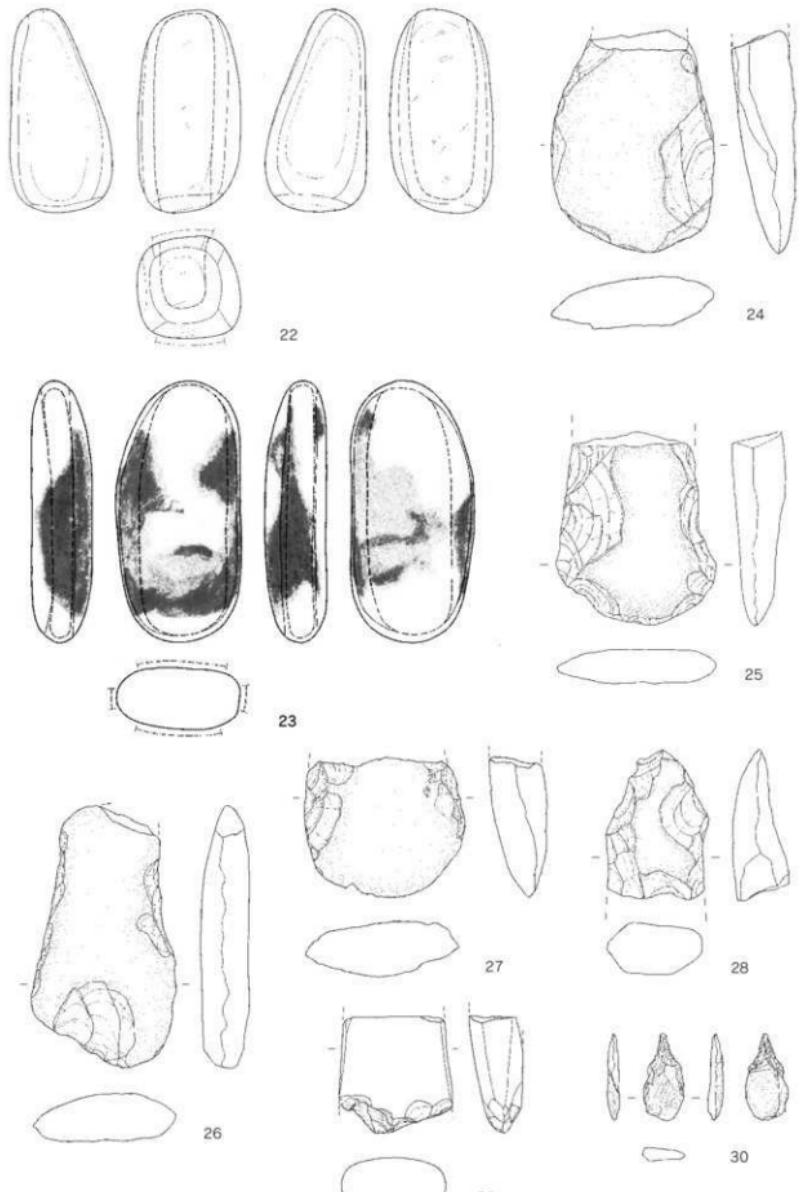
第26図 SK5 ~ 8 (S=1/40)



第27図 SD1 ~ 6 (S=1/40)



第28図 遺物実測図 1 ($S=1/3$)



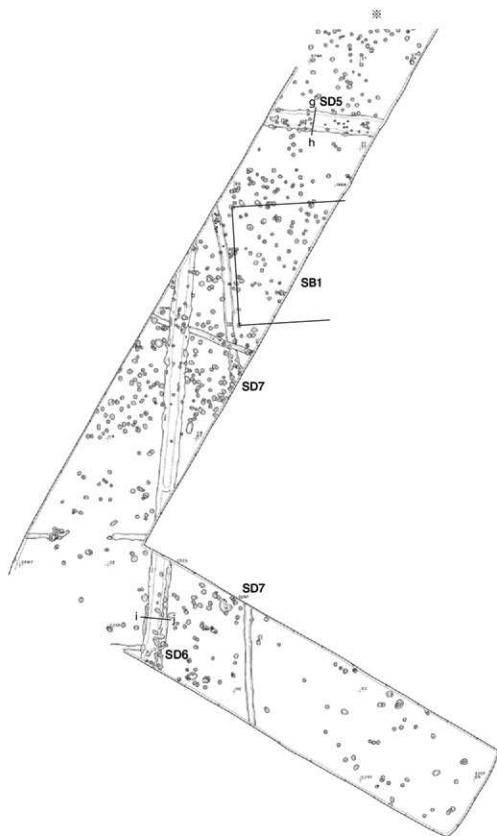
第29図 遺物実測図2 (S=1/3)

第7表 土器・陶器観察表

番号	造構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外) 調整(内)		色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
						外	内				
1	17次	縄文土器	452			柔痕	にぶい黄橙	口縁部1/3	外面煤、炭化物 通し穴2	O3	
	SK7	深鉢				柔痕	にぶい黄橙				
2	17次	縄文土器	98			柔痕	にぶい橙	1/3	底部狂痕	O6	
	SK7	深鉢				柔痕	にぶい黄橙				
3	17次	縄文土器	(157)			陶	褐	小片	外面煤	H7	
	P2	深鉢				陶	褐				
4	17次	縄文土器	(157)			柔痕	灰黄褐	小片	内面煤、炭化物 外面煤	O4	
	SK7	鉢				ナデ	褐灰				
5	17次	縄文土器	(157)			ナデ	明黄褐	小片	沈縫4条	H9	
	NR1	浅鉢				ナデ	にぶい黄橙				
6	17次	縄文土器	(157)			灰黄、黄灰	灰黄	1/9		H8	
	NR1	深鉢				灰黄	灰黄				
7	17次	弥生土器	147			ヨコナデ		口縁部1/10	擬凹縫7条	O13	
	SD1	甌				ヨコナデ					
8	17次	弥生土器	255			ヨコナデ	明赤褐	口縁部1/6	内外面赤彩	O9	
	SK1	甌				ケズリ	にぶい黄橙				
9	17次	弥生土器	107			ナデ、ケズリ	明赤褐	口縁部1/6	内外面赤彩	O5	
	SK7	甌				ナデ、ケズリ	明赤褐				
10	17次	瀬戸焼	(124)			浅黄		1/13	灰釉	H13	
	包含層	折緑里				浅黄、オリーブ黄					
11	17次	加賀焼	(157)			オリーブ灰		小片	自然釉	O2	
	SD6	甌				にぶい燈					
12	17次	土器器	(100)	22	60	ナデ	浅黄褐	1/8		O1	
	SD6	皿				ナデ	浅黄褐				
13	17次	白磁	(105)		48	灰白	高台部1/5	高台部1/15	白磁釉、抉り高台	O10	
	SK4	皿				灰白	高台部1/5				
14	17次	白磁	(134)			灰白	高台部1/8	白磁釉	H2		
	包含層	皿				ケズリ	灰白				
15	17次	青磁	(73)			灰白	高台部1/8	青磁釉	O12		
	SD4	碗				灰白	灰白				
16	17次	青磁	(157)			灰白	青磁釉	1/4	青磁釉	H4	
	拂土	碗				灰白	灰白				
17	17次	肥前磁器	(157)			灰白	台部1/2	透明釉	H3		
	包含層	碗				灰白	底部1/4				
18	17次	肥前磁器	(111)	66.5	54	明綠灰	台部1/3	透明釉	H14		
	包含層	碗				明綠灰	高台部1/3				
19	17次	唐津焼	(117)	28	57	ケズリ	淡黄	口縁部1/7	白磁釉	H1	
	包含層	皿				ケズリ	淡黄				
20	17次	唐津焼	(117)			灰白、灰黄	底部全周	透明釉	H6		
	NR1	碗				オリーブ黄	黑色頁岩				

第8表 石製品観察表

番号	造構	器種	最大長 (mm)		最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考	実測 番号
			外	内						
21	17次	砥石	(36)		27	17	25.6	砂岩	中砥石	H5
22	17次	砥石	125		63	62	725	凝灰岩		H16
23	17次	砥石	161		76.5	38	803	凝灰岩	研付着	H17
24	17次	石歯	(131)		100	35.5	610	火山難凝灰岩		H15
25	17次	石歯	118		99	33	450	火山難凝灰岩		O7
26	17次	石歯	161		89	29	470	角閃石安山岩		H11
27	17次	石歯	(86)		98.5	34	345	火山難凝灰岩		H10
28	17次	石歯	(193)		64	35	197.6	火山難凝灰岩		O11
29	17次	磨製石斧	(71)		70	30	240	碧岩		H12
30	17次	石歯未製品	53		25	9	9.5	黒色頁岩		O8
	SK7									



第30図 第17次遺構全体図1（南）（S=1/300）



第31図 第17次遺構全体図2（北）（S=1/300）

第7章 第23次調査の成果

第1節 遺構

本調査で発見された遺構は溝やピットで、調査区北側には北西-南東方から北東-南西方へ逆L字状に曲がる溝SD1と、中央部で自然河道のNR1が確認できる。

① 溝

SD1 (第33図)

前述したとおり、北西-南東方から北東-南西方へ逆L字状に曲がる溝である。東岸の掘り方は明瞭であるが、西岸は自然河道NR1の影響のためか曖昧である。溝幅は180~200cm、深さ35~40cmを測る。方位は北西-南東方がN20°W、北東-南西方がW30°Sである。中近世陶磁器が多く出土している。

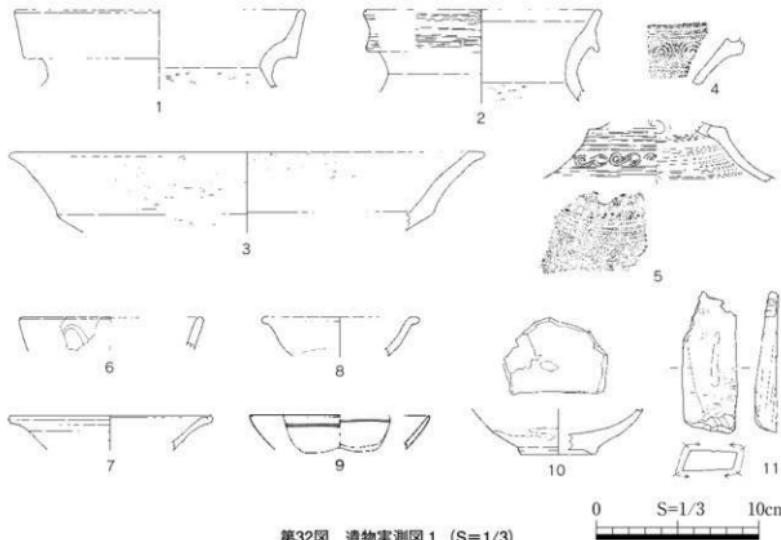
② 自然河道

NR1 (第33図)

調査区中央部で確認した自然河道で、本調査区西側の第17・36次調査区で見つかっている自然河道と一体のものである。調査区内での河幅は約20m、最深部約90cmを測る。

第2節 遺物

遺物は弥生土器と中近世陶磁器が多い。弥生土器の多くは包含層からの出土としているが、自然河道NR1から見つかったものがほとんどである。中近世の遺物はSD1から出土したものが多い。1~5は弥生土器である。4の器台には同心円状のスタンプ文、5の器台にはS字状スタンプ文が認められる。



第32図 遺物実測図1 (S=1/3)

第3節 まとめ

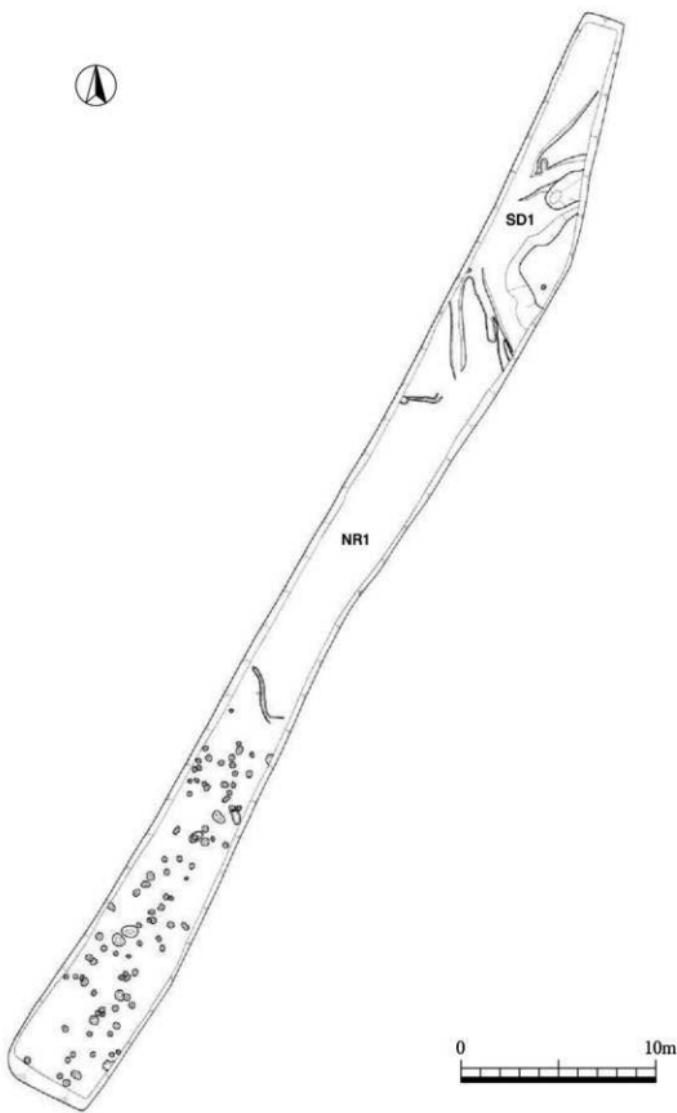
本調査区は三日市A遺跡の東端の一角となることから、主要な遺構は確認できず、遺物も総体的に少ない。調査区の大半は中央部で確認した自然河道NR1である。近世溝と考えられるSD1は角度大きく変えており、耕作用水や排水施設のほかに、土地利用の境界ラインを示していると考えられる。

第9表 土器・陶磁器観察表

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外) 調整(内)	色調(外) 色調(内)		残存率	備考	実測 番号
							ヨコナデ	にぶい黄橙、黒褐			
1	23次 包含層	弥生土器 甕	179			ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	にぶい黄橙	1/6	外面煤	M53
							ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙			
2	23次 包含層	弥生土器 壺	146			ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙	1/12	擬凹線9~10条	M55
							ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙			
3	23次 包含層	弥生土器 高杯	292			ハケ、ミガキ	ハケ、ミガキ	浅黄橙	1/12		M56
							ミガキ	浅黄橙			
4	23次 包含層	弥生土器 器台			85	ミガキ	灰褐色、黒褐	小片	沈縞2本、外面煤 同心円状(4重)スタンプ文	M58	
							ミガキ	浅黄橙			
5	23次 包含層	弥生土器 器台			85	ハケ	明褐色、灰白	1/5	柄突文、沈縞 S字状スタンプ文、透孔I	M57	
							ハケ	灰白、褐灰			
6	23次 SD1	青磁 碗	113			灰オーリープ	灰オーリープ	小片	連奔紋	M69	
							灰オーリープ				
7	23次 SD1	唐津 皿	125			灰白	灰白	1/8	灰釉	M70	
							灰白				
8	23次 SD1	陶器 碗	98			灰白、浅黄	灰白	1/10	灰釉 染付	M72	
							灰白				
9	23次 SD1	磁器 碗	111			灰白、青灰	灰白、青灰	灰釉 染付	M71		
							灰白、青灰				
10	23次 SD1	唐津 碗		45		にぶい鵝	にぶい鵝	灰釉 胎土目	M73		
							にぶい鵝				

第10表 石製品観察表

番号	遺構	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考	実測 番号
11	23次 SD1	砥石	84	33	15	499	凝灰岩	中砥	M 75



第33図 第23次遺構全体図 (S=1/250)

第8章 第24次調査の成果

第1節 遺構

本調査で発見された主要な遺構は、竪穴建物、土坑、溝、中世墓などである。以下は、各遺構の個別の概要である。

① 竪穴建物

SI1（第34・41図）

調査区北東端で見つかった弥生時代後期の竪穴建物である。調査区の北半分は調査区外へと延びるため全容はわからない。北西－南東を軸とする隅丸方形プランと考える。規模は北東－南西間約7.5m、北西－南東4.3m以上、深さ約25cmである。竪穴壁際の一部には幅約35cm、深さ床面から5～10cmの溝が巡る。竪穴内部には6基のピットが存在するが、柱穴は穴ア及びイと考える。柱穴は略円形をし、規模は直径25～45cm、深さ35～40cmを測る。

SI2（第34・41図）

調査区南東端で見つかった弥生時代後期の竪穴建物である。調査区の南半分は調査区外へと延びるため全容はわからない。規模は北東－南西間約7.5m、北西－南東2.5m以上、深さ約45cmである。竪穴壁際の周溝は検出できていない。竪穴内部には複数のピットが多数存在するが、柱穴と判断するのは難しい。穴の配置関係及び、規模が目立って大きい穴ア及びイを柱穴と想定する。形状は略円形をし、規模は直径50～60cm、深さ20cm前後を測る。

② 土坑

SK1（第41図）

調査区北東端にある南北に長い略長方形をした土坑である。北端は調査区外へと延び、南端は土坑状落ち込み遺構によって切られているので、全容は不明である。南北長1.5m以上、東西長約1.2m、深さは約35cmを測る。

SK2（第35・41図）

略方形をした土坑である。西側はSD3、南側はSD6に切られているため、全容は明らかでない。南北長3.2m以上、東西長2.1m以上、深さは約80cmを測る。

SK3（第35・41図）

略方形をした土坑と考えられる。北側はSD3、西側はSD2、南側はSD6に切られているため、全容は不明である。南北長3.0m以上、東西長2.0m以上、深さは約65cmを測る。

③ 溝

SD1（第41図）

調査区西側にある北西－南東方の溝である。北端は調査区外へと延び、南端は近世溝SD2に切られて終焉する。溝幅は40～70cm、深さ20～30cmを測る。方位はN20°Wである。

SD2（第41図）

調査区中央を走り抜ける南北方向の溝である。溝幅は150～270cm、深さ50～75cmを測る。方位はN3°Eである。38や42、43などの中近世陶磁器が多く出土しており、第23次調査区SD1とは同じ溝と思われる。

SD3（第35・41図）

調査区中央で検出した溝で、東西方向から途中で直角上に南北方向へ向きを変える。東西方の西端はSD2に切られ、南北方での南端はSD4と合流する。長さは東西方が約5m、南北方が約9.5mである。溝幅は70～130cm、深さ35～55cmを測る。方位は南北方がN 8° Eで、東西方がW 8° Sである。

SD4（第35・41図）

調査区中央で検出した東西溝である。東端は後述するSD6と合致すると考えられる。西端の方は北方へとカーブし、SD2に切られて終焉するが、本来はSD6と合流していたと思われる。長さは東西方が約12.5m、西側の南北方が約2.0mである。溝幅は50～100cm、深さ20～25cmを測る。方位は南北方がN 13° Wで、東西方がW 12° Sである。

SD5（第41図）

調査区南側で検出した東西溝である。西端はSD2に切られて終焉し、東端は調査区外へと延びていく。長さは約10m、溝幅は150～180cm、深さ35～50cmを測る。方位はW 10° Sである。本溝は中途で南方に分岐し、その規模は幅が約140cm、深さ約75cmを測る。

SD6（第35・41図）

調査区中央で検出した東西溝である。東端は南方に向きを変え、SD4と合流する。西端はSD2に切られて終焉するが、SD4と合流する形状であったと思われる。長さは東西方が約11.5m、東側における南北方が約4mである。溝幅は50～110cm、深さ15～50cmを測る。方位は南北方がN 11° Wで、東西方がW 11° Sである。

④ 墓

S11（第41図）

調査区北東端で確認した集石墓である。集石の石は直径10～20cmの自然石で、これらが南北約100cm、東西約80cmの間に山積状態で見つかった。この集石の中からは、32土師器皿や、53・65の五輪塔の空輪及び地輪が出土している。

⑤ 不明遺構

SX1（第35・41図）

調査区東端で検出した土坑状遺構である。穴の形状は南北に長い溝状遺構のようであるが、中央部で略方形に変わるなど不定形な様相をしたため不明遺構とした。大きさは、南北長約280cm、東西長約90cm、深さ約25cmを測る。中から54～56などの五輪塔の部位が大量に見つかった。

第2節 遺物

1～31は弥生土器で、SIIからの出土が多数を占める。甕は擬凹線を有した有段口縁タイプが多い。9の擬凹線をもたない有段口縁甕の体部上半には刺突文を有する。21と22は同タイプの長頸壺である。23～25は壺部に段を有する高壺、26も有段口縁をした鉢である。23の高壺の脚部は棒状となる。32～40は中世土師器・陶磁器である。34は箋描蓮弁文をもつ青磁碗、35は越前焼、37～39は珠洲焼播鉢である。鉢目が確認できたのは38のみである。44～65は石製品である。46～52は砾石である。49と50は中砾、51と52は仕上砾と思われる。53～65は五輪塔の部位である。53～58は空風輪である。55と56以外は空輪だけであるが、本来は空風輪が合わさった形状で剥落したものと考える。59は火輪で損傷が著しい。60～64は水輪である。60と61は中央に円相が彫られ、中に金剛界大日如来種字「パン」が刻まれている。

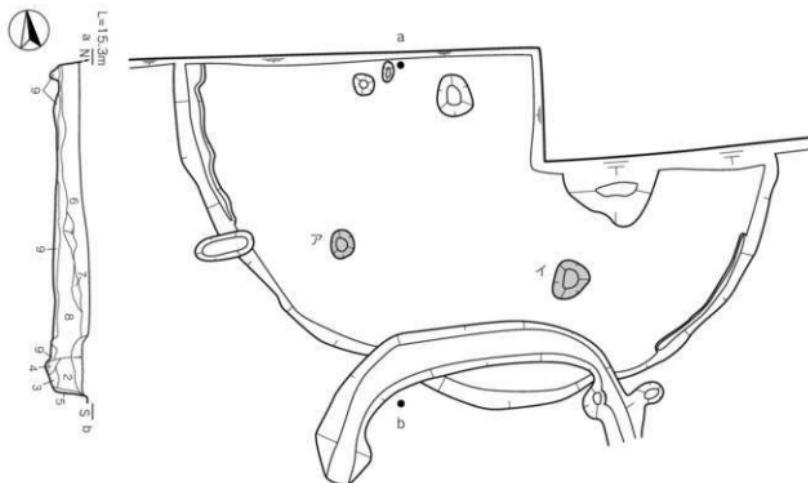
第3節 まとめ

本調査区では弥生時代と中世の遺構・遺物を確認した。

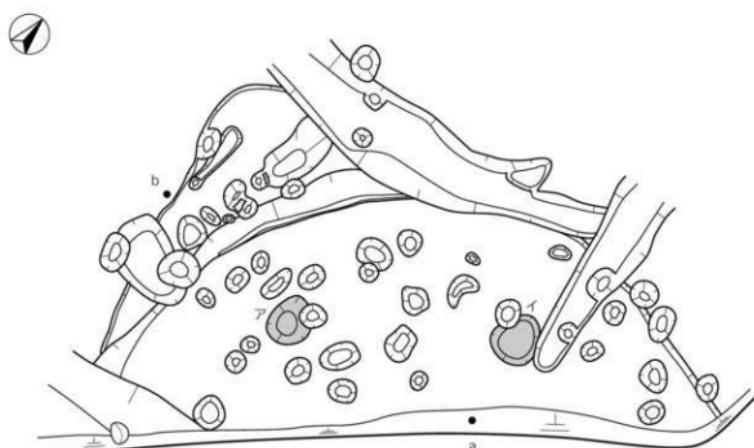
弥生時代については、後期後半の竪穴建物を2棟検出したことから、集落域にあたると考えられる。本調査区の集落は、東隣第13次調査区で確認した大型竪穴建物SI1・2のような1、2棟だけで構成されていたかもしれない。

中世については、SX1やSD5や、拳大の自然石が複数存在するST1から五輪塔の部位が多く出土しており、一帯は墓域であったと想定される。墓はST1のような集石墓の他に、SD3～6のような溝で区画する周溝墓（SZ1～6）も存在していたと考えられる。周溝墓については、調査時ではSD4とSD6、SD3とSD4の長方形の形状を想定していたようであるが、SD3・4・6やSD3・5・6で構成される一辺約5m四方の正方形タイプ（SZ1・SZ2）であったかもしれない。また、SZ1・SZ2の北側にも溝で区画される空間が存在し、これも周溝墓として想定することができる。（SZ3・SZ4）調査区の南側にあるSD5も周溝墓の溝と推測でき、近世溝SD2に切られてはいるものの、2基の墓の存在が想定できる。（SZ5・SZ6）

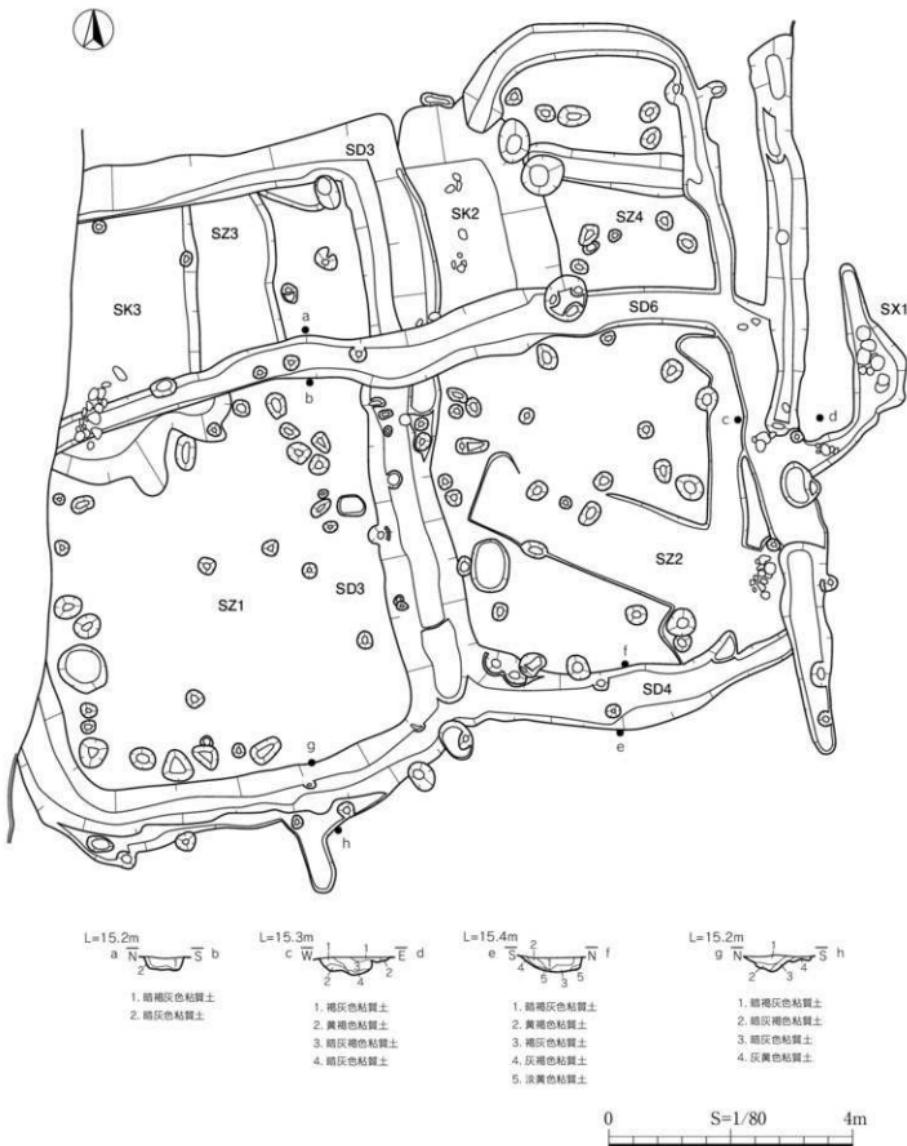
以上から、本調査区では田の字型の溝で区画された墓域が複数存在し、当時は墓地上に五輪塔が置かれていたと景観が復元できる。なお、SD4とSD5の間はSI2やビットが散在しているが、中世段階は墓道であった可能性がある。



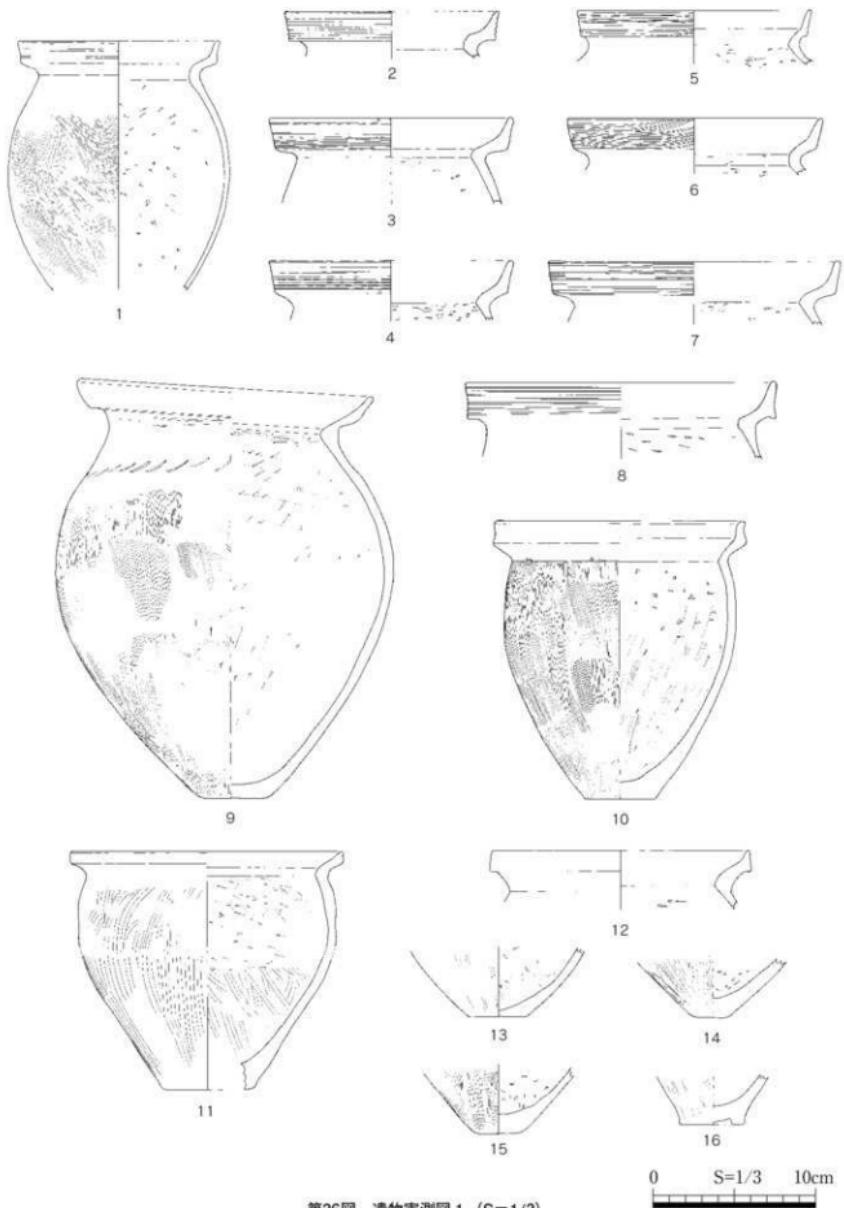
1. 鮎灰色粘質土(やや深い) 4. 黃褐色粘質土
2. 鮎灰色粘質土 5. 黄褐色粘質土(黄色ブロック土混じる)
3. 鮎褐色粘質土 6. 褐褐色粘質土
7. 鮎色粘質土
8. 鮎灰色粘質土
9. 淡黃色砂質土(砂床)



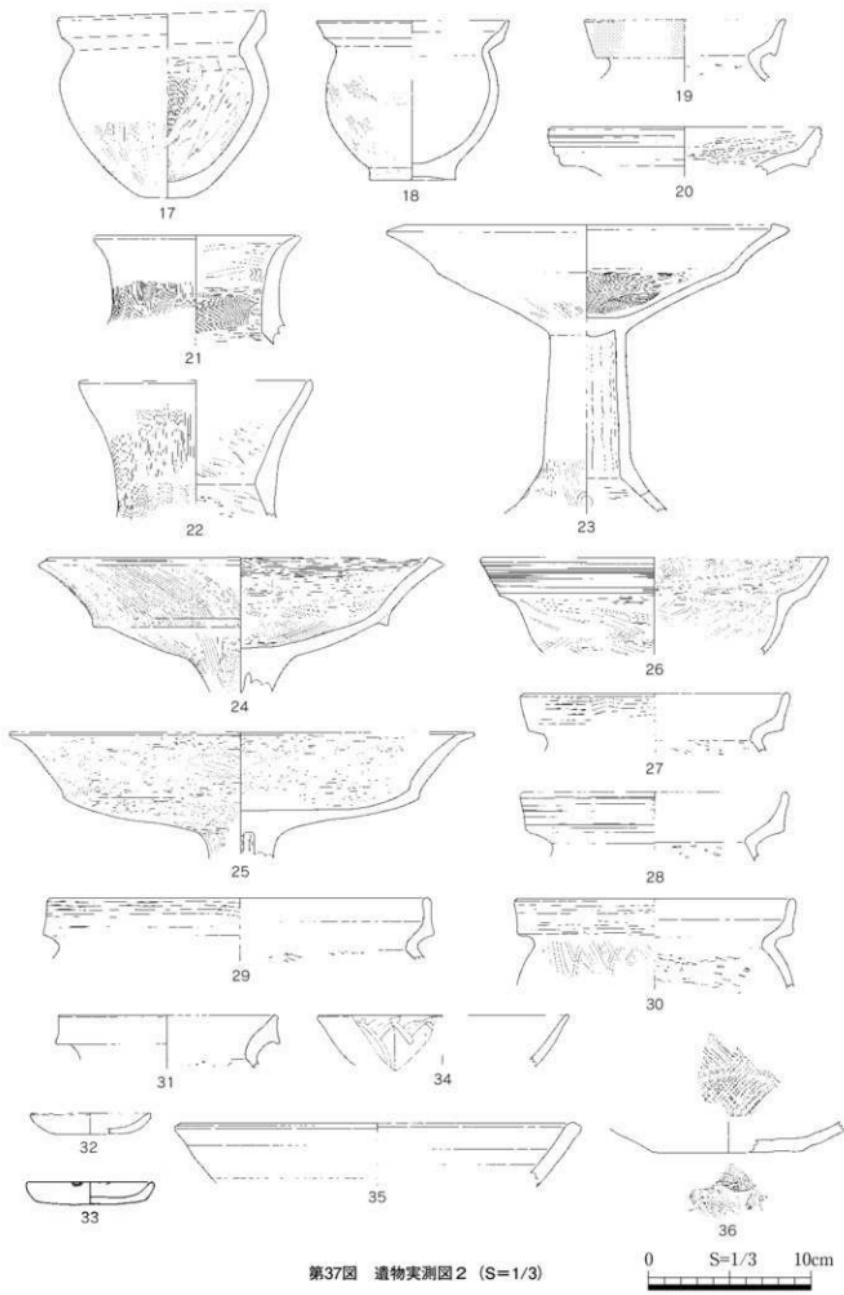
第34図 SI1, 2 (S=1/60)



第35図 SZ1、2、SD3、4、ST2 (S=1/80)

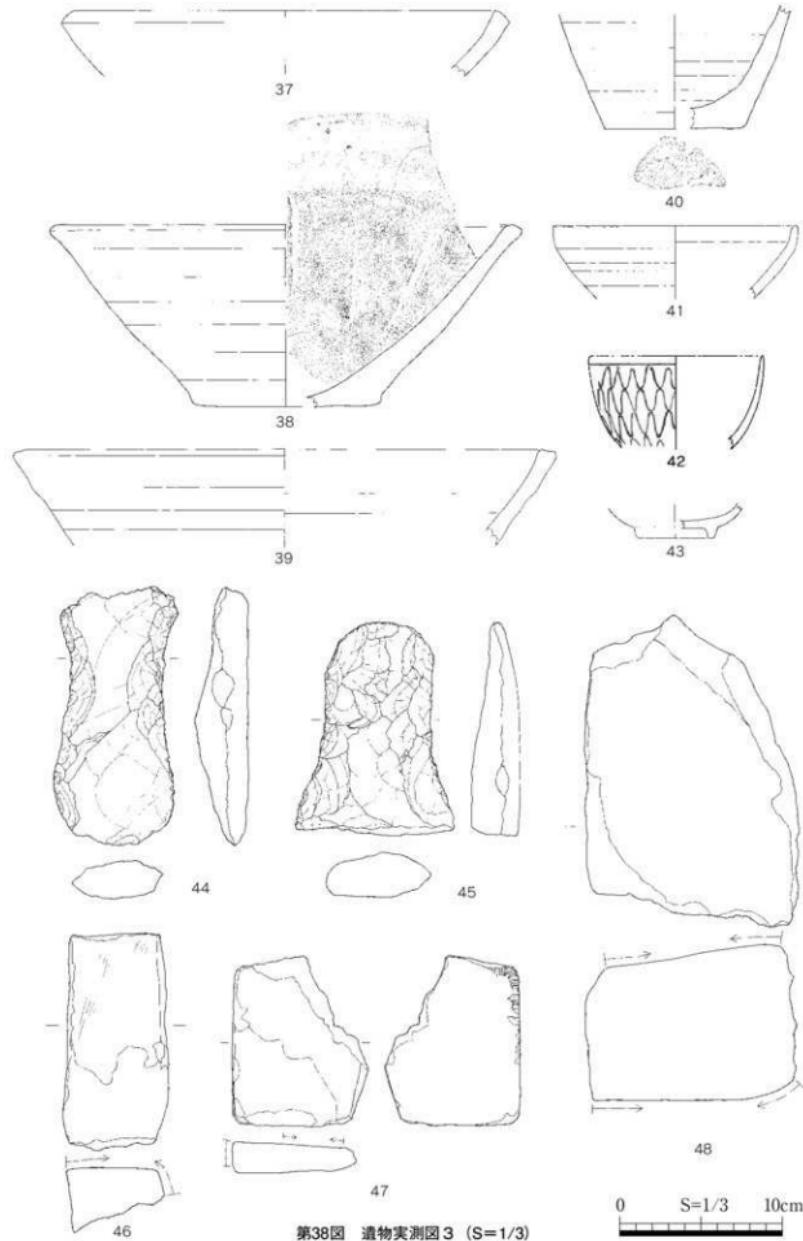


第36図 遺物実測図1 (S=1/3)



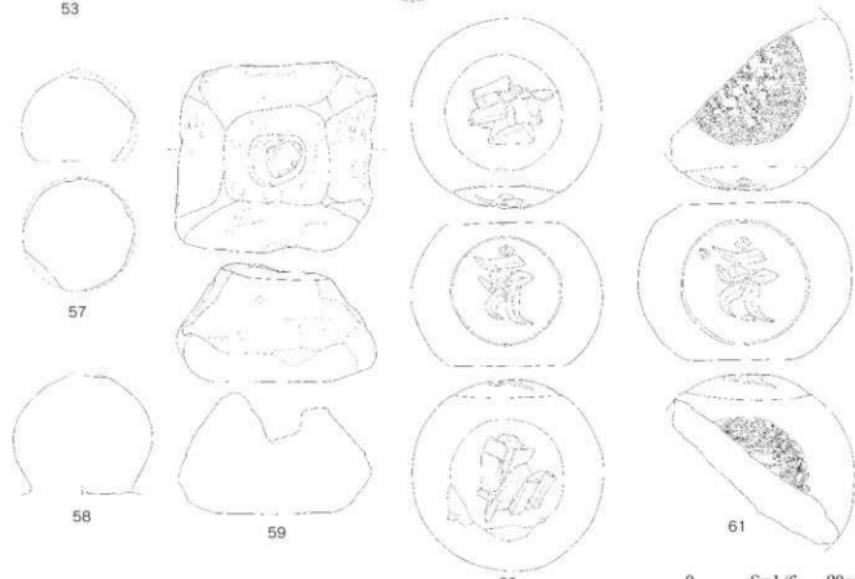
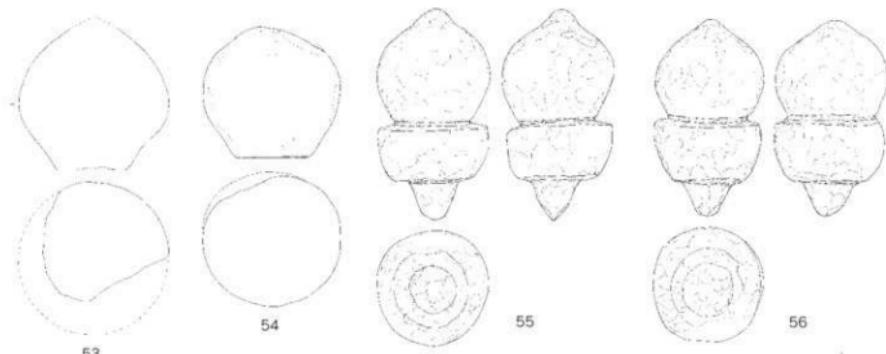
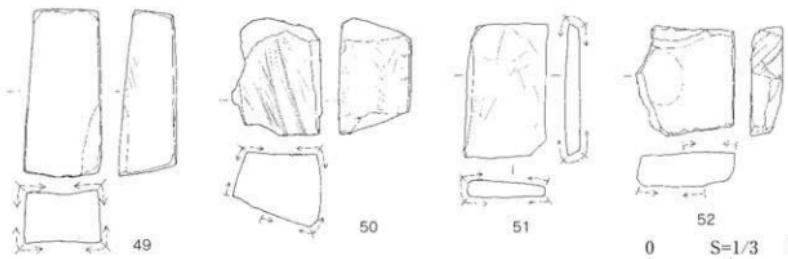
第37図 遺物実測図2 (S=1/3)

0 S=1/3 10cm

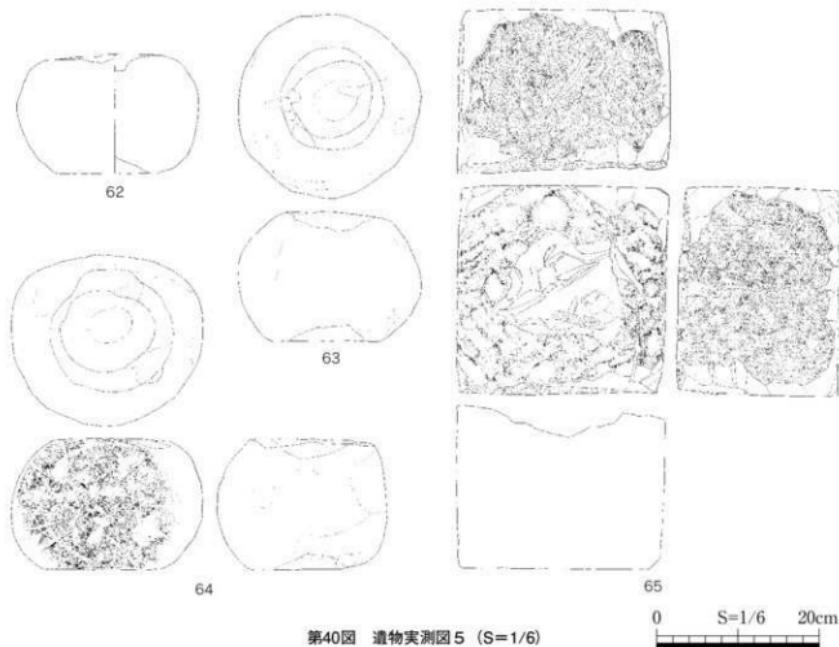


第38図 遺物実測図3 (S=1/3)

0 S=1/3 10cm



第39図 遺物実測図4 (49～52 (S=1/3)、53～61 (S=1/6))



第40図 遺物実測図5 (S=1/6)

第11表 土器・陶器観察表

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		残存率	備考	実測 番号
						色調(外)	色調(内)			
1	24次 SII	甌	124			ヨコナデ、ハケ	浅黄橙、灰黄褐、暗褐	1/4	擬凹線2~3条 外面塗	M31
						ヨコナデ、ハケ、ケズリ	浅黄橙			
2	24次 SII	甌	131			ヨコナデ	灰褐	3/4	擬凹線4条 外面塗	M13
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙			
3	24次 SII	甌	150			ナデ	橙、にぶい黄橙	1/8	擬凹線11~12条 外面塗	M21
						ナデ、ケズリ	橙、褐灰			
4	24次 SII	甌	150			ナデ	にぶい橙	1/6	擬凹線11条 外面塗	M19
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙			
5	24次 SII	甌	144			ナデ	にぶい黄橙	1/8	擬凹線7~8条 外面塗	M22
						ナデ、ケズリ	にぶい黄橙			
6	24次 SII	甌	157			ナデ	褐灰、にぶい褐	1/6	擬凹線10~11条 外面塗	M20
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙			
7	24次 SII	甌	180			ヨコナデ	にぶい橙	1/4	擬凹線10条 外面塗	M32
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙			
8	24次 SII	甌	191			ナデ	にぶい黄褐	完形	擬凹線8条 外面塗	M15
						ナデ、ケズリ	にぶい黄褐			
9	24次 SII	甌	154	257	47	ヨコナデ、キサミ、ハケ	にぶい黄橙、黒褐	8/10	内外面塗	M10
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙			
10	24次 SII	甌	154	171	43	ヨコナデ、ハケ、ケズリ	褐灰、にぶい黄橙	1/3	外面塗	M11
						ヨコナデ、ハケ、ケズリ	にぶい黄橙			
11	24次 SII	甌	169			ヨコナデ、ハケ	にぶい橙	1/8	完形	M23
						ヨコナデ、ケズリ、ハケ	にぶい橙			
12	24次 SII	甌	157			ヨコナデ	浅黄橙	完形		M14
						ヨコナデ、ケズリ	浅黄橙			
13	24次 SII	甌			35	ハケ	灰褐	5/6	外面塗	M24
						ハケ、ケズリ	にぶい橙			

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
						調整(内)					
14	弥生土器 SII	甕		22		ハケ	褐灰	完形	外面煤	M25	
						ケズリ	にぶい黄橙				
15	弥生土器 SII	甕		27		ハケ	灰黄褐	ほぼ完形	外面煤	M26	
						ケズリ	にぶい黄橙				
16	弥生土器 SII	甕		40		ハケ	にぶい黄橙	完形		M27	
						ケズリ	にぶい黄橙				
17	弥生土器 SII	甕	129	114	25	ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	灰白、にぶい棕、黒	完形	外面煤	M28	
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい棕				
18	弥生土器 SII	小型甕		98	53	ナデ	にぶい棕、棕	9/10		M29	
						ヨコナデ	にぶい棕				
19	弥生土器 SII	甕		124		ヨコナデ	浅黄棕	1/8		M30	
						ミガキ	棕				
20	弥生土器 SII	甕	168			ヨコナデ、ハケ	にぶい棕	1/8	擬凹線4条	M33	
						ハケ、ケズリ	にぶい棕				
21	弥生土器 SII	長頭甕		128		ヨコナデ、ハケ	にぶい棕	1/5		M34	
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい棕、褐灰				
22	弥生土器 SII	長頭甕	144			ヨコナデ、ハケ	にぶい棕、褐灰	1/6		M35	
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい棕、褐灰				
23	弥生土器 SII	高杯	248	175		ヨコナデ、ハケ	棕、浅黄棕	1/4	透孔4	M36	
						ヨコナデ、ハケ	棕、浅黄褐				
24	弥生土器 SII	高杯	250			ミガキ、ハケ	黄灰、にぶい黄棕	1/3		M37	
						ミガキ、しほり目	黄灰、にぶい黄棕				
25	弥生土器 SII	高杯	287			ミガキ	にぶい棕	1/6		M38	
						ミガキ、しほり目	にぶい棕				
26	弥生土器 SII	鉢	214			ミガキ	棕、黑褐	1/4	擬凹線11 ~ 12条	M39	
						ミガキ	にぶい棕				
27	弥生土器 SD4	甕	166			ヨコナデ、ケズリ	にぶい棕	1/8	擬凹線7 ~ 8条 外面煤	M40	
						ヨコナデ、ハケ	にぶい棕				
28	弥生土器 SD4	甕	165			ヨコナデ、ケズリ	にぶい棕	1/8	擬凹線6条	M41	
						ヨコナデ	にぶい棕				
29	弥生土器 SII	甕	234			ヨコナデ、ケズリ	にぶい棕	1/12	擬凹線5 ~ 6条 外面煤	M42	
						ナデ	にぶい棕				
30	弥生土器 SII	甕	174			ハケ	にぶい棕	1/6	擬凹線6 ~ 7条	M43	
						ヨコナデ、ハケ、ケズリ	にぶい棕				
31	弥生土器 SD3	甕	135			ヨコナデ	にぶい棕	1/8	外面煤	M44	
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい棕				
32	土師器 ST1	皿	74	13		ナデ	浅黄棕	1/4		M45	
						ナデ	浅黄棕				
33	土師器 SX1	皿	79	14		ナデ	にぶい棕、にぶい赤棕	1/3	灯芯油痕	M46	
						ナデ	にぶい棕				
34	青磁 盒蓋	碗	155			オーリープ灰	オーリープ灰	1/8	連弁紋	M47	
						オーリープ灰	オーリープ灰				
35	越前焼 包含層	抹茶碗	250			ナデ	にぶい棕	1/12		M48	
						ナデ	にぶい棕				
36	窯戸燒 SD2	鉢			93	ナデ	にぶい棕	1/6	灰輪 回転系切り	M49	
						脚目	灰白				
37	珠洲燒 SK1	抹茶碗	276			ナデ	灰白	1/10		M50	
						ナデ	灰白				
38	珠洲燒 SD2	抹茶碗	290	112	118	ナデ	灰白	1/10	脚目	M51	
						ナデ	灰白				
39	珠洲燒 SD2	抹茶碗	334			ナデ	黄灰	小片		M52	
						ナデ	黄灰				
40	珠洲燒 SD2	甕			86	ナデ	灰	1/5	静止系切り	M53	
						ナデ	灰				
41	陶器 SD1	天目茶碗	150			灰オーリープ	灰オーリープ		灰輪	M54	
						青灰	青灰				
42	磁器 SD2	肥前	108			青灰	青灰	1/6	透明釉 染付(一重網目文)	M55	
						青灰	青灰				
43	陶器 SD2	碗			49	にぶい棕	にぶい棕	1/2	灰輪 軸調ぎ	M56	
						にぶい棕	にぶい棕				

第12表 石製品觀察表

番号	遺構	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石 材	備 考	実測 番号
			(mm)	(mm)	(mm)	(g)			
44	24次	石錐	155	75	35	400	安山岩		M49
	SD5								
45	24次	石錐	131	97	31	450	火山凝灰岩		M64
	SD2								
46	24次	砥石	128	63	38	362			M7
	包含層								
47	24次	砥石	102	83	19	170			M62
	SD2								
48	24次	砥石	181	129	96	4,140			M6
	SD5								
49	24次	砥石	103	48	36	319	砂岩		M34
	SH1								
50	24次	砥石	71	55	45	168			M35
	SH1								
51	24次	砥石	81	49	11	69			M48
	ST1								
52	24次	砥石	64	60	21	90			M63
	SD2								
53	24次	五輪塔	184	185	185	2,420	凝灰岩	空輪	O1
	ST1								
54	24次	五輪塔	160	169	90	2,600	凝灰岩	空輪	H1
	SX1								
55	24次	五輪塔	139	135	259	2,072		空、風輪	M1
	SX1								
56	24次	五輪塔	134	130	241	2,036		空、風輪	M2
	SX1								
57	24次	五輪塔	113	140	138	1,270	凝灰岩	空輪	O3
	SD5								
58	24次	五輪塔	171	144		5,001		空輪	M4
	P1								
59	24次	五輪塔	245	140	146	5,560		火輪	M5
	SX1								
60	24次	五輪塔	176	235		11,000	凝灰岩	水輪	H5
	SD5								
61	24次	五輪塔	192	263		7,050	凝灰岩	水輪	H4
	SD5								
62	24次	五輪塔	222	145	125	4,900			M3
	SX1								
63	24次	五輪塔	159	225		5,150	凝灰岩	水輪	H2
	SX1								
64	24次	五輪塔	160	235		5,700	凝灰岩	水輪	H3
	SX1								
65	24次	五輪塔	262	258	200	20,100	凝灰岩	地輪	O2
	ST1								



第41図 第24次遺構全体図 (S=1/200)

第9章 第25次調査の成果

第25次調査は過年度調査報告書に所取済（野々市市教委 2012）であるが、第24次調査区の北方にある調査区は未発表であったため本報告で紹介する。

第1節 遺構

SD1（第42図）

調査区西側で検出した南北溝である。溝幅は40～70cm、深さ40～45cmを測る。方位はN8°Wである。

SD2（第42図）

SD1の東隣にある南北方向の溝である。溝幅は120～230cm、深さ50cm前後を測る。方位はN3°Eである。中近世陶磁器が多く出土しており、第23次調査区SD1及び第24次調査区SD2とは同じ溝になると思われる。

SD3（第42図）

調査区中央よりやや東側で検出した南北溝である。溝幅は20～30cm、深さ5～10cmを測る。方位はN22°Wである。

SD4（第42図）

SD3の東隣で検出した南北溝である。溝幅は20～30cm、深さ5～10cm、方位はN22°Wで、SD3と同規模ある。

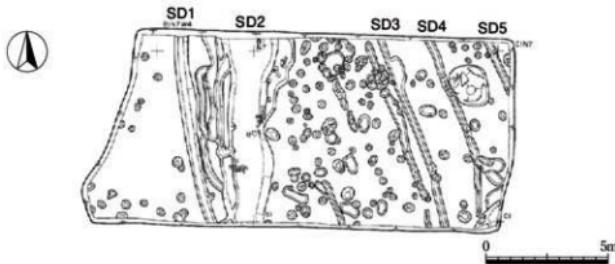
SD5（第42図）

調査区東端で確認した南北溝である。溝幅は30cm前後、深さ約8cmを測る。方位はSD3・4と同様、N22°Wである。

第2節 まとめ

本調査区では、SD2からは近世陶磁器が多く見つかり、包含層からは弥生土器等が出土しているが、図示できるものではなく、遺物実測図は掲載していない。

遺構については、溝及びピット群を検出した。SD2は前述のとおり、第23・24次調査区でも確認している近世以降の用水溝と考えられる。調査区中央にはピット群が集中しているが、建物柱穴に想定できるものは確認していない。調査区東側で検出したSD3～5は溝幅や深さが均一で、方位も同方向であることから耕作溝と考えられる。溝と溝の間は、1.6～2.0mを測る。但し、詳細時期については、遺物が出土していないことから明示できないが、周囲の調査成果から古代以降と推測する。



第42図 第25次遺構全体図 (S=1/200)

第10章 第27次調査の成果

第1節 遺構

本調査で発見された主要な遺構は、竪穴状遺構、掘立柱建物、土坑、溝などである。以下は、各遺構の個別の概要である。

① 竪穴状遺構

SI1（第43・49図）

隅丸方形をした中世の竪穴状遺構である。竪穴内の南東隅に存在するピットはSB1の柱穴で、本遺構とSB1とは共存するかもしれない。規模は、南北約1.6m、東西約1.8m、最深部約20cm、方位はN 18° Eである。

SI2（第46・49図）

南北に長い隅丸長方形をした中世の竪穴状遺構である。SI1と同様、竪穴内にはSB1やSB2の柱穴が存在する。規模は、南北約3.2m、東西約2.3m、最深部約20cmであるが、南半には南北、東西ともに約1.4m、深さは約10cmのテラス状の方形プランが見られ、土層断面からその箇所は造り替えであったようである。方位はN 8° Eである。

② 掘立柱建物

SB1（第43・49図）

中世の総柱式掘立柱建物である。南北3間×東西3間で、方位はN 7° Eである。北西側の一部は調査区外となる。柱間の長さは南北が1.5～2.4m、東西が1.8～2.2mである。柱穴は円形及び楕円形で、直径25～70cm、深さ10～40cmを測る。

SB2（第43・49図）

中世の総柱式掘立柱建物である。南北2間×東西2間で、方位はN 7° Eである。SB1とは重複するが、時期の新旧関係は不明である。柱間の長さは南北が1.4～1.8m、東西が1.5～2.0mである。柱穴は略円形で、直径20～40cm、深さ25～45cmを測る。

SB3（第44・49図）

中世の総柱式掘立柱建物で、南半は調査区外へと延びるため、全体規模はわからない。南北2間以上×東西3間で、方位はN 4° Eである。柱間の長さは南北が約1.4m、東西が1.8m前後である。柱穴は略円形で、直径約30cm、深さ18～34cmを測る。

SB4（第44・49図）

中世の総柱式掘立柱建物で、南端はSD2に切られ、全体様相は判然としない。南北3間×東西2間で、方位はN 10° Eである。柱間の長さは南北が0.8～1.8m、東西が1.5m前後である。柱穴は略円形で、直径20～50cm、深さ15～48cmを測る。

③ 土坑

SK1（第45・49図）

東西に長い隅丸方形をした土坑である。南北長約90cm、東西長約1.5m、深さ約15cmを測る。穴の中央部には長径約25cm、深さ約13cmのピットが1基認められる。

SK2（第46・49図）

南北に長い楕円形をした土坑である。南北長約1.4m、東西長約80cm、深さ約60cmを測る。穴内及び周囲にはSB1及び2の柱穴が混在している。

SK3（第46・49図）

南北に長い楕円形をした土坑であるが、南端はSK4に切られ全容はわからない。南北長80cm以上、東西長約60cm、深さ約20cmを測る。

SK4（第46・49図）

南北に長い略方形をした土坑である。南北長約2.0m、東西長約1.2m、深さ約35cmを測る。穴内及び周囲にはSB1及び2の柱穴が存在する。

SK5（第45・49図）

南北に長い略方形をした土坑である。南北長約2.1m、東西長約1.2m、深さ約20cmを測る。穴内には直径20～30cm、深さ20～30cmのピットが数基確認できる。

SK6（第45・49図）

西と南側は調査区外へと延びる不定形をした土坑である。南北長90cm以上、東西長1.1m以上、深さ約13cmを測る。土坑というよりは落ち込み状遺構になるかもしれない。

④ 溝

SD1（第45・49図）

東西方向の中世溝で、複数回掘り直した形跡があることから詳細な規模等はわからない。全長約10m、推定幅40～110cm、深さ10～50cmを測る。方位は、W3°Nとほぼ真東西ラインとなる。

SD2（第45・49図）

東西方向の中世溝で、全長約15m、幅20～50cm、深さ45～60cmを測る。方位は、W3°NでSD1の方位とほぼ同じとなる。

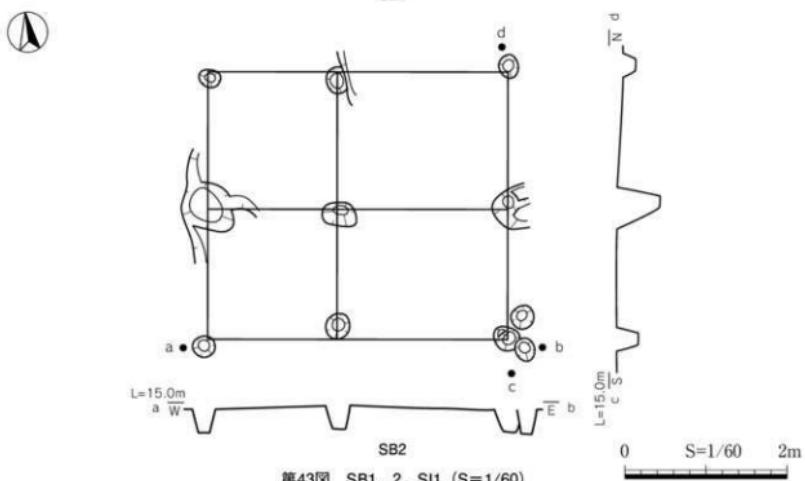
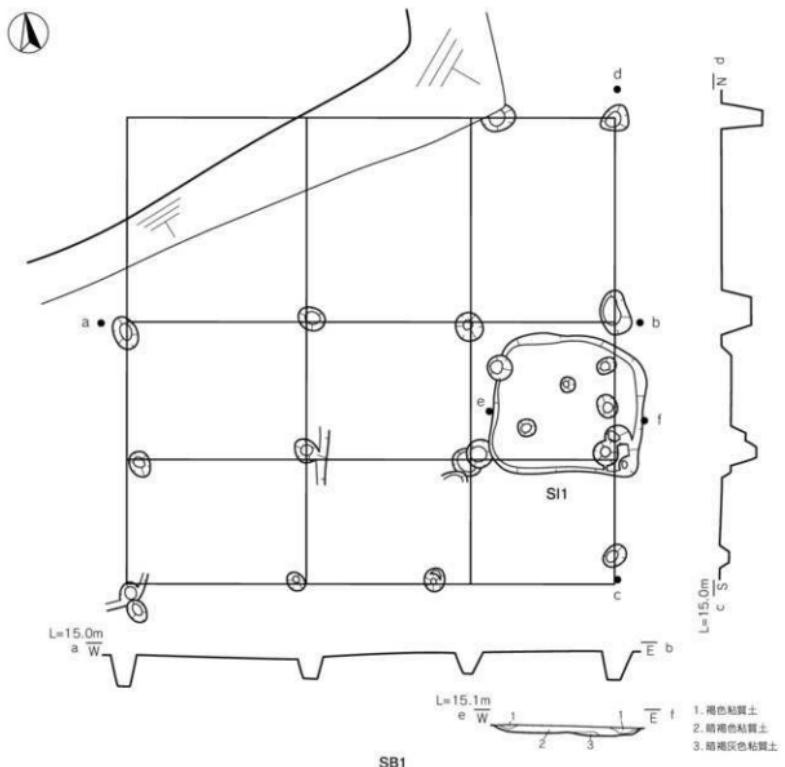
第2節 遺物

1～21は縄文土器である。出土地点は包含層もしくは地山面下からである。時期は6や7など後期後葉の井口式や晚期前葉の中屋式が認められる。22～32は中世土師器・陶磁器である。出土地点のはほとんどは、包含層からであるが、本調査区の主要遺構はSI1・2やSB1～4など中世の堅穴状遺構や掘立柱建物であることから、これらの施設で使用した生活雑器にあたると考えられる。時期は14世紀を中心とする。33～44（36は除く）は石製品である。33の磨製石斧や37～44の石鎌などは縄文土器が出土した付近から集中して見つかっている。36と45～47は鉄製品である。36はSI1から見つかった刀子の破片で刃先と付根は欠損している。

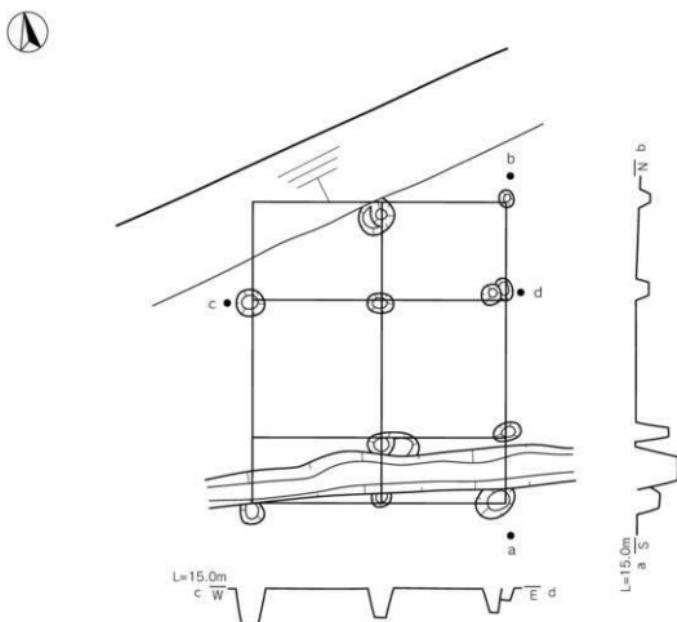
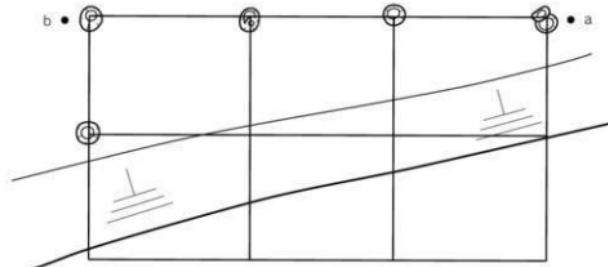
第3節まとめ

本調査区では縄文時代と中世後半の2時期の遺構・遺物を確認した。縄文時代は後期後葉の井口式の土器などが見つかっており、近隣の御経塚遺跡以外からの出土例はほとんどないことから極めて珍しい。また、これらの出土地点が地山面下であることは、これまで第3章第2節層序で述べてきた、黄褐色粘質土を地山面として認識していたことに一石投じる成果となった。今後の調査の中でこれまで地山面とした箇所も確認調査が必要となるだろう。

中世については、SI1・2及びSB1・2が集中して確認した。SB2は、2間×2間として報告しているが、周辺には建物柱穴として認めてよいピットが散在していることから、SB1と同規模の建物であったかもしれない。SI1・2の堅穴状遺構とSB1・2の掘立柱建物は位置的な関係から共存していたと推測される。掘立柱建物SB1・2は規模や立地状況から宅地内の主要建物で、SB3は倉庫などの付属建物と想定される。これらの宅地は、東西溝SD1や2に囲まれた空間構成を形成していたようである。

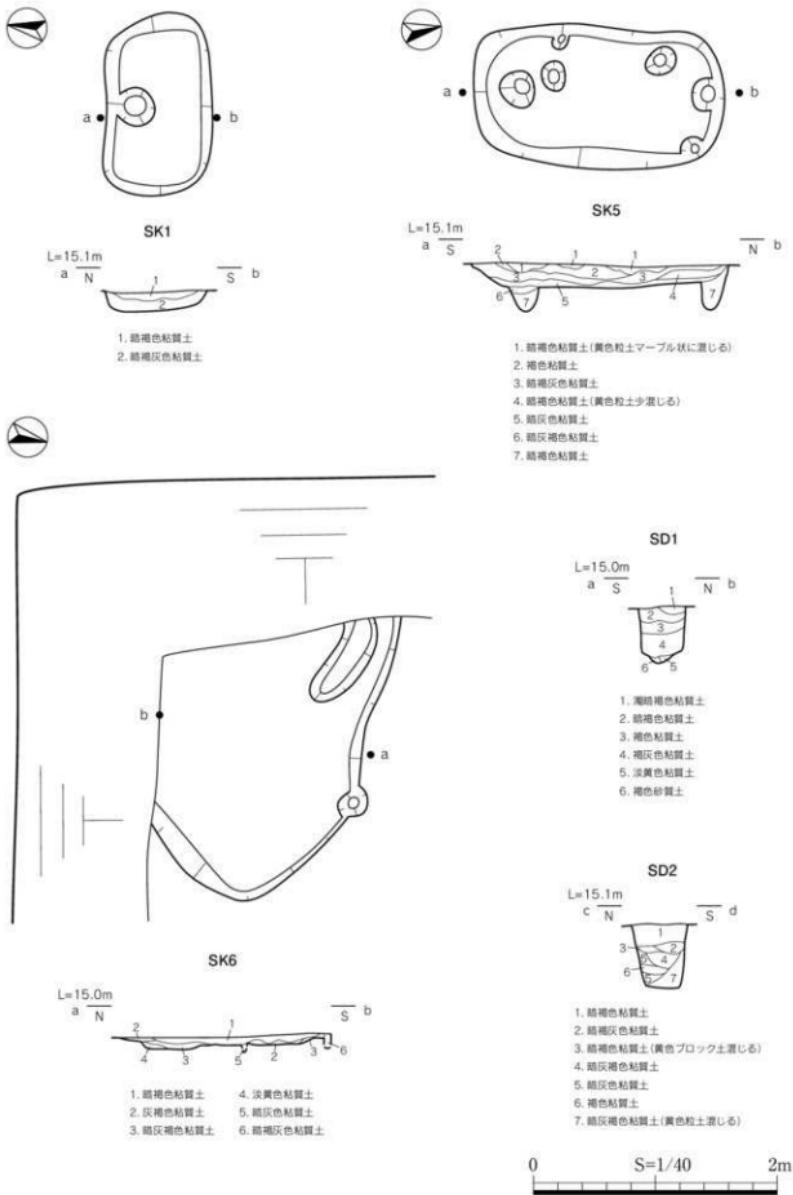


第43図 SB1、2、SI1 (S=1/60)

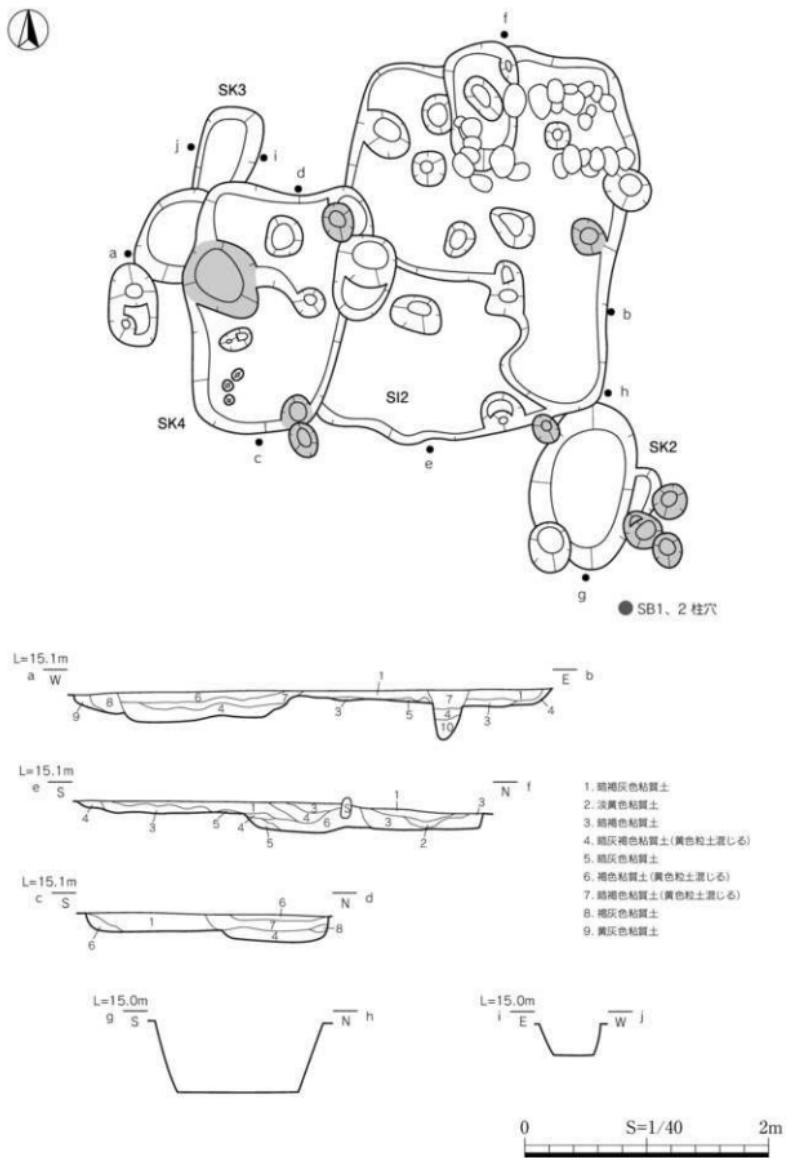


第44図 SB3、4 (S=1/60)

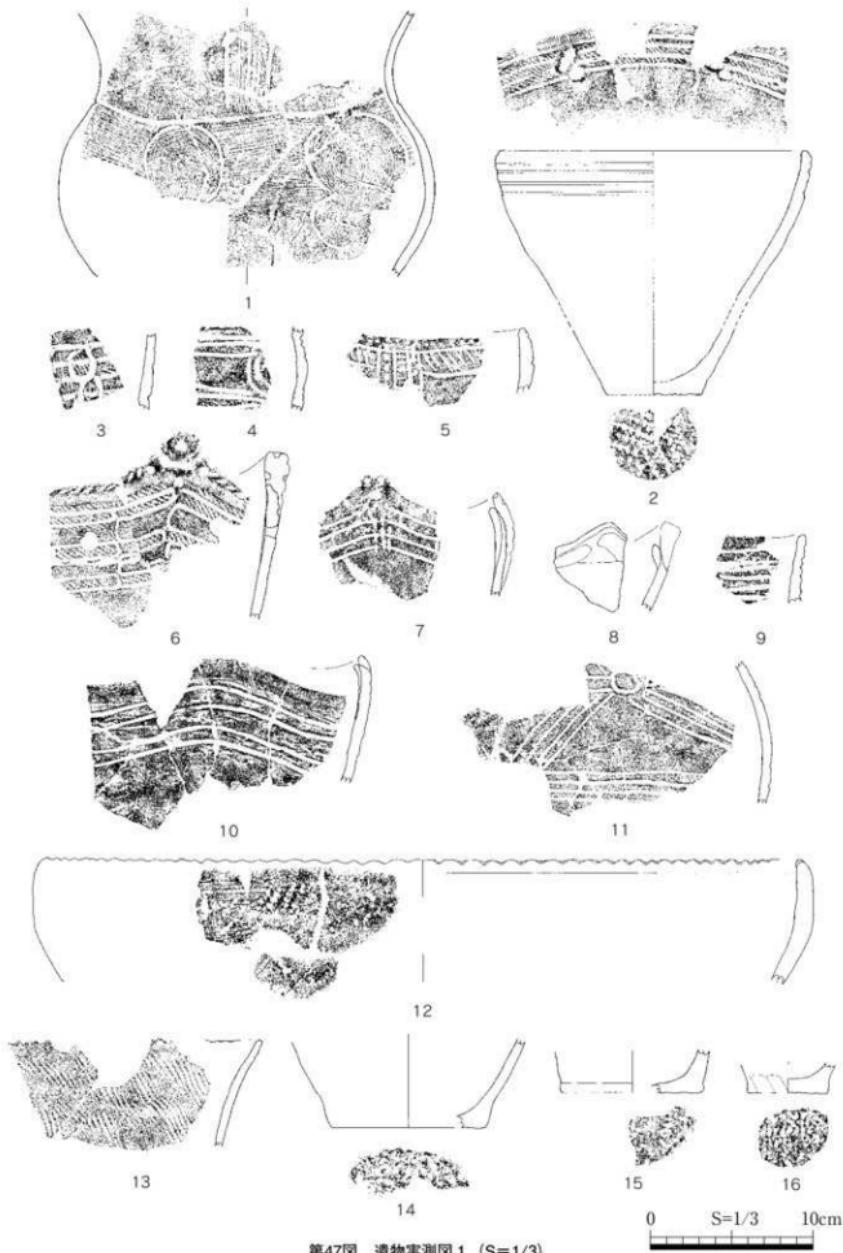
0 S=1/60 2m



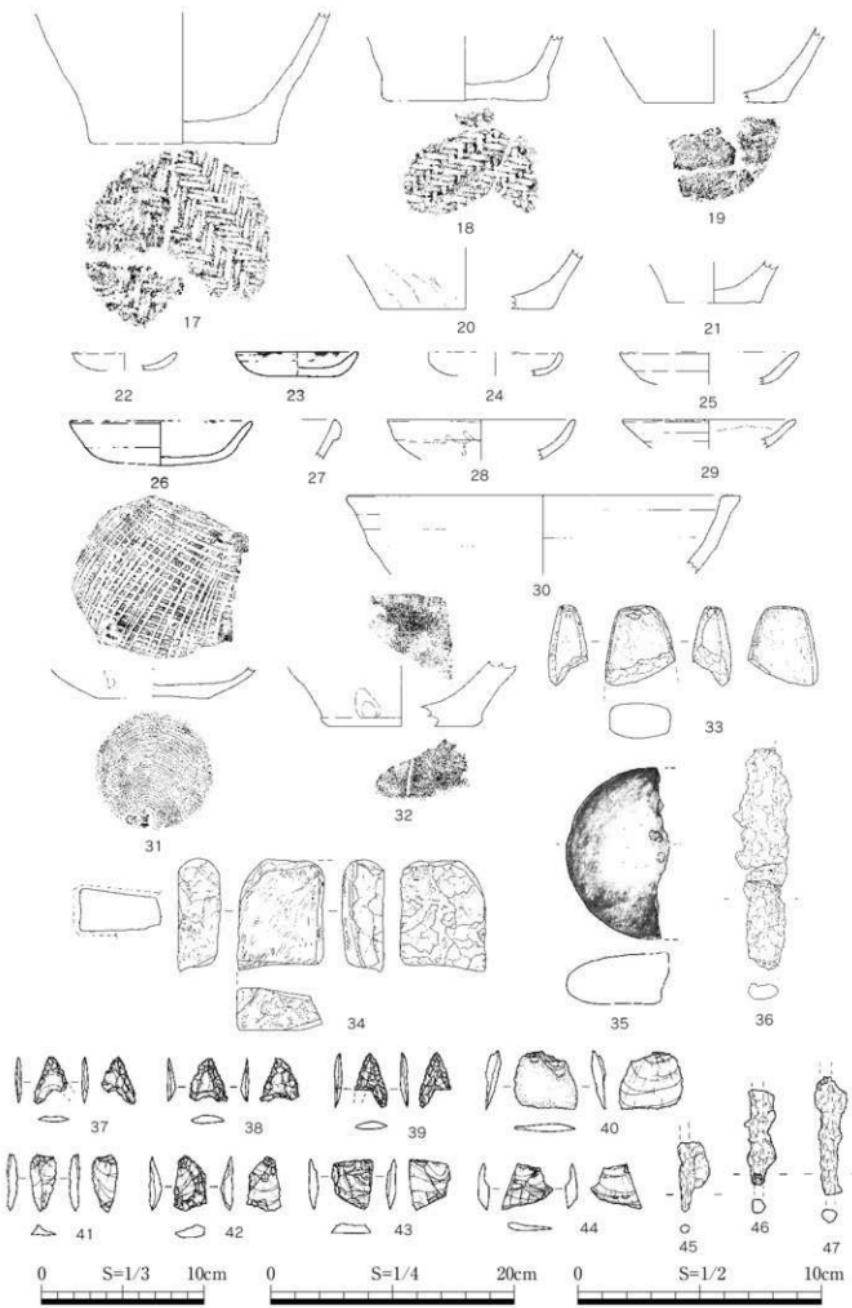
第45図 SK1、5、6、SD1、2 (S=1/40)



第46図 SI2、SK2～4 (S=1/40)



第47図 遺物実測図 1 (S=1/3)



第48図 遺物実測図2 (17～34 (S=1/3)、35、36 (S=1/4)、37～47 (S=1/2))

第13表 土器・陶器観察表

番号	造構	器種	口径			器高	底径	調整(外)		色調(外)		残存率	備考	実測番号
			(mm)	(mm)	(mm)			調整(内)		色調(内)				
1	包含層 深鉢	縄文土器	180	230		ナデ、条痕		灰黄褐、黒褐、にぶい黄橙		体部1/4		連続入組弧線文、彌模文	N31	
								にぶい黄褐、にぶい黄橙		頂部2/9				
2	P1 包含層 深鉢	縄文土器	190	150	58	RL縄文、沈縄、ナデ		にぶい赤褐、黒褐		口縁部1/3	外面煤	N25 ~ 27		
								にぶい赤褐		底部2/3	網代圧痕			
3	包含層 深鉢	縄文土器						灰黄褐		小片		N30		
								にぶい黄橙						
4	地山下 包含層 深鉢	縄文土器				ナデ、沈縄文		にぶい黄橙		小片	外面炭化物 9と同一か	T4		
								黒褐						
5	地山下 浅鉢	縄文土器	260			沈縄		にぶい黄橙		1/9	内外面煤 刺突文	N36		
								にぶい黄褐						
6	包含層 深鉢	縄文土器				RL縄文		黒褐		小片	通し穴1	N28		
								灰黄褐						
7	地山下 深鉢	縄文土器						黒		小片	刺突文	N38		
								にぶい黄褐						
8	地山下 浅鉢	縄文土器				ナデ、沈縄文		黒褐、灰黄褐		小片		N37		
								にぶい黄褐、灰黄褐						
9	地山下 包含層 深鉢	縄文土器				ナデ、沈縄文		にぶい黄橙		小片	内外面炭化物 4と同一か	T5		
								黒褐						
10	地山下 包含層 深鉢	縄文土器				ナデ、沈縄文		にぶい黄橙		小片	波状口縁 14と同一か	T7		
								にぶい黄橙						
11	地山下 包含層 深鉢	縄文土器				沈縄文		浅黄褐				T11		
								ナデ	にぶい黄橙					
12	地山下 深鉢	縄文土器	48			ナデ		にぶい黄橙		口径1/7	波状口縁 RL縄文	T6		
								浅黄						
13	地山下 深鉢	縄文土器				縄文		にぶい黄褐、にぶい黄橙		口縁部 1/12	波状口縁	N32		
								ナデ	にぶい黄褐					
14	地山下 包含層 深鉢	縄文土器	94			ナデ		にぶい黄橙		底径1/4	10と同一か	T8		
								ナデ	にぶい黄橙					
15	地山下 P4 深鉢	縄文土器	88			ナデ		にぶい澄		底部1/6	網代圧痕	N50		
								灰黄褐						
16	地山下 包含層 深鉢	縄文土器	50			ナデ		にぶい黄褐、灰黄褐		底部4/9	網代圧痕	N34		
								ナデ	灰黄褐					
17	地山下 包含層 深鉢	縄文土器	115			条痕		黄褐、にぶい黄褐、にぶい黄橙		底部31/36	海綿骨針	N21		
								ナデ	陶灰、灰黄褐、明黄褐		網代圧痕			
18	地山下 包含層 深鉢	縄文土器	102			ナデ		にぶい黄褐、褐灰		底部2/9	網代圧痕	N22		
								ナデ	にぶい黄褐、明黄褐					
19	地山下 包含層 深鉢	縄文土器	88			ナデ		にぶい黄褐		底部1/3		N23		
								ケズリ、ナデ	にぶい黄褐、灰黄褐					
20	地山下 包含層 深鉢	縄文土器	106			ケズリ、ナデ		にぶい黄褐		底部1/9		N35		
								ナデ	にぶい黄褐					
21	地山下 包含層 深鉢	縄文土器	58			ナデ		にぶい黄褐、灰黄褐		底部2/9		N33		
								ナデ	にぶい黄褐					
22	地山下 包含層 深鉢	土師器	64	11		ナデ		にぶい黄褐		1/6		N39		
								ナデ	にぶい黄褐					
23	地山下 SK6 包含層 深鉢	土師器	76	20	50	ヨコナデ		にぶい澄		定形	灯芯油痕	N24		
								ヨコナデ	にぶい澄					
24	地山下 包含層 深鉢	土師器	82	15		ヨコナデ		にぶい黄褐		1/12		N42		
								ヨコナデ	にぶい黄褐					
25	地山下 包含層 深鉢	土師器	110			ヨコナデ		にぶい黄褐		1/6		N41		
								ヨコナデ	にぶい黄褐					
26	地山下 P3 包含層 深鉢	土師器	112	27	70	ヨコナデ		にぶい黄褐		口縁部1/6	灯芯油痕	N47		
								ヨコナデ	にぶい黄褐	底部1/2				
27	地山下 包含層 白磁 碗							灰白		小片	白磁釉	N44		
								灰白						
28	地山下 SK5 包含層 深鉢		115					灰黃		1/5	灰釉	N51 T1		
								オリーブ灰						
29	地山下 包含層 深鉢		110					にぶい黄褐		1/7	灰釉	N43		
								にぶい黄褐						

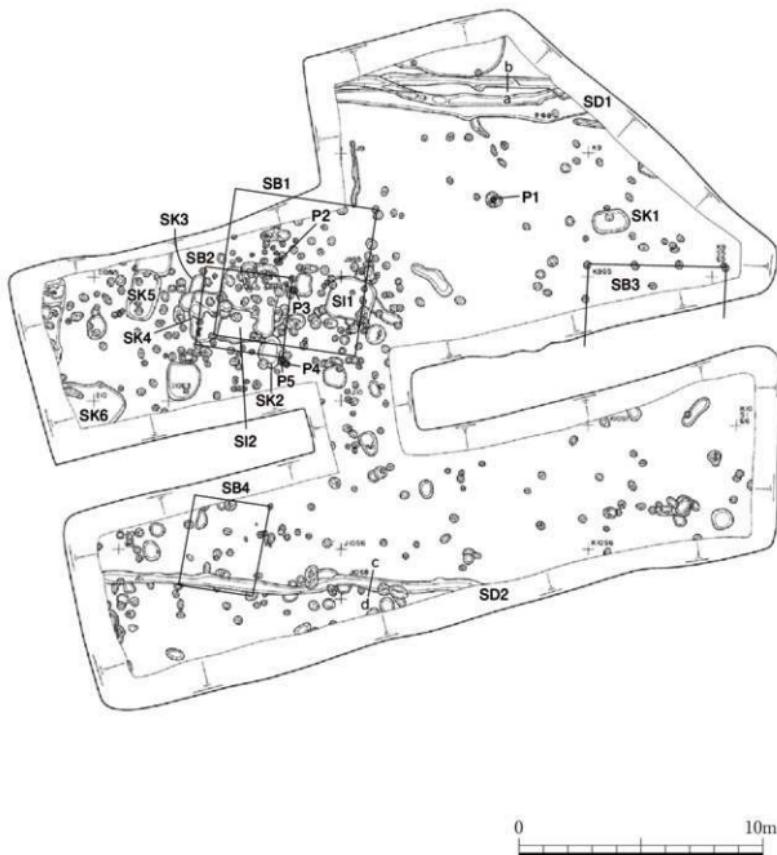
番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	色調(外)			
30	27次 包含層 縹跡	珠洲焼 縹跡	243			ロクロナデ	灰	1/7		N40
						ロクロナデ	灰			
31	27次 SK4	瀬戸焼 御皿		70			橙、灰黄	底部全周	灰釉 同軸系切り	N46
							にほい黄橙			
32	27次 SK4	珠洲焼 縹跡		100			灰オリーブ	底部1/5	脚目 外面指頭圧痕	N45
							灰オリーブ			

第14表 石製品観察表

番号	遺構	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考	実測 番号
							蛇紋岩		
33	27次 包含層	磨製石斧	49	44	24	70	蛇紋岩		T9
34	27次 P2	砾石	64	53	26	118	凝灰岩		T49
35	27次 包含層	自然石	140	85	44	640	凝灰岩	煤付着	T10
37	27次 地山下	石顎	19	14.5	2.5	0.5	輝石安山岩		T12
38	27次 地山下	石顎	18	16	3	0.7	輝石安山岩	完形	T16
39	27次 地山下	石顎	22.5	13	3	0.6	チャート		T17
40	27次 地山下	剥片	24	26	6	2.5	チャート		T20
41	27次 包含層	剥片	23	11	4	0.8	輝石安山岩		T15
42	27次 地山下	剥片	22	14	5	1.2	チャート		T13
43	27次 地山下	剥片	21	17	4	1.7	輝石安山岩		T18
44	27次 地山下	剥片	19	21	4.5	1.0	チャート		T19

第15表 鉄製品観察表

番号	グリッド 遺構	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考	実測 番号
36	27次 SII	刀子	183	42	26	1264		T52
45	27次 SII	釘	29	14	9	32		T3
46	27次 SK3	釘	39	13	13	44		T48
47	27次 P5	釘	49	14	12	66		T14



第49図 第27次遺構全体図 (S=1/200)

第11章 第29次・31次・32次・35次調査の成果

本報告における調査区は平成19・20年度にかけて一角に集中した箇所を発掘調査した。報告においては、調査次で振り分けるとわかりにくくなるため、一括でまとめることとした。なお、第29次と35次については、二日市と三日市の集落を結ぶ現道を挟んだ両側で実施しており、本報告では現道より東側調査区に限定する。(現道より西側調査区は「三日市A遺跡9」2018にて報告を予定する。)

第1節 遺構

本調査で発見された主要な遺構は、竪穴建物、竪穴状遺構、掘立柱建物、井戸、土坑、溝などである。以下は、各遺構の個別の概要である。(全体遺構図は袋とじ別図参照)

① 竪穴建物・竪穴状遺構

SI1 (第50図)

第29次調査区北端で見つかった弥生時代後期の竪穴建物である。隅丸方形プランで、規模は北東-南西間約6.9m、北西-南東約6.8m、深さ約30cmである。床面には貼床が施されている。竪穴壁際には周溝が巡る。溝は2重になって巡っており、土層断面観察から、当初は内側周溝の規模から、外側の周溝の規模に拡充したことがわかった。溝の幅は20~40cm、深さ床面から5~10cmを測る。柱穴はア~エの4基のピットからなる。形状は略円形で、規模は直径60~80cm、深さ55~65cmを測る。竪穴内中央にある穴は特殊ピットと考えられる。形状は略楕円形で、長辺が約110cm、短辺約95cm、深さ約35cmを測る。穴の内部には2段のテラスを有する。

SI2 (第51図)

第29次・32次・35次をまたがる弥生時代後期の竪穴建物である。北側の一角は調査区外となり、全体の様相はわからない。プランは五角形と隅丸方形が重なっており、土層断面観察から当初は五角形の大きなプランから隅丸方形へ規模を縮小したようである。五角形プランの規模は北東-南西方で約8.7m、北西-南東方で約9.4m、隅丸方形プランはほぼ正方形に近く、一边約6.8mを測る。深さは約45cm、床面には貼床が認められる。両プランにはいずれも幅10~30cm、深さ5~25cmの周溝が巡る。柱穴はア~オの5基のピットが考えられる。柱穴ア~エは五角形及び隅丸方形の両プランで使用された穴で、柱穴オは五角形プランのみの穴と想定する。形状は基本的に略円形で、直径15~25cm、深さ30~55cmを測る。柱穴イとウの間に掘られている3基が連続する穴は特殊ピットと考えられる。形状はいずれも略楕円形で、長辺が25~35cm、短辺20~25cm、深さは北西から順に約45・50・70cmを測る。

SI3 (第52図)

第32次調査区内の円筒土坑SK25~35が密集する中で検出した弥生時代後期の竪穴建物である。竪穴内にもSK33が存在する。この竪穴建物は隅丸方形プランで、規模は北東-南西間約4.8m、北西-南東約4.3m、深さ約25cmである。竪穴壁際には幅20~40cm、深さ床面から10cm前後の周溝が巡る。柱穴はア~エの4基のピットからなり、その形状は略円形で、規模は直径30~60cm、深さ45~60cmを測る。竪穴南東側の壁際には特殊ピットのオが認められる。形状は略楕円形で内部には略円形のピットが掘られている。略楕円形の規模は長辺約120cm、短辺約70cm、深さ約10cm、その中にある略円形の穴は直径約40cm、深さ約30cmを測る。

SI4 (第53図)

第29次調査区東端で見つかった弥生時代後期の竪穴建物である。多角形プランと考えられるが、南北と東西は調査区外となるため、全体の様相は不明である。南北長2.0m以上、東西長4.0m以上、深さ約50

cmを測る。堅穴壁際には周溝が巡る。溝は2重確認され、土層断面観察から内側周溝が古いと推測される。溝の幅は15～30cm、深さ床面から5～10cmを測る。柱穴は検出できていない。

SI5（第53図）

第29次調査区南側で見つかった弥生時代後期の堅穴建物である。南北に長い隅丸長方形プランで、方位はN28°E、規模は南北間約5.3m、東西間約4.0m、深さ約30cmである。床面には貼床が施されている。堅穴壁際には幅20～30cm、深さ床面から10～15cmを測る。柱穴はア・イの2基からなり、略円形をしている。規模は直径25～50cm、深さ約40cmを測る。堅穴東側に見られる方形プランの穴は特殊ピットとされ、穴内部には円形のピットが掘られている。大きさは南北長約95cm、東西長約75cm、深さ約10cmで、内部の穴は直径約40cm、深さ約35cmを測る。

SI6（第54図）

第29次調査区SI5の東隣で見つかった弥生時代後期の堅穴建物である。北東～南西に長い隅丸長方形プランで、方位はN58°E、規模は北東～南西間約5.5m、北西～南東間約3.8m、深さ約18cmである。床面には貼床が施されている。堅穴壁際には幅20～35cm、深さ床面から5～10cmを測る。柱穴はア・イの2基で構成され、略円形をしている。規模は直径35～60cm、深さ30～35cmを測る。堅穴東南壁際に掘られた方形プランの穴は特殊ピットと考えられる。大きさは長辺約100cm、短辺約80cm、深さ約20cmである。堅穴中央部にも直径約55cm、深さ約10cmの略円形をしたピットが認められ、炉跡と推測する。

SI7（第54図）

第29次調査区西端で検出した略方形をした中世の堅穴状遺構である。規模は、南北約1.6m、東西約2.0m、深さ約20cmを測る。方位はN5°Eである。

SI8（第52図）

第29次調査区で確認した方形プランの中世の堅穴状遺構である。形状が西側と南側が張り出して歪になって見えるのは、堅穴状遺構が同箇所で2回掘り直しされたことによる。（第52図ア・イ・ウ）規模は、南北全長約3.3m、東西全長約4.3m、深さは最深部で約40cmを測る。方位はN5°Eである。土層断面から、西側の張り出し部のアが古く、イが新しいことがわかっている。

SI9（第62図）

第32次調査区西端で検出した中世の堅穴状遺構である。形状は隅丸の正方形に近い略方形で、規模は、南北約2.4m、東西約2.0m、深さ約25cmを測る。方位はN7°Eである。

SI10（第55図）

第32次調査区で検出した中世の堅穴状遺構である。方形プランと思われるが、本遺構内外に土坑、溝、ピットの遺構が錯綜しており形状は明瞭ではない。規模は、南北約3.3m、東西推定3.5m、深さ約35cmを測る。方位はN3°Eである。

SI11（第55図）

第29次調査区西端で検出した中世の堅穴状遺構である。南北に長い隅丸長方形プランである。規模は、南北約4.1m、東西約2.4m、深さ約40cmを測る。方位はN12°Eである。本遺構周囲に錯綜するピットの中にはSB11の柱穴が含まれる。

SI12（第55図）

SI11の南東に隣接している堅穴状遺構である。正方形に近い略方形プランを呈し、規模は、南北約2.3m、東西約2.1m、深さ約25cmを測る。方位はN11°Eである。SI11と同様、本遺構周囲に集中するピットの中にはSB11の柱穴が存在する。

SI13（第56図）

第32次調査区検出した中世の堅穴状遺構である。南北に長い隅丸長方形プランである。規模は、南北約2.5m、東西約1.9m、深さ約15cmを測る。方位はほぼ真北に近い。本遺構の西隣にはSB16が存在する。

SI14（第66図）

第32次調査区検出した中世の堅穴状遺構である。南北に長い隅丸長方形プランである。規模は、南北約2.5m、東西約2.0m、深さ約25cmを測る。方位はN9°Wで、本遺構の西隣にはSB17が存在する。

SI15（第56図）

第32次調査区検出した中世の堅穴状遺構である。東西にやや長い長方形プランである。規模は、南北約1.6m、東西約1.9m、深さ約5cmと浅い。方位はN5°Wである。

SI16（第56図）

SI15と切り合っている古代の堅穴建物である。やや歪ながら正方形プランを呈している。規模は、一辺約3.0m、深さ5～10cmと浅い。方位はほぼ真北に近い。南東隅には焼土が混じった不定形な粘土塊が見られ、カマドの残れと考えられる。堅穴内から449の土師器甕が出土している。

② 挖立柱建物

SB1（第57図）

第29次調査区内にある掘立柱建物で、SI1の西側に位置する。南北1間×東西2間で、方位はW15°Nである。桁行の長さは東西約4.2m、梁行が南北間で約2.4mである。柱穴は略円形もしくは略楕円形で、直径30～50cm、深さ25～55cmを測る。時期は柱穴の数などの特徴から弥生時代と考えているが、周辺に点在するピットも柱穴になる可能性があり、その状況から中世の可能性もある。

SB2（第57図）

第31次調査区内にある弥生時代後期の掘立柱建物と考えられ、SI4の北方に位置する。南北1間×東西3間で、方位はW8°Nである。東西方となる桁行の長さは約4.8m、南北方となる梁行の長さが約2.1mである。柱穴は略円形で、直径20～35cm、深さ15～45cmを測る。

SB3（第58図）

第29次調査区にある弥生時代後期の掘立柱建物と考えられ、SI5の北方に位置する。桁行2間×梁行1間で、方位はN50°Wである。桁行の長さは約4.2m、梁行の長さが約3.4mである。柱穴は略円形で、直径40～55cm、深さ40～50cmを測る。

SB4（第58図）

弥生時代後期の掘立柱建物と考えられ、SB3の東側に位置する。桁行2間×梁行1間で、方位はN40°Wである。桁行の長さは約4.2m、梁行の長さが約3.4mである。柱穴は略円形及び略方形で、直径もしくは一辺が40～70cm、深さ35～60cmを測る。

SB5（第59図）

第29次調査区にある弥生時代後期の掘立柱建物と考えられ、SI6の東方に位置する。桁行2間×梁行1間で、方位は真北に近い。桁行の長さは約1.8m、梁行の長さが約1.6mと小さい建物である。柱穴は略円形で、直径が約20cm、深さ15～25cmを測る。

SB6（第59図）

第29次調査区西端にある古代の掘立柱建物である。東西、南北ともに2間で、方位はN3°Wである。南北の長さは約4.4m、東西の長さが約5.0mを測る。柱穴は略円形及び略楕円形で、直径が約35～65cm、深さ40～60cmを測る。この建物は側柱建物で、近隣で確認されている中世の総柱式建物柱穴よりも規模が大きいことから当該時期を古代とした。

SB7（第60図）

弥生時代堅穴建物SI6の南隣にある古代の掘立柱建物である。南北2間×東西2間で、方位はN22°Wである。南北の長さは約3.6m、東西の長さが約3.8mとほぼ正方形に近い。柱穴は略円形で、直径が約30～45cm、深さ22～35cmを測る。この建物はSB6と同様側柱建物で、時期を古代と推定した。

SB8 (第60図)

第29次調査区北端で確認した中世の総柱式掘立柱建物である。建物の西半は調査区外となるため、全容は明らかでない。南北3間×東西2間以上で、方位はN9°Eである。南北の長さは約8.0m、東西が2.8m以上で、柱間の長さは南北が2.2～3.0m、東西が約1.8mである。柱穴は略円形で、直径40～55cm、深さ45～65cmを測る。

SB9 (第61図)

第29次調査区SB8の南東方にある中世の総柱式掘立柱建物である。南北3間×東西2間で、方位はN3°Wである。南北の長さは約4.8m、東西が約4.6mとほぼ同じで、柱間の長さは南北が約1.8mと3.0m、東西が約2.3mである。柱穴は略円形で、直径25～40cm、深さ30～55cmを測る。

SB10 (第62図)

第32次調査区北西端にある中世の総柱式掘立柱建物である。南北3間×東西4間で、方位はN16°Eである。南北の長さは約7.4m、東西が約8.6mで、柱間の長さは南北が約2.2～2.8m、東西が約2.2mである。柱穴は略円形で、直径20～45cm、深さ15～55cmを測る。

SB11 (第63図)

第29次調査区西端で確認した中世の総柱式掘立柱建物である。建物の西半は調査区外となるため、全容は不明である。南北3間×東西2間以上で、方位はN16°Eである。南北の長さは約6.2m、東西が4.5m以上で、柱間の長さは南北が1.8～2.5m、東西が約3.0mである。柱穴は略円形で、直径25～40cm、深さ15～50cmを測る。

SB12 (第63図)

第29次調査区SB11の南東方で確認した中世の総柱式掘立柱建物である。南北、東西ともに2間と思われるが、南端列の一部の柱穴は調査区外となり未検出となる。方位はN16°Eである。南北の長さは約4.6m、東西が約4.0mで、柱間の長さは南北が2.2～2.6m、東西が1.8～2.2mである。柱穴は略円形で、直径20～45cm、深さ10～35cmを測る。

SB13 (第64図)

第35次調査区内でSB12の南西方で確認した中世の総柱式掘立柱建物である。南北3間×東西2間で、方位はN26°Wである。建物規模は南北が約9.3m、東西が約4.0mで、柱間の長さは南北が約2.5mと約3.4m、東西が1.8～2.2mである。柱穴は略円形で、直径25～50cm、深さ15～45cmを測る。

SB14 (第64図)

第29次調査区の東側で確認した中世の総柱式掘立柱建物である。南北、東西ともに2間で、方位はN5°Eである。建物規模は南北、東西ともに約4.3mで、柱間の長さは南北が約2.3～2.5m、東西が2.1～2.3mである。柱穴は略円形で、直径25～50cm、深さ22～32cmを測る。

SB15 (第65図)

第29次調査区の東端となる弥生竪穴建物SI4に接する中世の総柱式掘立柱建物である。建物の東半と南半は調査区外となるため、全容は明らかでない。南北、東西ともに2間以上で、方位は真北に近い。建物規模は南北が3.1m以上、東西が4.5m以上で、柱間の長さは南北が約1.6m、東西が1.8～2.2mである。柱穴は略円形及び略楕円形で、直径25～60cm、深さ20～80cmと差異がある。

SB16 (第65図)

第29次調査区中央部で確認した中世の総柱式掘立柱建物である。南北、東西ともに2間で、方位は真北に近い。建物規模は南北が約4.3m、東西が約4.5mで、柱間の長さは南北が1.3～1.5mと約3.0m、東西が約2.3mである。柱穴は略円形で、直径25～50cm、深さ22～32cmを測る。

SB17 (第66図)

第29次調査区の南東端で確認した中世の総柱式掘立柱建物である。南北、東西ともに3間で、方位は

N8°Wである。建物規模は南北が約6.4m、東西が約5.8mで、柱間の長さは南北が約1.2mと約2.6m、東西が約1.0mと約2.3mである。柱穴は略円形で、直径20～45cm、深さ15～35cmを測る。

SB18（第61図）

第31次調査区南東端で確認した中世の総柱式掘立柱建物である。建物の南東半は調査区外となるため、全容は不明である。南北、東西2間以上で、方位はN15°Wである。南北及び東西の長さは4.2m以上で、柱間の長さは南北が約1.2mと約3.0m、東西が2.0～2.2mである。柱穴は略円形で、直径20～40cm、深さ15～32cmを測る。

SB19

第29次調査区西端で確認した中世の掘立柱建物である。建物の西側は調査区外となるため、全容は不明である。南北2間×東西2間以上で、方位はほぼ真北である。南北の長さは約3.0m、東西の長さは2.2m以上で、柱間の長さは南北が約1.4m、東西が約1.6mである。柱穴は略方形で、一辺が25～30cm、深さ30～55cmを測る。

③ 井戸

SE1（第67図）

第31調査区で検出された素掘りの井戸である。形状は略楕円形をしており、内部には掘方と考えられる幅約40cm、深さ約10～25cmのテラスを有する。規模は長辺約3.8m、短辺約2.8m、井戸側の径が約1.4mを測る。深さは2.5mまで掘削したが、底までは到達できなかった。土層断面を観察すると複数の覆土が複雑に堆積している状況から、木組みもしくは桶組みなどの井戸枠が存在していたものが後に抜き取られたかもしれない。

SE2（第68図）

第29調査区内の中世掘立柱建物SB15の北側で検出された素掘りの井戸である。形状は略円形をしており、内部には掘方とされる最大幅約60cm、深さ約70cmのテラスを有する。規模は直径約3.0m、井戸側の直径は約1.6m、深さ約2.2mを測る。木組みもしくは桶組みによる井戸枠が存在していたと思われるが、後に抜き取られたようである。

④ 土坑

SK1（第69図）

第29次調査区北東端に位置する略円形をした円筒土坑である。東側の一部は調査区外となり、全容はわからない。直径約2.2m、深さ約100cmを測る。土層断面の観察から、遺構内で複数回掘り直しがあったと考えられる。

SK2（第69図）

第29次調査区の自然河道NR1内で確認した土坑である。形状は略楕円形で、長辺約3.5m、短辺約2.6m、深さ約60cmを測る。

SK3（第69図）

第29次調査区北端に位置する略円形をした円筒土坑である。西側の一部は調査区外となり、全容はわからない。直径約1.4m、深さ約40cmを測る。

SK4（第69図）

第29次調査区で確認した南北に長い略楕円形をした土坑である。周りには不定形な土坑状遺構が錯綜している。南北長辺約1.8m、東西短辺約1.4m、深さ約30cmを測る。

SK5（第70図）

第29次調査区北端に位置する略円形をした円筒土坑である。北端の一部は調査区外となる。直径約2.0

m、深さ約1.1mを測る。土層断面の様相から本土坑は一齊に埋められたものと推測する。

SK6 (第70図)

第29次調査区SK5の南隣に位置する略円形をした円筒土坑である。直径約2.0m、深さ約1.0mを測る。土層断面の様相から本土坑は人為的に埋めたものと思われる。

SK7 (第70図)

第29次調査区SK6の南東隣に位置する円筒土坑である。直径約1.7m、深さ約85cmを測る。土層断面の様相から本土坑は人為的に埋められたものと思われる。

SK8 (第71図)

第29次調査区SK7の東隣に位置する円筒土坑である。直径約1.8m、深さ約90cmを測る。土層断面の様相から人為的に埋められたものと思われる。

SK9 (第71図)

第29次調査区SK8の東隣に位置する円筒土坑で、近隣で確認されているSK5～8よりも規模は大きい。直径約2.7m、深さ約1.0mを測る。

SK10 (第71図)

第29次調査区内にある南北に長い長方形土坑である。方位はN17°Eである。南北長辺約1.4m、東西短辺約1.0m、深さ約45cmを測る。

SK11 (第72図)

第29次調査区内の自然河道NR1の岸際で確認した略楕円形土坑である。長辺約1.0m、東西短辺約80cm、深さ約40cmを測る。

SK12 (第72図)

第32次調査区内の自然河道NR1の岸際で確認した土坑である。SD15とは切り合っており、土層断面から本土坑の方が新しいことが判明している。長辺約1.45m、短辺約1.2m、深さ約60cmを測る。

SK13 (第72図)

第32次調査区西端で確認した方形土坑である。西半は調査区外となるため全容はわからない。南北長約2.3m東西長1.0m以上、深さ約60cmを測る。

SK14 (第73図)

第32次調査区内で確認した略円形土坑である。東半は調査区外となるため全容はわからない。直径約2.3m、深さ約20cmを測る。土層断面観察から掘り直しがなされたようである。

SK15 (第73図)

第32次調査区北端で確認した円筒土坑である。形状は略円形で直径約2.6m、深さ約1.0mを測る。土層断面の様相から人為的に埋められたものと思われる。

SK16 (第73図)

第32次調査区SK15の南隣にある土坑である。形状は略楕円形と想定されるが、複数のテラスやピットが混在しており、明確なプランを見出すことはできない。東西長径約3.6m、南北短径約3.2m、深さが最深部で約1.1mを測る。

SK17 (第74図)

第32次調査区SK16の東隣にある土坑である。形状は南北に長い長方形で、南北長約2.6m、東西長約1.3m、深さ約55cmを測る。

SK18 (第74図)

第32次調査区SK16の南隣にある土坑である。形状は略楕円形と想定されるが、SK16同様複数のテラスやピットが混在していることから明確なプランを見出すことはできない。東西長径約3.5m、南北短径約3.0m、深さが最深部で約1.3mを測る。

SK19 (第74図)

第32次調査区内SK18の南隣で確認した土坑である。西半は調査区外となるため全容はわからない。南北長約2.6m、東西長2.5m以上、深さ約40cmを測る。

SK20 (第75図)

第32次調査区内SK19の東隣にある円筒土坑である。形状は略円形で、内部にはテラスが存在する。直径約3.0m、深さは最深部で約1.4mを測る。

SK21 (第75図)

第32次調査区内SK20の南隣にある円筒土坑である。形状は略円形で、内部南半にはテラスが存在する。直径約2.2m、深さは約1.1mを測る。

SK22 (第75図)

第32次調査区内SK17の東側にある南北が長い土坑である。南北長約2.7m、東西長約80cm、深さ約50cmを測る。土層断面の観察から複数回掘り直しがなされたようである。

SK23 (第75図)

第32次調査区内SK22の南西側にある土坑である。形状は南北が長い隅丸長方形で、南北長約2.2m、東西長約1.2m、深さ約40cmを測る。

SK24 (第76図)

第32次調査区内SK23の南東側にある土坑である。形状は隅丸方形で正方形に近い。内部にはテラスが認められる。南北長約1.6m、東西長約1.5m、深さは最深部で約85cmを測る。

SK25 (第76図)

第32次調査区内SK24の東隣にある円筒土坑である。形状は略円形で内部にはテラスが存在する。直径約3.0m、深さは最深部で約1.2mを測る。

SK26 (第77図)

第32次調査区内SK25の南隣にある円筒土坑である。形状は略円形で内部には複数のテラスが存在する。直径約3.5m、深さは最深部で約1.5mを測る。周りに集中する円筒土坑の中で、この土坑が最も規模が大きい。

SK27 (第77図)

第32次調査区内SK26の東隣にある円筒土坑である。形状は略円形で内部東側に一段のテラスが存在する。直径約2.8m、深さは最深部で約1.0mを測る。

SK28 (第76図)

第32次調査区内SK27の東側にある円筒土坑である。形状は略円形で、直径1.8～2.0m、深さは約1.0mを測る。

SK29 (第78図)

第32次調査区内SK28の南西隣にある円筒土坑である。形状は略円形で内部にはテラスを有する。直径1.8～2.0m、深さは最深部で約1.4mを測る。土層断面の状況から、本土坑は自然堆積によるものと考えられる。

SK30 (第78図)

第32次調査区内SK29の南隣にある円筒土坑である。形状は略円形で内部にはテラスを有し、壁面の一部はフ拉斯コ状に抉れている。直径約2.4m、深さは最深部で約1.2mを測る。

SK31 (第78図)

第32次調査区内SK30の西隣にある円筒土坑である。形状は略円形で、直径約1.9m、深さは最深部で約1.3mを測る。

SK32 (第79図)

第32次調査区内SK30の南隣にある円筒土坑である。形状は略円形で、直径約20m、深さは最深部で約1.5mを測る。SD27とは切り合っており、本土坑の方が古い。

SK33 (第52図)

第32次調査区内SI3の中にある土坑である。形状は略円形で、堅穴建物構築前に本土坑が掘られたと思われるが、土層断面による土の堆積状況からでは明確な判断はできない。直径約2.0m、深さは約70cmを測る。

SK34 (第79図)

第32次調査区内SI3の南隣にある円筒土坑である。形状は略円形で、直径1.6～1.8m、深さは約1.0mを測る。

SK35 (第79図)

第29次と第32次調査区を跨る円筒土坑である。形状は略円形で、内部にはテラスを有する。直径約2.4m、深さは最深部で約1.2mを測る。

SK36 (第80図)

第32次調査区内にある円筒土坑で、SI2の東側に位置する。形状は略円形で、内部には一段のテラスを有する。直径約2.4～2.8m、深さは約1.0mを測る。穴の底には幅約20cm、深さ約10cmの周溝が巡る。

SK37 (第80図)

第32次調査区内にある円筒土坑で、SK36の南東側に位置する。形状は略円形で、内部には一段のテラスを有する。直径約2.0m、深さは約1.3mを測る。

SK38 (第80図)

第32次調査区内SK36の南東隣にある円筒土坑である。形状は略円形で、内部には一段のテラスを有する。直径約2.5m、深さは約1.1mを測る。

SK39 (第81図)

第32次調査区内SK38の南側にある土坑である。平面プランは歪ながらも略円形をし、穴の壁はフランクスコ状に膨らむ形状となる。直径約1.2m、深さは約1.1mを測る。

SK40 (第81図)

第29次調査区内にある円筒土坑で、SK39の西側に位置する。形状は略梢円形で、内部には一段のテラスを有する。直径約2.4～3.0m、深さは約1.3mを測る。

SK41 (第81図)

第35次調査区内にある円筒土坑で、SI2の南隣に位置する。形状は略円形で、直径約1.7m、深さは約1.1mを測る。

SK42 (第82図)

第29次調査区内にある円筒土坑で、SK41の西隣に位置する。形状は略円形で、直径約1.6m、深さは約1.1mを測る。

SK43 (第82図)

第29次調査区内にある土坑で、内部には一段のテラスを有する。平面プランは略梢円形で、直径約1.5～2.0m、深さは最深部で約65cmを測る。

SK44 (第82図)

第29次調査区内SK43の西隣にある土坑である。平面プランは東西に長い長方形をしている。方位はW18°Nで、東西長約4.0m、南北長約2.0m、深さは約50cmを測る。

SK45 (第82図)

第29次調査区内SK44の西隣にある土坑である。平面プランは歪な略梢円形をしている。直径1.9～2.2

m、深さは約10cmを測る。

SK46 (第83図)

第29次調査区西端にある土坑である。西半は調査区外となるため、全体の形状はわからない。南北長約2.1m、東西長60cm以上、深さは約50cmを測る。

SK47 (第83図)

第29次調査区内SK44の南隣にある土坑である。SK48とは切り合っており、土層断面の観察からSK47の方が新しいことがわかっている。平面プランはSK48と接していることから判然としない。大きさは南北長約3.0m、東西長約4.6m、深さは約30cmを測る。

SK48 (第83図)

第29次調査区内SK47と切り合っている土坑である。平面プランは南北に長い略楕円形と考えられる。SK47と接していることから南北間の長さは不明である。南北長1.6m以上、東西長約1.8m、深さは約30cmを測る。

SK49 (第83図)

第35次調査区内にある南北に細長い遺構である。溝状遺構にしてもよいが、長さが短いため土坑として扱った。南北長約2.8m、東西長約40cm、深さは約40cmを測る。方位はN29°Wである。

SK50 (第84図)

第35次調査区内のSK49の西隣にある土坑である。平面は略方形プランで、竪穴状遺構にも見えるが、穴底は凹凸が著しいため土坑と認識した。南北長約1.6m、東西長約1.3m、深さは最深部で約25cmを測る。方位はN20°Wである。

SK51 (第84図)

第35次調査区内のSK49の南東隣にある南北が長い長方形土坑である。竪穴状遺構にも見えるが、穴底は凹凸しており土坑とした。南北長約1.8m、東西長約90cm、深さは最深部で約15cmを測る。方位はN24°Wである。

SK52 (第84図)

第35次調査区内のSB13の南隣にある東西に長い楕円形土坑である。南北長約55cm、東西長約80cm、深さは最深部で約20cmを測る。穴内部からは、瓶などの須恵器が大量に出土した。

SK53 (第84図)

第35次調査区内にあり、SK40の南西隣にある略方形土坑である。長辺約2.5m、短辺約1.9m、深さは約80cmを測る。平面図では表現されていないが、穴内部には周溝が認められる。方位はN43°Eである。

SK54 (第85図)

第29次調査区内にある円筒土坑で、SK53の東側隣に位置する。形状は略円形で、直径約1.4m、深さは約1.1mを測る。

SK55 (第85図)

第29次調査区内のSK54の南側に位置する土坑である。形状は略楕円形で、長径約1.6m、短径約1.2m、深さは約45cmを測る。

SK56 (第85図)

第35次調査区内にある円筒土坑である。形状は略円形で、直径2.0～2.2m、深さは約1.0mを測る。

SK57 (第85図)

第29次調査区内のSK35の南側に位置する土坑である。形状は略楕円形で、長径約1.7m、短径約1.5m、深さは約60cmを測る。

SK58 (第85図)

第29次調査区内のSK57の南東隣に位置する円筒土坑である。形状は略円形で、直径約2.0m、深さは

約1.0mを測る。

SK59 (第86図)

第29次調査区内のSK58の東隣に位置する円筒土坑である。形状は略円形で、直径約2.0m、深さは約90cmを測る。

SK60 (第86図)

第29次調査区内のSK59の南西隣に位置する円筒土坑である。形状は略円形で、直径約2.4m、深さは約1.0mを測る。

SK61 (第86図)

第29次調査区内のSK59の南西隣に位置する土坑である。形状は略方形で、内部にテラスを有する。正方形に近いプランで、南北長約1.3m、東西長約1.2m、深さは最深部で約65cmを測る。

SK62 (第86図)

第29次調査区内のSK61の南東隣に位置する円筒土坑である。形状は略円形で、直径約1.1m、深さは約75cmを測る。

SK63 (第87図)

第29次調査区内のSK62の南隣に位置する円筒土坑である。形状は略円形で、直径約1.3m、深さは約85cmを測る。

SK64 (第87図)

第29次調査区内のSK62の東隣に位置する円筒土坑である。形状は略円形で、直径約2.1m、深さは約90cmを測る。穴内には幅約20cm、深さ約15cmの周溝が巡る。

SK65 (第87図)

第29次調査区内のSK64の南東隣に位置する円筒土坑である。形状は略円形で、直径約2.4m、深さは約95cmを測る。

SK66 (第87図)

第29次調査区内のSI4の北隣に位置する東西に長い長方形土坑である。南北長約70cm、東西長約1.2m、深さは約20cmを測る。

SK67 (第88図)

第31次調査区内のSD36と接する土坑である。形状は南北に長い長方形で、南北長約1.9m、東西長約1.4m、深さは約1.3mを測る。方位はN16°Wで、土層断面から本土坑廃絶後にSD36が掘られたことがわかつている。

SK68 (第88図)

第32次調査区内で検出した土坑である。形状は南北に長い略楕円形で、南北長約2.0m、東西長約1.4m、深さは約50cmを測る。

SK69 (第88図)

第32次調査区内のSI13の北西隣に位置する円筒土坑である。形状は東西が長い略楕円形で、長径約1.4m、短径約90cm、深さは約75cmを測る。

SK70 (第88図)

第29次調査区内のSB3の西隣に位置する円筒土坑である。形状は略楕円形で、長径約1.5m、短径約1.3m、深さは約70cmを測る。

SK71 (第89図)

第29次調査区内のSK70の西隣に位置する円筒土坑である。形状は略円形で、直径約1.5m、深さは約50cmを測る。穴内には幅10～30cm、深さ10～15cmの周溝が巡る。

SK72 (第89図)

第29次調査区内で検出した土坑である。形状は北西-南東間が長い略楕円形で、内部にはテラスを有する。長径約1.8m、短径約90cm、深さは約25cmを測る。

SK73 (第89図)

第29次調査区内のSK72の西隣に位置する土坑である。形状は略楕円形で、長径約1.6m、短径約1.2m、深さは約15cmを測る。

SK74 (第89図)

第29次調査区内のSI5の北隣に位置する土坑である。歪な略楕円形をしており、長径約1.9m、短径約1.4m、深さは最深部で約25cmを測る。

SK75 (第89図)

第32次調査区内のSI6に接する土坑である。形状は略楕円形をしており、内部にはテラスを有する。長径約1.6m、短径約1.4m、深さは最深部で約95cmを測る。SI6との前後関係は不明である。

⑤ 溝

SD1 (第90図)

第29次調査区北端で検出した東西方向の溝である。調査区東側にある第7次調査区SD1と第13次調査区SD1とは同一遺構である。溝幅は50～70cm、深さ30cm前後を測る。方位はW15° Nである。

SD2 (第90図)

第29次調査区SD1より南方2.2mに位置する東西方向の溝である。調査区東側にある第7次調査区SD3と第13次調査区SD2とは同一遺構である。溝幅は40～65cm、深さ10～25cmを測る。方位はSD1と同じW15° Nである。

SD3 (第90図)

第29次調査区SD2より南方約30mに位置する東西方向の溝である。調査区東側にある第7次調査区SD4は同一遺構である。溝幅は60～80cm、深さ15～20cmを測る。方位はW4° Nである。

SD4 (第90図)

第29次調査区SD3より南へ1.1mにある東西方向の溝である。調査区東側にある第7次調査区SD5とは同一の遺構となる。溝幅は1.4～1.8m、深さ70～80cmを測る。SD3とは同じ方位となる。

SD5

第29次調査区内の自然河道NR1及び2の左岸際を並走する溝である。北東-南西方位のN52° Eである。一部途切れる箇所が見受けられるが、長さは約70mを測り、溝幅は40～60cm、深さ10～25cmである。

SD6

第29次調査区内の自然河道NR1の右岸際を並走する溝である。北東-南西方でN48° Eとなる。北東方は調査区外へと延びる。長さは約29m、溝幅は40～60cm、深さ10～20cmである。

SD7

第29次調査区内SD6の南方約1.5mにあり、自然河道NR1やSD6と並走する溝である。北東方は調査区外へと延び、長さは約28m、溝幅は15～80cm、深さ5～30cmを測る。

SD8 (第90図)

第29次調査区内を南北に走る溝である。長さは約39m、溝幅は1.1～1.7m、深さ25～45cmを測る。方位はN18° Eで、北端では北西方に向きを変える。

SD9

第29次調査区内のSD8より西側に走る溝である。南北方向から西方へ逆L字状に直角に曲がる。長さは南北間で約9m、東西間で約10m、溝幅は25～80cm、深さ5～10cmを測る。方位はN10° E、W10°

Nである。

SD10

第29次調査区内のSD8より西側に走る南北溝である。長さは約5.8m、幅は20～60cm、深さ10～30cmを測る。方位はN17° Eである。

SD11（第90図）

第29次及び第32次調査区を走る溝である。北端はSD12とSD13が交差するところで終焉する。長さは約29m、幅は40～70cm、深さ10～30cmを測る。方位はN26° Wである。

SD12

第29次及び第32次調査区を走る南北溝である。南方へ走る際にSD13と交差すると溝幅が約1.0mから60cmと短くなる。長さは約35m、深さ15～20cmを測る。方位はN12° Wである。

SD13

第29次調査区を走る東西溝である。長さは約49m、幅は約20～60cm、深さ5～15cmを測る。方位はW18° Nである。

SD14

第29次調査区西端に位置し、SD13の南隣にある東西溝である。東端は方形周溝墓SZ1の西溝と交差して終焉し、西端は調査区外へと延びるため全容は不明である。長さは約4.4m、幅は約60cm、深さ約15cmを測る。方位はW16° Nである。

SD15（第90図）

第29次及び第32次調査区の自然河道NR3の右岸際を並走する溝である。北西～南東方でN48° Wとなる。長さは約51m、溝幅は1.0～1.9m、深さ25～40cmである。

SD16

第32次調査区北端で見つかった東西溝である。長さは約9.4m、溝幅は2.2～2.5m、深さ25～40cmである。方位はW12° Sである。

SD17（第91図）

第32次調査区のSD16より南側に走る溝で、南北方向から西方へ逆L字状に直角に曲がる。東西間の西端は調査区外へと延びる。長さは南北間で約9m、東西間で約6m、溝幅は40～80cm、深さ8～30cmを測る。方位はN7° E、W2° Nである。

SD18

第32次調査区を走る南北溝である。南端はSD19とぶつかって終焉する。長さは約7m、幅は約50～65cm、深さ5～15cmを測る。方位はN12° Eである。

SD19（第91図）

第29・31・32次各調査区を縱断に走る南北溝である。北側は北西～南東方で、自然河道NR3の左岸際を並走する。SK25など土坑が密集する第32次調査区からの方位は南北方に変わり、SD27・28と交差するあたりではクランクする箇所がある。長さは約158m、幅は約25～100cm、深さ10～45cmを測る。南北間の方位はN4° Wである。

SD20（第91図）

第32次調査区のSD17より南側にある溝である。東西方向から南方へ逆L字状に直角に曲がる。東西間の東端は及び南北間の南端は調査区外へと延びる。長さは南北間で約13m、東西間で約4m、溝幅は65～160cm、深さ55～70cmを測る。方位はN7° E、W6° Nであるが、南北間の方位は南へ向かうに連れて西方に傾く。

SD21（第91図）

第31次調査区内にある南北溝である。南端は調査区外へと延びる。長さは約11m、溝幅は1.2～1.6m、

深さ25～45cmを測る。方位はN18° Eである。

SD22

第31次調査区内SD21の西隣にある南北溝である。北端は調査区外へと延びる。長さは約10m、溝幅は40～50cm、深さ約15cmを測る。方位はほぼ真北である。

SD23（第91図）

第29・31・32次調査区内を南北に走る溝で、自然河道NR5～7の左岸際を並走する。長さは約94m、溝幅は60～140cm、深さ20～35cmである。

SD24（第91図）

第32次調査区内SD23の西隣を並走する南北溝である。南端はSK30とぶつかって終焉する。長さは約18m、溝幅は30～90cm、深さ10～25cmを測る。方位はN13° Eである。

SD25

第32次調査区西端にある東西溝である。長さは約18m、溝幅は5～25cm、深さ10～25cmを測る。方位はW18° Nである。

SD26

第32次調査区内SD25の南隣にある東西溝である。長さは約12m、溝幅は45～80cm、深さ30～45cmを測る。方位はSD25とほぼ同じである。

SD27（第91図）

第32次調査区内SD26の南隣にある東西溝である。長さは約75m、溝幅は55～120cm、深さ10～35cmを測る。方位はW12° Nである。

SD28（第91図）

第32次調査区内を走る東西溝である。東端は掘方が曖昧になるが、南北溝SD23と合流すると思われる。長さは約31m、溝幅は25～100cm、深さ10～15cmを測る。方位はW16° Nである。

SD29（第91図）

第32次調査区内を走る東西溝である。東端は南北溝SD23と合流する。長さは約47m、溝幅は30～80cm、深さ5～15cmを測る。方位はW7° Sである。

SD30（第92図）

第29次・第35次調査区内を走る南北溝であるが、南北方向から西方へ逆L字状に直角に曲がる。東西間の西端は調査区外となる。長さは南北間が約16m、東西間が約22m、溝幅は40～65cm、深さ8～15cmを測る。方位はN10° E、W8° Nである。

SD31

第29次・第35次調査区内を南北に縱断する南北溝で、所々途切れる箇所がある。北端はSX3にぶつかって終焉し、南端は調査区外へと延びる。長さは約83m、溝幅は20～100cm、深さ5～12cmである。方位はN5° Eである。

SD32

第35次調査区内を走る南北溝である。長さは約1.6m、溝幅は約20cm、深さ約8cmを測る。方位はN7° Wである。本溝は古代の耕作溝と考える。

SD33

第35次調査区内を走る南北方の古代の耕作溝である。長さは約3.2m、溝幅は約20cm、深さ約10cmを測る。方位はほぼ真北である。

SD34（第92図）

第32次・第35次調査区内を走る東西溝である。西端は調査区外へと延びる。長さは約48m、溝幅は60～140cm、深さ20～25cmである。方位はW7° Nである。

SD35 (第92図)

第31次調査区内にある東西溝である。長さは約9m、溝幅は1.0～2.0m、深さ55～90cmを測る。方位はW9°Nである。溝際には複数のビットが存在する。

SD36 (第88図)

第29次・第31次・第32次調査区内を走る南北溝である。南へ向かうに連れ、東方へ緩く傾く。長さは約27m、溝幅は1.2～1.6m、深さ30～60cmである。方位はほぼ真北からN16°Wに傾く。

SD37 (第92図)

第29次・第31次・第32次調査区内の自然河道NR6の右岸際を並走する南北溝である。長さは約38m、溝幅は80～200cm、深さ25～80cmである。土層断面の状況から一度掘り直しされたようである。

SD38

第29次調査区内にある東西溝である。東端は調査区外へと延び、西端は南北溝SD36と合流する。長さは約16m、溝幅は35～90cm、深さ10～15cmを測る。方位はW8°Sである。

SD39 (第92図)

第31次調査区内にある東西溝である。長さは約7.4m、溝幅は60～80cm、深さ25～35cmを測る。方位はほぼ真東である。

SD40 (第92図)

第31次調査区内にある東西溝である。調査区の南端に位置しており、周りには後世の搅乱も見られることから、全容は明らかではない。長さは約31m、溝幅は80cm以上、深さ50～90cmを測る。方位はほぼ真東である。

SD41

第31・32次調査区にまたがる周溝状遺構である。周溝プランは隅丸方形で、一見すると竪穴建物と見間違う。方位はN34°Eで、長さは北東～南西が約3.4m、北西～南東が約3.5mを測る。溝幅は20～40cm、深さは5～15cmである。

SD42

第32次調査区で確認した周溝状遺構である。円形プランではあるが、南半は検出できず半円状の形状となる。溝の東と西の間の長さは約4.4m、溝幅は15～25cm、深さは5～8cmを測る。

SD43

第32次調査区内のSD42と接する周溝状遺構である。円形プランを呈するが、東半は確認できず、SD42同様半円状の形状である。溝の南北間の長さは約2.5m、溝幅は10～30cm、深さは5cm前後を測る。SD42との前後関係は切り合いかからSD43の方が新しい。

⑥ 自然河道 (第93図)

第29・31・32次調査区内では自然河道(NR)が蛇行しながら流れている。この自然河道については、調査区別に分かれた箇所でそれぞれ1～7の番号を入れた。自然河道は南端にあたるNR7から北方のNR6→NR5へと流れ、更に北側のNR4で北東方のNR2→NR1と北西方のNR3に分岐する。

覆土は黒色粘質土を基とし、粘性が極めて強いことから、頻繁に水が流れるというより、雨水時などに流水が認められる程度の沼地のような状況であったと推測する。また、NR6を中心に覆土から弥生土器が多数出土していることから、弥生時代までは河道としての機能をもっていたと考えられる。河幅は8～15m、深さは80～150cmを測る。

⑦ 墓

SZ1 (第94図)

第29次調査区内SZ1の西隣に位置する弥生時代後期の方形周溝墓である。溝は全周せず四隅が途切れるタイプとなる。北側周溝の長さは約3.0m、幅約90cm、深さ最深部で約30cm、東側周溝の長さ約3.0m、幅約110cm、深さ最深部で約65cm、南側周溝の長さ約3.5m、幅約110cm、深さ最深部で約35cm、西側周溝の長さ約2.8m、幅約75cm、深さ最深部で約40cmを測る。周溝内の大きさは南北が約5.3m、東西約4.8mで、主体部は後世の削平によって滅失している。方位はN 15° Wである。

⑧ 不明遺構

SX1 (第89図)

第29次調査区東端のSD7南側に位置する。溝とピットが合わさったハート型のような形状をしている。北東～南西長約1.7m、北西～南東長約1.0m、西端にはピットが認められ、深さ約60cmを測る。

SX2

第29次調査区西端のSD27に接する落ち込み状遺構である。南北長約1.4m、東西長約6.6m、深さ約40cmを測る。

SX3

第29次調査区内SX2の東隣に位置する。南北に長い略楕円形をしており、SD27に分断されている。南北長約3.3m、東西長約2.0m、深さ約15cmを測る。

SX4

第29次調査区内自然河道NR6の右岸に位置する。南北に長い溝の可能性もあるが、北端は調査区外となるため、不明遺構とした。南北長1.8m以上、東西長約50cm、深さ約20cmを測る。

第2節 遺物

遺物については、縄文時代、弥生時代、古代、中世、近世のものが出土している。

1～12は縄文時代後晩期から弥生時代前期の土器である。3・5・6の外底部には縞模様の痕跡が残る。8は後期馬替式の浅鉢であろうか。10は無文土器である。

13～398は弥生時代後期後半から終末期の土器で、甕・壺・高杯・器台等が認められる。甕は有段口縁をもつタイプが多く、擬凹線を施すものとしないものとに分かれる。口縁端部は先細りのものは少なく、丸みを帯びるものが多い。また、体部の器壁も厚みがある。高杯や器台の杯部はラッパ状に広がり、脚部は棒状のものが多い。以上、土器を全体的に概観すると、本調査区の弥生時代は法式の後期後半が主体となる。

399～448は古代須恵器である。器種は壺、盤、蓋、甕、瓶がある。441・446にはヘラ描線刻が認められる。449～458は古代土師器で、甕、壺が見られる。口縁端部はやや内側に向き先細るものが多い。

459～468は中世土師器皿である。口縁端部に大きな変化がないAタイプが主体であるが、468のような大型で底の深い鉢のようなものもある。469と470は瀬戸焼の皿で、470の外底部は回転糸切り痕が認められる。471～473は白磁皿と碗で、471の外底部には「十」と書かれた墨書がある。474～486は珠洲焼である。479・482・483の描鉢口縁端部には波状文が施されている。490は加賀焼甕の体部であるが、表面が磨耗しており、砥石に転用したと思われる。491～495は青磁碗・皿で、491の端反皿の内面見込には花文が認められる。

511～515は土鍤である。515は円柱タイプで、それ以外は砲弾型である。517は獸脚と思われるが、時期は不明である。519は銅製鏡の完形品で、こちらも時期不詳である。

536～558は弥生時代を中心とした石鍬である。出土品の大部分は刃こぼれしていたり、半分に欠損したりと、本調査区付近で土掘り作業を実施したと思われる。536と552は半分に割れたものが接合できた稀な事例である。569～586は砥石である。577～580及び583・584は凝灰岩質で中砥にあたる。585と586は泥岩質の仕上砥である。587はSI3出土の管玉製品である。589～595は管玉未成品で、いずれも緑色凝灰岩である。596は形状から勾玉未成品と推測する。597と598は翡翠製の石で、こちらも玉の未成品と考えられる。なお、観察表で表記している管玉製品と未成品の石材分類や調整は、徳丸ジョウジャダ遺跡の報告書を使用した。A1は濃緑色 硬質、A2は濃緑色 硬質 白色粒・石英粒混じる、B1は淡緑色 硬質、B2は淡緑色 軟質 白色粒・石英粒混じる、である。

第3節 まとめ

本調査区では縄文時代、弥生時代、古代、中近世の遺構・遺物を確認した。

縄文時代は晩期を主体とする土器や打製石斧（石鍬）が点在して見つかった。この地区での人々の定住ではなく、根茎類や球根類を採集するために一時的に営まれた場所と想定する。

弥生時代は前期と後期後半の時期が存在する。前期は土器片が単発的に出土するに留まっていることから、縄文時代同様、短期間の仮住の場であったと思われる。

弥生時代後期は竪穴建物6棟、掘立柱建物5棟を確認することができたことから、居住化がなされたようである。遺構の位置を見ると、1・2棟の竪穴建物と掘立柱建物が1セットとなって50～80m毎に配置されており、散居村のような景観を展開している。また、今回の調査区には直径1.5～2.0m、深さ約1mの円筒土坑を約40基確認しており、SI1～SI3の周りに集中している。円筒土坑は、北陸地城における当該時期の集落跡では普遍的に見られる遺構で、貯蔵穴といわれている。ただし、これだけ多くまとまった数が出るのは稀で、周辺地域に所在する当該時期集落との性格に差異があるかもしれない。なお、密集する各遺構についてエリア毎にまとめたものを下表で示した。

また、本調査区には自然河道が南北間に縱断している。河の覆土からは、弥生土器や石鍬などの石製品が見つかっており、当該時期には流路として機能していたようである。この河の左岸・右岸には集落が展開しており、この河がムラ境となっていたかもしれない。また、自然河道に沿って走っているSD5・6・15・19・23・37などの溝も当該時期になるかもしれない。

古代における主要な遺構は、竪穴建物SI16、掘立柱建物SB6と7、椭円形土坑SK52である。竪穴建物は北加賀地城で多く見られる南東隅にカマドを有するタイプである。掘立柱建物については、柱穴内からは遺物がほとんど確認できていないが、柱穴の掘方プラン等から古代の建物と推察した。ここから約300m南方には、古代北陸道と隣接して竪穴建物群が存在する集落跡が形成されている。今回発見された建物などの遺構はこの集落の一部と考えられる。

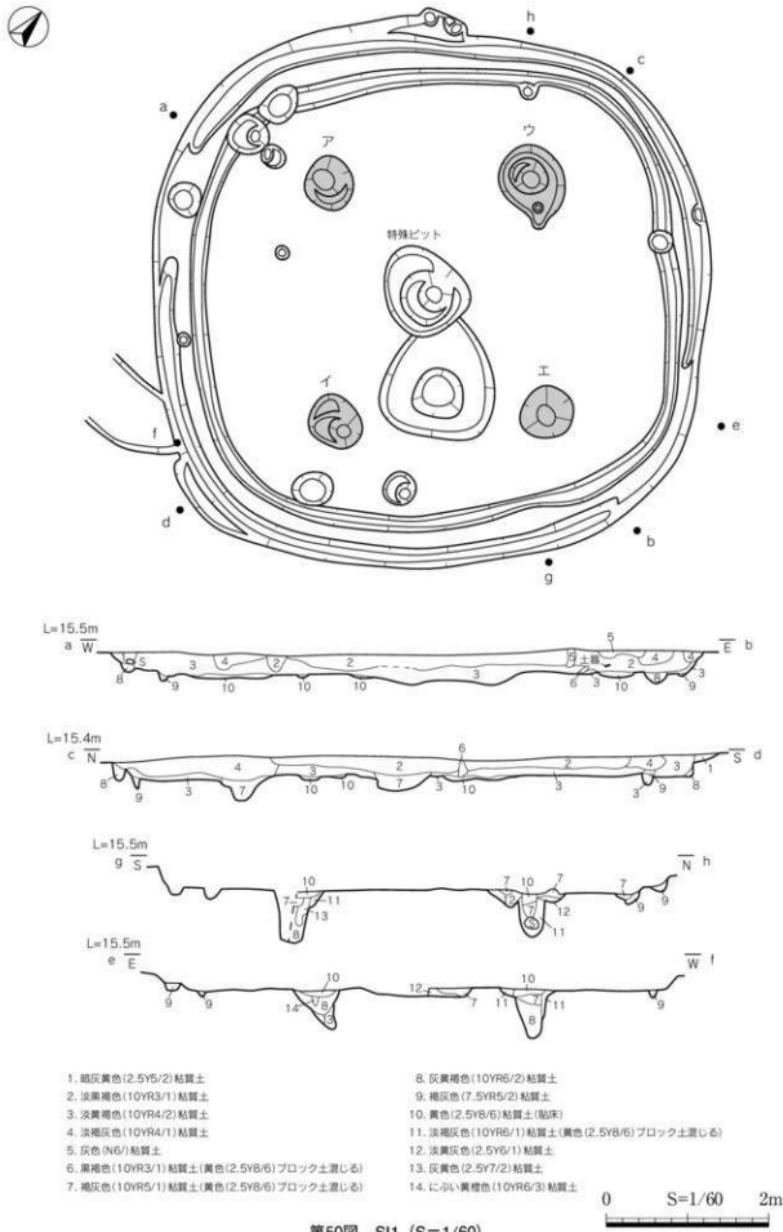
SK52からは401～410の須恵器、453の土師器甕など多くの土器がまとめて出土した。このように大量の土器が埋められるような土坑は、土器祭祀の様相をもった遺構と考えたい。なお、時期は8世紀

第16表 弥生後期 エリア別主要遺構表

エリア	竪穴建物 (SI)	掘立柱建物 (SB)	円筒土坑 (SK)
A	1		5 6 7 8 9
B	2	1	14～16 18～21 38～42 54 55
C	3		25～35 57～65
D	4	2	
E	5 6	5	75

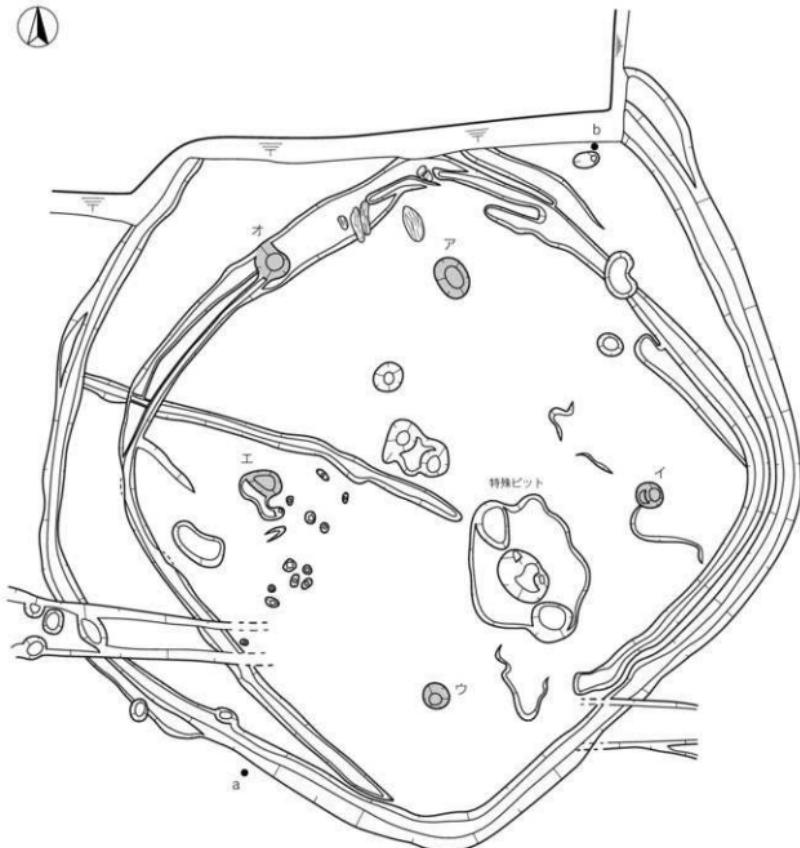
後半～9世紀半ばである。

中世については13世紀後半～15世紀前半の集落跡を確認した。集落はSI13とSB16、SI14とSB17のように堅穴状遺構と掘立柱建物がセット関係となり、これらの施設は、散居村のように分散した配置がなされ、そこにSE1・2のような共同井戸が置かれていたような風景であったようである。また、このような景観のほかに、SI9～11とSB10～13のように南北列に建物等が建ち並ぶ光景が見られる。本調査区の西側での調査（未報告）でも同様に南北方に列をなすような掘立柱建物が配置がなされている。このような状況は本遺跡の西隣にある郷クボタ遺跡でも同様の遺構配列が見て取る。郷クボタ遺跡では側溝をもった道路跡が存在し、その両側に建物が並んで建つ市庭のような性格をもった空間構成であることが認められている。類似した建物配置の様相から、本調査区で確認した建物群のエリアも市庭としての場が存在したと考えていいきたい。なお、現在北方及び南方には「二日市」「三日市」の集落が存在しており、市庭の存在を示唆できる地名が今も残っていることは非常に興味深い。



第50図 SI1 (S=1/60)

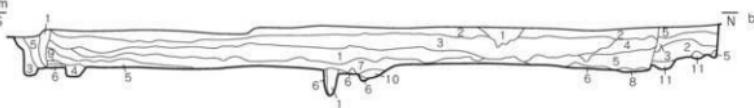
A

 $L=15.7m$

a

S

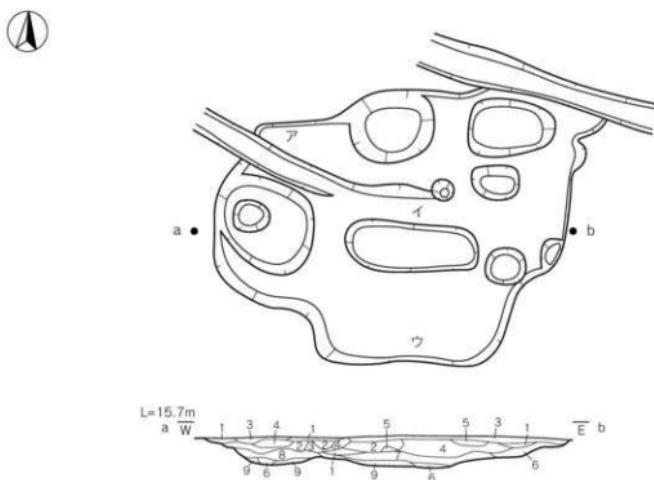
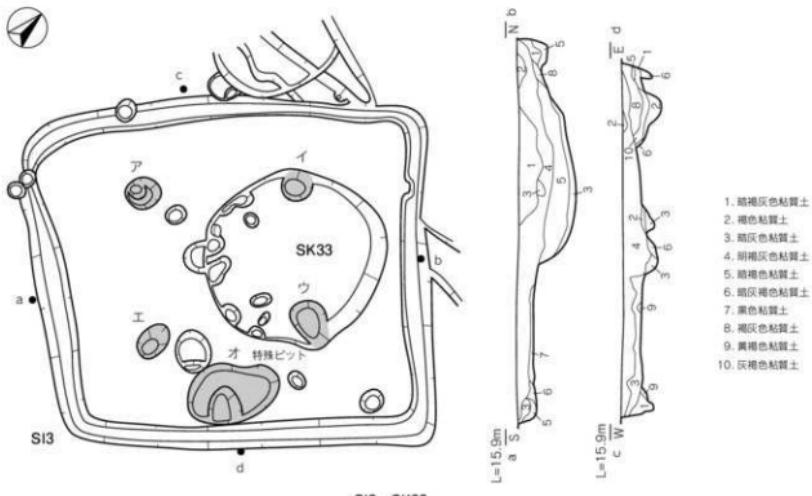
b



- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 開灰色粘質土 | 7. 開褐色粘質土(炭粒多く混じる) |
| 2. 開褐色粘質土 | 8. 開褐色砂質土 |
| 3. 開褐色灰色粘質土 | 9. 開褐色粘質土(やや綿い) |
| 4. 黄褐色粘質土 | 10. 黄褐色粘質土 |
| 5. 開褐色粘質土 | 11. 混開褐色粘質土 |
| 6. 黄褐色粘質土 | |

0 S=1/60 2m

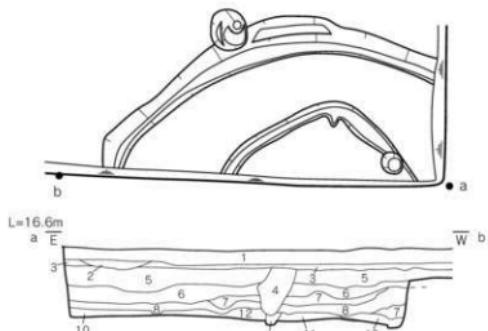
第51図 SI2 (S=1/60)



1. 褐灰色(10YR4/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)
 2. 褐褐色(10YR6/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土・褐色色(10YR4/1)ブロック土混じる)
 3. 褐褐色(10YR5/1)粘質土
 4. 褐褐色(10YR5/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土・黒色(10YR2/1)ブロック土混じる)
 5. 素褐色(10YR3/1)粘質土
6. 黒褐色(10YR3/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)
 7. 黑色(2.5Y5/1)粘質土
 8. 暗灰黄色(2.5YS5/2)粘質土
 9. 黄灰色(2.5Y5/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)

第52図 SI3、8、SK33 (S=1/60)

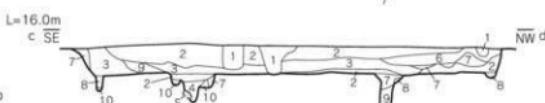
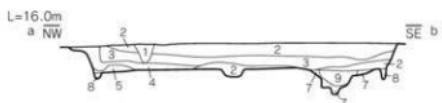
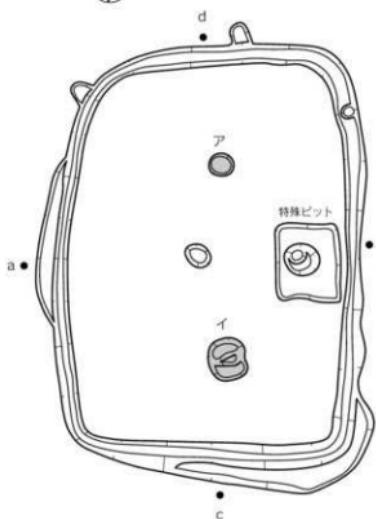
Ⓐ



1. 灰色粘質土(耕土)
2. 濕灰色粘土
3. 褐褐色粘質土
4. 褐褐色粘質土(燒土粒・黃色粒土混じる)
5. 褐褐色粘質土
6. 褐灰色粘質土
7. 暗灰色粘質土
8. 棕色粘質土
9. 暗黃色粘質土
10. 暗褐色粘質土(黃色粒土少量混じる)
11. 黃灰色粘質土

SI4

Ⓑ

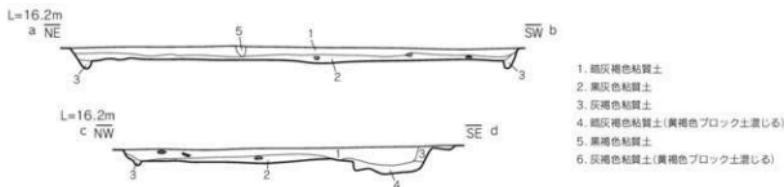
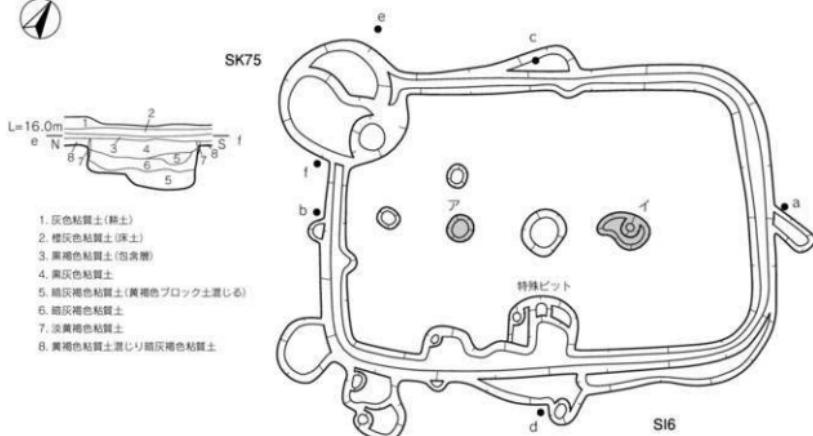


1. 暗色粘質土(褐褐色粘質ブロック土混じる)
2. 棕灰褐色粘質土
3. 暗黃褐色粘質土
4. 褐灰褐色粘質土(燒土・炭化じる)
5. 褐赤褐色粘質土(燒土・炭化じる)
6. 暗灰褐色粘質土
7. 暗褐色粘質土(褐褐色粘質ブロック土混じる)
8. 暗褐色粘質土
9. 暗灰褐色粘質土(炭・褐褐色粘質ブロック土混じる)
10. 暗黃褐色粘質土

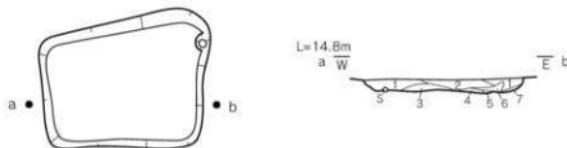
SI5

0 S=1/60 2m

第53図 SI4, 5 (S=1/60)



SI6、SK75

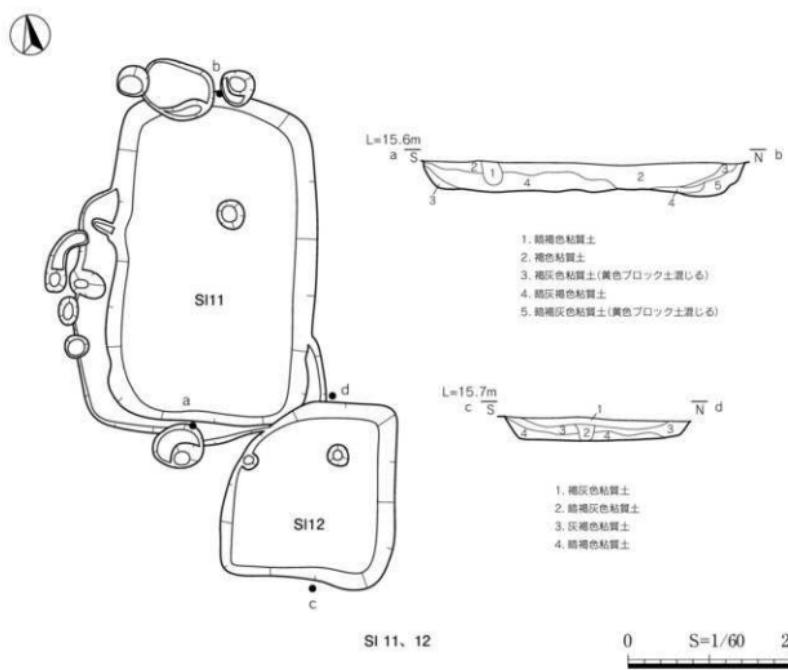
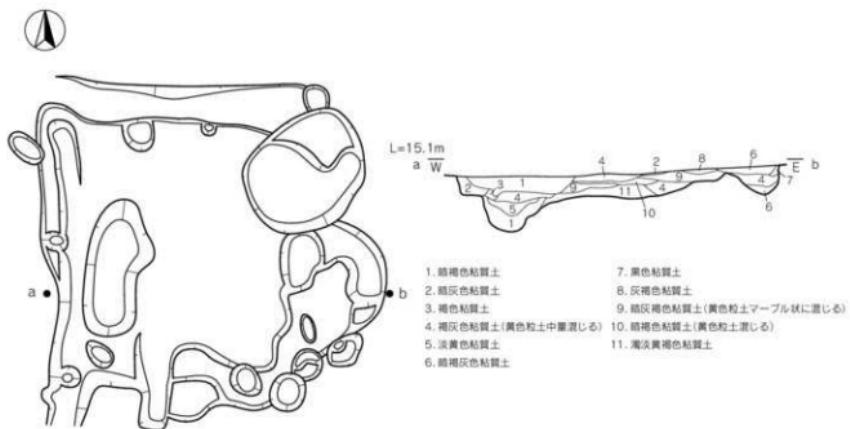


1. 淡黄色(2.5Y6/2)粘質土(黑褐色(10YR3/1)ブロック土混じる)
2. 黑灰色(2.5Y6/1)粘質土
(黑褐色(10YR3/1)ブロック土・黄色ブロック土多混)
3. 灰色(N6)粘質土
4. 売化物
5. 残土
6. 棕灰色(10YR6/1)粘質土
7. 売化物と粘土の混土
8. 淡灰色(N6)粘質土
9. 福灰色(10YR5/1)粘質土

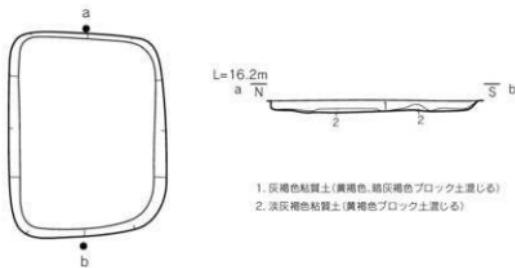
SI7

0 S=1/60 2m

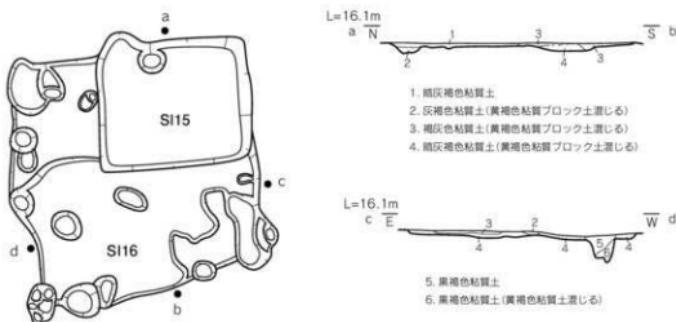
第54図 SI6、7、SK75 (S=1/60)



第55図 SI10 ~ 12 (S=1/60)



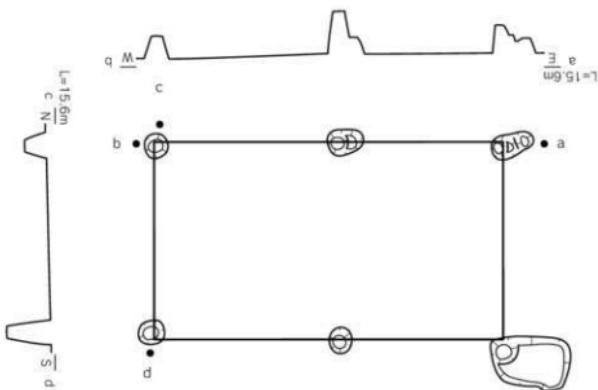
SI13



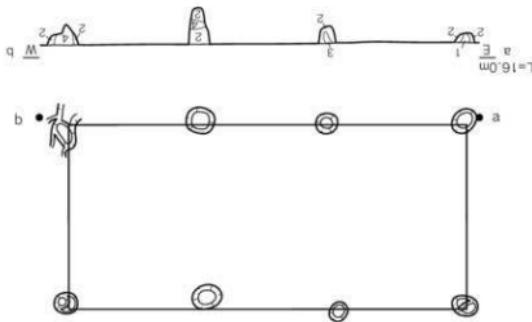
SI15, 16

0 S=1/60 2m

第56図 SI13、15、16 (S=1/60)



SB1

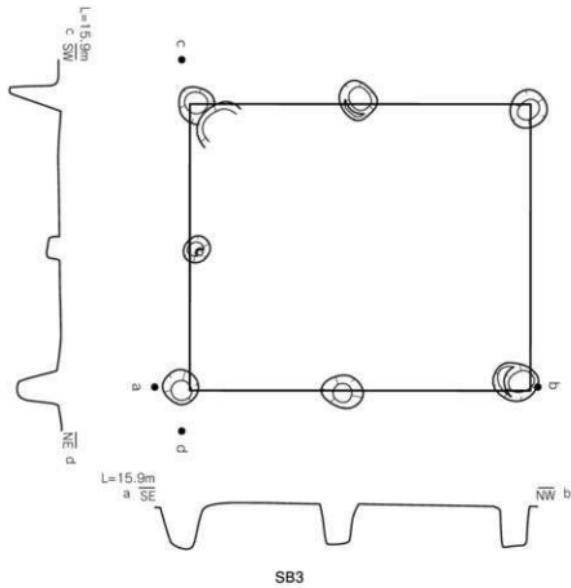


1. 褐灰色(10YR4/1)粘質土
2. 褐灰色(10YR4/1)粘質土(黄色(2.5YB/6)粘質土混じる)
3. 黄色(2.5YB/6)粘質土
4. 黑褐色(10Y3/1)粘質土

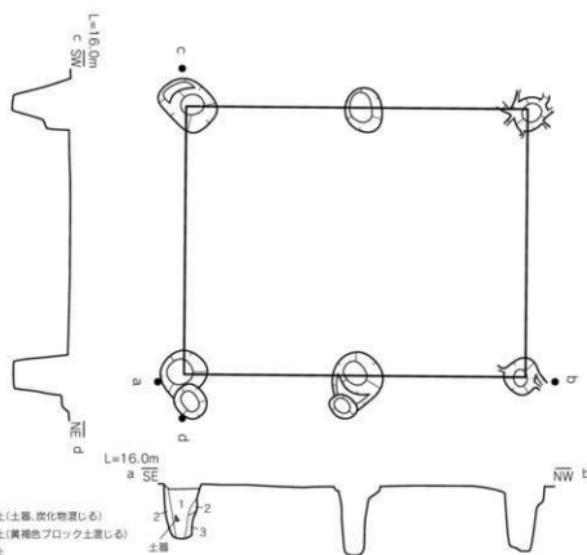
SB2

0 S=1/60 2m

第57図 SB1、2 (S=1/60)



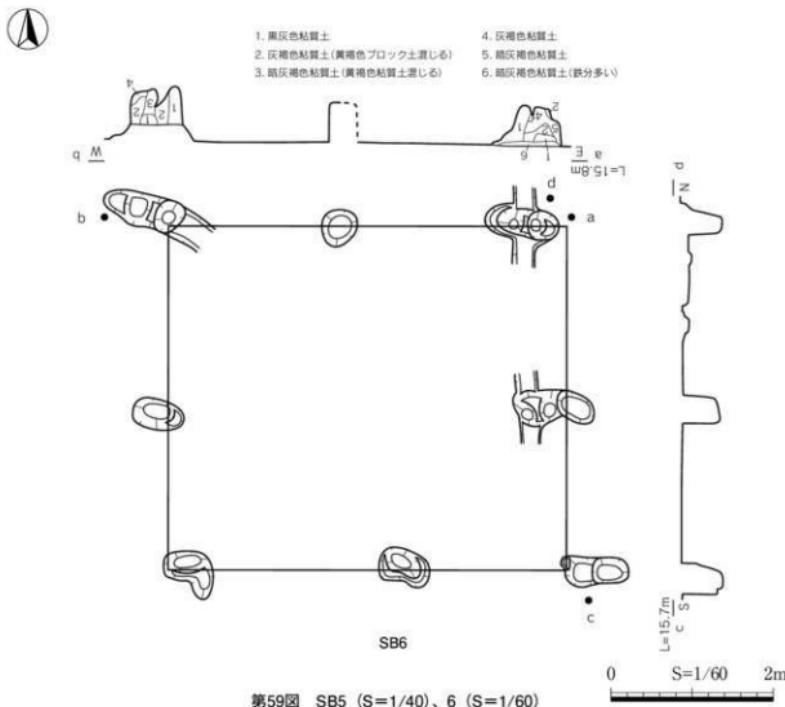
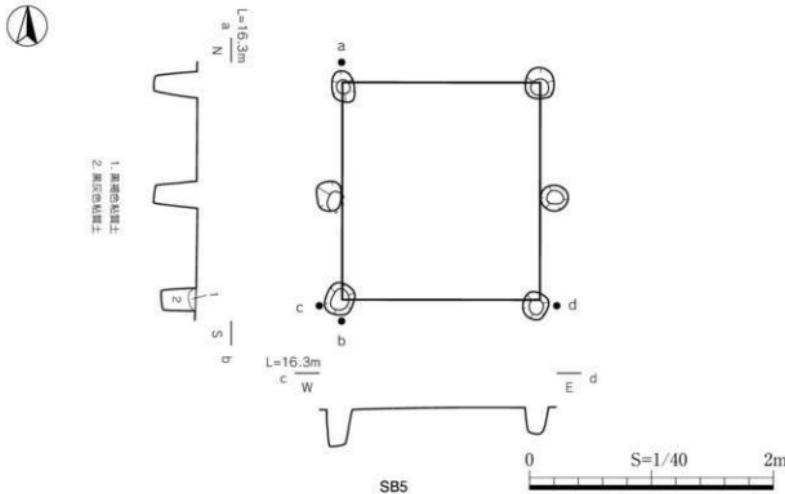
SB3



SB4

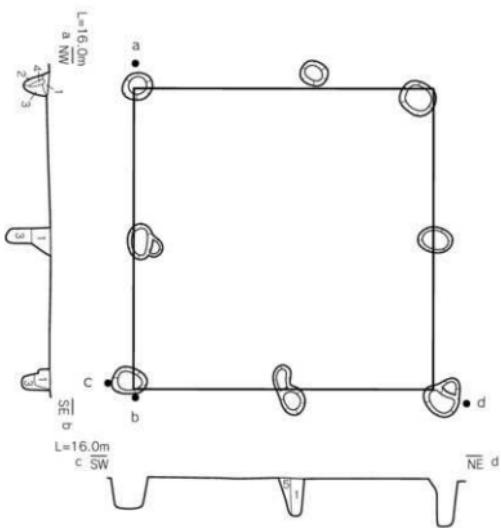
0 S=1/60 2m

第58図 SB3、4 (S=1/60)

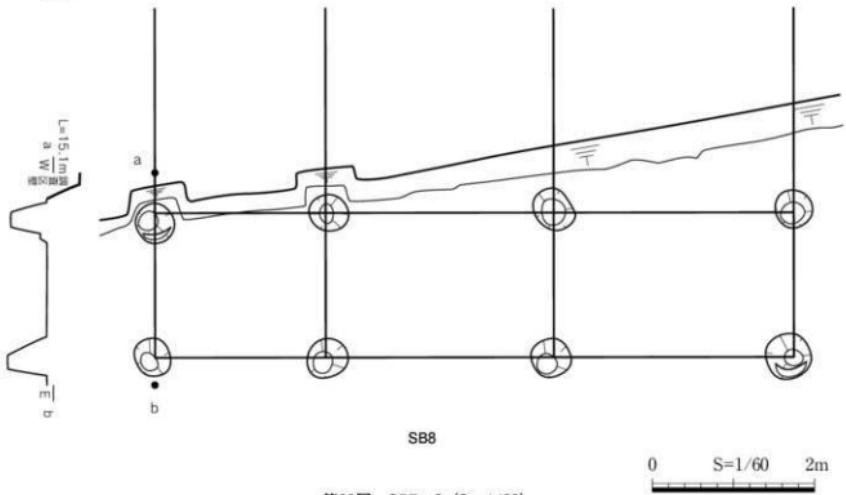


第59図 SB5 ($S=1/40$)、6 ($S=1/60$)

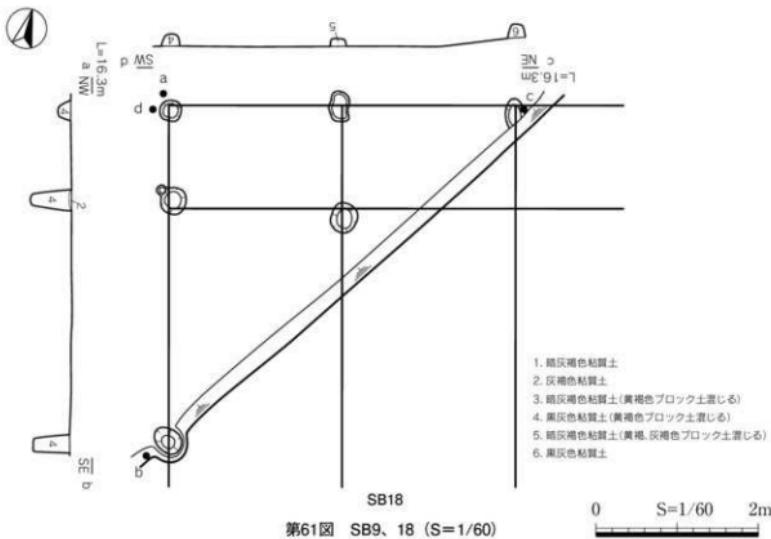
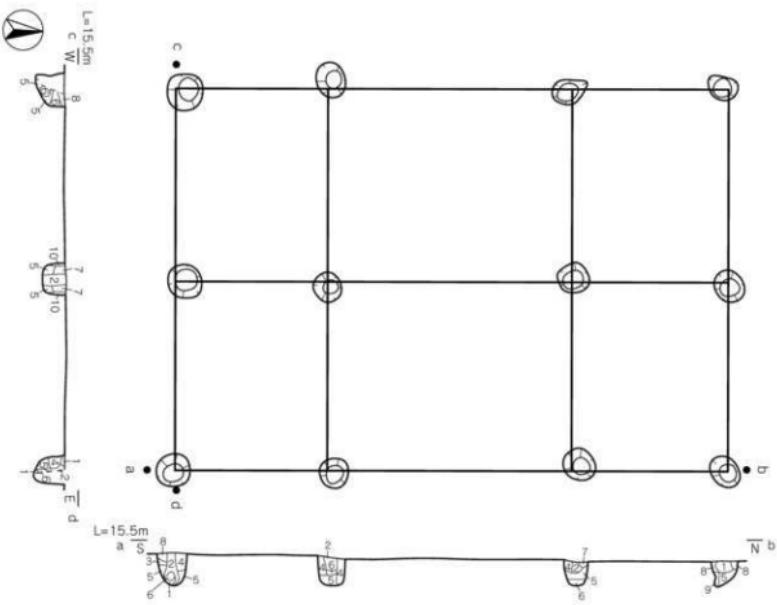
④



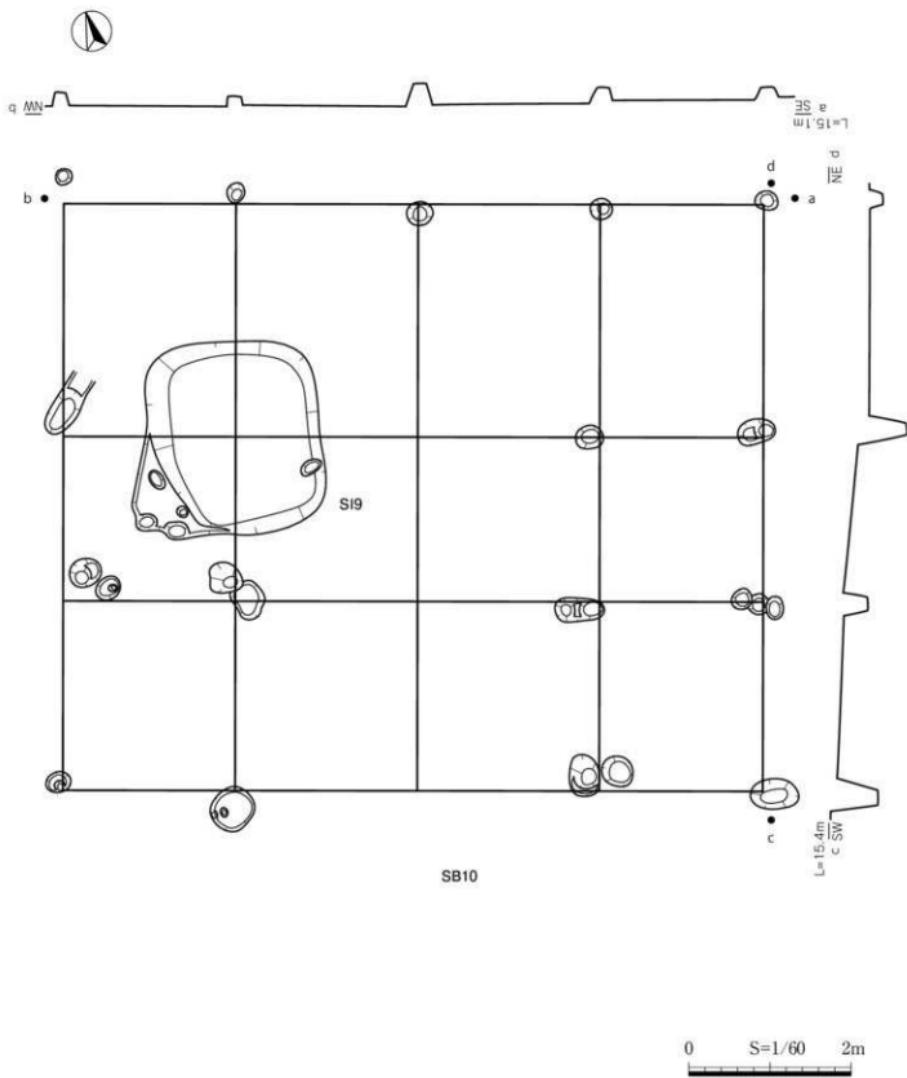
⑤



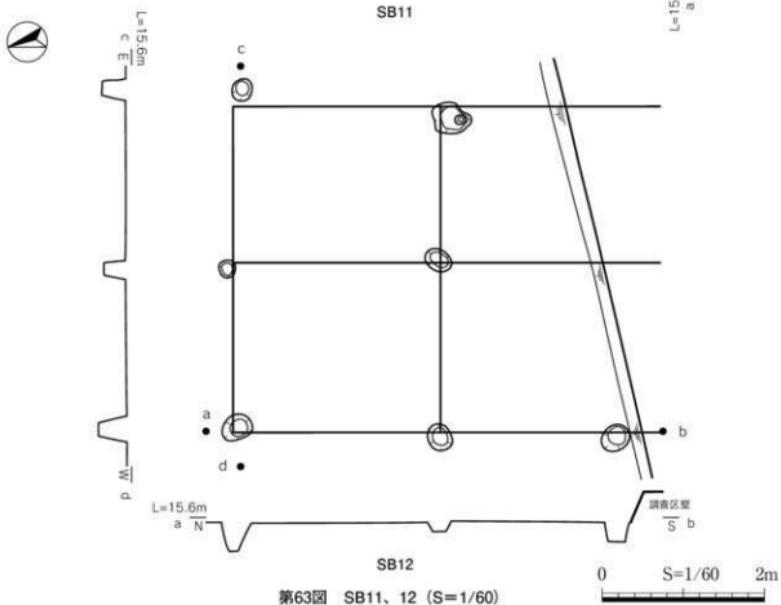
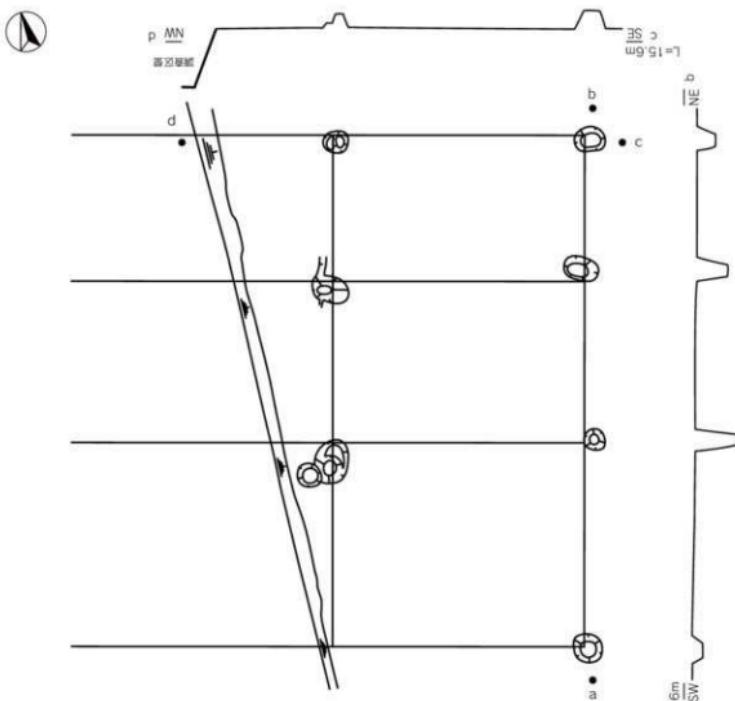
第60図 SB7、8 (S=1/60)



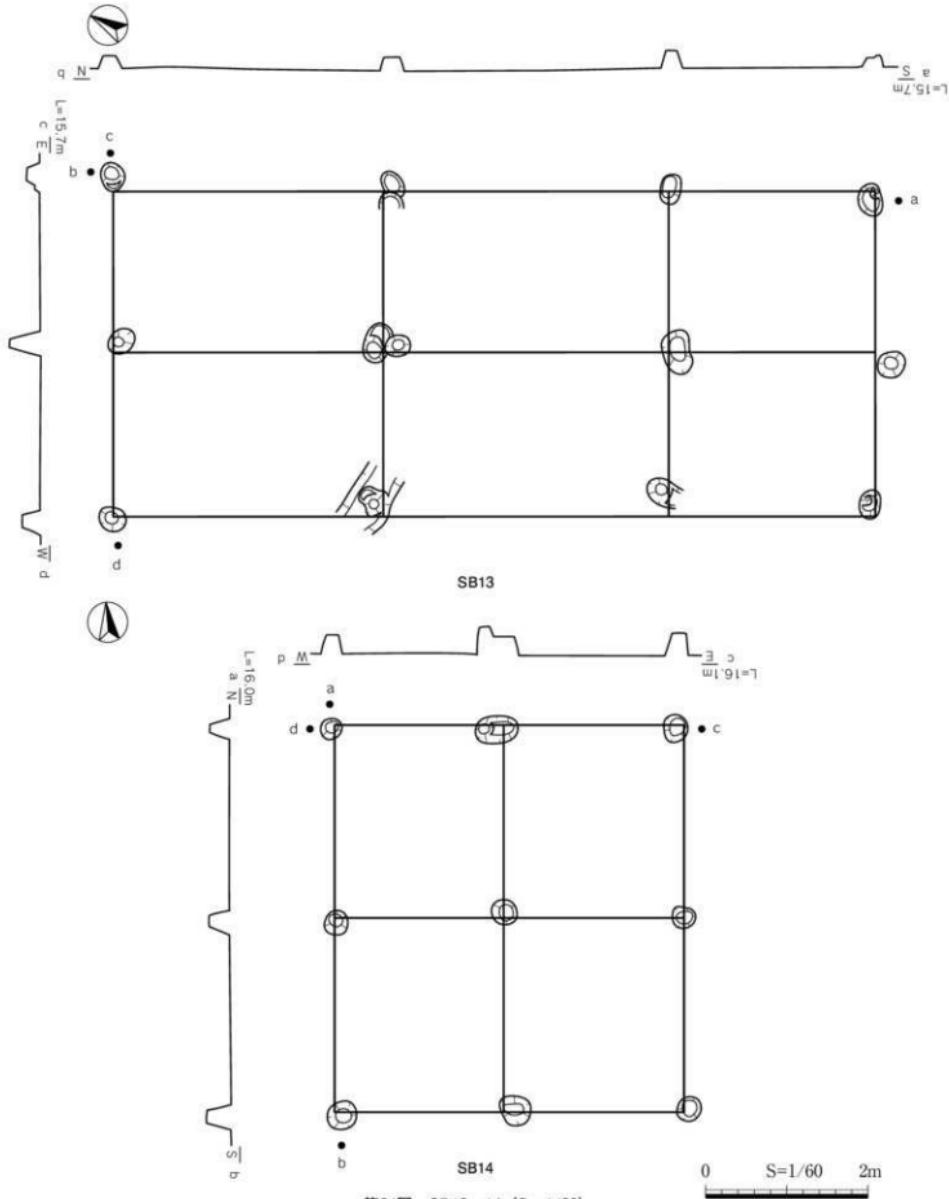
第61図 SB9、18 (S=1/60)



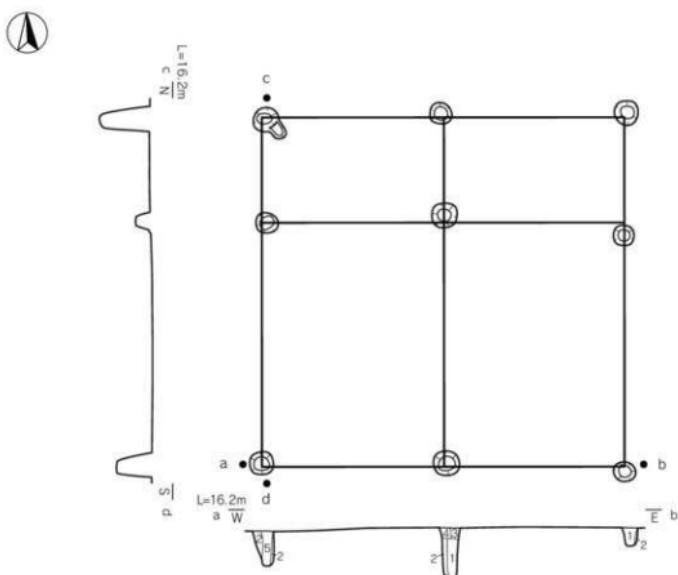
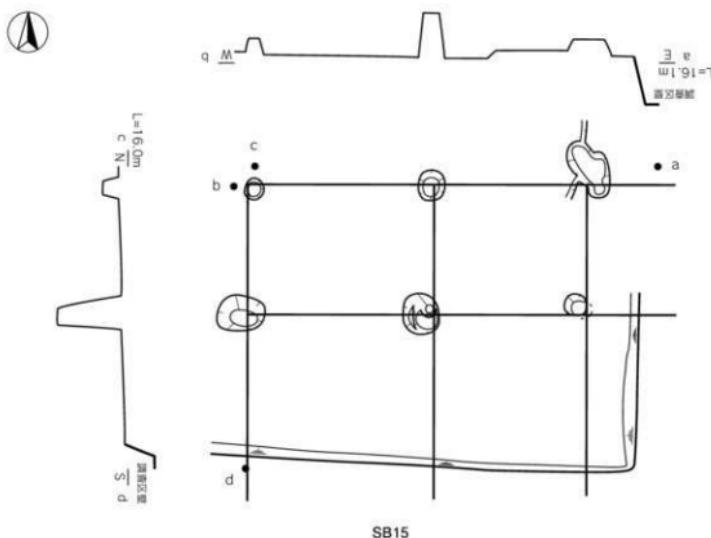
第62図 SB10、SI9 (S=1/60)



第63図 SB11, 12 (S=1/60)



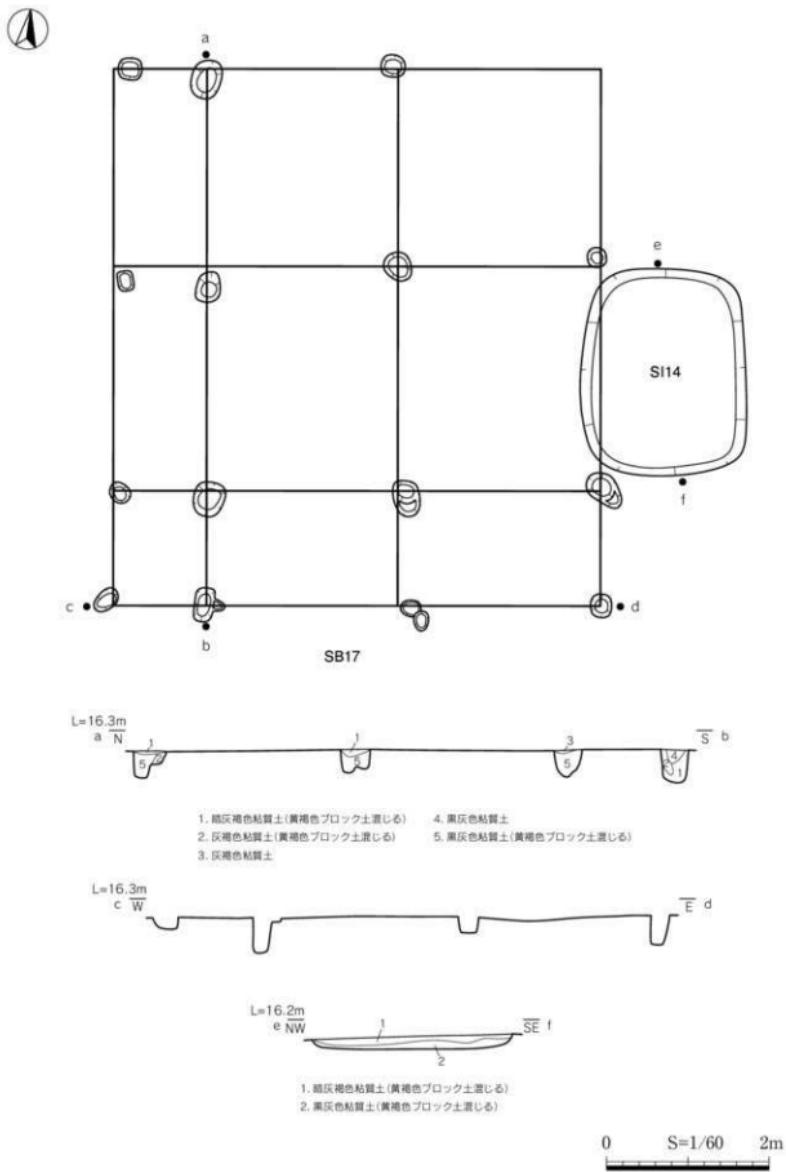
第64図 SB13、14 ($S=1/60$)



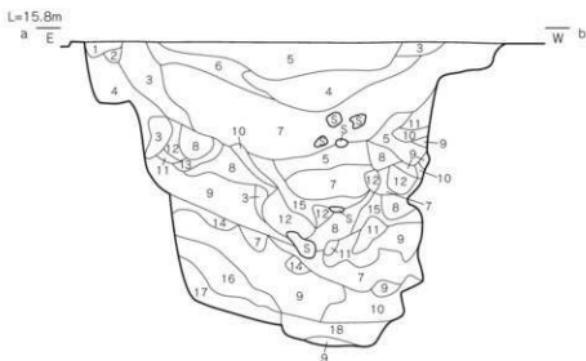
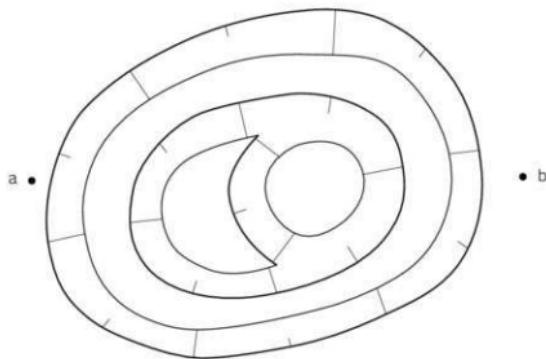
1. 黒褐色粘質土
2. 鮎灰色粘質土 (黄褐色ブロック土混じる)
3. 鮎灰色粘質土 (鉄分混じる)
4. 黄褐色粘質土
5. 黒褐色粘質土 (黄褐色ブロック土混じる)
6. 鮎灰色粘質土

第65図 SB15、16 ($S=1/60$)

0 $S=1/60$ 2m



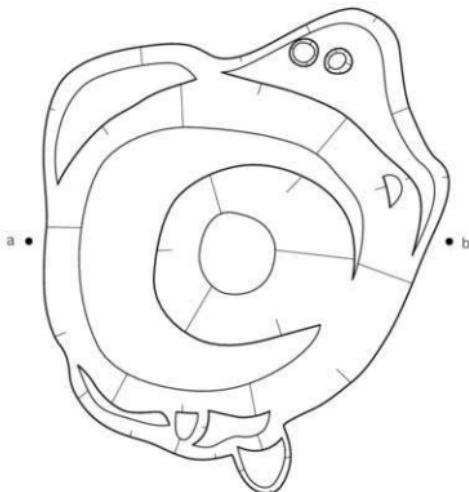
第66図 SB17、SI14 (S=1/60)



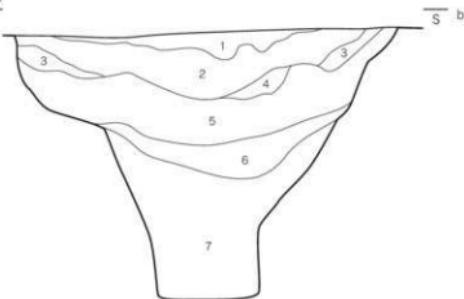
- 1. 反黄褐色(10YR4/2)粘質土
- 2. 淡黄灰色(2.5Y6/1)粘質土
- 3. 黑褐色(10YR3/1)粘質土
- 4. 淡灰色(10YR5/1)粘質土
(黑褐色ブロック土(10YR3/1), 黄色ブロック土(2.5Y6/6)混じる)
- 5. 暗灰色(10YR5/1)粘質土(黄色(2.5Y6/6)ブロック土混じる)
- 6. 暗黄色(2.5Y6/2)粘質土(黑色(10YR2/1)ブロック土混じる)
- 7. 暗灰色(10YR5/1)粘質土
- 8. 淡黑褐色(10YR3/1)粘質土
- 9. 黄色(2.5Y6/6)粘質土(固くたたきしたような土)
- 10. 黄色(2.5Y6/6)粘質土(暗灰色粘土(10YR6/1)混じる)
- 11. 淡反黄褐色(10YR6/2)粘質土
- 12. 淡褐色(10YR4/1)粘質土
- 13. 黑色(10YR2/1)粘質土
- 14. 淡黄褐色(2.5Y6/1)砂質土
- 15. 暗灰色(10YR5/1)砂質土
- 16. 明黄褐色(10YR6/6)粘質土
- 17. 灰色(7.5Y6/1)砂質土
- 18. 黄灰色(2.5Y6/1)粘質土

0 S=1/40 2m

第67図 SE1 (S=1/40)



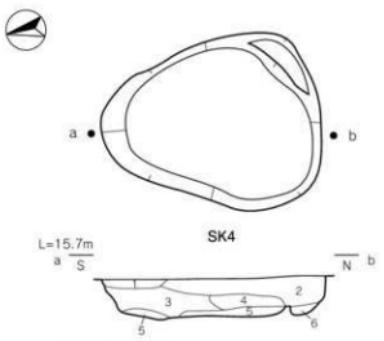
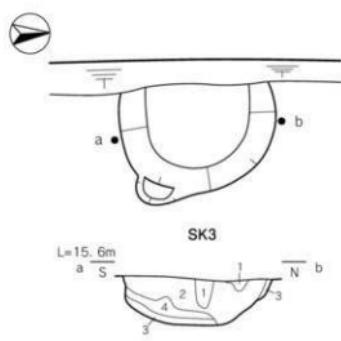
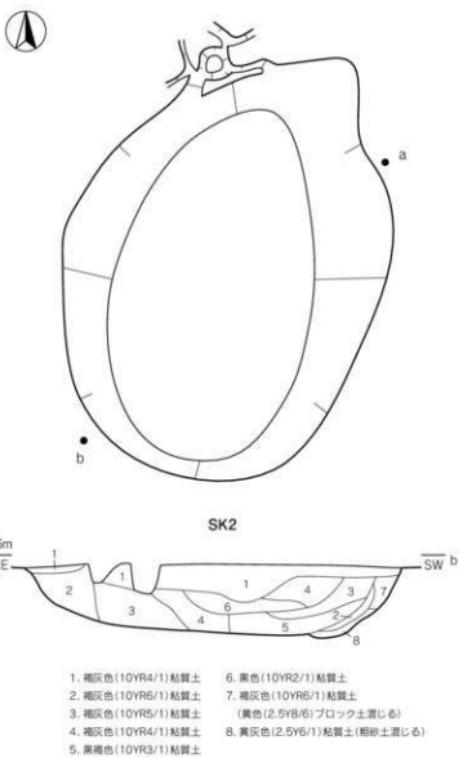
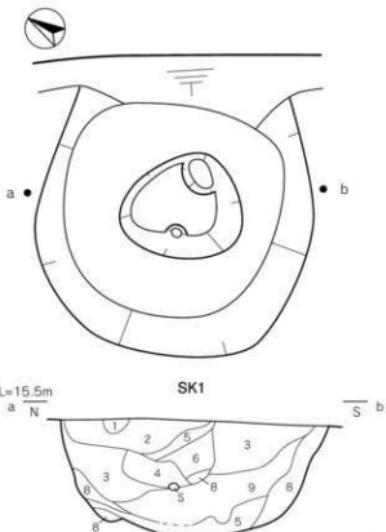
L=16.1m
a N



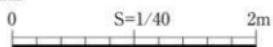
1. 銀灰色粘質土(黄色ブロック土多く混じる)
2. 淡黄色粘質土(銀灰色ブロック土少量混じる)
3. 淡黄色粘質土
4. 銀灰色粘質土
5. 銀灰色粘質土
6. 黒色粘質土(粘性強い)
7. 黒色粘質土(灰色粘質土混じる)

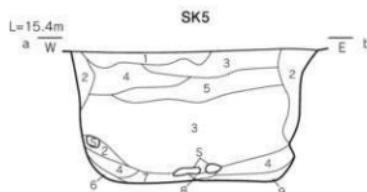
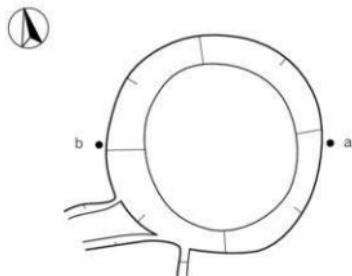
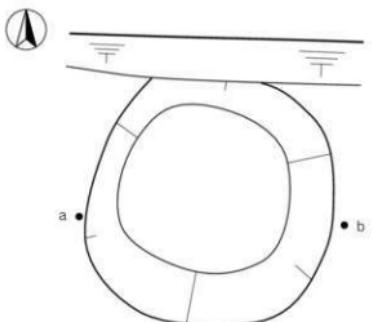
0 S=1/40 2m

第68図 SE2 (S=1/40)

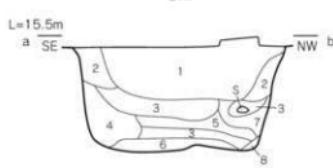


第69図 SK1 ~ 4 (S=1/40)

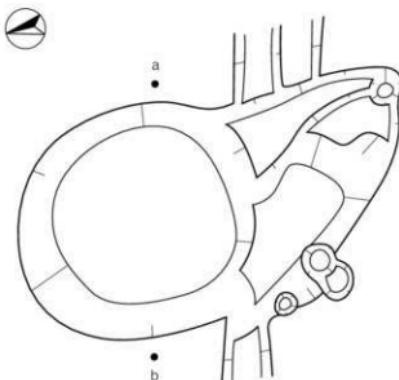




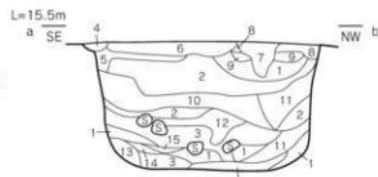
1. 暗灰色(10YR4/1)粘質土
2. 灰黃褐色(10YR5/2)粘質土
3. 淡灰褐色(10YR5/2)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土混じる)
4. 灰黃褐色(10YR6/2)粘質土
(黄色(2.5YB/6)ブロック土・暗褐色(10YR4/1)ブロック土混じる)
5. 淡灰褐色(10YR5/2)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土混じる)
6. 淡褐色(10YR4/1)粘質土(細砂土・礫物混じる)
7. 灰黃褐色(10YR6/2)粘質土(粗砂土・礫物混じる)
8. 黄色(2.5YB/6)粘質土
9. 灰褐色(2.5YB/2)砂質土



1. 黒褐色(10YR3/1)粘質土
2. 黒褐色(10YR3/1)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土混じる)
3. 暗灰褐色(10YR5/2)粘質土
4. 暗黄褐色(10YR6/2)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土混じる)
5. 暗黄褐色(10YR6/2)粘質土
(黄色(2.5YB/6)ブロック土・黒褐色(10YR3/1)ブロック土混じる)
6. 暗灰褐色(10YR6/2)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土多く混じる)
7. 暗褐色(10YR5/2)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土混じる)
8. 淡褐色(10YR4/1)粘質土(粗砂土・礫物混じる)



1. 淡褐色(10YR4/1)粘質土
2. 暗黄褐色(10YR6/2)粘質土
3. 淡灰褐色(10YR6/2)粘質土(粗砂土・礫物混じる)

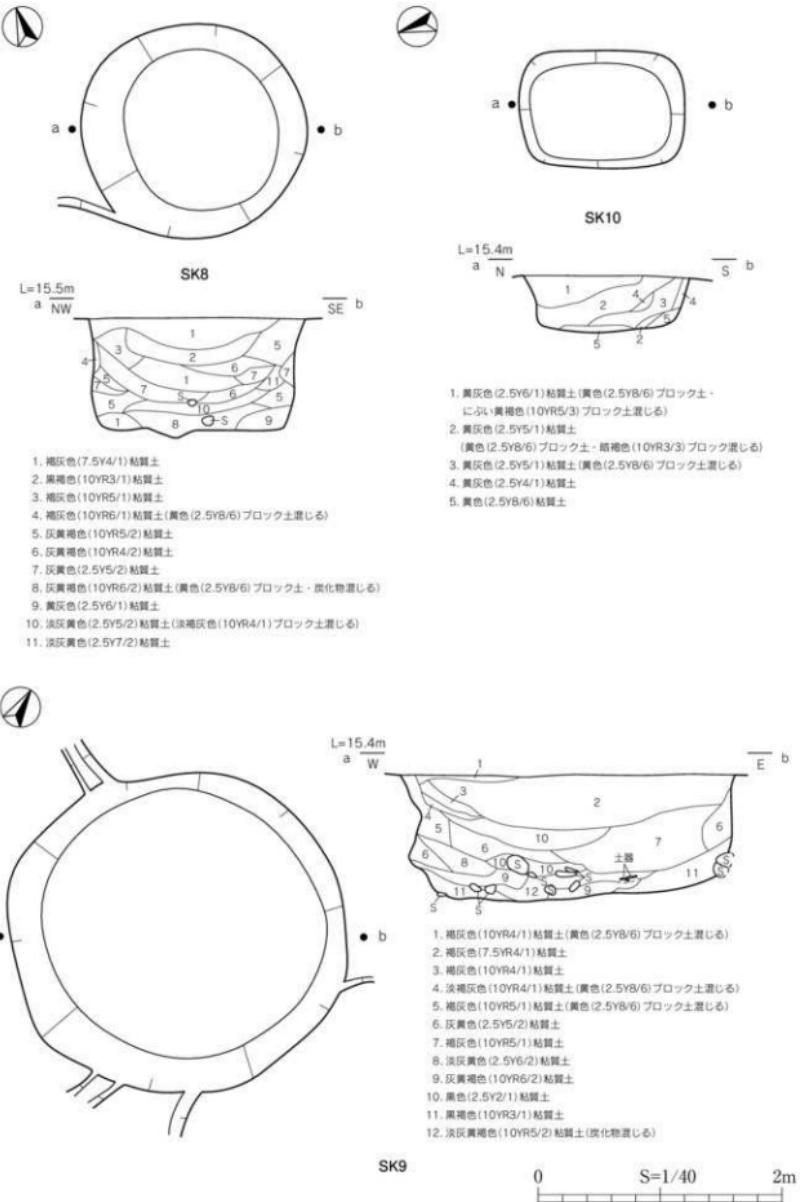


4. に少し黄褐色(10YR6/3)粘質土
5. に少し黄褐色(10YR5/3)粘質土
6. 淡褐色(10YR5/1)粘質土
7. 淡褐色(10YR4/1)粘質土
8. 淡褐色(10YR4/1)粘質土(灰色(6/6)ブロック土混じる)
9. 淡褐色(10YR4/1)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土混じる)
10. 淡褐色(2.5YB/2)粘質土
(黄色(2.5YB/2)ブロック土・黄色(2.5YB/6)ブロック土混じる)
11. 淡褐色(2.5YB/2)粘質土
(黄色(2.5YB/2)ブロック土・黄色(2.5YB/6)ブロック土混じる)
12. 淡褐色(2.5YB/1)粘質土
13. 淡褐色(10YR6/1)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土混じる)
14. 黄色(2.5YB/6)粘質土
15. 黄色(2.5YB/6)粘質土(黒褐色(10YR6/1)ブロック土混じる)

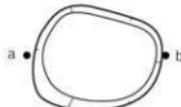
SK6

0 S=1/40 2m

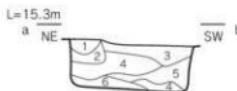
第70図 SK5 ~ 7 (S=1/40)



第71図 SK8～10 (S=1/40)



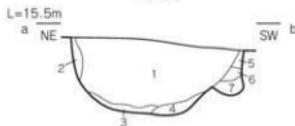
SK11



1. 黄灰色(2.5YB/1)粘質土
2. 黄灰色(2.5YB/1)粘質土(褐色(10YR3/3)ブロック土混じる)
3. 黄灰色(2.5YB/1)粘質土
(黒褐色(10YR2/2)ブロック土・黄色(10YR8/6)ブロック土混じる)
4. 黄灰色(2.5YB/1)粘質土
(黒褐色(10YR2/2)ブロック土・黄色(10YR8/6)ブロック土混じる)
5. 黄灰色(2.5YB/1)粘質土
(黒褐色(10YR2/2)ブロック土・黄色(10YR8/6)ブロック土混じる)
6. 灰黄色(2.5Y6/2)粘質土(黄色(10YR8/6)ブロック土混じる)



SK12

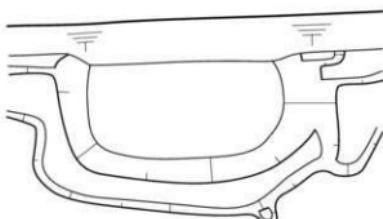


1. 丽青灰(5B7/1)粘質土(鉄分混じる)
2. 丽青灰(5B7/1)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土混じる)
3. 灰色(N6/1)粘質土(炭化物混じる、粘性強)
4. 黄灰色(2.5YB/1)粘質土(粘性強)
5. 灰黄褐色(10YR6/2)粘質土
6. 灰色(N6/1)砂質土
7. 灰色(N6/1)砂質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土混じる)

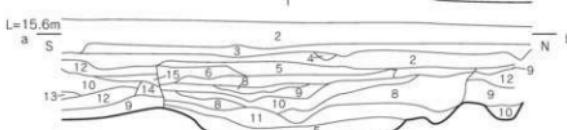


a •

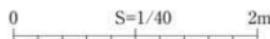
• b



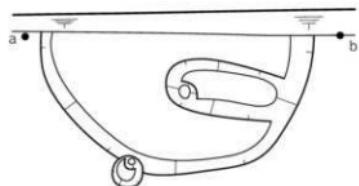
1. 灰色粘質土(薄土)
2. 灰色粘質土(田耕土)
3. 黄褐色粘質土(灰土)
4. 灰褐色粘質土
5. 鹿灰褐色粘質土
6. 灰褐色粘質土
7. 淡灰色粘質土(黄色ブロック土混じる)
8. 淡褐色粘質土(灰色土マーブル状に混じる)
9. 淡灰褐色粘質土
10. 淡褐色粘質土
11. 淡褐色粘質土
12. 鹿灰褐色粘質土
13. 淡褐色粘質土
14. 淡褐色粘質土(淡灰色ブロック土混じる)
15. 淡灰褐色粘質土(黄色土混じる)



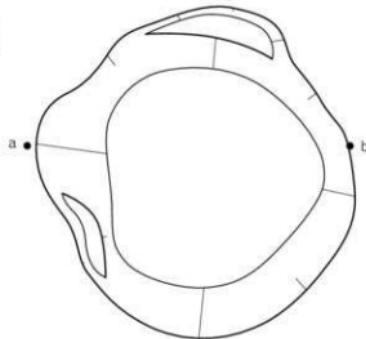
SK13



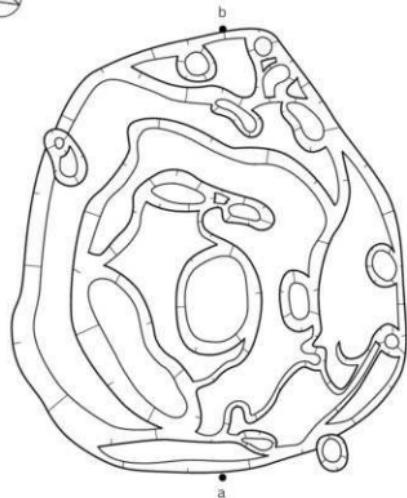
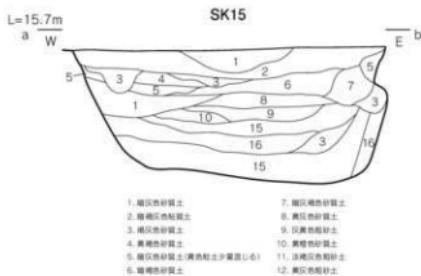
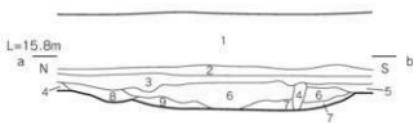
第72図 SK11 ~ 13 (S=1/40)



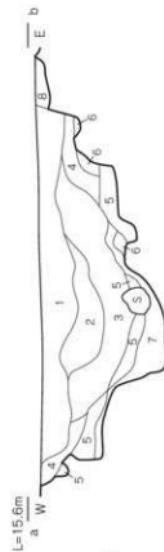
SK14



SK15



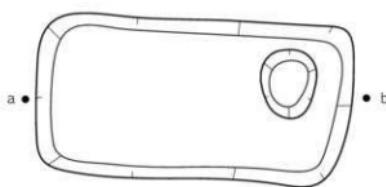
SK16



1. 棕灰色粘质土
2. 棕灰色粘质土
3. 棕灰色粘质土
4. 深褐色粘质土
5. 深褐色粘质土
6. 深褐色粘质土
7. 淡褐色粘质土
8. 棕灰色粘质土

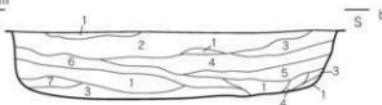
0 S=1/40 2m

第73図 SK14～16 (S=1/40)

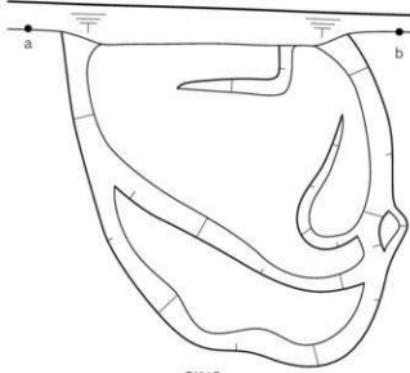


L=15.8m
a N

SK17



1. 黒色粘質土
2. 鮎灰色粘質土(黄色ブロック土混じる)
3. 淡黃色粘質土
4. 鮎灰褐色粘質土(黄色ブロック土混じる)
5. 鮎灰褐色粘質土
6. 鮎灰褐色粘質土
7. 黒色粘質土(黄色粒土混じる)



SK19

1
2
3
4
5
6
7
8

L=15.6m
a S

1. 灰色粘質土(耕土)
2. 灰黃色粘土(原土)
3. 鮎褐色粘質土
4. 鮎灰褐色粘質土
5. 鮎灰褐色粘質土
6. 鮎灰褐色粘質土
7. 黃褐色粘質土
8. 黃褐色粗砂土



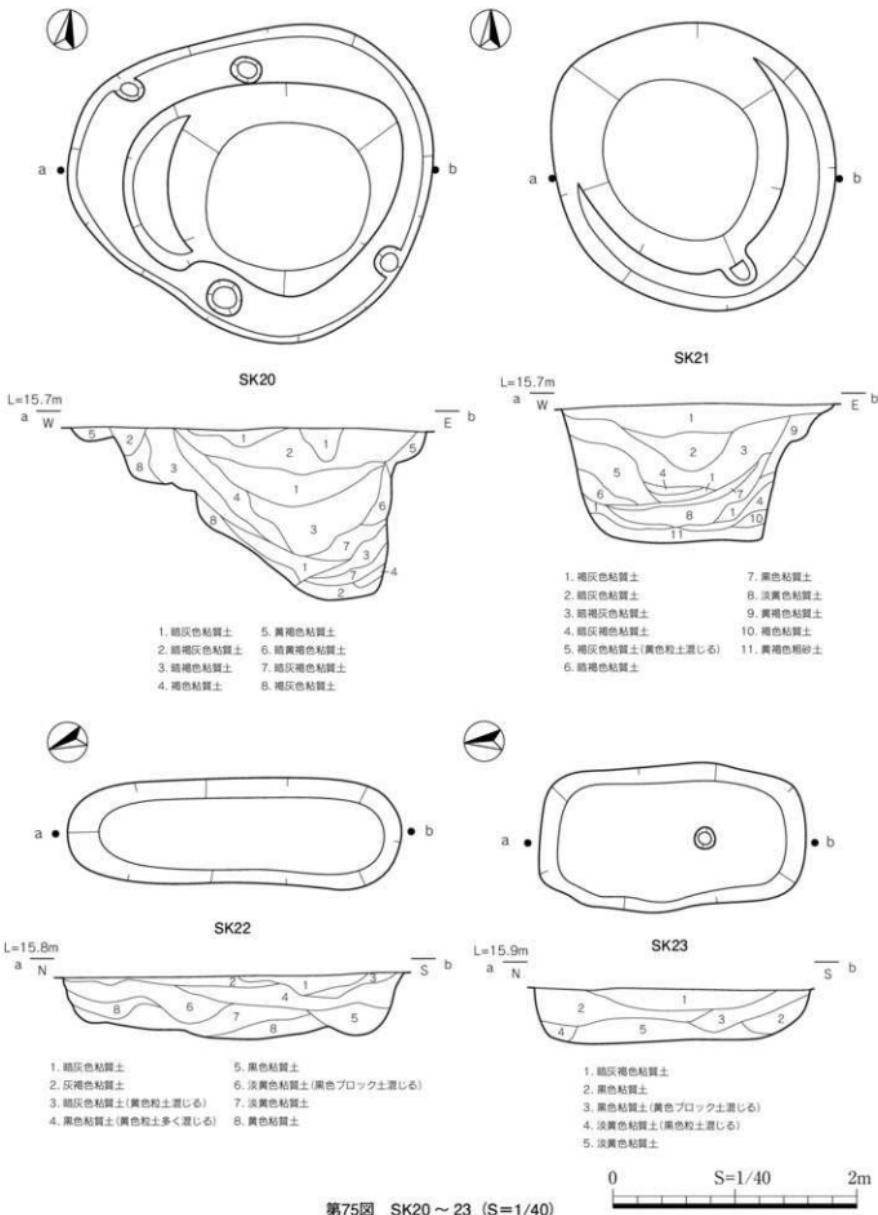
SK18

L=15.6m
a W

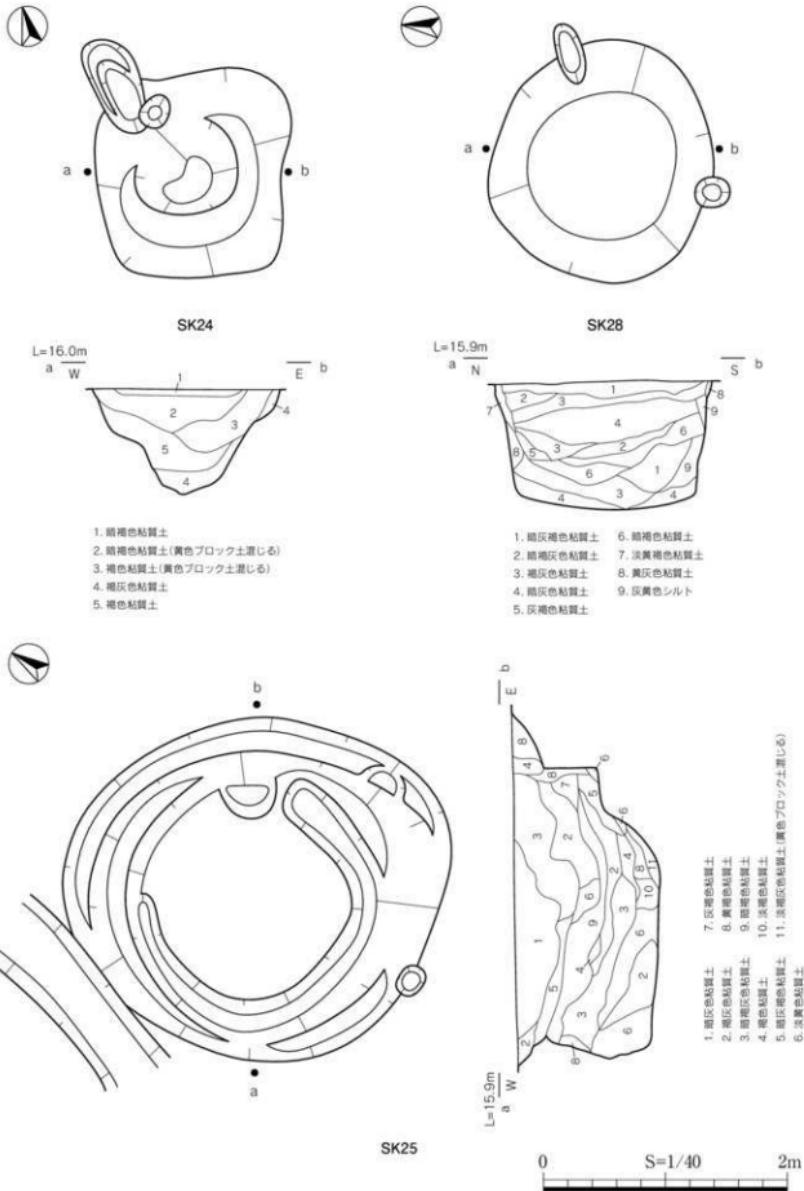
1. 鮎灰色砂質土
2. 鮎褐色砂質土
3. 黑色粘質土
4. 鮎褐色砂質土
5. 鮎灰褐色粘質土
6. 鮎灰褐色粘質土
7. 黄褐色粘質土
8. 鮎灰褐色砂質土
9. 黄褐色砂質土

第74図 SK17 ~ 19 (S=1/40)

0 S=1/40 2m

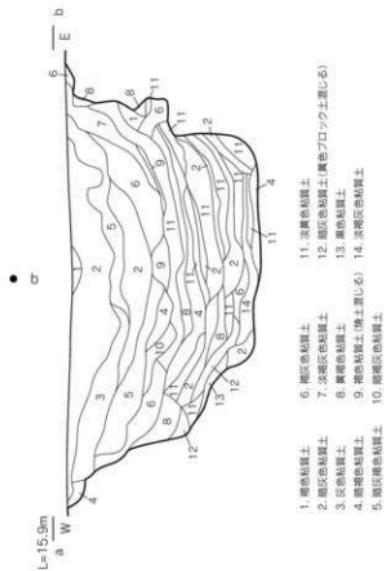
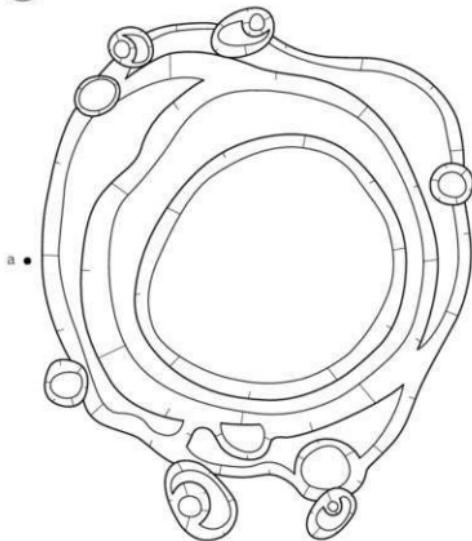


第75図 SK20～23 (S=1/40)



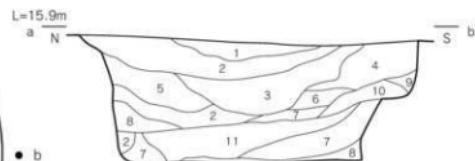
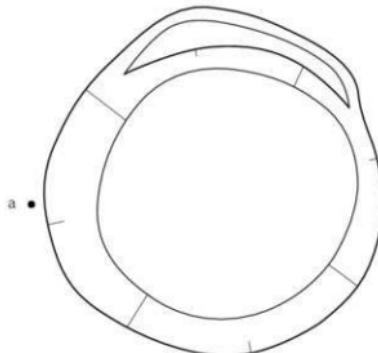
第76図 SK24、25、28 (S=1/40)

(A)

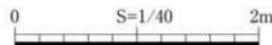


SK26

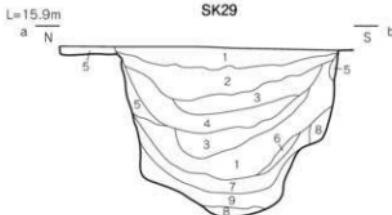
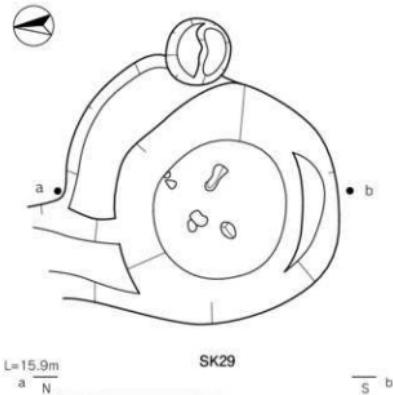
(B)



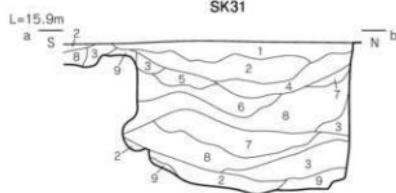
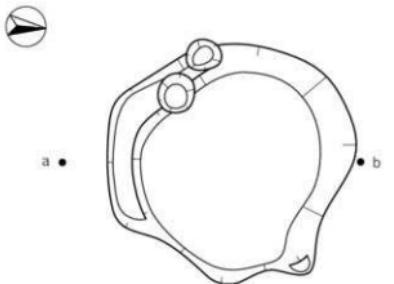
SK27



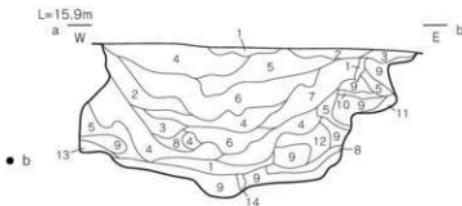
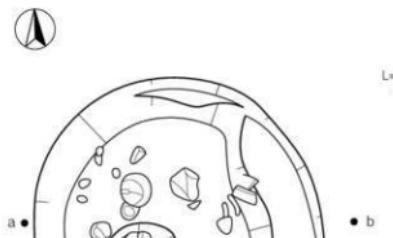
第77図 SK26、27 (S=1/40)



- 1. 褐灰色粘質土
- 2. 褐褐色粘質土
- 3. 褐灰色粘質土
- 4. 褐灰褐色粘質土
- 5. 黄褐色粘質土
- 6. 灰色粘質土
- 7. 淡黄色粘質土
- 8. 黑灰色粘質土
- 9. 淡黄色粗砂土



- 1. 褐褐色粘質土
- 2. 褐灰色粘質土
- 3. 褐灰色粘質土
- 4. 褐灰褐色粘質土
- 5. 淡黄褐色粘質土
- 6. 黄褐色粘質土
- 7. 褐褐色粘質土(黄色ブロック土混じる)
- 8. 淡黄褐色粘質土(褐色ブロック土混じる)
- 9. 淡黄色粘質土

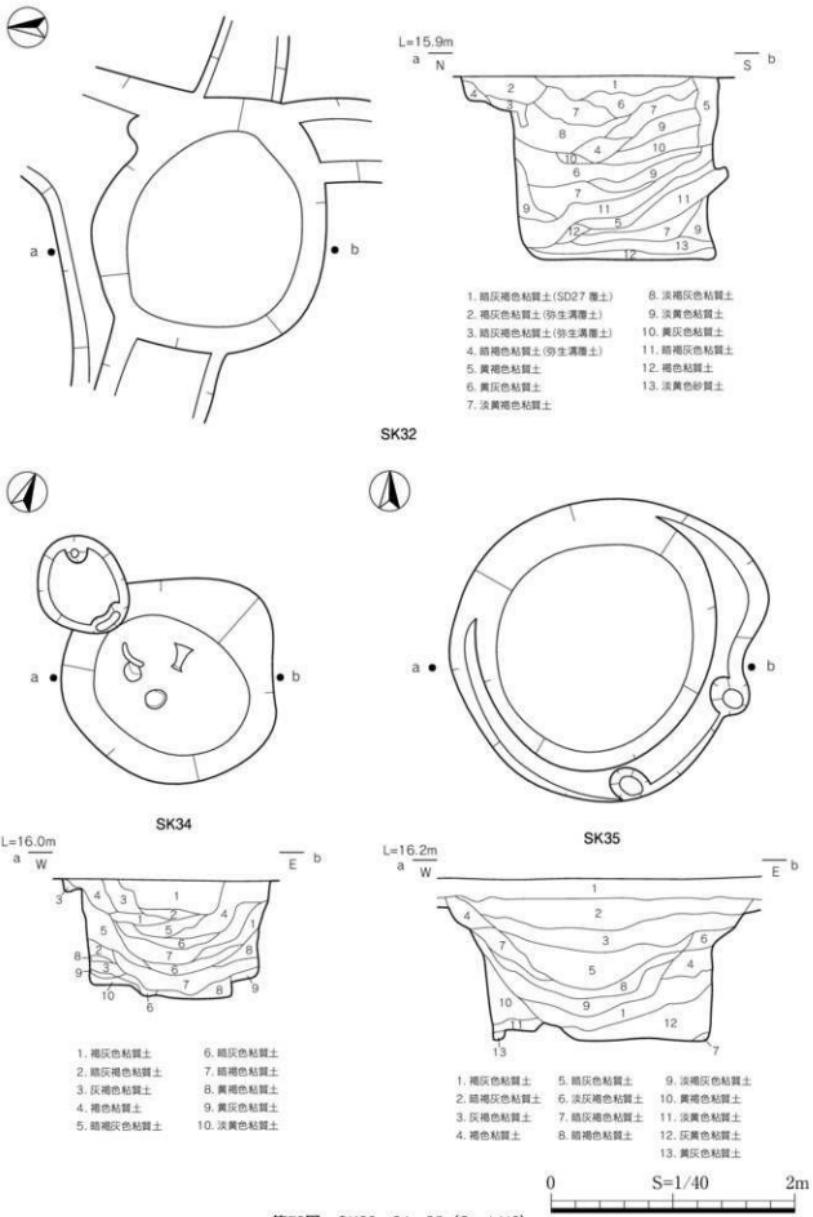


- 1. 褐灰褐色粘質土
- 2. 褐褐色粘質土
- 3. 褐褐色粘質土
- 4. 褐褐色粘質土
- 5. 灰褐色粘質土
- 6. 褐灰色粘質土
- 7. 棕色粘質土
- 8. 褐灰色粘質土
- 9. 淡黄色粘質土
- 10. 黑灰色粘質土
- 11. 黄褐色粘質土(地山質)
- 12. 淡褐色粘質土
- 13. 淡黄色シルト
- 14. 褐灰色砂質土

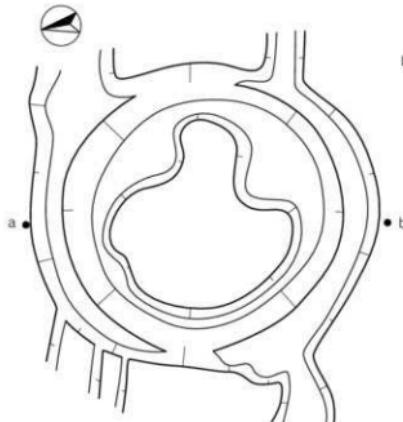
SK30

0 S=1/40 2m

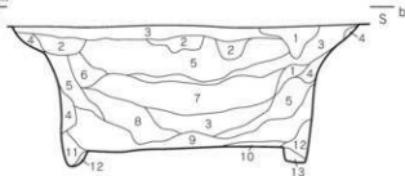
第78図 SK29～31 (S=1/40)



第79図 SK32、34、35 (S=1/40)

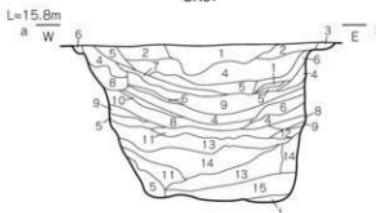
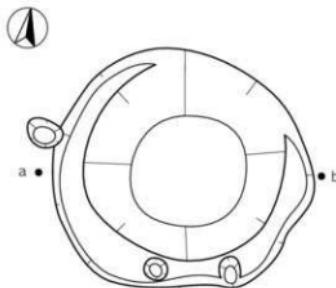


L=15.8m
a N

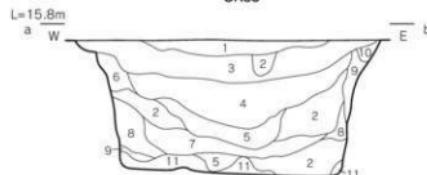
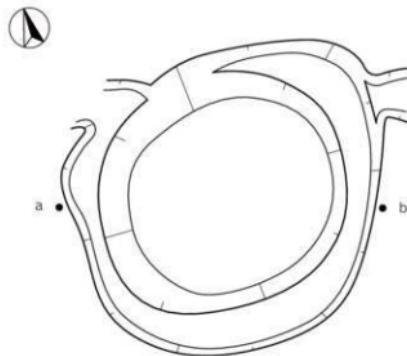


- 1. 鮎褐色粘質土
- 2. 淡褐色粘質土
- 3. 深灰褐色粘質土
- 4. 黃褐色粘質土
- 5. 淡褐色粘質土
- 6. 褐色粘質土
- 7. 灰灰色粘質土
- 8. 淡褐色粘質土
- 9. 深褐色粘質土
- 10. 深褐色粘質土(塊土層)
- 11. 淡赤褐色粘質土(塊土混じる)
- 12. 灰灰色粘質土(塊土混じる)
- 13. 褐赤褐色粘質土(塊土混じる)

SK36



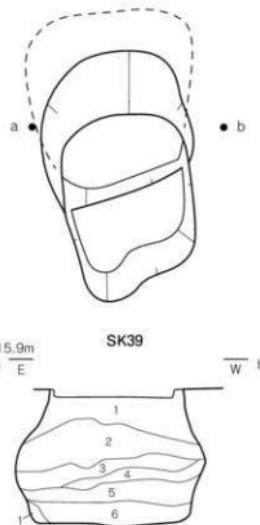
- 1. 褐灰色粘質土
- 2. 鮎褐色粘質土
- 3. 黄褐色粘質土
- 4. 淡灰褐色粘質土
- 5. 鮎灰色粘質土
- 6. 鮎褐色粘質土
- 7. 灰褐色粘質土
- 8. 黑色粘質土
- 9. 淡黄色粘質土(固くしまる)
- 10. 深灰褐色粘質土
- 11. 白色粘質土(暗灰色ブロック土混じる)
- 12. 淡黄色粘質土(固くしまる)
- 13. 黄白色粘質土
- 14. 黄褐色粘質土
- 15. 棕白色粘質土(黄色ブロック土混じる)



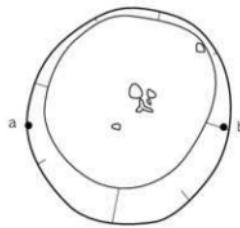
- 1. 鮎褐色粘質土
- 2. 淡褐色粘質土
- 3. 淡褐色粘質土
- 4. 鮎褐色粘質土
- 5. 鮎灰褐色粘質土
- 6. 淡褐色粘質土
- 7. 灰褐色粘質土
- 8. 淡褐色粘質土(黄色土混じる)
- 9. 黄褐色粘質土
- 10. 褐色粘質土
- 11. 深褐色粘質土(褐色ブロック土・块土混じる)

第80図 SK36 ~ 38 (S=1/40)

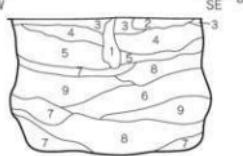
0 S=1/40 2m



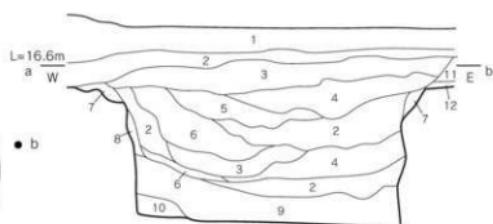
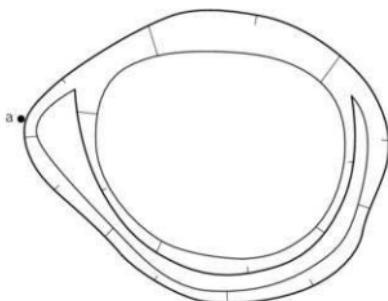
1. 淡黃色粘質土
2. 暗灰褐色粘質土
3. 褐褐色粘質土(黄色土混じる)
4. 褐褐色粘質土
5. 褐褐色粘質土
6. 暗灰褐色粘質土



$L=15.7m$



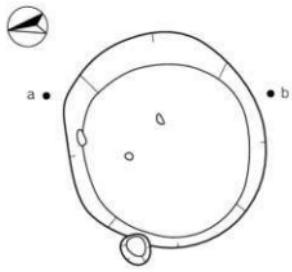
1. 褐褐色粘質土
2. 黄褐色粘質土
3. 暗灰褐色粘質土
4. 黄反色粘質土
5. 暗灰色粘質土
6. 暗灰色粘質土(黄色ブロック土混じる)
7. 淡黄色粘質土
8. 黄色粘質土



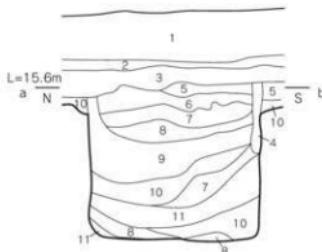
1. 反色粘質土(耕土)
2. 暗灰褐色粘質土
3. 褐褐色粘質土
4. 暗灰褐色粘質土
5. 暗灰褐色粘質土
6. 反褐色粘質土
7. 暗黄色粘質土
8. 黄褐色粘質土
9. 黄灰色粘質土
10. 暗黄色粘質土
11. 褐褐色粘質土
12. 褐色粘質土

0 S=1/40 2m

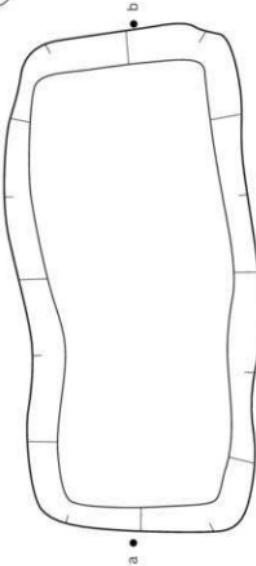
第81図 SK39～41 (S=1/40)



SK42

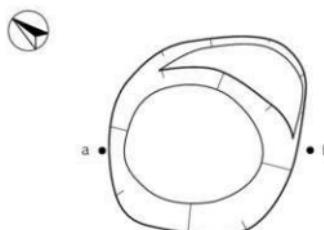


1. 深土
2. 鮎褐色粘質土
3. 鮎褐色灰化粘質土
4. 暗褐色粘質土
5. 鮎灰褐色粘質土
6. 淡灰褐色粘質土
7. 反黃色粘質土
8. 淡黃色粘質土
9. 黄褐色粘質土
10. 暗黃褐色粘質土
11. 淡灰黃色粘質土



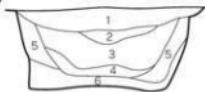
SK44

1. 鮎褐色粘質土(層面プロック土に覆る)
2. 鮎灰色粘質土(層面プロック土に覆る)

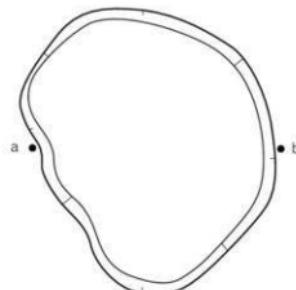


SK43

L=15.7m
a NW b



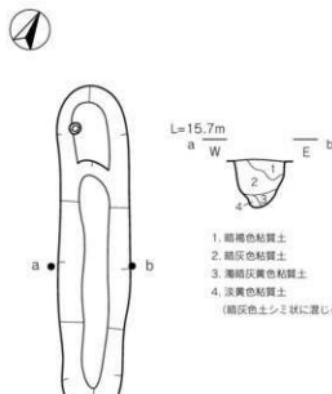
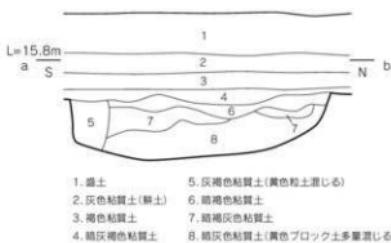
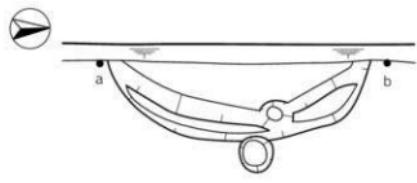
1. 鮎灰色粘質土
2. 鮎褐色粘質土
3. 鮎灰褐色粘質土
4. 淡暗褐色粘質土
5. 淡黃褐色粘質土



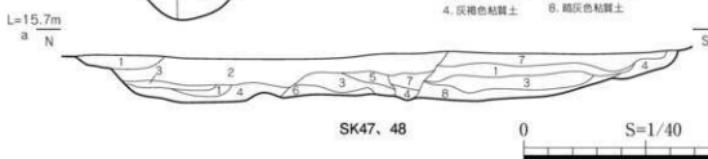
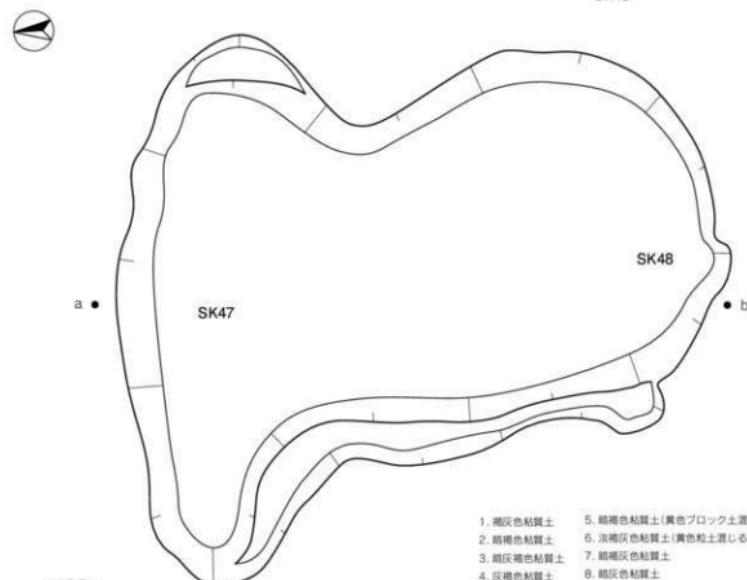
1. 鮎灰褐色粘質土
2. 暗褐色粘質土
3. 鮎灰色粘質土

0 S=1/40 2m

第82図 SK42 ~ 45 (S=1/40)

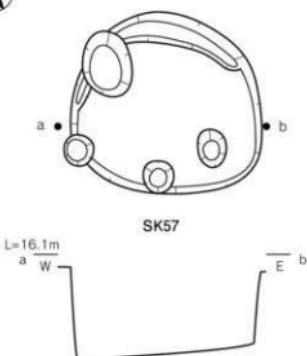
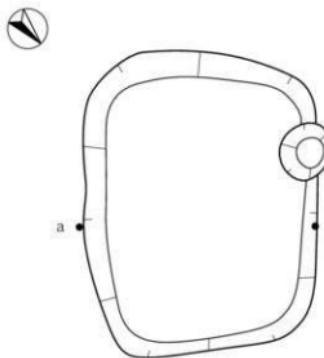
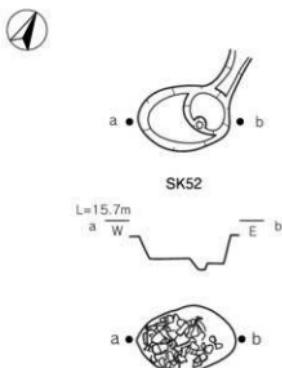
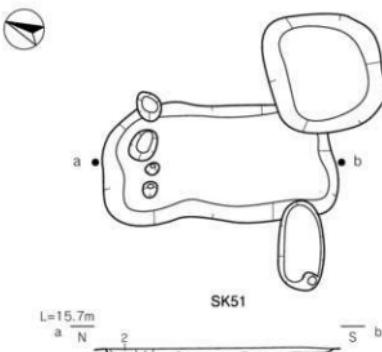
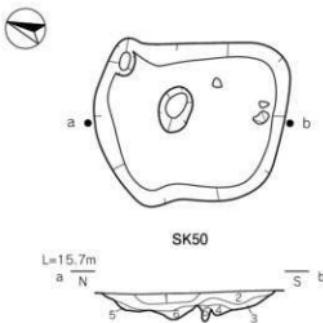


SK49



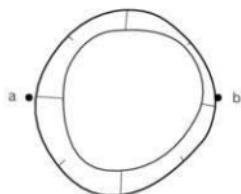
0 S=1/40 2m

第83図 SK46～49 (S=1/40)



第84図 SK50 ~ 53、57 (S=1/40)

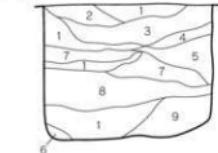
0 S=1/40 2m



$L=16.6m$
a W
b

SK54

E b



- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 鮎灰色粘質土 | 6. 淡黃色粘質土 |
| 2. 褐灰色粘質土 | 7. 淡黃色粘質土 |
| 3. 墓灰色粘質土 | 8. 鮎灰色粘質土 |
| (黄色ブロック土混じる) | (黄色ブロック土混じる) |
| 4. 淡褐色粘質土 | 9. 鮎灰色粘質土 |
| 5. 淡灰褐色粘質土 | (黄色粒土混じる) |

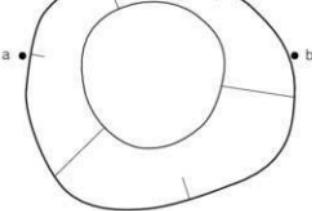


$L=16.6m$
a NW
b

SK55



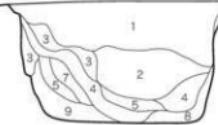
- | | |
|------------|---------------|
| 1. 鮎褐色粘質土 | 8. 淡黃色粘質土 |
| 2. 黄褐色粘質土 | (淡褐色土シミ状に混じる) |
| 3. 墓灰褐色粘質土 | 9. 淡褐色粘質土 |
| 4. 淡褐色粘質土 | 10. 淡黃色粘質土 |
| 5. 淡褐色粘質土 | (やや弱い) |
| 6. 淡黃色粘質土 | 11. 淡黄灰色粘質土 |
| 7. 淡灰褐色粘質土 | 12. 淡黄褐色粘質土 |



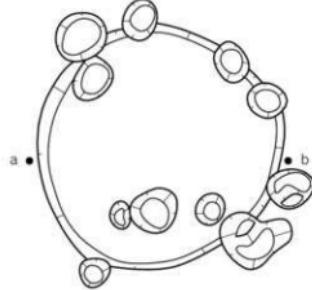
$L=15.8m$
a E
b

SK56

W b

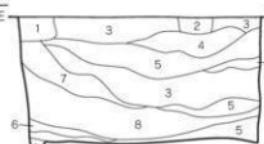


- | | |
|-----------|------------------|
| 1. 鮎褐色粘質土 | 6. 黄褐色粘質土 |
| 2. 黑色粘質土 | 7. 黄褐色粘質土(斑に混じる) |
| 3. 淡褐色粘質土 | 8. 黄褐色粘質土 |
| 4. 鮎灰色粘質土 | 9. 淡灰褐色粘質土 |
| 5. 淡褐色粘質土 | |



$L=16.6m$
a NE
b

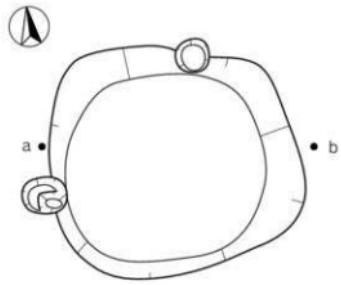
SK58



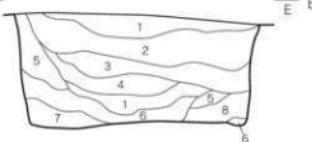
- | | |
|------------|------------|
| 1. 鮎色粘質土 | 5. 淡黃色粘質土 |
| 2. 黄褐色粘質土 | 6. 淡褐色粘質土 |
| 3. 黄色粘質土 | 7. 墓灰褐色粘質土 |
| 4. 淡灰褐色粘質土 | 8. 黑色粘質土 |

0 S=1/40 2m

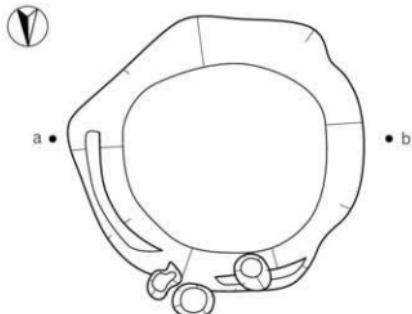
第85図 SK54～56、58 (S=1/40)



$L=15.9m$



- | | |
|--------------|------------|
| 1. 褐灰色粘質土 | 5. 暗褐色粘質土 |
| 2. 灰暗褐色粘質土 | 6. 棕色粘質土 |
| 3. 灰褐色粘質土 | 7. 暗灰褐色粘質土 |
| 4. 褐灰褐色粘質土 | 8. 淡黄褐色粘質土 |
| (黄色ブロック土混じる) | |

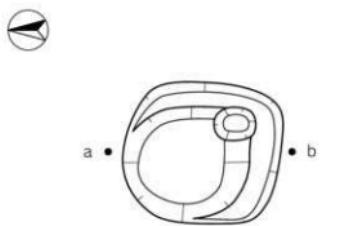


SK60

$L=16.0m$

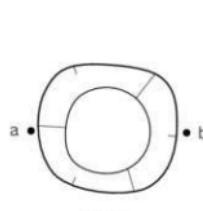


- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 灰色粘質土(耕土) | 7. 黄褐色粘質土 |
| 2. 棕色粘質土 | 8. 灰暗褐色粘質土 |
| 3. 暗褐色粘質土 | 9. 淡黄褐色粘質土 |
| 4. 暗褐色粘質土 | 10. 灰褐色粘質土 |
| 5. 棕褐色粘質土 | 11. 暗灰褐色粘質土 |
| 6. 棕褐色粘質土 | |



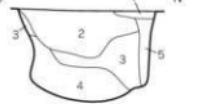
$L=16.0m$

SK61



SK62

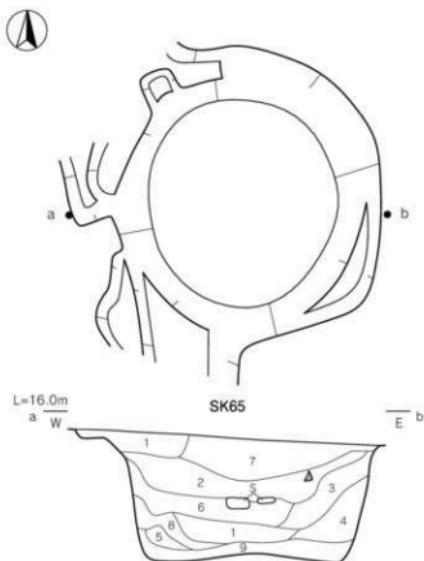
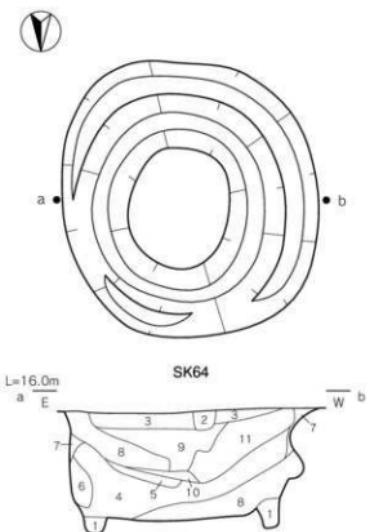
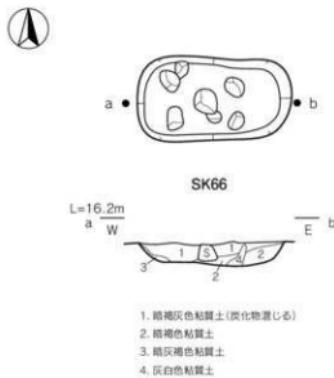
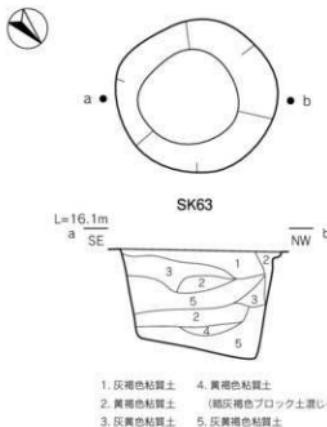
$L=16.1m$



- | | |
|-----------|------------|
| 1. 灰褐色粘質土 | 3. 暗黄色粘質土 |
| 2. 灰褐色粘質土 | 4. 暗黄褐色粘質土 |
| (炭化物混じる) | (炭化物混じる) |
| 5. 棕褐色粘質土 | |

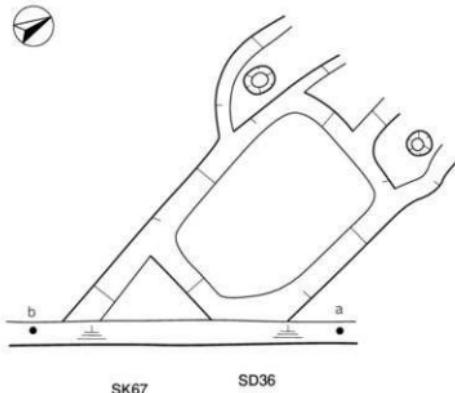
0 $S=1/40$ 2m

第86図 SK59 ~ 62 ($S=1/40$)

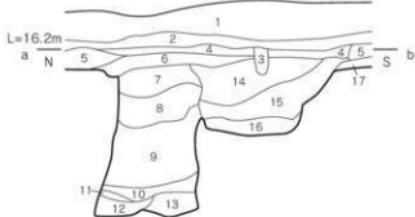


0 S=1/40 2m

第87図 SK63～66 (S=1/40)



SD36

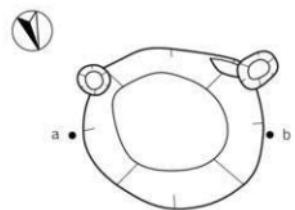


1. 灰色粘質土(耕土)
2. にぶい橙色粘質土(底土)
(灰色ブロック土混じる)
3. 橙褐色粘質土
(暗灰褐色ブロック土混じる)
4. 褐色粘質土
(灰色ブロック土・鉄分混じる)
5. 暗灰褐色粘質土(含水層)
(灰色ブロック土混じる)
6. 灰褐色粘質土
7. 暗褐色粘質土
(灰色ブロック土混じる)
8. 暗褐色粘質土
(黒褐色・灰白色ブロック土混じる)
9. 暗褐色砂質土
10. 灰色粘質土
(灰色砂土混じる)
11. 灰色シルト土
12. 灰色砂土
(灰色砂土・鉄分混じる)
13. 灰白砂質土
(灰色砂土・鉄分混じる)
14. 暗褐色粘質土
15. 暗褐色粘質土
16. 暗褐色粘質土
(黃褐色ブロック土混じる)
17. 黃褐色粘質土



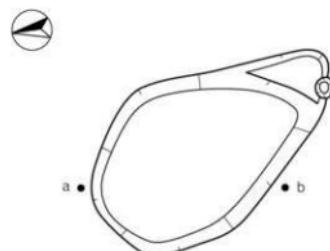
SK69

1. 暗灰褐色粘質土
(黄褐色ブロック土混じる)
2. 暗褐色粘質土
3. 暗褐色粘質土(炭化物混じる)
4. 黄褐色粘質土
5. 灰黄色粘質土
6. 黄褐色粘質土
7. 暗灰褐色粘質土(炭化物混じる)

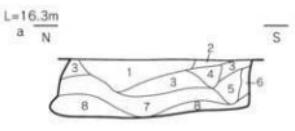


SK70

1. 暗褐色粘質土
2. 暗灰褐色粘質土(黄褐色ブロック土混じる)
3. 暗褐色粘質土(黄褐色ブロック土混じる)
4. 黑暗褐色粘質土
5. 暗褐色粘質土
6. 淡灰褐色粘質土(黄褐色ブロック土混じる)
7. 暗褐色粘質土

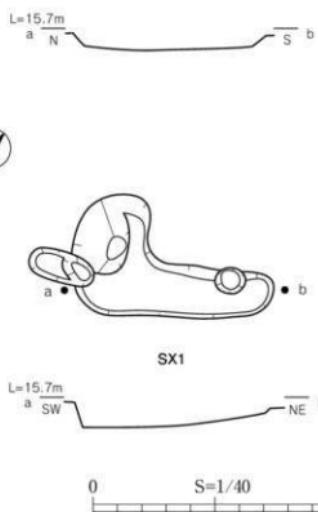
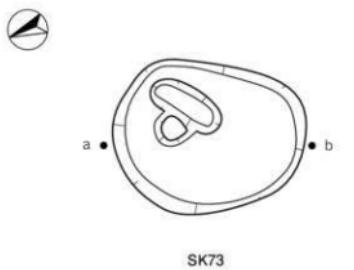
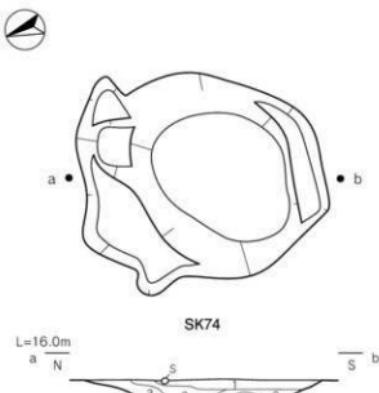
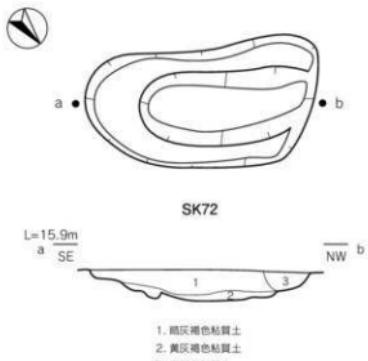
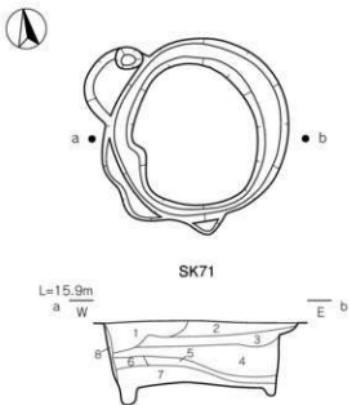


SK68

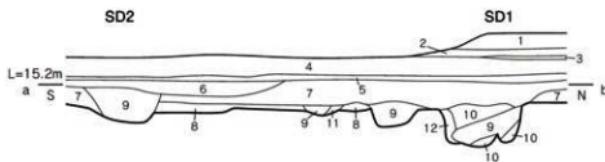


1. 暗灰褐色粘質土
2. 黑色粘質土
3. 暗黄褐色粘質土
4. 暗褐色粘質土
5. 淡灰褐色粘質土
6. 暗褐色粘質土
7. 暗褐色粘質土
8. 黄褐色粘質土

第88図 SK67～70、SD36 (S=1/40)

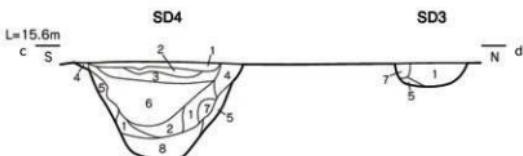


第89図 SK71～74、SX1 (S=1/40)



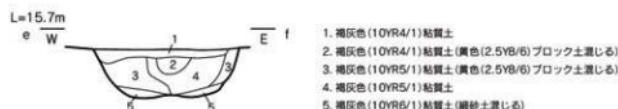
1. 盛土
2. 盛土
3. 盛土
4. 灰色粘質土(耕土)
5. にぶい橙色粘質土(床土)
6. 灰色(N6)粘質土(褐色(10YR5/1)粘質土混じる)
7. 褐灰色(10YR5/1)粘質土
8. 鮎灰黃色(2.5Y5/2)粘質土
9. 褐灰色(10YR4/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)
10. 褐灰色(10YR5/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)
11. 鮎灰黃色(2.5Y5/2)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)
12. 黄色(2.5Y8/6)粘質土(褐色(10YR5/1)粘質土混じる)

SD1, 2

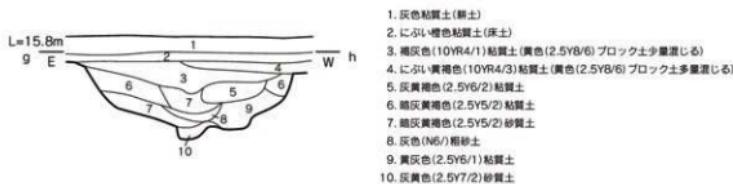


1. 褐灰色(10YR5/1)粘質土
2. 褐灰色(10YR4/1)粘質土
3. 灰黃褐色(10YR6/2)粘質土
4. 褐灰色(10YR4/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)
5. 褐灰色(10YR5/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)
6. 褐灰色(10YR5/1)粘質土(黒褐色(10YR3/1)ブロック土混じる)
7. 黑褐色(10YR3/1)粘質土
8. 褐灰色(10YR6/1)粘質土

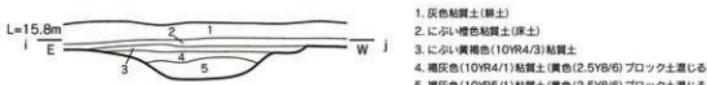
SD3、4



SD8



SD11



SD15

0 S=1/40 2m

第90図 SD1 ~ 4, 8, 11, 15 (S=1/40)

L=15.0m
k S



1. 暗灰色(10YR5/1)粘質土
2. 暗灰色(10YR5/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)

SD17

L=15.2m
m NE



1. 暗灰暗褐色粘質土
2. 灰褐色粘質土
3. 明灰褐色粘質土
4. 黑褐色粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)

SD19

L=15.5m
o W



1. 暗灰色(10YR5/1)粘質土
2. 暗灰色(10YR5/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)
3. 暗灰色(10YR6/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)・黒褐色(10YR3/1)ブロック土少混じる)
4. 暗灰色(10YR4/1)粘質土
5. 暗灰色(10YR4/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)
6. 黄灰色(2.5Y4/1)粘質土

SD20

L=15.6m
q SE



1. 暗褐色(10YR4/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)
2. 暗褐色(10YR4/1)粘質土
3. 暗褐色(10YR4/1)粘質土(灰色(5Y6/4)粘質土混じる)
4. 暗褐色(10YR4/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)砂質土混じる)

SD21

L=15.9m
s W



1. 暗灰色粘質土
2. 暗色粘質土
3. 灰褐色粘質土
4. 淡黄褐色粘質土

SD23

L=15.9m
u NW



1. 暗褐色粘質土
2. 暗褐色粘質土
3. 暗褐色粘質土(黄色ブロック土混じる)
4. 暗灰色粘質土

SD24

L=15.9m
w N



1. 暗褐色粘質土
2. 暗褐色粘質土
3. 淡黄色粘質土
4. 灰色粘質土(黄色土混じる)

SD27

L=16.0m
y N



1. 暗褐色粘質土
2. 暗褐色粘質土
3. 暗褐色粘質土(黄色ブロック土混じる)
4. 暗灰色粘質土
5. 黄褐色粘質土
6. 灰褐色粘質土
7. 暗褐色粘質土

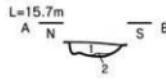
SD28, 29

0

S=1/40

2m

第91図 SD17、19～21、23、24、27～29 (S=1/40)



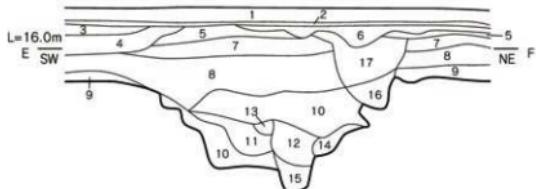
1. 褐褐色粘質土
2. 褐褐色粘質土

SD30



1. 褐色粘質土
2. 褐褐色粘質土
3. 褐褐色粘質土(黄色粘土混じる)
4. 褐灰色粘質土

SD34



7. 褐灰色(7.5YR5/1)粘質土
8. 褐灰褐色(10YR4/1)粘質土
9. 褐灰褐色(10YR4/1)粘質土(黄色(2.5YB/6)粘質土混じる)
10. 褐灰褐色(10YR5/1)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土混じる)
11. 褐灰褐色(10YR4/1)粘質土
12. 黑褐色(10YR3/1)粘質土

13. 褐灰褐色(10YR5/1)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土多量混じる)
14. 褐灰褐色(10YR5/1)粘質土(淡黄色(2.5YB/4)ブロック土多く混じる)
15. 褐灰褐色(10YR5/1)粘質土(淡黄色(2.5YB/4)ブロック土多く混じる)
16. 褐灰褐色(10YR5/1)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土多量混じる)
17. 褐灰褐色(10YR5/1)粘質土(黄色(2.5YB/6)ブロック土少量化混じる)

SD35



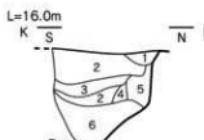
1. 灰色粘質土(耕土)
2. にふい褐色粘質土(床土)
3. 褐灰褐色粘質土(包含層)
4. 褐灰褐色粘質土(灰色ブロック土混じる)
5. 褐灰褐色粘質土
6. 灰褐色粘質土
7. 反褐色粘質土(黄褐色ブロック土混じる)
8. 反白色粘質土
9. 褐色粘質土
10. にふい黃褐色粘質土
11. 淡黃褐色粘質土
12. 淡黃褐色シルト

SD37



1. 黑褐色粘質土
2. 褐灰褐色粘質土(褐褐色ブロック土混じる)
3. 灰褐色粘質土(褐灰褐色 - 褐褐色粘質土混じる)
4. 黄褐色粘質土(褐灰褐色 - 褐褐色粘質土混じる)
5. 褐灰褐色粘質土(褐灰褐色)
6. 褐褐色粘質土
7. 黑褐色粘質土
8. 黑褐色粘質土(黄褐色ブロック土混じる)

SD39

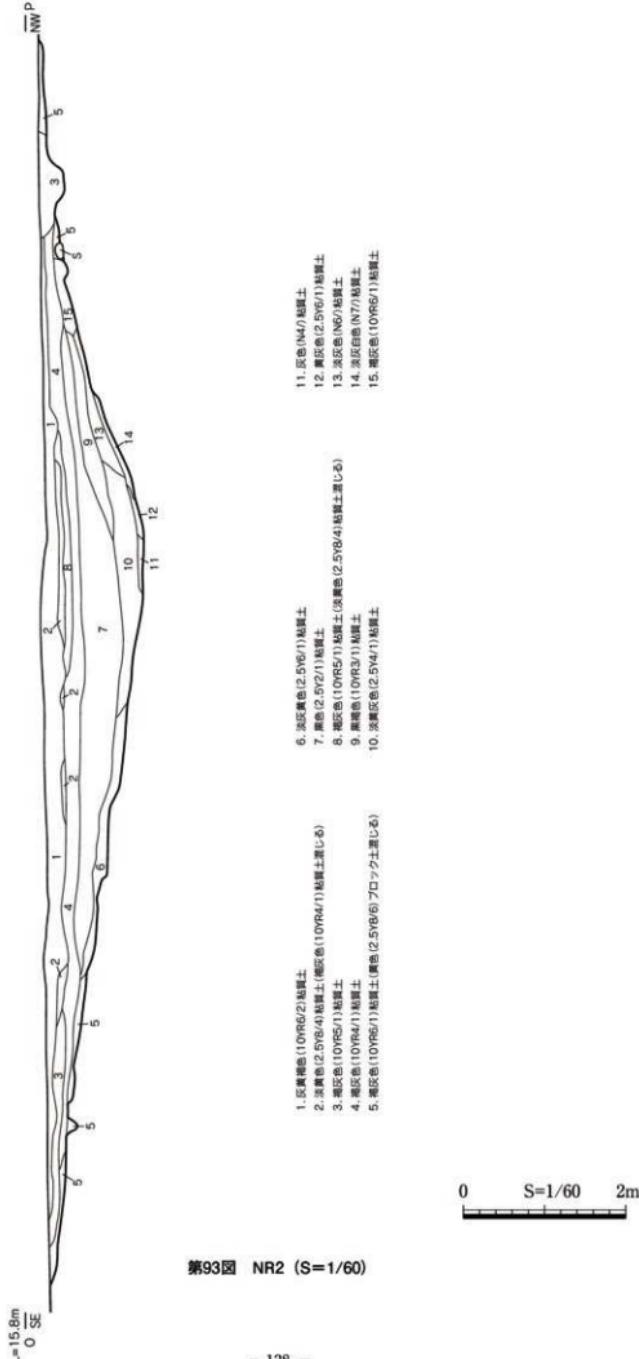


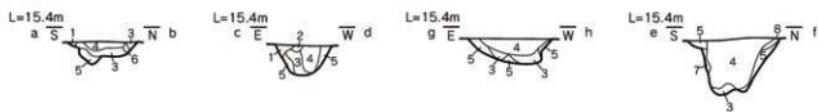
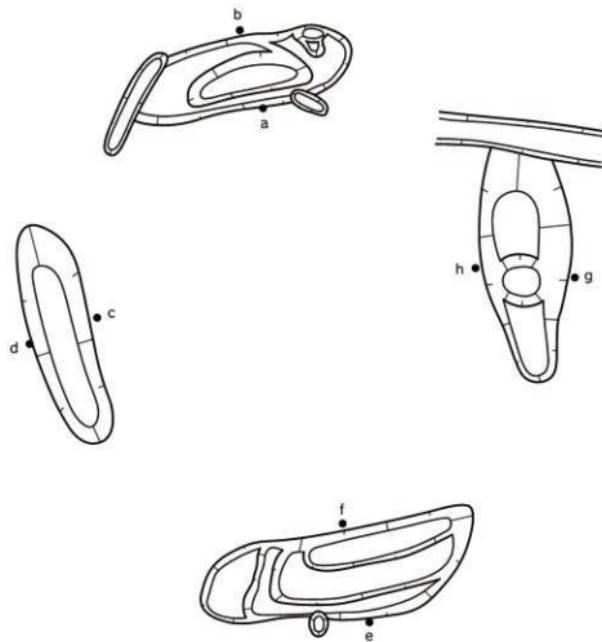
1. 黑褐色粘質土
2. 褐灰褐色粘質土
3. 褐灰褐色粘質土(黄褐色ブロック土混じる)
4. 褐褐色粘質土
5. 黄褐色粘質土
6. 反褐色粘質土

SD40

0 S=1/40 2m

第92図 SD30、34、35、37、39、40 (S=1/40)

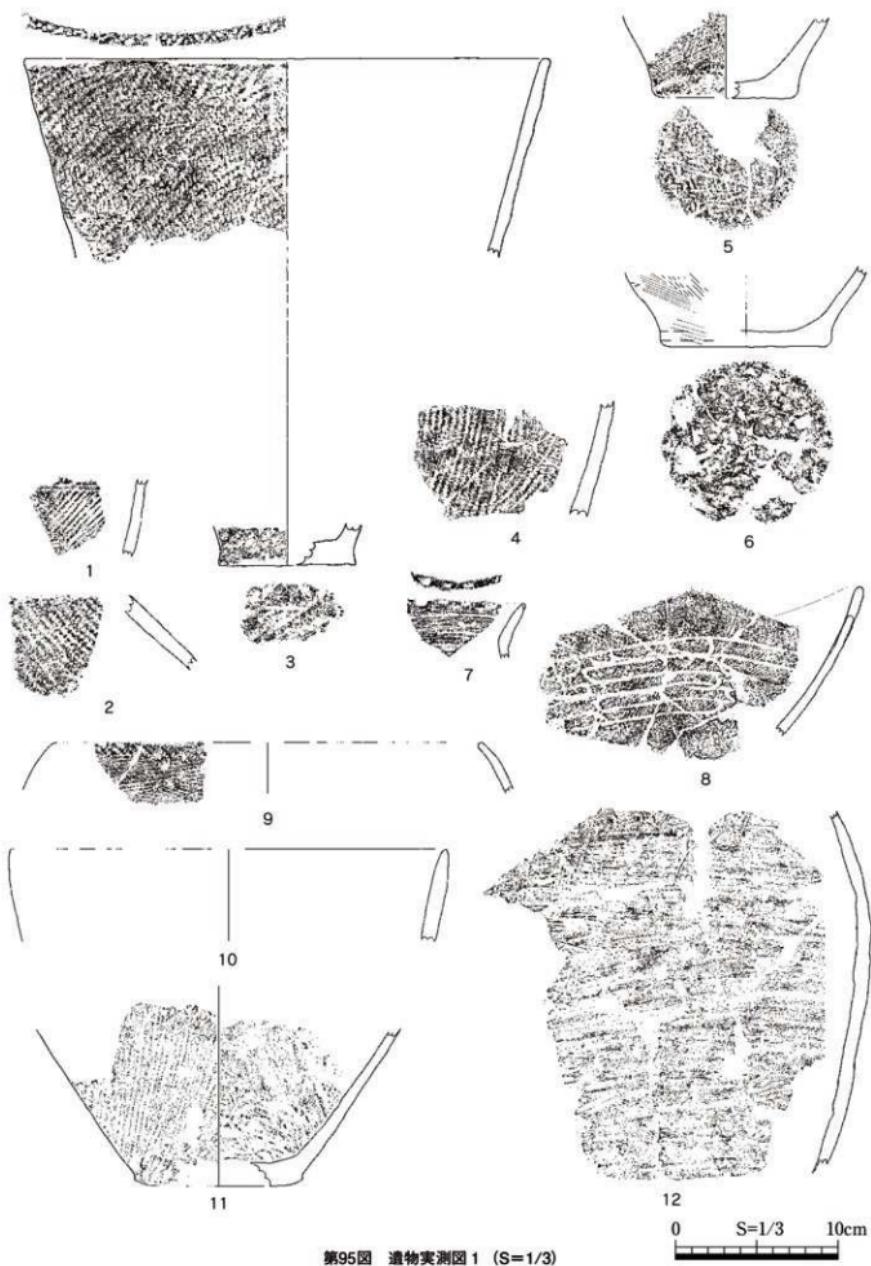




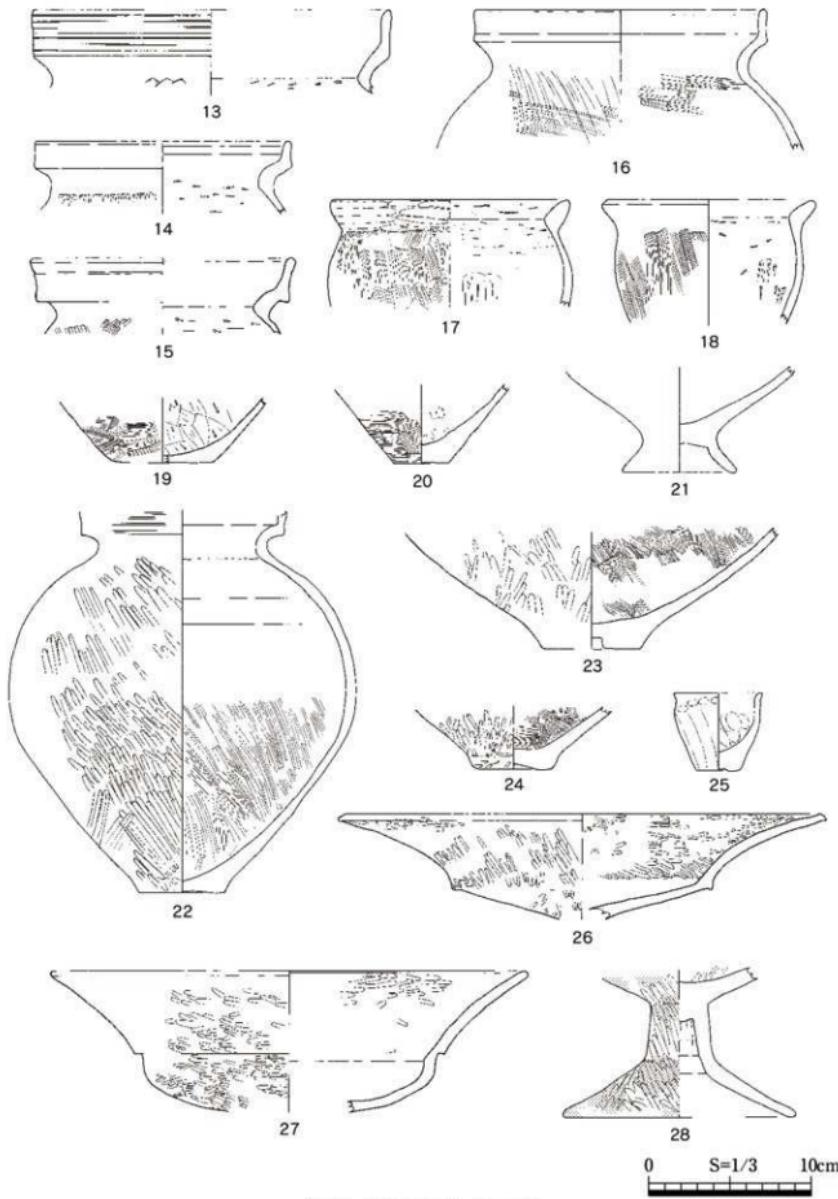
1. 深灰色(10YR4/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)粒土混じる)
 2. 暗灰色(10YR4/1)粘質土
 3. 淡褐色(10YR4/1)粘質土
 4. 淡黑褐色(10YR3/1)粘質土
 5. 淡灰黄色(2.5Y6/2)粘質土
 6. 黄色(2.5Y8/6)粘質土
 7. 黄灰色(2.5Y5/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)
 8. 淡黑褐色(10YR3/1)粘質土(黒褐色(10YR3/1)粒土混じる)

0 S=1/60 2m

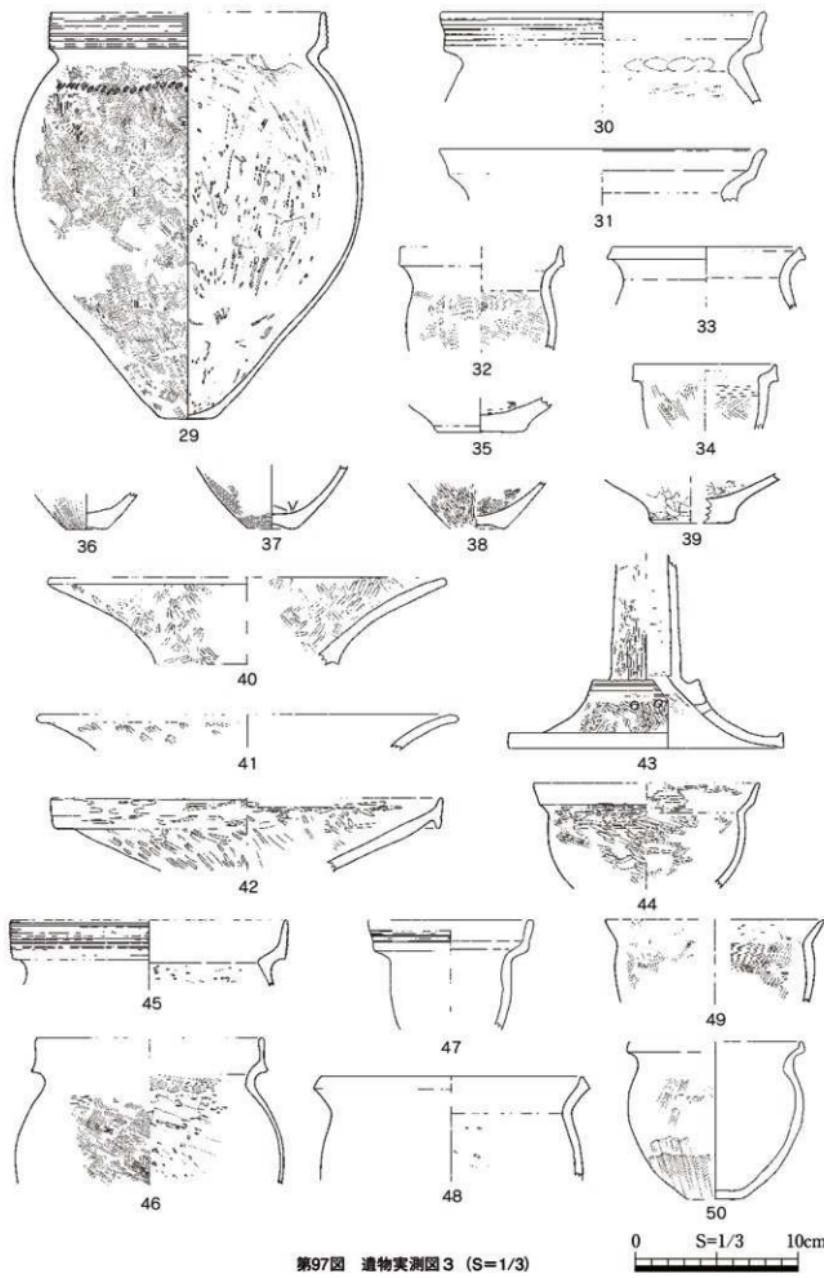
第94図 SZ1 (S=1/60)



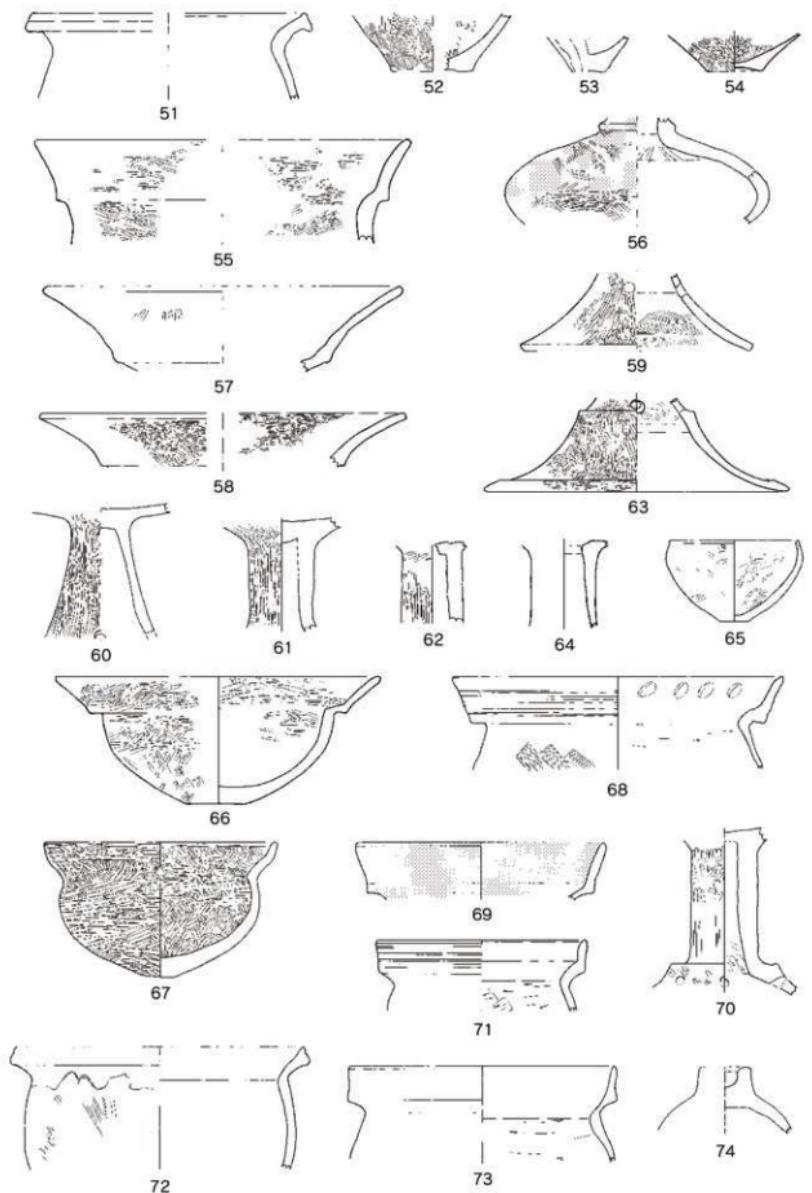
第95図 遺物実測図1 (S=1/3)



第96図 遺物実測図2 (S=1/3)

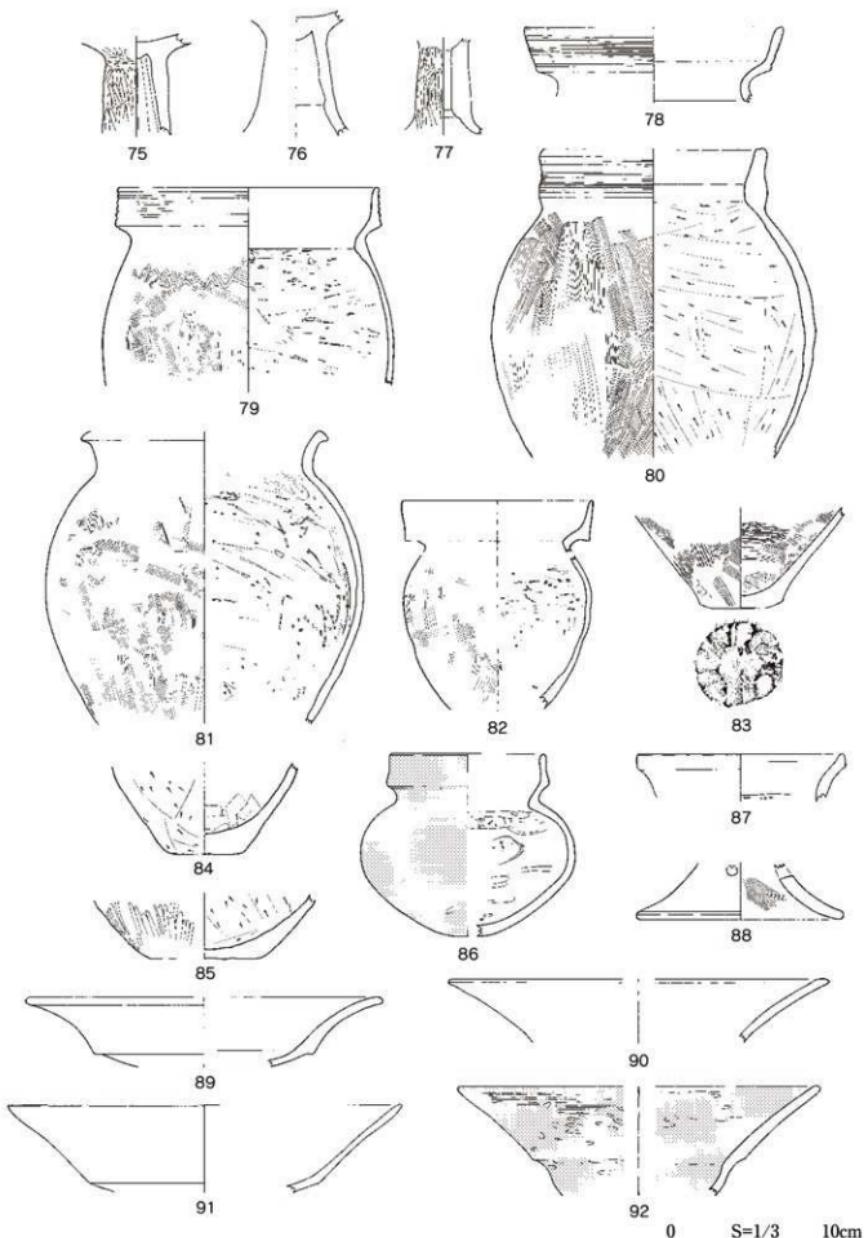


第97図 遺物実測図3 (S=1/3)



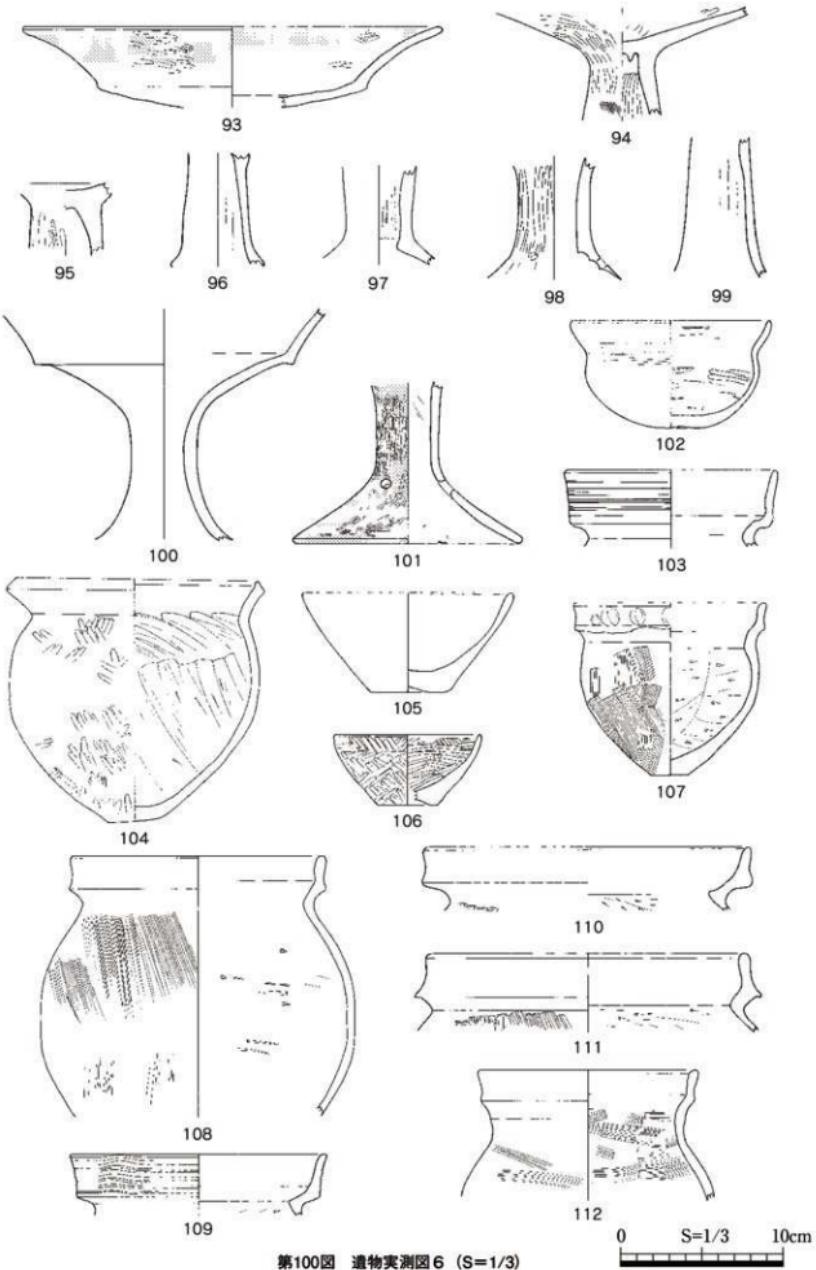
第98図 遺物実測図4 (S=1/3)

0 S=1/3 10cm

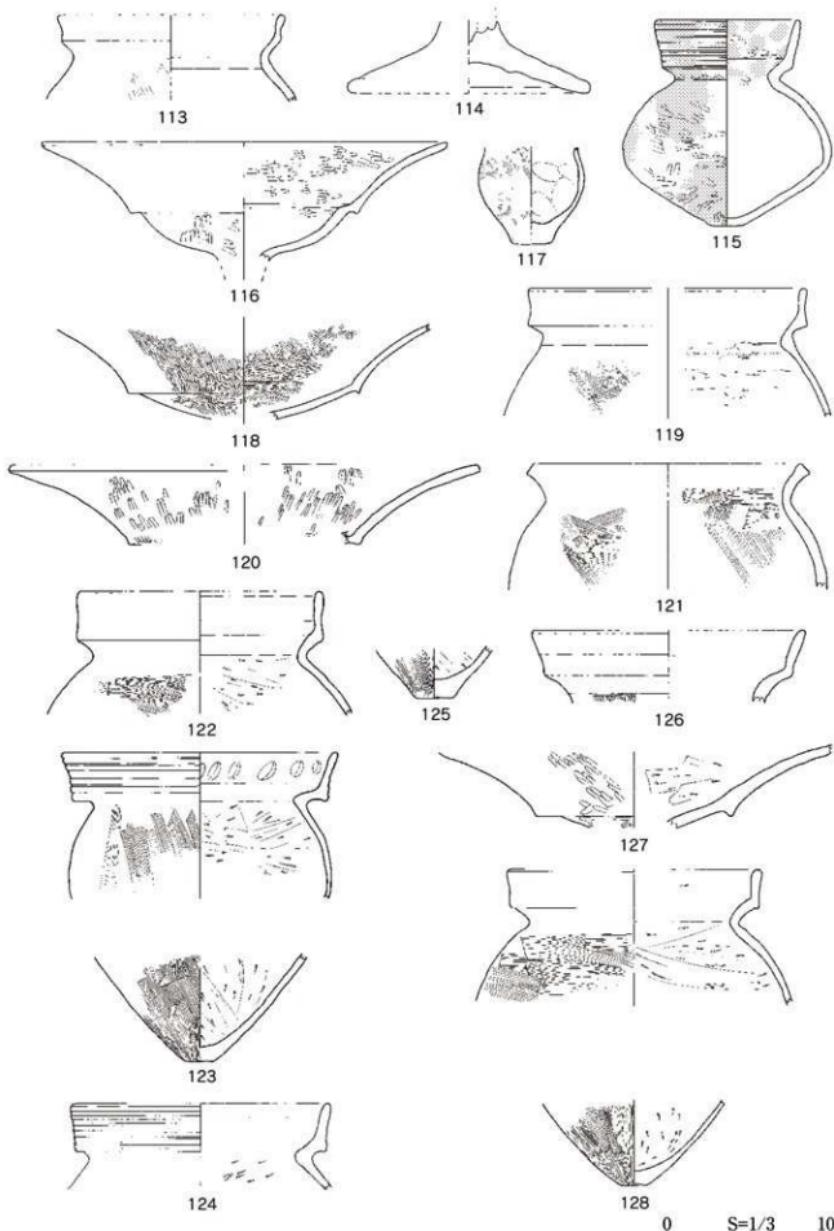


第99図 遺物実測図5 (S=1/3)

0 S=1/3 10cm

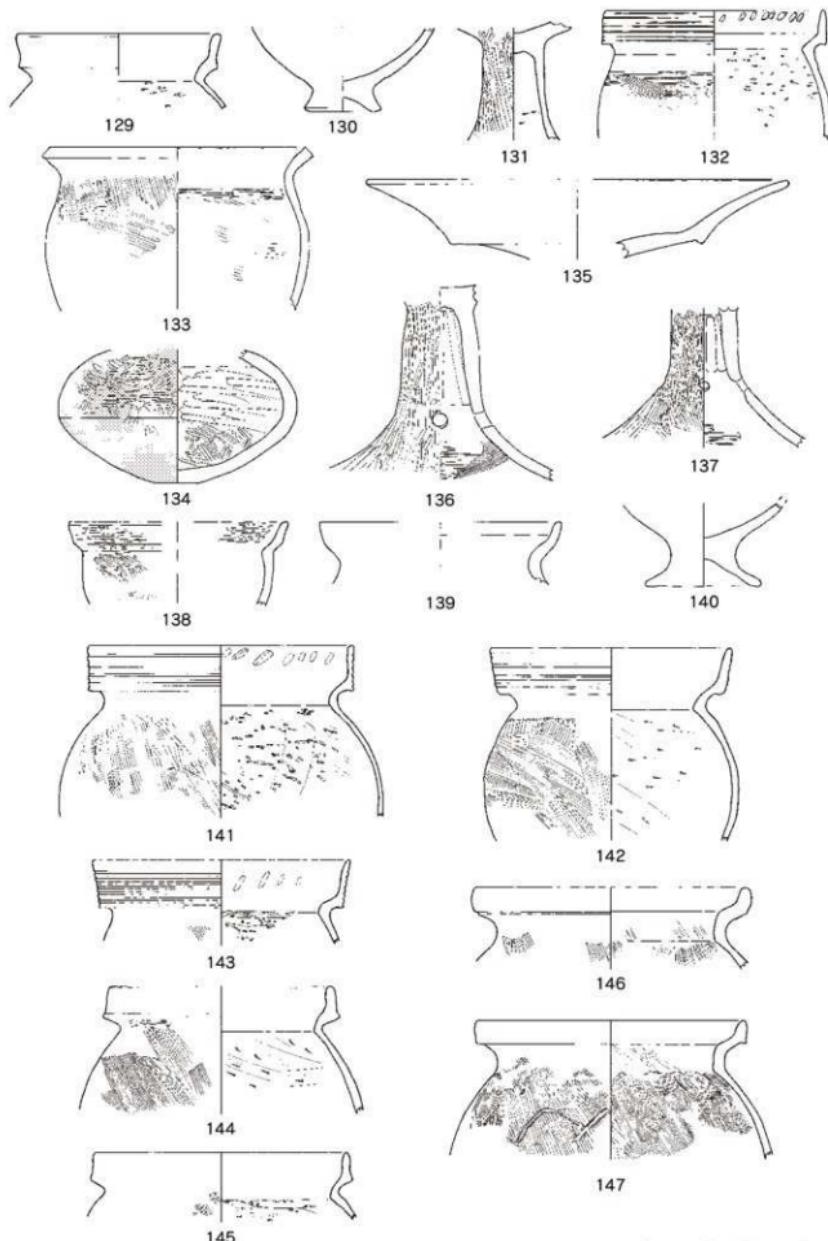


第100図 遺物実測図 6 (S=1/3)



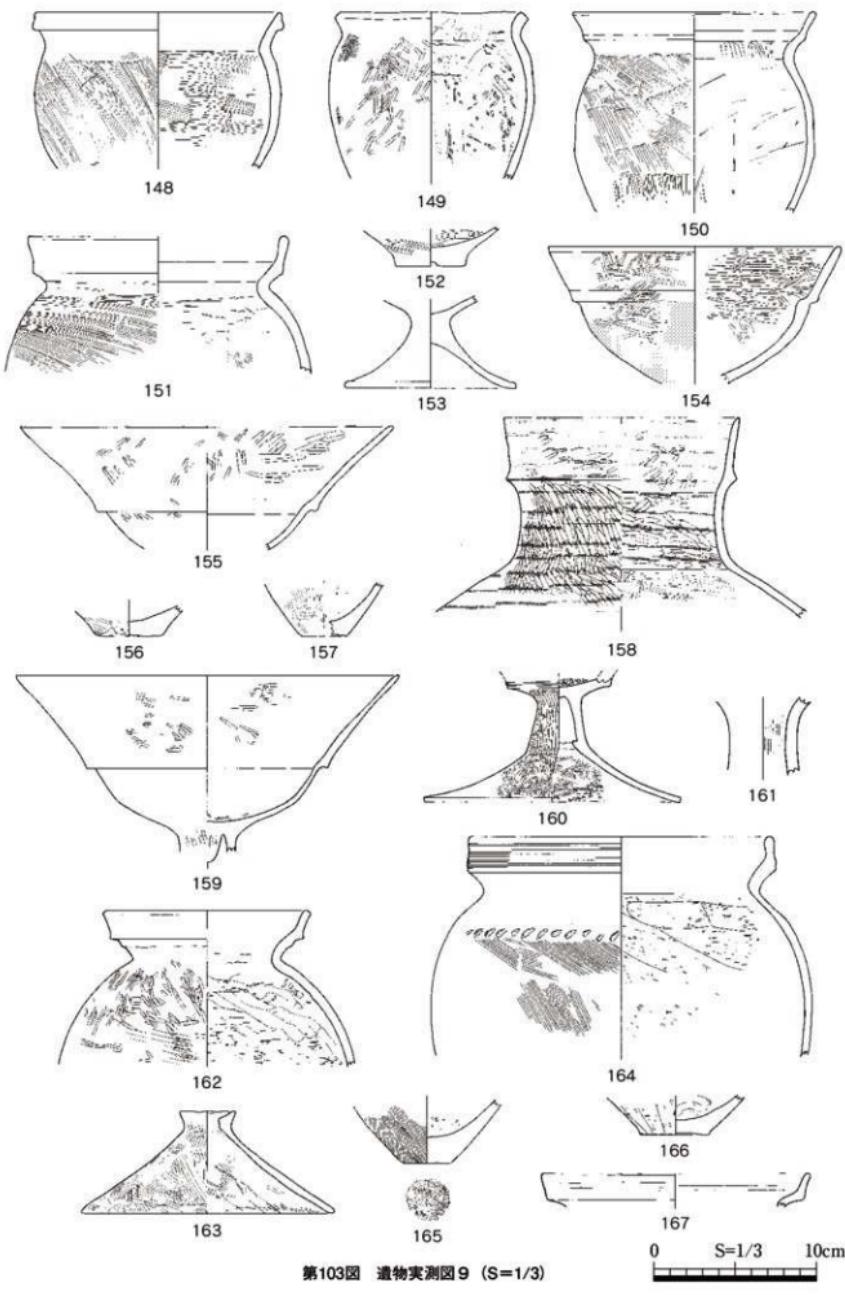
第101図 遺物実測図7 (S=1/3)

0 S=1/3 10cm

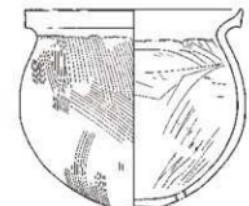


第102図 遺物実測図 8 (S=1/3)

0 S=1/3 10cm



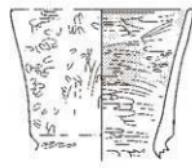
第103図 遺物実測図9 ($S=1/3$)



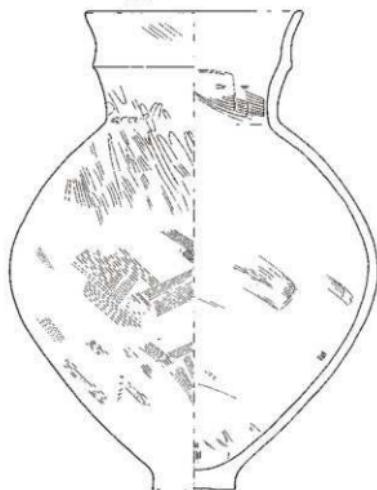
168



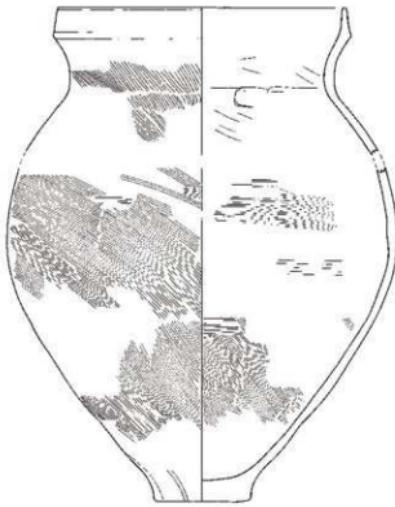
169



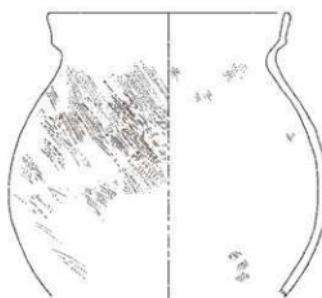
170



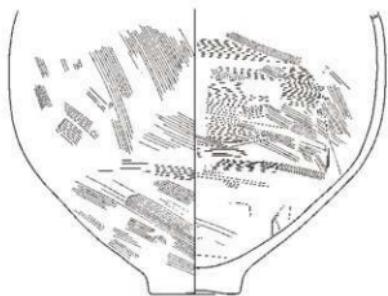
171



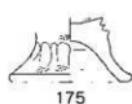
172



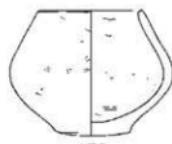
173



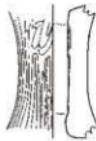
174



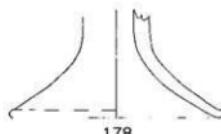
175



176



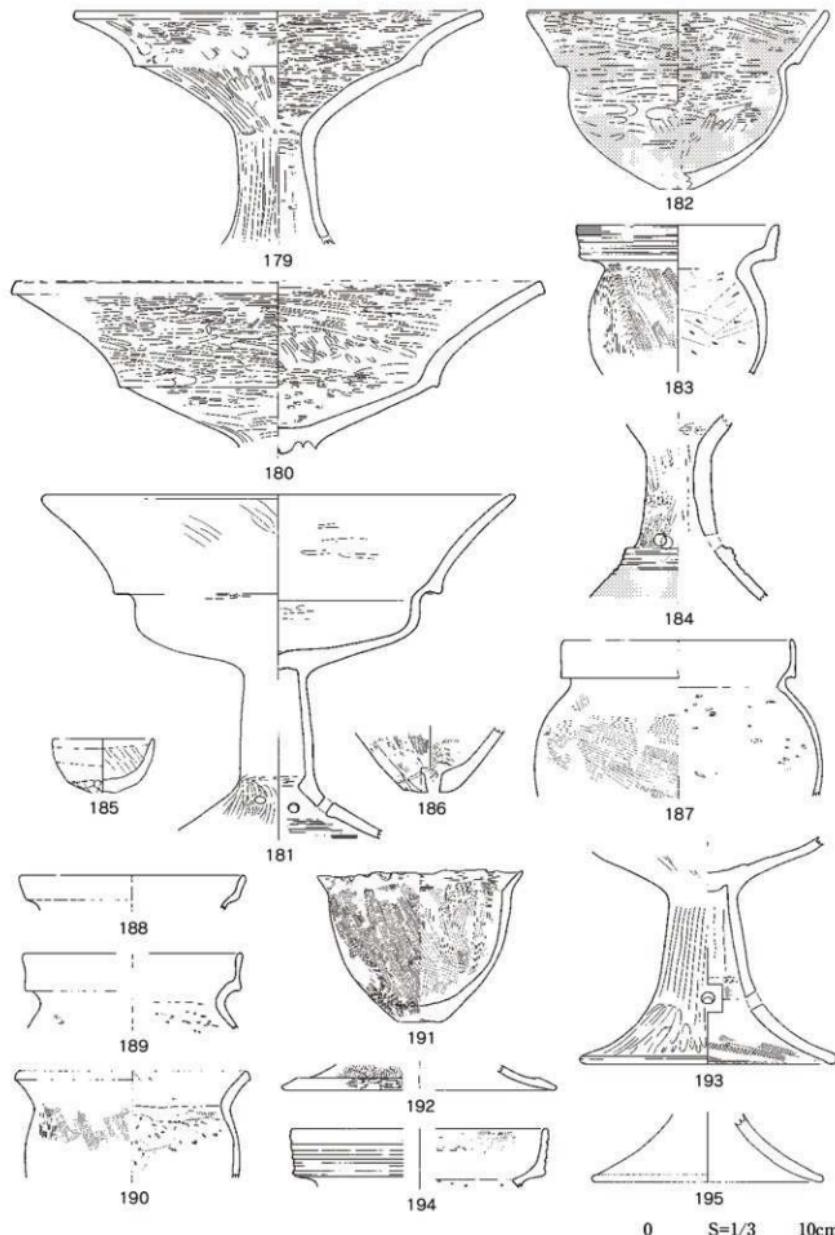
177



178

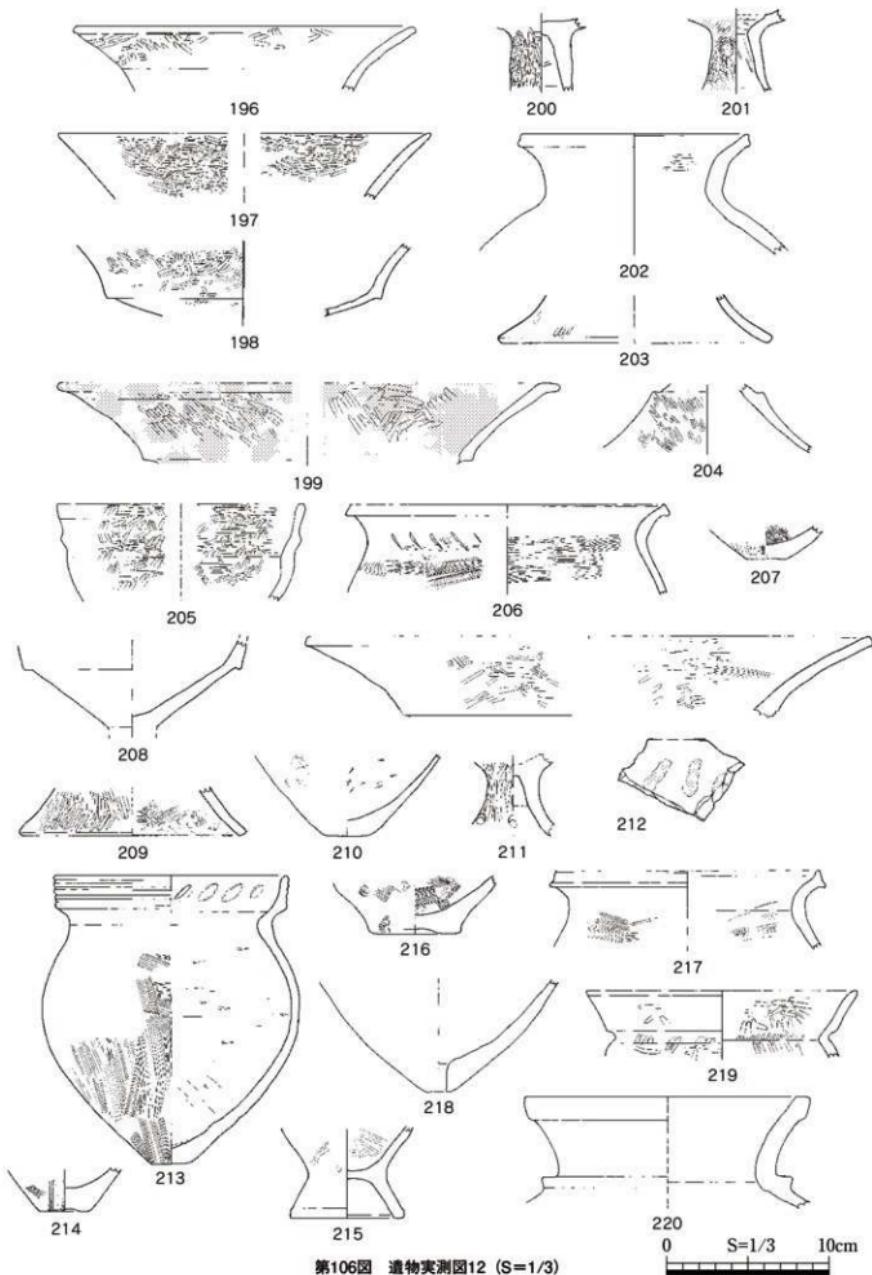
0 S=1/3 10cm

第104図 遺物実測図10 (S=1/3)

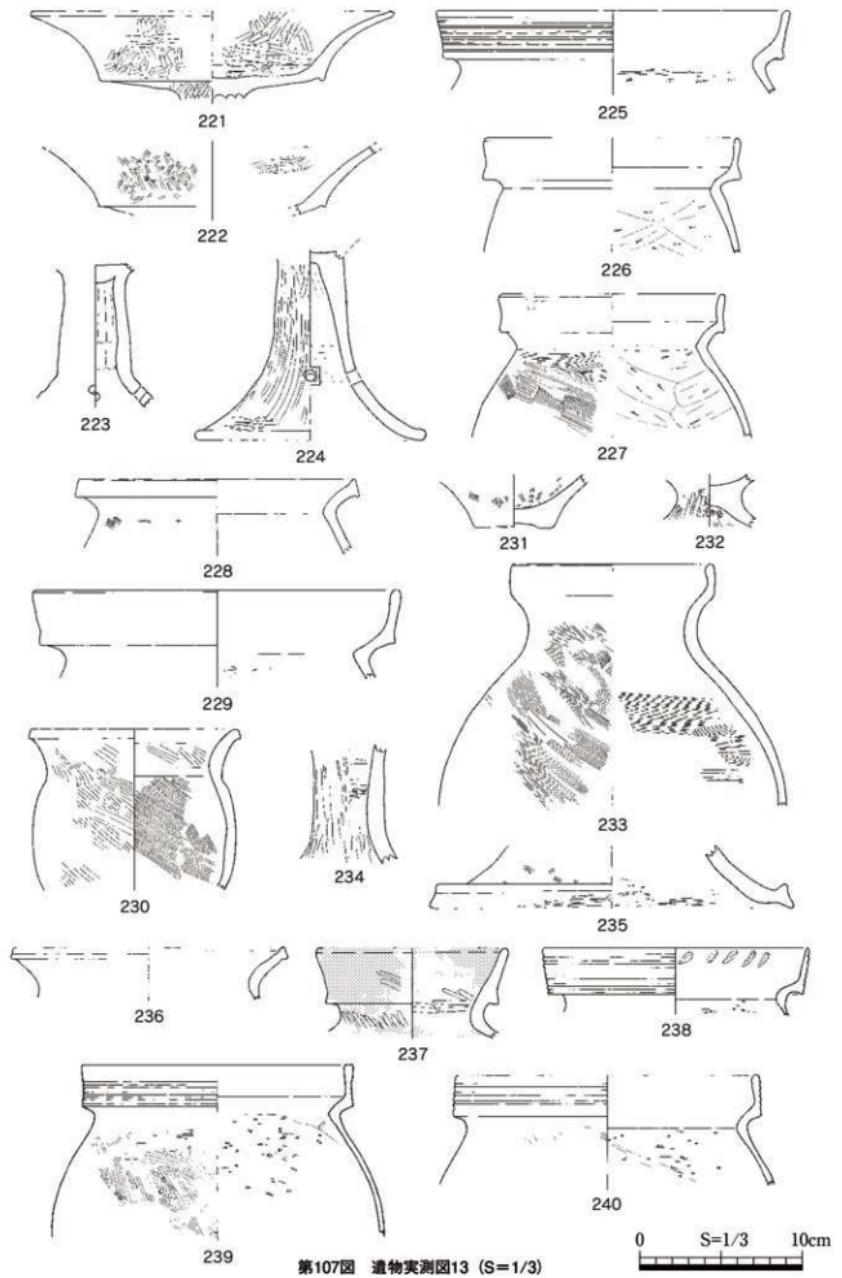


第105図 遺物実測図11 (S=1/3)

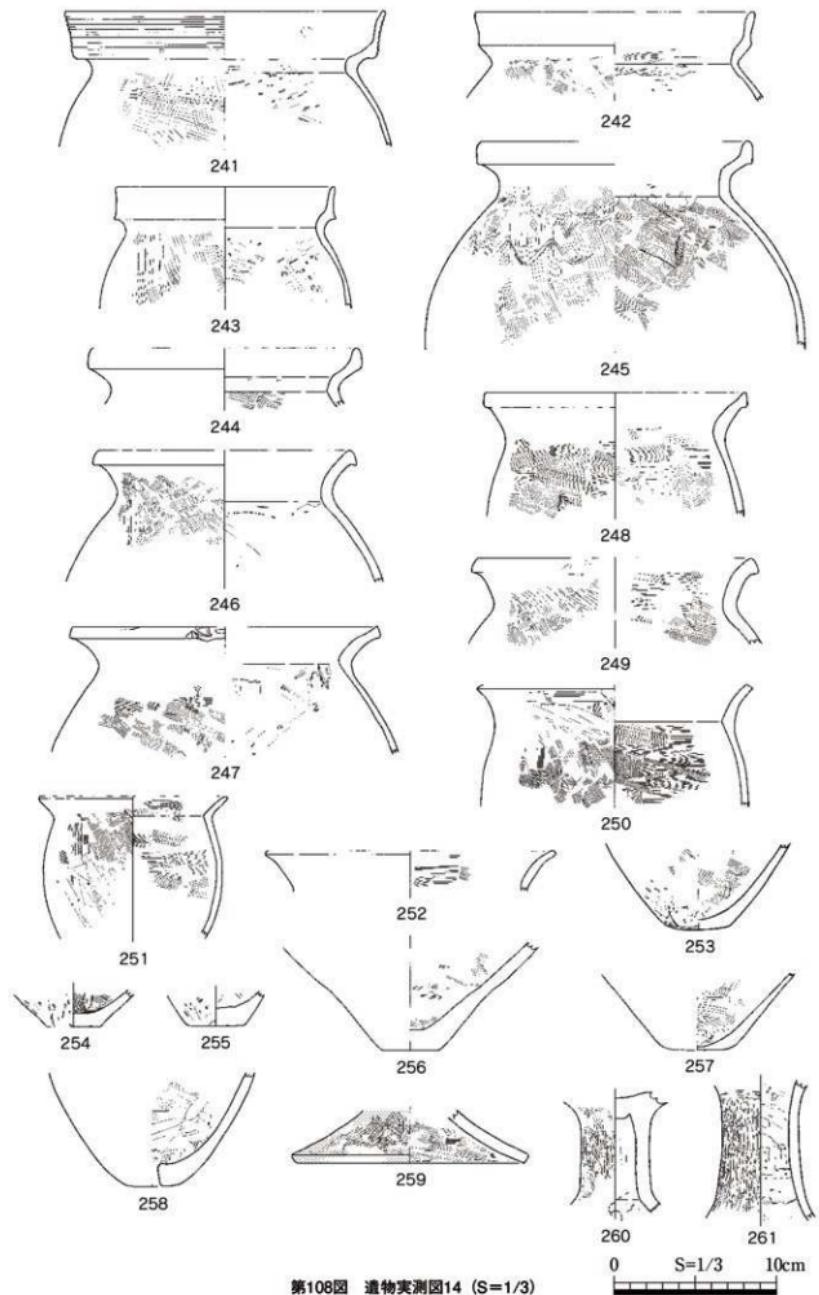
0 S=1/3 10cm



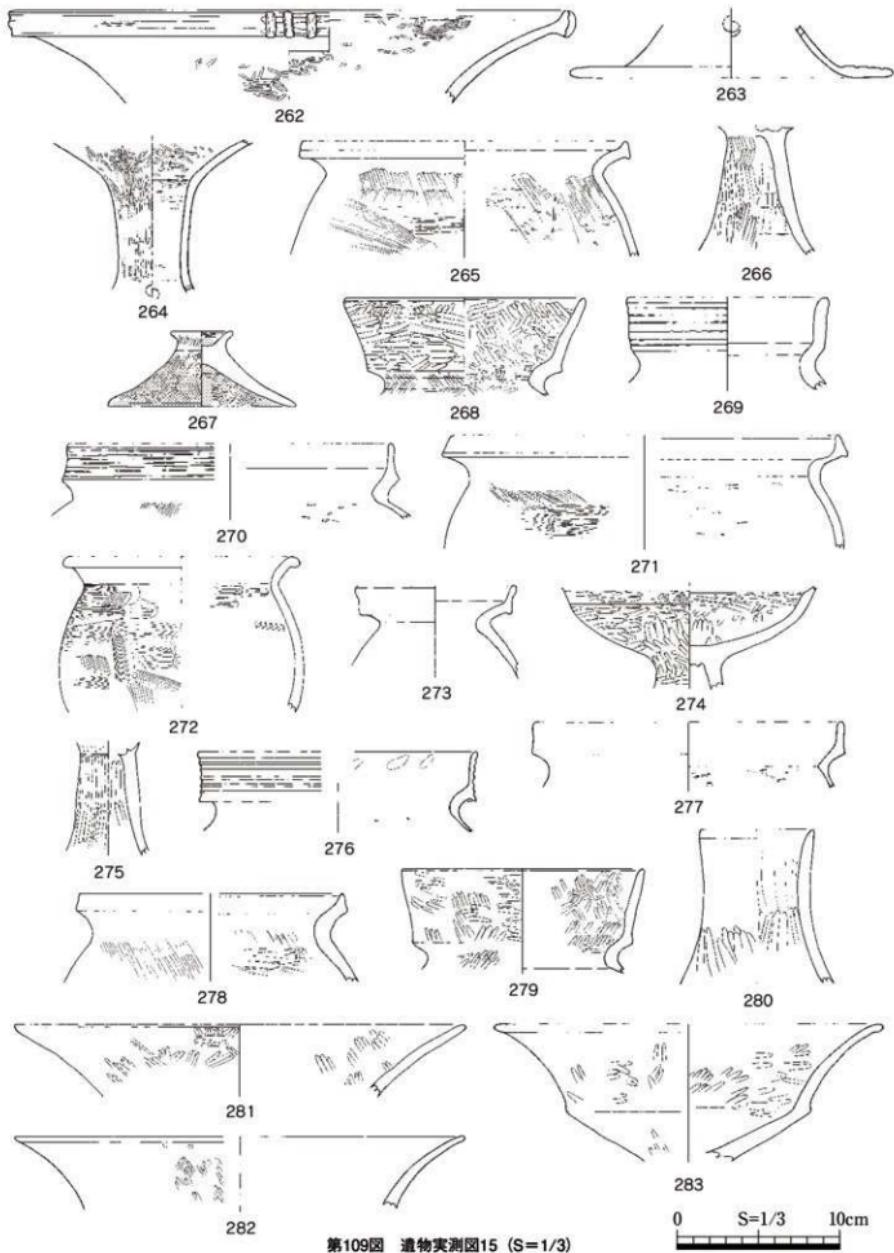
第106図 遺物実測図12 (S=1/3)



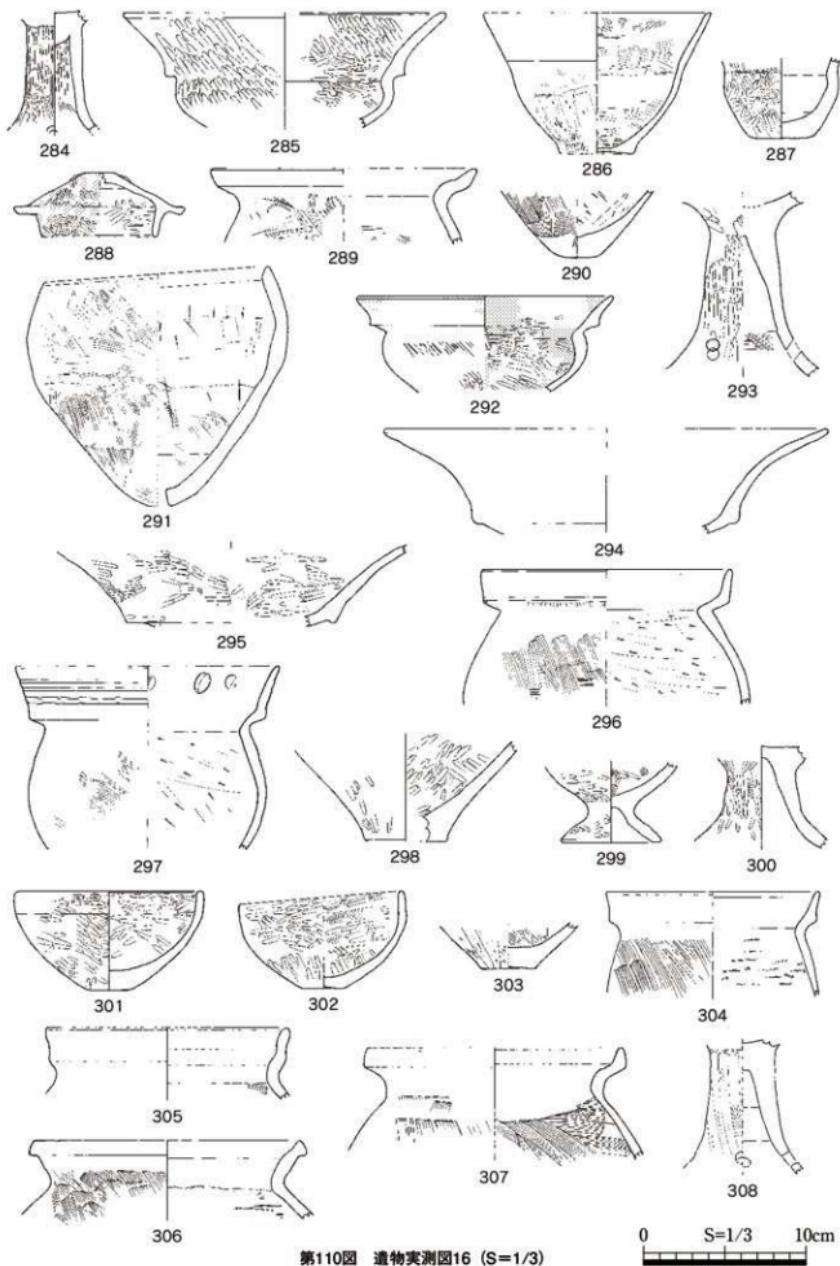
第107図 遺物実測図13 (S=1/3)



第108図 遺物実測図14 (S=1/3)

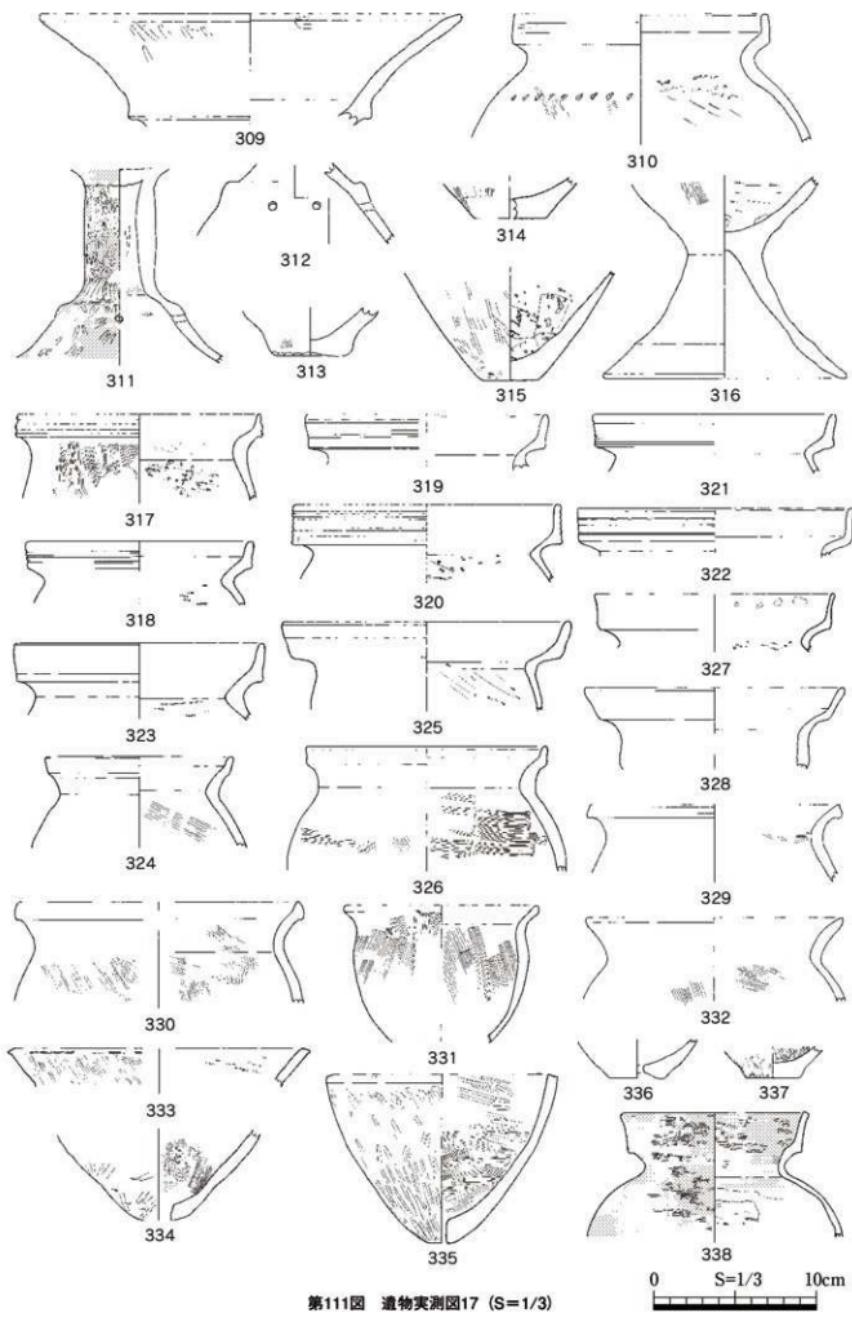


第109図 遺物実測図15 (S=1/3)

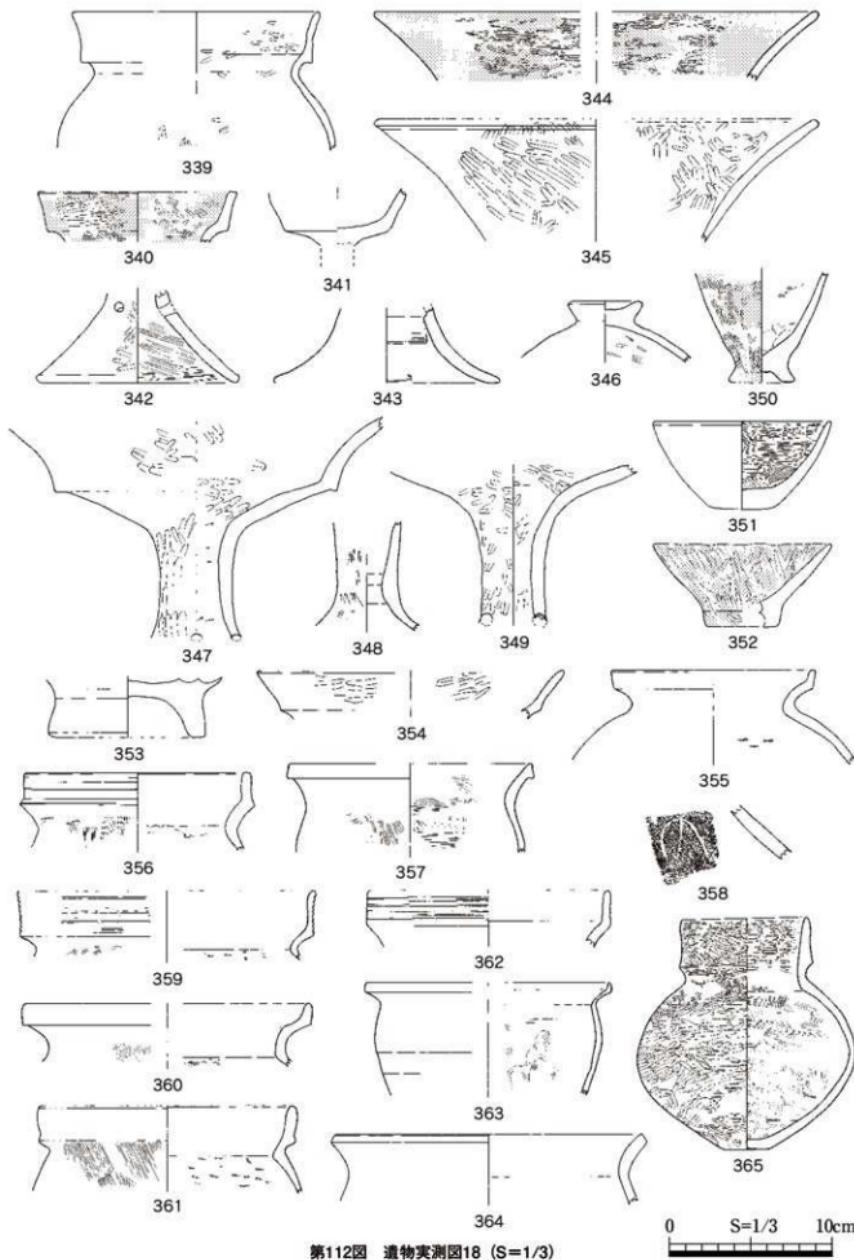


第110図 遺物実測図16 (S=1/3)

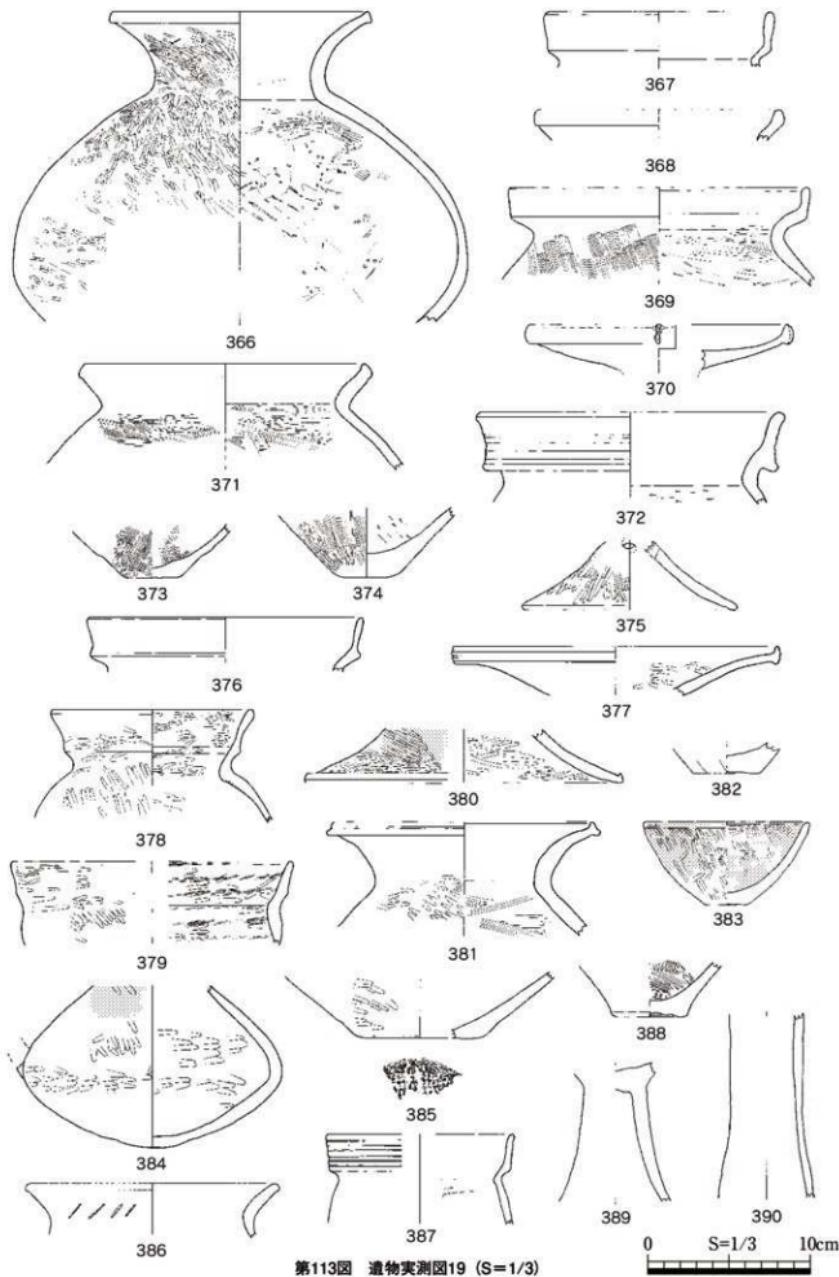
0 S=1/3 10cm



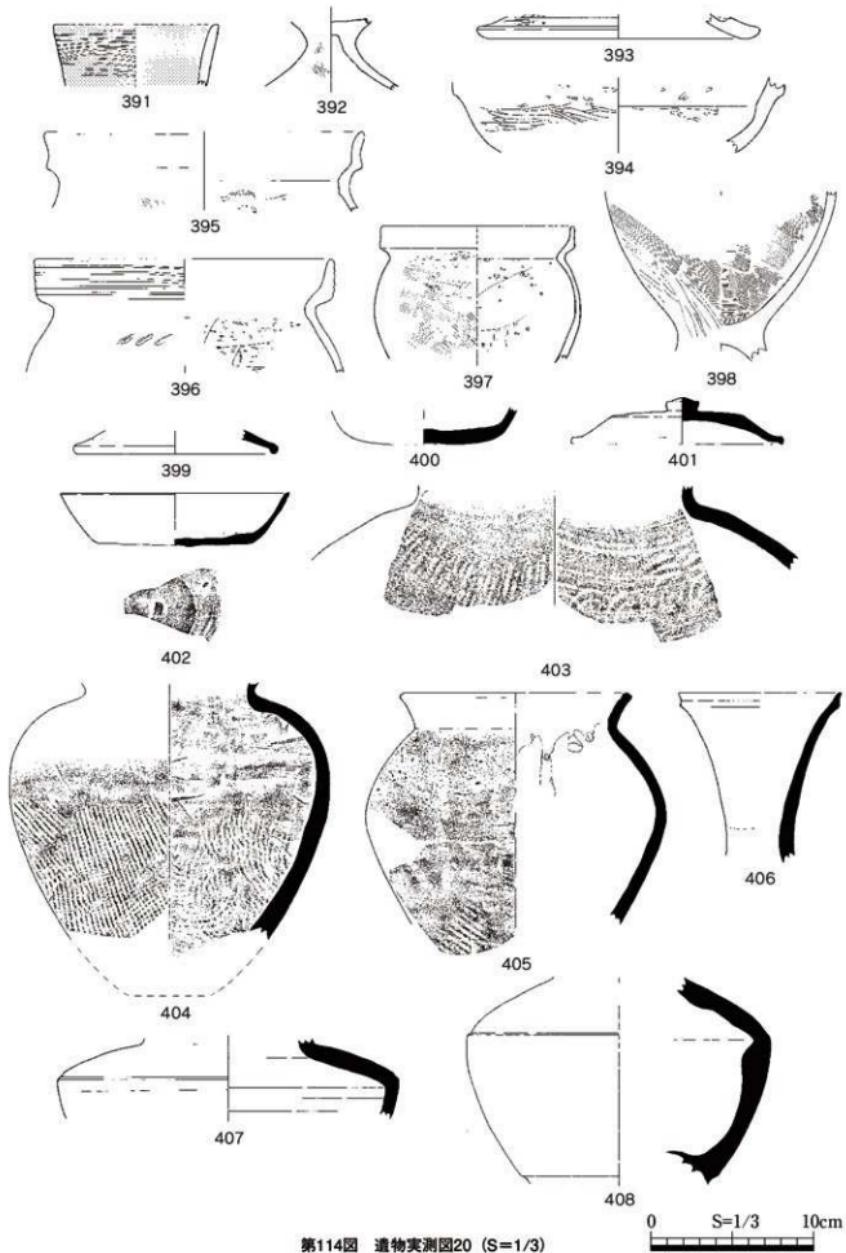
第111図 遺物実測図17 (S=1/3)



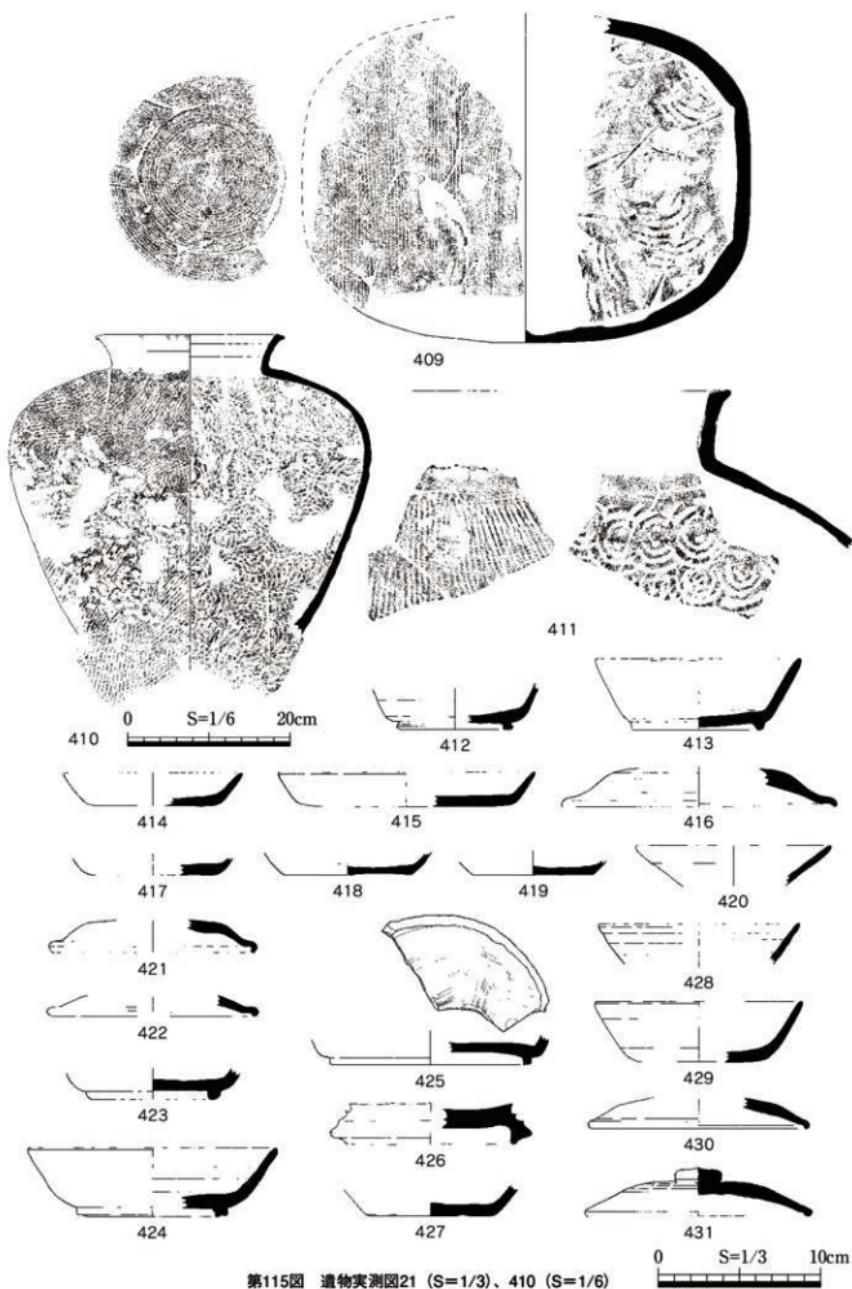
第112図 遺物実測図18 (S=1/3)



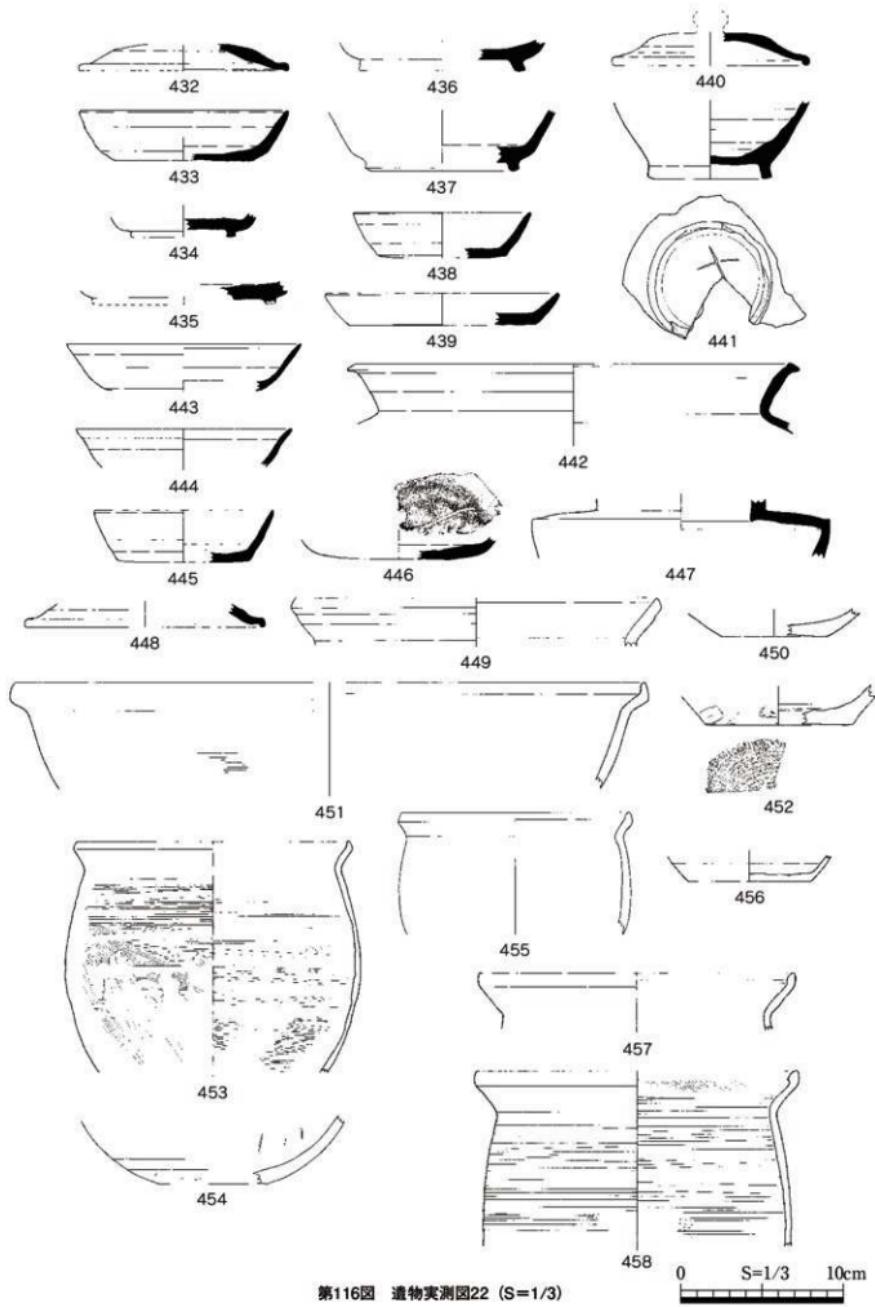
第113図 遺物実測図19 ($S=1/3$)



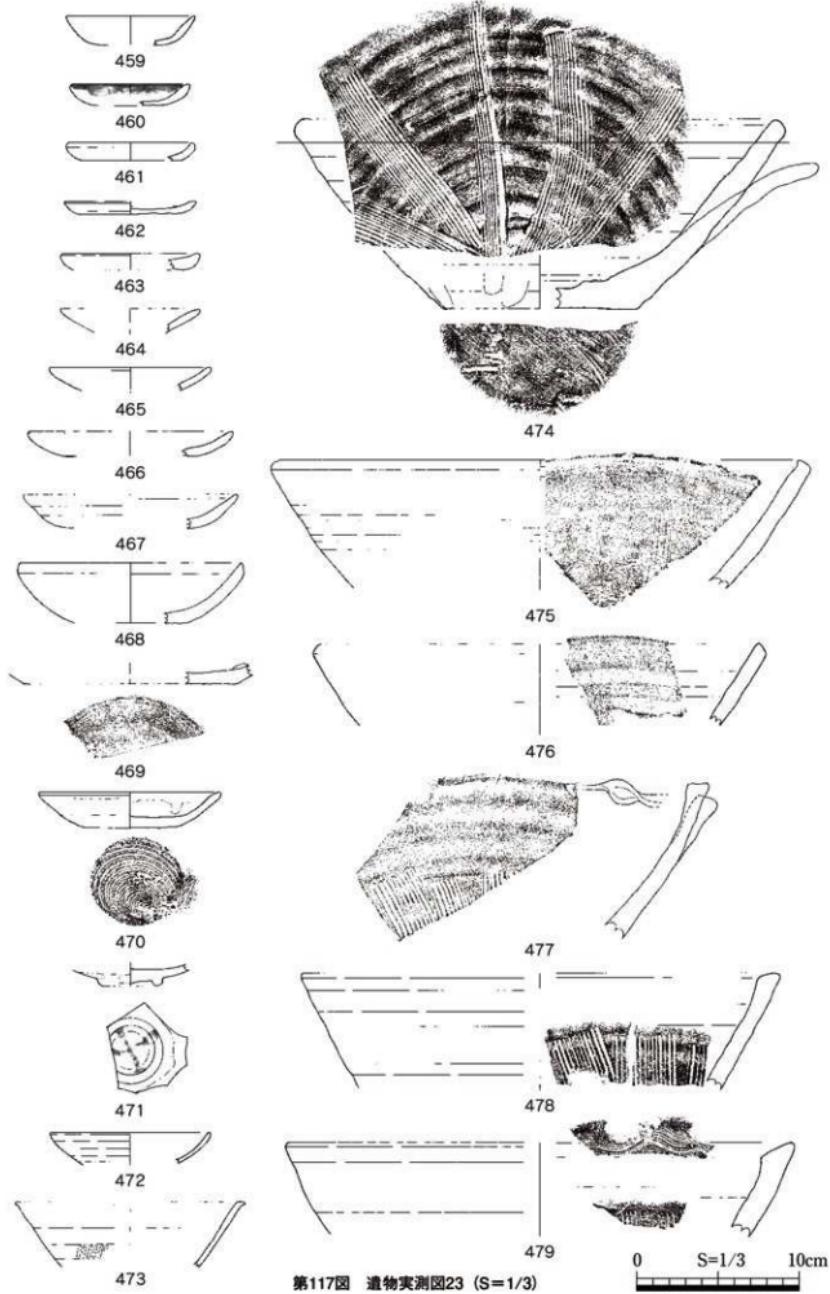
第114図 遺物実測図20 (S=1/3)



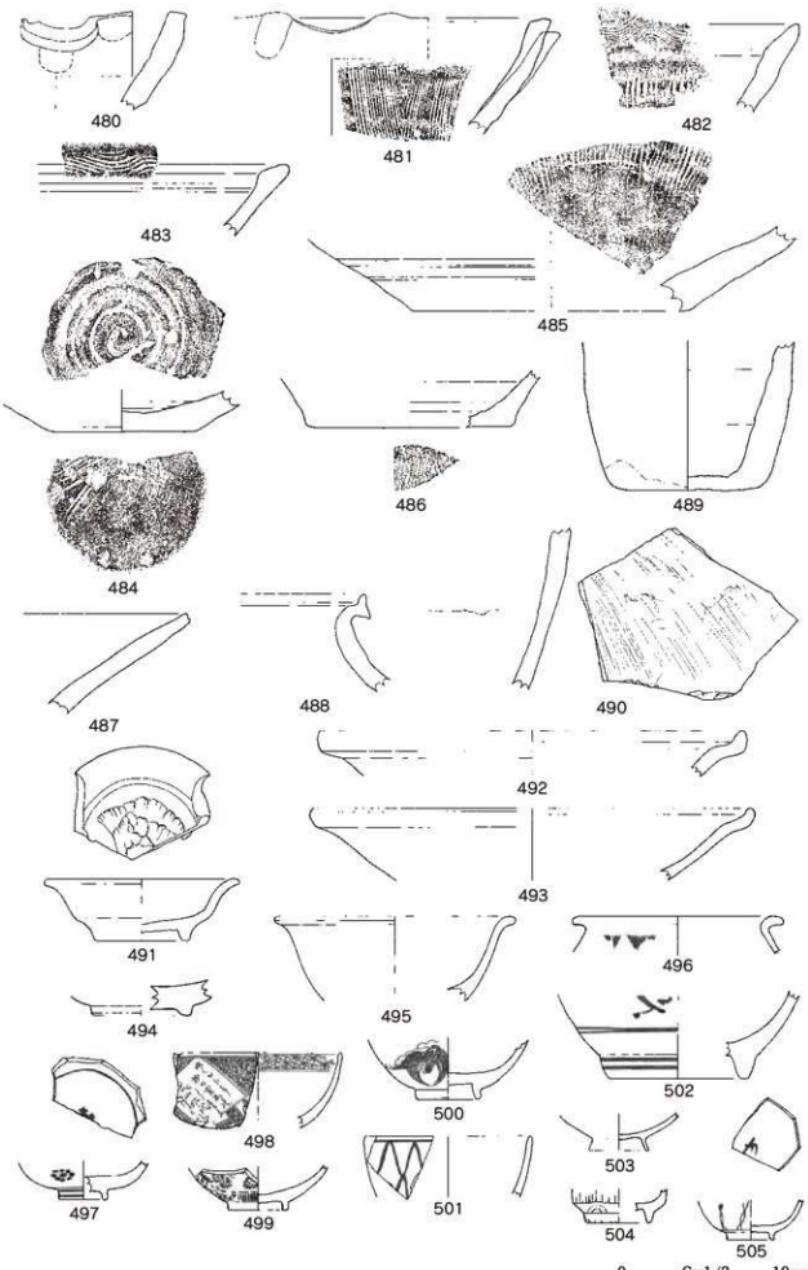
第115図 遺物実測図21 (S=1/3)、410 (S=1/6)



第116図 遺物実測図22 (S=1/3)

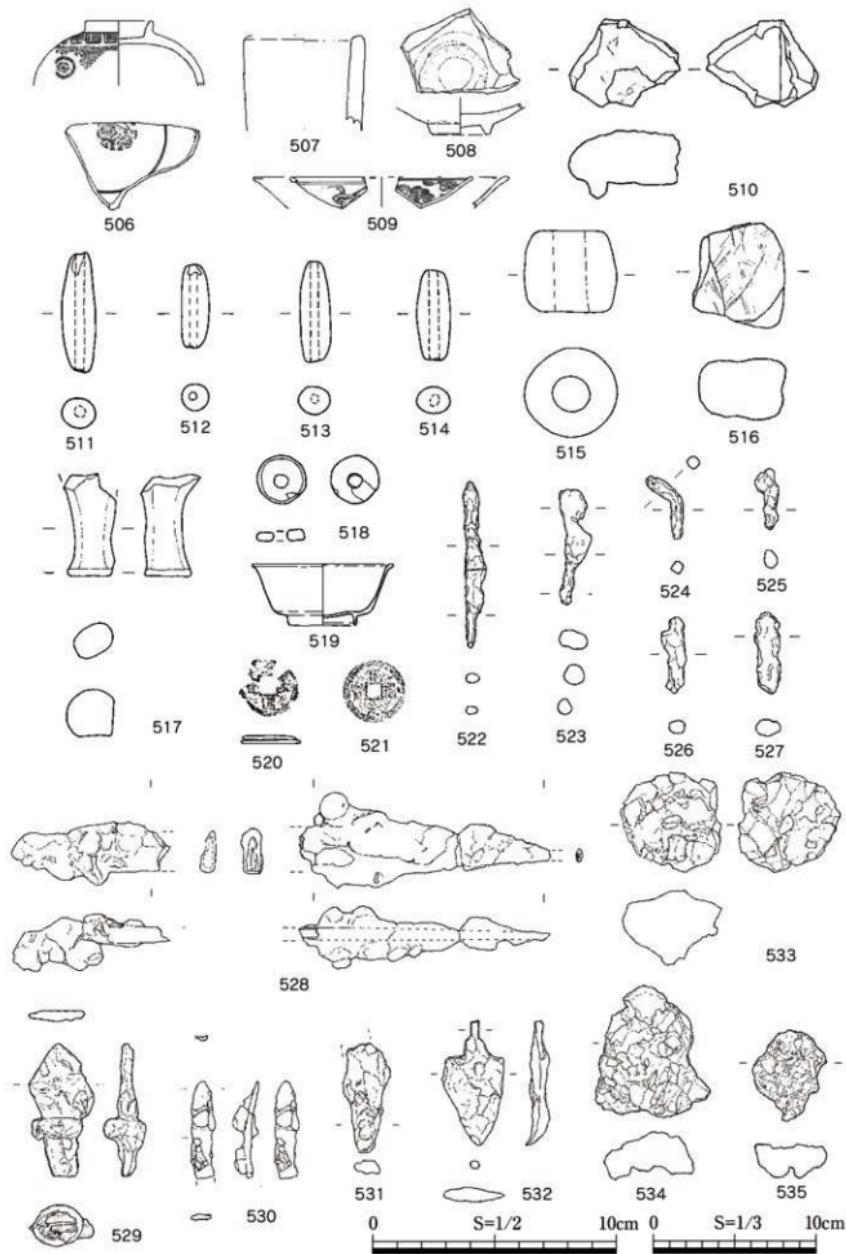


第117図 遺物実測図23 (S=1/3)

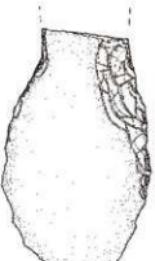
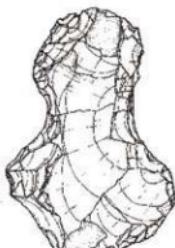
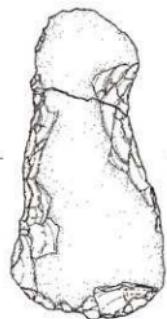


第118図 遺物実測図24 (S=1/3)

0 S=1/3 10cm

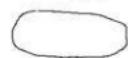


第119図 遺物実測図25 (506 ~ 509、528 ~ 535 (S=1/3)、510 ~ 527 (S=1/2))

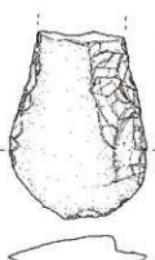
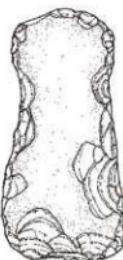
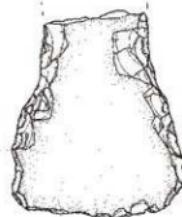


537

538



536



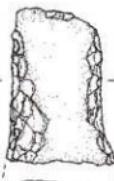
541



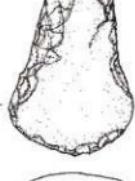
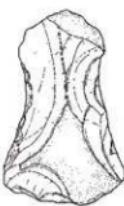
539



540



542



545



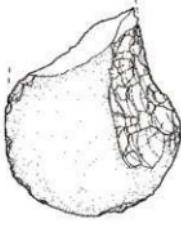
543



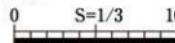
546



547

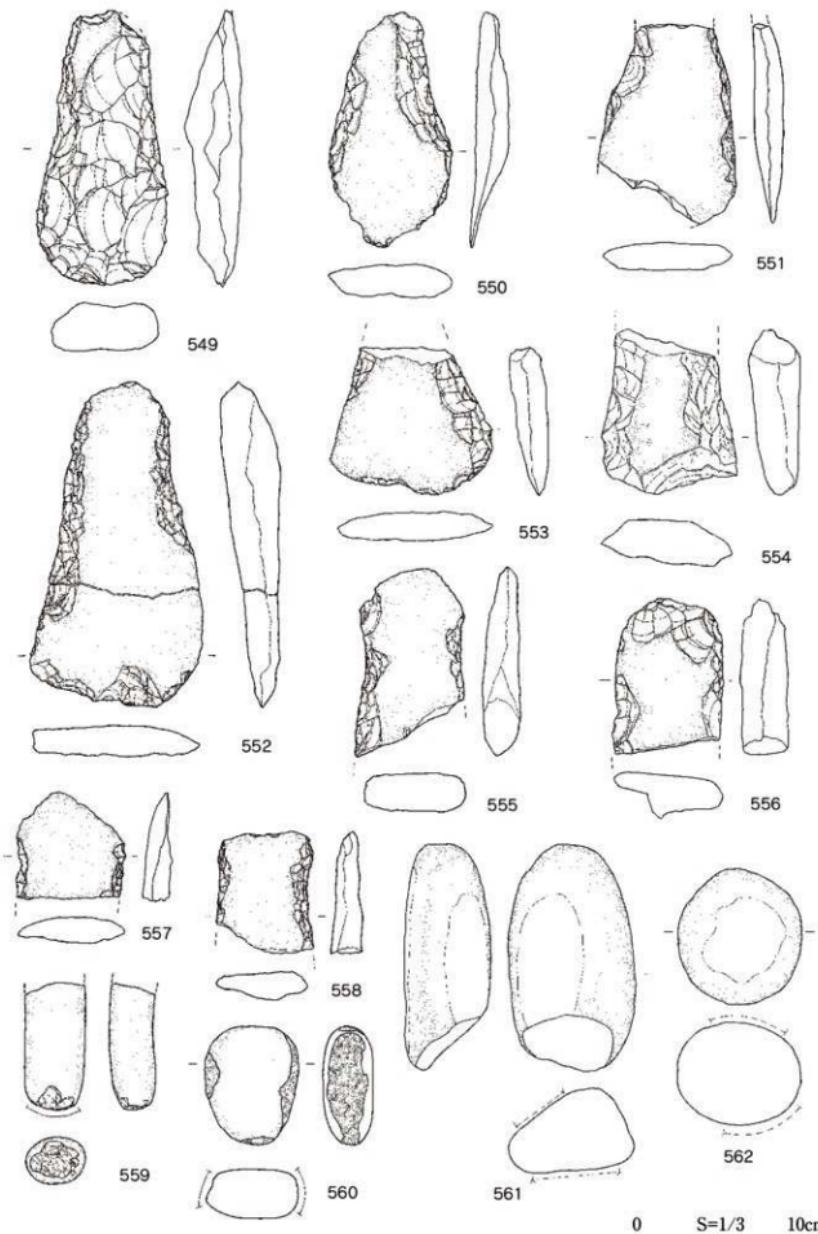


548

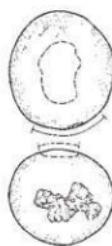


0 S=1/3 10cm

第120図 遺物実測図26 (S=1/3)

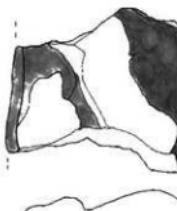
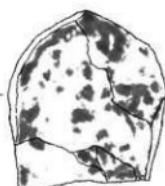


第121図 遺物実測図27 (S=1/3)



565

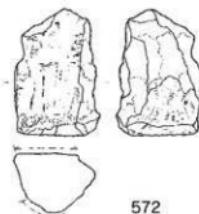
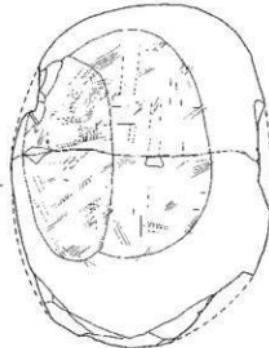
563



568

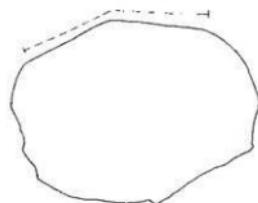
566

567

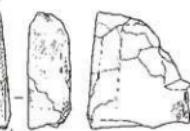


572

570



569

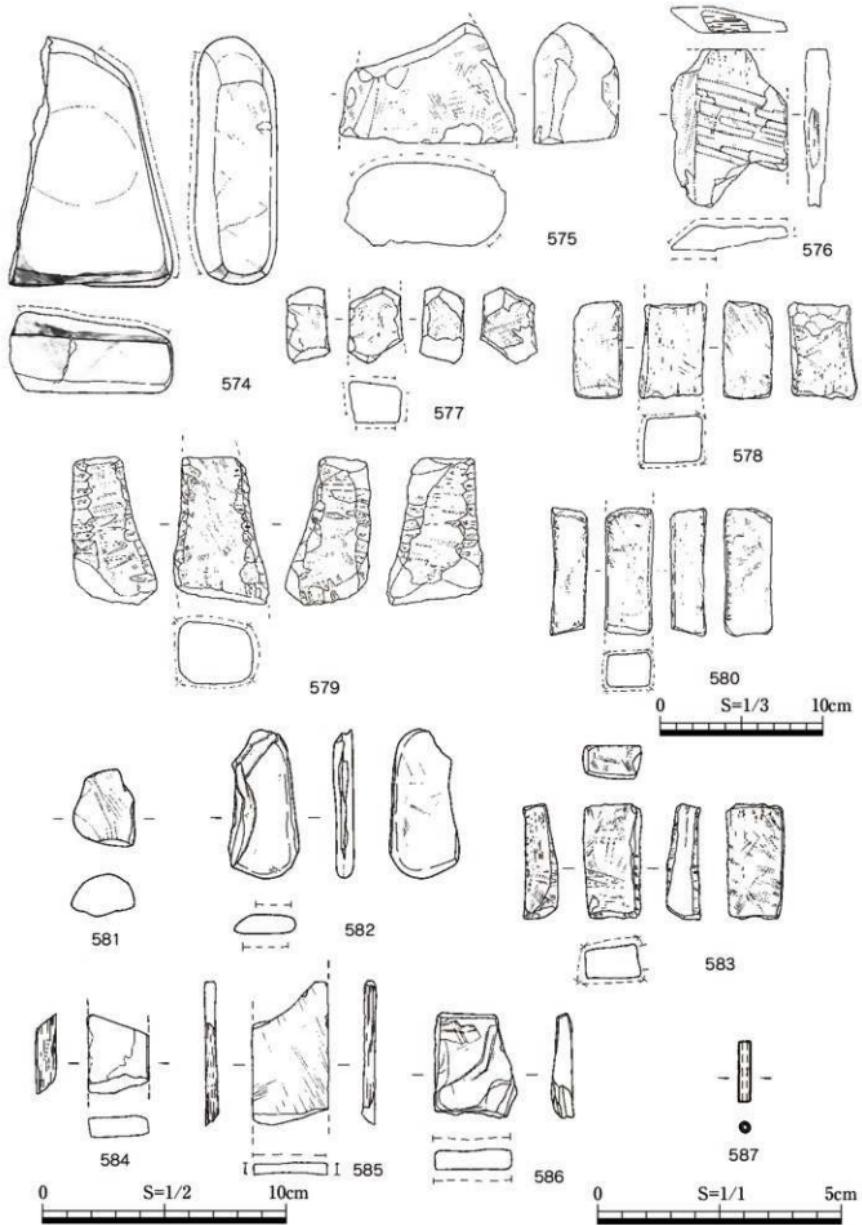


573

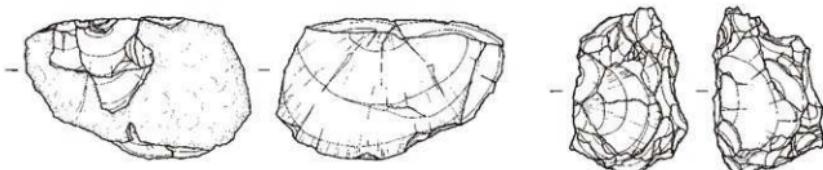
571

第122図 遺物実測図28 (S=1/3)

0 S=1/3 10cm



第123図 遺物実測図29 (574～580 (S=1/3)、581～586 (S=1/2)、587 (S=1/1))



588

589

590

591

592

593

594

595

592

597

598

596

0 S=1/2 10cm

第124図 遺物実測図30 (S=1/2)

第17表 土器・陶磁器・銅器観察表

番号	造形	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	色調(外)			
1	31次 包含層	縹文土器 深鉢				斜条根	浅黄	小片	海綿骨針	T9
						ナデ	褐灰			
2	29次 NR2	縹文土器 深鉢	324	84			にぶい橙	小片		T100
							にぶい橙			
3	31次 P28	縹文土器 深鉢					明褐色、褐 橙、暗灰黄	口縁部1/2 体部1/3	底部1/3	道H45
							にぶい橙			
4	31次 塑面	縹文土器 深鉢					にぶい黄褐色、にぶい黄橙	小片		N37
							にぶい黄褐色			
5	29次 包含層	縹文土器 深鉢		90		ナデ	暗灰黄	底部2/3	網代灰斑	N92
						ナデ、ハケ	にぶい黄橙			
6	29次 包含層	縹文土器 堀		100		ナデ	浅黄橙	底部完形		T149
							灰黃褐色			
7	29次 SN1	弥生土器 堀				ナデ	にぶい黄橙	口縁部1/9	煤 外面条痕	T109
							灰黃褐色			
8	31次 地山直下	縹文土器 浅鉢				ナデ	灰白	小片	波状口縁	T45
							にぶい黄褐色			
9	31次 PI	縹文土器 浅鉢	(264)			ナデ	にぶい橙	口縁部1/12	外面煤	N32
							にぶい黄橙			
10	31次 NR4	堀	(270)			ナデ	にぶい黄橙	小片		N44
						ナデ	褐、褐灰			
11	32次 SK69	弥生土器 堀			104		灰黃褐色、にぶい黄橙	底部1/2 体部1/4	外面条痕 内面炭化物	H155
							にぶい黄橙、灰黃褐色			
12	32次 SK61	弥生土器 堀					灰黃褐色、にぶい黄褐色	小片	外面条痕	H156
							浅黄橙			
13	29次 SI1	弥生土器 堀	222	195		ナデ	にぶい黄橙	口縁部1/3	擬凹縁8条	N47
						ヨコナデ、ケズリ	灰黄			
14	29次 SI1	弥生土器 堀	158	137		ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐色、褐灰	口頭部	7/16	N50
						ヨコナデ、ケズリ	灰黃褐色、褐灰			
15	29次 SI1	弥生土器 堀	164			ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、灰黃褐色	口縁部1/9	口縁部1/2 外面煤	T130
						ヨコナデ、ケズリ	灰黄			
16	29次 SI1	弥生土器 堀	181	157		ヨコナデ、ハケ	にぶい橙、黑	口縁部1/2	外面煤	N49
						ヨコナデ、ハケ	にぶい橙			
17	29次 SI1	弥生土器 堀	148	132		ミガキ、ハケ	褐、明褐色、黑褐	口縁部7/18	外面煤	N46
						ケズリ、ナデ	にぶい橙			
18	29次 SI1	弥生土器 堀	132			ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐色、黄灰	口縁部1/5		N57
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄褐色、黄灰			
19	29次 SI1	弥生土器 堀	62			ハケ、ナデ	周灰、にぶい黄褐色	底部5/9		T129
						ケズリ、ナデ	褐灰			
20	29次 SI1	弥生土器 堀	34			ハケ	灰黄褐色、黑	底部3/4	外面煤 内面炭化物	N51
						ケズリ、ナデ	黑、灰黄褐色			
21	29次 SI1	弥生土器 底部		70			橙	底部完形		N54
							橙			
22	29次 SI1	弥生土器 堀	128	(230)	52	ヨコナデ、ミガキ	明黄色、褐灰	体部、底部 3/4	擬凹縁4~5条 外面煤	N48
						ヨコナデ、ハケ	灰黄褐色、橙			
23	29次 SI1	弥生土器 堀		62		ミガキ、ナデ	にぶい黄褐色、黑	底部全周		T127
						ハケ、ナデ	浅黄褐色			
24	29次 SI1	弥生土器 堀		50		ミガキ	褐灰、にぶい黄褐色	底部ほぼ全周		N56
						ハケ	にぶい黄褐色、黑			
25	29次 SI1	小型土器	54	48	26	ナデ	にぶい黄褐色、黑	底部全周 体部~口縁1/6	内外面指揮压痕 擬凹縁7条	N58
						ナデ	にぶい黄褐色			
26	29次 SI1	弥生土器 高杯	300			ナデ、ミガキ	にぶい黄褐色、橙、褐灰	口縁部1/4		T126
						ナデ、ミガキ	にぶい黄褐色、橙、褐灰			
27	29次 SI1	弥生土器 高杯	294			ミガキ	浅黄褐色、にぶい黄褐色	口縁部1/4		T128
						ナデ、ミガキ	にぶい黄褐色			
28	29次 SI1	弥生土器 高杯		142		ミガキ、ナデ	明褐色、にぶい褐色	底部1/7	外面水彩	N52
						ミガキ、ヨコナデ	にぶい黄褐色、橙			
29	35次 SI2	弥生土器 堀	170	249	215	ヨコナデ、ハケ	暗褐色、にぶい黄褐色	口縁部全周 体部全周	内外面煤、炭化物 擬凹縁7条	H79
						ヨコナデ、ケズリ	黑褐			
30	29次 SI2	弥生土器 堀	202			ヨコナデ、ナデ	にぶい橙	口縁部1/6	内外面指揮压痕	N231
						ヨコナデ、ケズリ	橙			

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
						調整(内)					
31		弥生土器 甕		200		ヨコナデ	にぶい黄橙、にぶい橙	口縁部1/6		N227	
						ヨコナデ	にぶい黄橙				
32		弥生土器 小型甕	100	84		ヨコナデ、ハケ	橙、にぶい黄橙	口縁部1/5 体部1/5	外面煤	H78	
						ヨコナデ	橙、にぶい黄橙				
33		弥生土器 甕	122	103		ヨコナデ	橙	口縁部1/4		N228	
						ヨコナデ、ハケ	褐灰				
34		弥生土器 小型甕	88			ヨコナデ、ハケ	灰黃	口縁部1/6		N229	
						ヨコナデ、ハケ	灰黃				
35		弥生土器 甕			54	ナデ	にぶい橙	底部1/3		N226	
						ナデ、ハケ	灰黃				
36		弥生土器 甕		24		ハケ、ケズリ、ナデ	にぶい橙	底部2/3		N225	
						ハケ、ナデ	灰黃				
37		弥生土器 甕		30		ハケ	にぶい橙	底部全周		O46	
						ケズリ、ナデ	にぶい黄橙				
38		弥生土器 甕		34		ミガキ	にぶい黄橙	底部全周		H77	
						ミガキ	にぶい黄橙				
39		弥生土器 甕		53		ミガキ	赤橙一浅黄橙	高台径1/2		O42	
						ケズリ、ナデ	灰黃				
40		弥生土器 高杯	246			ミガキ	にぶい橙	环部1/7		N224	
						ミガキ	にぶい橙				
41		弥生土器 高杯	260			ミガキ	橙	环部1/7		N230	
						ミガキ	にぶい橙				
42		弥生土器 器台	242			ミガキ	浅黄橙、橙	口縁部1/4		O45	
						ミガキ	浅黄橙、橙				
43		弥生土器 器台		170		ミガキ	橙	瓶部1/8 柱状部全周	透孔4	H74	
						ヨコナデ	橙				
44		弥生土器 鉢	140	121		ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙、黒褐	口縁部1/5		H75	
						ミガキ	浅黄橙				
45		弥生土器 甕	171	150		ヨコナデ	橙	口縁部1/3	外面煤 擬凹線10条	H24	
						ヨコナデ、ケズリ	橙				
46		弥生土器 甕	140	129		ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙	口縁部1/4 体部1/6	外面煤	H22	
						ヨコナデ、ハケ、ケズリ	浅黄				
47		弥生土器 小型甕	102	74		ヨコナデ	にぶい黄橙、黒褐	全体1/6	擬凹線5条	N34	
						ヨコナデ	にぶい黄橙				
48		弥生土器 甕	162	148		ヨコナデ、ケズリ	黒褐、にぶい黄褐	口縁部1/2	内外面煤	H30	
						ヨコナデ、ケズリ	褐、にぶい黄橙				
49		弥生土器 甕	(135)	(120)		ハケ、ナデ	にぶい黄橙	口縁部1/9	内外面煤	H23	
						ハケ、ケズリ、ナデ	にぶい黄橙				
50		弥生土器 小型甕	110	97	30	ヨコナデ、ハケ	橙、黑、にぶい褐	口縁部1/4 体部10/12	外面煤	N35	
						ヨコナデ	橙、黑、にぶい褐				
51		弥生土器 甕		(176)	(142)	ヨコナデ	明褐	口縁部5/36		N36	
						ヨコナデ	明褐				
52		弥生土器 甕		50		ハケ	灰褐、黑褐、黑	底部11/18	外面炭化物	N32	
						ケズリ、ハケ、ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐				
53		弥生土器 甕		19~21		ヘラケズリ、ナデ	灰黄褐、黑褐	底部全周	外面煤	N243	
						ヘラナデ	灰黄褐				
54		弥生土器 甕		34		ミガキ	橙、明黄褐	底部全周		H27	
						ミガキ	明黄褐				
55		弥生土器 甕		(232)		ミガキ	にぶい黄橙、黒褐	口縁部1/9		H28	
						ミガキ	にぶい黄橙				
56		弥生土器 甕		48	(162)	ミガキ	にぶい橙、にぶい黄橙、黒褐	瓶部1/4 体部1/6	外面煤、赤彩	N251	
						ナデ	褐灰				
57		弥生土器 高杯	222			ミガキ	橙	口縁部1/5		N41	
						明黄褐、橙					
58		弥生土器 高杯	(226)			ミガキ	にぶい黄橙	口縁部1/9		H26	
						ミガキ	にぶい黄橙				
59		弥生土器 高杯		143		ミガキ	暗灰黄	底部1/7	透孔1	H25	
						ハケ、ナデ	灰黄褐				
60		弥生土器 高杯	S13	36		ミガキ	橙	柱状部 全周	透孔2	N252	
						ナデ	橙				

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	色調(外) 色調(内)			
61	弥生土器 SI3	柱状部径 高杯		40		ミガキ	にぶい黄橙、灰黄褐	柱状部全周	N37	
						しほり目	にぶい黄褐			
62	弥生土器 SI3	柱状部径 高杯		36 ~ 38		ミガキ	にぶい黄橙、灰黄褐	柱状部5/12	N33	
						灰黄褐				
63	弥生土器 器台			188		ミガキ	にぶい黄橙、黒褐	底部1/6	透孔4 内面煤	H29
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙			
64	弥生土器 器台	柱状部径 高杯		40		ナデ	明黄褐	柱状部1/3	N40	
						ミガキ	にぶい黄橙、褐灰			
65	小型土器 SI3 林		80	50	18	ミガキ	にぶい黄橙、褐灰	底部1/4	口縁部1/12	N244
						ミガキ	にぶい黄橙、褐灰			
66	弥生土器 SI3 脇		200	78	35	ミガキ	にぶい橙、にぶい黄橙、黒褐	口縁部5/18	N39	
						ミガキ、ナデ	にぶい橙、にぶい黄橙			
67	弥生土器 SI3 脇		143	82	20	ミガキ	にぶい黄橙、明褐、黒褐	完形	外面煤	N38
						ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙			
68	弥生土器 SI4 脇		204			ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、浅黄橙	口縁部1/6	擬凹鏡5条 指頭压痕	T67
						ヨコナデ、ケズリ	浅黄橙、灰黄褐			
69	弥生土器 SI4 壺		154			ヨコナデ	にぶい黄橙、明赤褐	口縁部1/6	T68	
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
70	弥生土器 SI4 高杯	柱状部径	41			ハケ、ナデ、ミガキ	にぶい黄橙	頭部完形	透孔2	T66
						ケズリ、ナデ	にぶい黄橙			
71	弥生土器 SI5 脇		130			ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁部1/6	擬凹鏡4条	T140
						ヨコナデ、ケズリ	灰黄褐			
72	弥生土器 SI5 脇		178			ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙	口縁部1/6	T141	
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
73	弥生土器 SI5 脇		166			ヨコナデ	橙	口縁部1/4	外面煤	T142
						ヨコナデ、ケズリ	黄橙			
74	弥生土器 SI5 壺		32			ナデ	浅黄橙	つまみ部 全周	N136	
						ナデ	にぶい黄橙			
75	弥生土器 SI5 高杯	柱状部径	37			ミガキ	にぶい黄橙、黒褐	柱状部全周	N138	
						ナデ	にぶい黄橙			
76	弥生土器 SI5 高杯	柱状部径	37			橙		柱状部全周	N137	
						しほり目	にぶい黄橙			
77	弥生土器 SI5 器台		30			ミガキ	灰黄褐、黒褐	柱状部全周	N139	
						ナデ、しほり目	黒褐、灰黄褐			
78	弥生土器 SI6 脇	頸部径	158	116		ヨコナデ	浅黄橙	口頸部1/2	擬凹鏡8条 外面煤	O127
						ヨコナデ	浅黄橙			
79	弥生土器 SI6 脇	頸部径	160	144	179	ヨコナデ、ハケ	明黄褐	口頸部3/4	擬凹鏡5条 外面部部側面文	H122
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙			
80	弥生土器 SI6 脇	頸部径	140	136	199	ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙	口頸部1/2	外面煤	T148
						ヨコナデ、ハケ	にぶい橙			
81	弥生土器 SI6 脇	頸部径	152	133	195	ヨコナデ、ケズリ	橙	口頸部1/4 全周	外面煤	H121
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙			
82	弥生土器 SI6 脇	頸部径	118		89	ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙、灰黄褐	口頸部1/4 全周	外面煤	H120
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙、灰黄褐			
83	弥生土器 SI6 脇			52		ハケ	にぶい黄橙	底部全周	O137	
						ハケ、ケズリ	灰黄褐			
84	弥生土器 SI6 脇			45		ケズリ	明黄褐	底部全周	海綿骨針	T145
						ナデ、ケズリ	灰黄褐			
85	弥生土器 SI6 壺			68		ミガキ、ナデ	にぶい黄橙	底部5/6 体部1/3	外面煤	T146
						ケズリ	灰白			
86	弥生土器 SI6 壺		(96)	112	30	ヨコナデ、ミガキ ナデ、ケズリ、ミガキ	灰白、黒褐	口縁部1/6 全周	O139	外面赤彩
						ヨコナデ、ミガキ ナデ、ケズリ、ミガキ	灰白			
87	弥生土器 SI6 壺			128		ヨコナデ	灰白	口縁部1/3	O131	
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
88	弥生土器 SI6 高杯	頸部径	126			ハケ	にぶい橙	脚部全周	透孔2	O138
						ハケ	にぶい橙			
89	弥生土器 SI6 高杯		220			灰白～にぶい橙		受部の角1/3	O140	
						浅黄橙				
90	弥生土器 SI6 高杯		(234)			浅黄橙		口縁部1/10	O143	
						浅黄橙				

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	倍				
91	弥生土器	高杯	242			ハケ、ミガキ	にぶい橙、にぶい黄橙	口縁部1/7		O133	
S16						ミガキ	にぶい橙、にぶい黄橙				
92	弥生土器	高杯	(223)			ミガキ	にぶい黄橙	口縁部1/8	内外面赤彩	O130	
S16						ミガキ	にぶい黄橙				
93	弥生土器	高杯	258			ミガキ	にぶい黄橙	口縁部1/6	内外面赤彩	T149	
S16						ミガキ	にぶい黄橙				
94	弥生土器	高杯	40			ミガキ、ハケ	浅黄橙	柱状部全周		O136	
S16						ミガキ、ナデ	にぶい黄橙				
95	弥生土器	高杯	42			ナデ	にぶい橙	柱状部全周		T147	
S16						ナデ	にぶい橙				
96	弥生土器	器台	40			ミガキ	にぶい黄橙	柱状部全周		O142	
S16						ミガキ	にぶい黄橙				
97	弥生土器	器台	40			ナデ	浅黄橙	柱状部1/2		O128	
S16						ナデ	にぶい黄橙				
98	弥生土器	器台	44			ミガキ	にぶい黄橙	柱状部2/3	透孔3 (推定6穴か)	O135	
S16						ミガキ	にぶい黄橙				
99	弥生土器	器台	40			ナデ	にぶい黄橙	柱状部全周		O141	
S16						ナデ	にぶい黄橙				
100	弥生土器	器台	40			ミガキ	浅黄橙	柱状部全周		O134	
S16						ミガキ	浅黄橙				
101	弥生土器	蓋部	141			ミガキ	明赤褐	帽部1/3	透孔3 外面赤彩	H123	
S16						ミガキ	にぶい黄橙				
102	弥生土器	鉢	124	66	30	ケズリ、ナデ	明灰褐	底部全周		O129	
S16						ケズリ、ナデ、ミガキ	にぶい黄橙				
103	弥生土器	SK2 蓋	132			ヨコナデ	根	口縁部1/6	擬凹線8条	T110	
SK2						ヨコナデ	根				
104	弥生土器	SK7 蓋	158	146 ~ 154	30	ヨコナデ、ミガキ	にぶい橙、黒	はぼ完形	外面煤、内面炭化物	N60	
SK7						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙、黒褐				
105	弥生土器	SK7 鉢	130	61		ヨコナデ	根、褐灰	口縁部1/18		N55	
SK7						ヨコナデ	根				
106	弥生土器	SK7 小型鉢	90	43	36	ミガキ	根、灰	はぼ完形	底部人為的に孔あける	N53	
SK7						ミガキ	にぶい黄橙、にぶい黄褐				
107	弥生土器	SK8 蓋	118	106	22	ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙、褐褐、浅黄橙	口縁部1/2	指頭圧痕	T93	
SK8						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙、にぶい黄褐				
108	弥生土器	SK8 蓋	158	142	194	ヨコナデ、ハケ	にぶい橙、にぶい褐	全体1/2	外面煤	N59	
SK8						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙、褐				
109	弥生土器	SK9 蓋	160			ヨコナデ	にぶい黄橙、褐	口縁部5/36	擬凹線8条	T95	
SK9						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙				
110	弥生土器	SK9 蓋	202			ナデ、ケズリ	浅黄橙	口縁部5/36		T122	
SK9						ナデ、ケズリ	にぶい黄橙				
111	弥生土器	SK9 蓋	200			ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、にぶい橙	口縁部1/9		T121	
SK9						ヨコナデ、ケズリ	浅黄橙				
112	弥生土器	SK9 蓋	136			ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、浅黄橙	口縁部1/9		T120	
SK9						ヨコナデ	にぶい黄橙				
113	弥生土器	SK9 蓋	140			ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、浅黄橙	口縁部1/3	外面煤	T94	
SK9						ヨコナデ	にぶい黄橙				
114	弥生土器	SK9 高杯			150	ナデ	浅黄橙	底部11/18		T123	
SK9						ナデ	浅黄橙				
115	弥生土器	SK9 壺	90		20	ヨコナデ、ミガキ	赤橙、赤	全体1/2	擬凹線10条	T124	
SK9						ヨコナデ、ミガキ	浅黄橙、赤				
116	弥生土器	SK9 高杯	250			ナデ、ミガキ	浅黄橙、にぶい黄橙	口縁部5/36		T125	
SK9						ナデ、ミガキ	浅黄橙				
117	弥生土器	SK14 蓋		65	24	ハケ、ナデ	にぶい黄橙	底部全周	指頭圧痕	H16	
SK14						ナデ	にぶい黄橙				
118	弥生土器	SK14 高杯			143	ミガキ	にぶい黄橙	环底部1/7		H15	
SK14						ミガキ	にぶい黄橙				
119	弥生土器	SK15 蓋	(171) (152)			ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、黒褐、明黄褐	口縁部1/9	外面煤	N232	
SK15						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙、明黄褐				
120	弥生土器	SK16 高杯		(290)		ミガキ	にぶい黄橙	口縁部1/9	底部1/12	T67	
SK16						ミガキ	浅黄橙				

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	色調(外) 色調(内)			
121	32次 弁生土器 SK18 甕		166			ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、黒 にぶい橙	口縁部1/6 口縁部1/6	外面煤	T77
122	32次 弁生土器 SK18 甕	頸部径	152	体部径 132	188	ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ	灰黄褐 にぶい黄橙	口縁部2/3 体部小片		T83
123	32次 弁生土器 SK18 甕	頸部径	170	体部径 132	162	ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ	黒、黒褐 橙、灰黄褐	口縁部7/9 底部全周	擬凹鏡6条、外面煤 指頭圧痕	T78 T82
124	32次 弁生土器 SK18 甕		160			ヨコナデ ヨコナデ、ケズリ	浅黄褐 浅黄褐	口縁部1/6	擬凹鏡6条	T76
125	32次 弁生土器 SK18 甕			24		ハケ ケズリ、ナデ	褐灰、にぶい黄橙 灰黄褐	底部全周	外面煤	T79
126	32次 弁生土器 SK18 甕	頸部径 124	168			ヨコナデ、ハケ ヨコナデ	黒褐 明黄褐	口縁部1/6	外面煤	T81
127	32次 弁生土器 SK18 高杯	环底部径 124				ミガキ、ナデ ケズリ、ナデ	浅黄褐 灰黄褐	环底部1/3		T80
128	32次 弁生土器 SK19 甕		157	16		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙、黒褐 底白、黒褐、にぶい黄橙	口縁部全周 底部全周	外面煤	T73 T75
129	32次 弁生土器 SK19 甕	頸部径 106	126			ヨコナデ ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部1/6		T71
130	32次 弁生土器 SK19 台付甕			48		ナデ ナデ	橙 にぶい褐	底部7/9		T72
131	32次 弁生土器 SK19 高杯					ミガキ ケズリ、ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	上脚部全周		T74
132	32次 弁生土器 SK20 甕	頸部径 122	136	体部径 143		ヨコナデ、ハケ、ナデ ヨコナデ、ケズリ、ナデ	橙 橙	口縁部11/18	擬凹鏡7条、外面煤	N65
133	32次 弁生土器 SK20 甕	頸部径 142	166	体部径 162		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ハケ、ナデ	黒 にぶい黄橙、明黄褐、灰黄褐 2/3	口縁～体部 内面炭化物	外面煤	N64
134	32次 弁生土器 SK20 甕	体部径 146	24			ミガキ、ナデ ミガキ	明赤褐、にぶい黄橙 にぶい黄橙、褐灰	底、体部定形		N59
135	32次 弁生土器 SK20 高杯		(260)				橙、灰黄褐 橙	口縁部1/12		N62
136	32次 弁生土器 SK20 高杯	柱状部径 40～54				ミガキ しきり日、ハケ	橙、にぶい橙、褐灰 にぶい黄橙、橙	柱状部全周	透孔4 外面煤	N60
137	32次 弁生土器 SK20 器台	柱状部径 40～42				ミガキ しきり日、ハケ、ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	柱状部全周	透孔4	N61
138	32次 弁生土器 SK20 鉢		(135)			ミガキ、ヨコナデ、ハケ ミガキ、ヨコナデ	にぶい黄橙、灰黄褐 にぶい黄橙	口縁部1/12	外面煤	N63
139	32次 弁生土器 SK21 甕	頸部径 122	150			ヨコナデ ヨコナデ	にぶい黄橙、にぶい橙、灰黄褐 灰黄褐	口縁部2/9		N235
140	32次 弁生土器 SK21 台付甕			72			橙、灰黄褐 橙、灰黄褐	底部5/6		N234
141	32次 弁生土器 SK25 甕	頸部径 144	164	体部径 199		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙、橙 にぶい黄橙	口縁部7/8 体部1/3	擬凹鏡6条、外面煤 指頭圧痕	H227
142	32次 弁生土器 SK25 甕	頸部径 148	148	体部径 156		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ	浅黄褐 灰白	口縁部7/9	擬凹鏡6条 外面煤	T218
143	32次 弁生土器 SK25 甕	頸部径 134	158	体部径 134		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙 にぶい黄褐	口縁部1/6 頸部径1/7	擬凹鏡7条、外面煤 指頭圧痕	H221
144	32次 弁生土器 SK25 甕	頸部径 124	138	体部径 174		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙 灰黄	口縁部1/6 頸部径1/4	擬凹鏡6条 外面煤	T217
145	32次 弁生土器 SK25 甕	頸部径 144	158	体部径 144		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ、ナデ	橙 にぶい黄橙	口縁部1/5	外面煤	H222
146	32次 弁生土器 SK25 甕	頸部径 142	166	体部径 142		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ハケ	褐灰 褐灰	口縁1/4		T220
147	32次 弁生土器 SK25 甕	頸部径 139	167	体部径 139		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部1/6 体部1/5	外面煤、粉灰 鉄銹文	H223
148	32次 弁生土器 SK25 甕	頸部径 152	150	体部径 152		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ハケ	浅黄褐 にぶい黄橙	口縁全周	外面煤	T219
149	32次 弁生土器 SK25 甕	頸部径 126	118	体部径 126		ヨコナデ、ミガキ ヨコナデ、ケズリ	橙 橙	口縁部1/4 体部1/4	外面煤 内面粘土粗粒	H224
150	32次 弁生土器 SK26 甕	頸部径 122	150			ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙、黒 にぶい橙	口縁部5/36 頸部1/4	外面煤	N248

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
						調整(内)					
151	弥生土器 甕		160	136	44	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄緑、黒褐	口縁部1/4 口縁歪み	外面煤	N249	
						ヨコナデ、ケズリ、ハケ	にぶい黄緑、灰黃褐				
152	弥生土器 甕		180	230	38	ハケ、ナデ		底部全周	海綿骨針	N246	
						ハケ、ナデ					
153	弥生土器 高杯		106	145	27	明黄褐、橙		底部5/18		N245	
						ミガキ	にぶい黄緑、灰黄褐、褐黄				
154	弥生土器 鉢		180	124	34	ミガキ	にぶい黄緑	口縁部8/9	外面赤彩	N250	
						ミガキ	にぶい黄緑				
155	弥生土器 高杯		230	158	52	ミガキ、ナデ	にぶい黄緑	口縁部1/4	外面煤	N247	
						ケズリ、ハケ	黄褐				
156	弥生土器 甕		230	145	42	ナデ	にぶい黄褐	底部1/2	内外面煤	H98	
						ハケ	灰黄褐				
157	弥生土器 甕		230	124	34	ケズリ、ナデ	橙	底部1/4	外面煤	H103	
						ミガキ、ヨコナデ	にぶい黄褐、浅黄緑、黒褐				
158	弥生土器 甕		230	158	52	ミガキ、ヨコナデ	にぶい黄褐、黒褐	口縁部1/7	内里、外黒	H104	
						ミガキ、ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐、黒褐				
159	弥生土器 高杯		236	90	27	ミガキ	浅黄緑	口縁部1/9	環部全周	H101	
						ミガキ	浅黄緑				
160	弥生土器 高杯		236	145	42	ミガキ	浅黄緑	柱状部1/10	外面煤	H102	
						ミガキ、ナデ	浅黄緑				
161	弥生土器 器台		236	124	34	ミガキ	橙	柱状部全周		H99	
						ミガキ、ヨコナデ、ミガキ	明赤褐、浅黄緑				
162	弥生土器 甕		236	90	34	ミガキ、ケズリ、ナデ	橙、浅黄緑	口縁部3/7		H225	
						ハケ	にぶい黄、浅黄緑				
163	弥生土器 つまみ紐		236	63	42	ハケ	にぶい黄、浅黄緑	瓶部5/6	つまみ全周	H226	
						ハケ、ナデ	にぶい橙				
164	弥生土器 甕		236	124	34	ナデ、ハケ、キザミ	浅黄緑	口縁部3/4	擬凹線7条、刺突文 外面煤、炭化物	O108	
						ナデ、ケズリ	にぶい黄緑				
165	弥生土器 甕		236	124	34	ハケ	にぶい黄緑	底部全周	外面煤	O110	
						ケズリ、ナデ	灰白				
166	弥生土器 甕		236	124	34	ケズリ、ナデ	にぶい黄緑	底部全周		O116	
						ケズリ、ナデ	灰黄褐				
167	弥生土器 甕		236	124	34	ヨコナデ	黒	口縁部1/7	外面煤	O106	
						ヨコナデ	にぶい黄緑				
168	弥生土器 甕		236	124	34	ヨコナデ、ハケ	にぶい橙	口縁部全周	外面煤、炭化物	O236	
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙				
169	弥生土器 甕		236	124	34	ヨコナデ、ハケ	浅黄緑	口縁部全周	外面煤	O117	
						ヨコナデ、ケズリ	浅黄緑				
170	弥生土器 甕		236	124	34	ミガキ	にぶい橙	口縁部1/4	内外面煤	O112	
						ミガキ、ケズリ、ナデ	にぶい橙				
171	弥生土器 甕		236	124	34	ハケ、ヨコナデ、ミガキ	淡橙	口縁部全周	外面煤	O107	
						ヨコナデ、ケズリ、ハケ	淡橙				
172	弥生土器 甕		236	124	34	ヨコナデ、ハケ	浅黄緑	口縁部3/4	外面煤	O109	
						ヨコナデ、ケズリ	灰白				
173	弥生土器 甕		236	124	34	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄緑、黒	口縁部、体部 1/2	外面煤	N213	
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄緑				
174	弥生土器 甕		236	124	34	ハケ、ナデ	浅黄緑～黒	体部全周	外面煤	O237	
						ハケ	にぶい橙				
175	弥生土器 台付甕		236	124	34	ハケ、ミガキ	浅黄緑	全周		O113	
						ミガキ、ナデ	浅黄緑				
176	弥生土器 小型鉢		236	124	34	ハケ、ナデ	浅黄緑	はな完形		O238	
						ハケ、ナデ	浅黄緑				
177	弥生土器 柱状部		236	124	34	ミガキ	にぶい橙	柱状部全周	外面煤	O115	
						ナデ	にぶい橙				
178	弥生土器 高杯		236	124	34	ハケ、ナデ	橙	底部1/7		O111	
						ミガキ	にぶい黄緑				
179	弥生土器 器台		236	124	34	ミガキ、ケズリ、ナデ	にぶい黄緑	口縁部1/2	透孔1	O239	
						ミガキ	浅黄緑				
180	弥生土器 高杯		236	124	34	ミガキ	明褐灰	口縁部1/8		O240	

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)						
181	弥生土器 SK30	高杯	290	柱状部径 44		ミガキ	浅黄橙	柱状部は全周	透孔4		O114	
						ミガキ、ナデ、ハケ	浅黄橙					
182	弥生土器 SK30	鉢	184	110	20	ミガキ	橙	ほぼ完形	外面焼 内外面赤彩		O105	
						ミガキ	橙					
183	弥生土器 SK31	壺	126	頸部径 90	体部径 110	ヨコナデ、ハケ	黒	口縁部1/6	擬円錐6条 体部1/3		T216	
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙					
184	弥生土器 SK31	器台	40			ミガキ	浅黄橙	底部1/2	透孔3	柱状部全周	擬円錐5条	
						ミガキ、しばり目	にぶい黄橙					
185	弥生土器 SK33	小型鉢	62	32～ 33	12	ユビナデ、ケズリ	暗灰黄、黒褐	底部全周		N233		
						ユビナデ	暗灰黄					
186	弥生土器 SK34	穿孔土器		32		ケズリ、ハケ、ナデ	にぶい黄橙	底部全周		H90		
						ハケ、ナデ	にぶい黄橙					
187	弥生土器 SK34	壺	144	頸部径 (113)	体部径 176	ハケ	明赤褐	口縁部3/4	外面焼		H97	
						ヨコナデ、ケズリ	明赤褐					
188	弥生土器 SK34	壺	140			ヨコナデ	橙	口縁部1/5		H94		
						ヨコナデ	明赤褐					
189	弥生土器 SK34	壺	(136)	(113)		ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙	口縁部1/8	外面焼		H93	
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙					
190	弥生土器 SK34	壺	145	頸部径 120		ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、橙	口縁部1/5		H91		
						ヨコナデ、ハケ、ケズリ	にぶい橙					
191	弥生土器 SK34	壺	126	28		ハケ、ナデ	にぶい黄橙、黒褐	口縁部2/3		H96		
						ハケ、ナデ	にぶい黄橙					
192	弥生土器 SK34	器台		(168)		ミガキ	浅黄橙	底部1/9		H92		
						ヨコナデ	浅黄橙					
193	弥生土器 SK34	高杯			159	ミガキ	浅黄橙	底部2/3	内外面焼		O118	
						ナデ、ハケ	にぶい黄橙					
194	弥生土器 SK35	壺	(160)	頸部径 (126)		ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁部1/9	擬円錐6条		H85	
						ナデ、ケズリ	にぶい黄橙					
195	弥生土器 SK35	高杯			142	ミガキ	橙	底部7/18			N14	
						ヨコナデ	橙					
196	弥生土器 SK35	高杯	212			ミガキ	にぶい褐	口縁部1/6			N9	
						ミガキ	にぶい褐					
197	弥生土器 SK35	高杯		(230)		ミガキ	にぶい橙	口縁部1/9		H86		
						ミガキ	橙					
198	弥生土器 SK35	高杯	168			ミガキ	黄、にぶい黄橙	坏部1/2		H84		
						ミガキ	浅黄橙					
199	弥生土器 SK35	高杯	(300)			ミガキ	にぶい赤褐	口縁部1/9	内外面赤彩		N15	
						ミガキ	にぶい赤褐					
200	弥生土器 SK35	高杯		38		ミガキ	にぶい黄橙、黒	柱状部全周		H88		
						ケズリ、ナデ	灰					
201	弥生土器 SK35	器台		30		ミガキ	にぶい黄橙	柱状部全周	外面赤彩		H87	
						ナデ	にぶい黄橙					
202	弥生土器 SK35	壺	140	頸部径 108		ヨコナデ	橙	口縁部11/12		N13		
						ミガキ	橙					
203	弥生土器 SK36	高杯			(170)	ミガキ	にぶい黄橙、褐灰	口縁部	外面焼 内面炭化物		N54	
						ナデ	にぶい橙、黒					
204	弥生土器 SK36	高杯			(125)	ミガキ	にぶい黄橙、褐灰	底部1/4		N53		
						ナデ	にぶい黄橙					
205	弥生土器 SK36	鉢	(152)			ミガキ	にぶい黄橙、褐灰	口縁部1/9		N55		
						ミガキ	にぶい黄橙					
206	弥生土器 SK37	壺	192	頸部径 172		ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、灰黄褐	口縁部2/9	外面剥突文		N51	
						ヨコナデ、ハケ	灰黄褐、にぶい黄橙					
207	弥生土器 SK37	壺		24		ハケ	にぶい黄橙	底部3/4	内面炭化物		N50	
						ハケ	灰黄褐、黒褐					
208	弥生土器 SK37	高杯	51			ミガキ	橙	坏部5/12		N49		
						ハケ	橙、灰褐					
209	弥生土器 SK37	高杯		40		ミガキ	にぶい褐、灰褐	口縁部1/6		N52		
						ナデ、ハケ	橙					
210	弥生土器 SK38	壺			(30)	ナデ、ケズリ	褐	底部2/3		T70		
						ナデ、ケズリ	褐					

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
						調整(内)					
211	弥生土器	高杯		柱状部径 32		ミガキ	にぶい黄橙	柱状部全周	透孔4	T69	
						ナデ	にぶい黄橙				
212	弥生土器	高杯		SK38		ミガキ, ナデ	灰黄褐色	口縁部小片	内面一部赤彩	T68	
						ハケ, ナデ, ミガキ	にぶい黄橙, 明赤褐色				
213	弥生土器	壺	144		24	ヨコナデ, ハケ	浅黄橙, 黑褐	底部完形	擬円線4条, 外面煤 口縁部5/6 指頭圧痕	T32	
						ヨコナデ, ケズリ	にぶい黄橙, 灰黄褐色				
214	弥生土器	壺	SK40		30	ナデ, ハケ	にぶい黄橙	底部完形	外面煤	T34	
						ナデ	にぶい黄橙, にぶい橙				
215	弥生土器	壺	SK40		70	ハケ, ナデ	にぶい黄橙	底部完形	台付	N56	
						ハケ, ナデ	にぶい橙, 灰黄褐色				
216	弥生土器	壺	SK40		56	ハケ, ナデ	にぶい黄橙	底部完形	外面煤	T33	
						ナデ, ハケ	にぶい黄褐色				
217	弥生土器	壺	SK40		170	ヨコナデ, ハケ	にぶい黄橙	口縁部1/6		N47	
						ヨコナデ, ハケ	灰黄褐色				
218	弥生土器	穿孔土器	SK40		(20)	ナデ	にぶい黄褐色	底部全周	底部穿孔	N75	
						ハケ, ヨコナデ	灰黄褐色				
219	弥生土器	壺	SK40		167	ミガキ	にぶい黄橙	口縁部1/6		N76	
						ミガキ	にぶい橙, 褐灰				
220	弥生土器	壺	SK40		176	ヨコナデ	橙	口縁部2/9		N73	
						ミガキ	にぶい黄橙, 橙				
221	弥生土器	高杯	SK40		224	ミガキ	明黄褐色	口縁部1/4		N74	
						ミガキ	にぶい黄橙				
222	弥生土器	高杯	SK40		140	ヨコナデ	橙	底部1/9		N48	
						ミガキ	にぶい黄橙				
223	弥生土器	高杯	SK40		45	ヨコナデ	橙, 黄オーリーブ	柱状部全周	透孔1	N58	
						ミガキ, ナデ	橙				
224	弥生土器	高杯	SK41		45	ヨコナデ	浅黄橙	柱状部全周	透孔4	O75	
						ミガキ, ナデ	浅黄橙				
225	弥生土器	壺	SK41		217	ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁部1/5	擬円線7条 内外面煤	O72	
						ヨコナデ, ケズリ	灰白				
226	弥生土器	壺	SK43		158	ヨコナデ	にぶい橙	口縁部5/36	外面煤	T81	
						ケズリ	黄橙				
227	弥生土器	壺	SK43		140	ヨコナデ, ハケ	にぶい橙	口縁部1/6	外面煤	T82	
						ヨコナデ, ケズリ	浅黄橙				
228	弥生土器	壺	SK49		168	ヨコナデ, ハケ	浅黄橙	口縁部1/5		O22	
						ヨコナデ	浅黄橙				
229	弥生土器	壺	SK53		226	ヨコナデ	にぶい橙	口縁部1/5		O78	
						ヨコナデ, ケズリ	にぶい橙				
230	弥生土器	壺	SK53		128	ヨコナデ, ハケ	にぶい橙	口縁部1/7	外面煤	O80	
						ヨコナデ, ハケ	にぶい橙				
231	弥生土器	壺	SK53		48	ハケ	にぶい黄橙	底部全周	外面煤, 炭化物 233と同一か	O77	
						ハケ	にぶい黄橙				
232	弥生土器	台付壺	SK53		40	ナデ, ミガキ	橙	台部全周		O82	
						ハケ, ナデ	橙				
233	弥生土器	壺	SK53		125	ヨコナデ, ハケ	黄橙	口縁部1/2 体部1/8	231と同一か	O76	
						ナデ, ハケ	黄橙				
234	弥生土器	壺	SK53		44	ミガキ	にぶい黄橙	柱状部2/3		O79	
						ケズリ, ミガキ, ナデ	にぶい黄橙				
235	弥生土器	器台	SK53		224	ハケ, ナデ, ミガキ	にぶい黄橙	底部1/7		O81	
						ケズリ, ナデ, ミガキ	浅黄橙				
236	弥生土器	壺	SK54		170	ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁部1/3		N71	
						ヨコナデ	橙, にぶい橙				
237	弥生土器	壺	SK54		119	ミガキ	にぶい黄橙	口縁部1/9	内外面赤彩	N72	
						ミガキ	橙				
238	弥生土器	器台	SK56		164	ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁部1/6	擬円線7条 指頭圧痕	H55	
						ヨコナデ, ケズリ	にぶい黄橙				
239	弥生土器	壺	SK56		167	ヨコナデ, カズリ	にぶい黄橙	口縁部4/6	擬円線5条 外面煤	H52	
						ヨコナデ	浅黄橙				
240	弥生土器	壺	SK56		188	ヨコナデ, ケズリ	浅黄橙	口縁部1/6	擬円線5条	H54	

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	色調(外) 色調(内)			
241	35次 弁生土器	甌	198	SK56	頭部径 164	ヨコナデ、ハケ	橙、にぶい黄褐色	口頭部1/4	擬凹線8条	H73
						ヨコナデ、ケズリ	橙			
242	35次 弁生土器	甌	173	SK56	頭部径 152	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐色	口頭部1/3	254と同一か	H56
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄褐色			
243	35次 弁生土器	甌	135	SK56	頭部径 122	ヨコナデ、ハケ	にぶい橙	口縁部3/4	外面部	H53
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄褐色	体部1/7		
244	35次 弁生土器	甌	168	SK56	頭部径 140	ヨコナデ	にぶい黄褐色	口頭部1/4	口縁部環	H64
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄褐色			
245	35次 弁生土器	甌	170	SK56	頭部径 142	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐色	口頭部3/4	外面部予文	H72
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄褐色	体部1/3		
246	35次 弁生土器	甌	153	SK56	頭部径 132	ヨコナデ、ハケ	橙	口縁部1/6	外面部	H51
						ヨコナデ、ケズリ	浅黄褐色			
247	35次 弁生土器	甌	191	SK56	頭部径 156	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐色	口頭部2/3	外面部	H67
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄褐色			
248	35次 弁生土器	甌	162	SK56	頭部径 135	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐色	口頭部1/5	外面部環	H68
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐色	体部1/7		
249	35次 弁生土器	甌	(176)	SK56	頭部径 (148)	ヨコナデ、ハケ	にぶい橙	口縁部1/9		H63
						ヨコナデ、ハケ	にぶい橙	頭部1/8		
250	35次 弁生土器	甌	170	SK56	頭部径 148	ナデ、ハケ	橙	口頭部1/6		H62
						ヨコナデ、ハケ	橙			
251	35次 弁生土器	甌	116	SK56	頭部径 98	ハケ、ナデ	橙	口頭部1/4		H61
						ハケ	にぶい黄褐色	体部1/4		
252	35次 弁生土器	甌	179	SK56	頭部径 144	ヨコナデ	にぶい橙	口縁部1/4	外面部	H65
						ハケ、ナデ	にぶい橙			
253	35次 弁生土器	甌	39	SK56		ハケ、ナデ、ケズリ	にぶい黄褐色	底部1/2		H70
						ハケ、ナデ	にぶい黄褐色	体部1/2		
254	35次 弁生土器	甌	32	SK56		ケズリ	にぶい黄褐色	底部全周	242と同一か	H57
						ハケ	にぶい黄褐色			
255	35次 弁生土器	甌	34	SK56		ケズリ、ナデ	にぶい黄褐色	底部全周	外面部	H69
						ハケ、ナデ	灰黄褐色			
256	35次 弁生土器	甌	35	SK56			黒褐色	底部全周		H59
							黒褐色	体部3/4		
257	35次 弁生土器	甌	46	SK56		ナデ	にぶい黄褐色	底部全周		H58
						ハケ	灰黄褐色	体部1/6		
258	35次 弁生土器	甌	32	SK56	穿孔器	ハケ、ケズリ	橙	底部全周		H71
							橙	穿孔		
259	35次 弁生土器	高杯	146	SK56		ミガキ、ハケ、ナデ	赤褐色、にぶい黄褐色	底部1/4	外面部赤彩	H48
						ハケ	褐色			
260	35次 弁生土器	柱状部	42	SK56	高杯	ミガキ	にぶい黄褐色	柱状部全周	透孔1	H49
						ケズリ、ナデ	にぶい黄褐色			
261	35次 弁生土器	柱状部	47	SK56	器台	ミガキ	にぶい黄褐色	柱状部全周		H46
						ケズリ、ハケ、ナデ	橙			
262	35次 弁生土器	柱状部	344	SK56	器台	ナデ、ミガキ	浅黄褐色	口縁部1/3		H60
						ミガキ	浅黄褐色			
263	35次 弁生土器	柱状部	200	SK56	器台		橙	底部1/3	透孔1	H50
							黃褐色			
264	35次 弁生土器	柱状部	42 - 45	SK56	器台	ミガキ	にぶい橙、にぶい黄褐色	柱状部全周	透孔1	H47
						ミガキ、ケズリ、ナデ	にぶい黄褐色			
265	29次 弁生土器	柱状部	200	SK57	甌	ミガキ、ハケ	にぶい黄褐色	口頭部2/9		N90
						ヨコナデ、ハケ、ケズリ	にぶい黄褐色			
266	29次 弁生土器	柱状部	47	SK58	高杯	ミガキ	にぶい黄褐色、灰黄褐色	柱状部ほぼ全周		H23
						しばり目	にぶい黄褐色、にぶい黄褐色			
267	29次 弁生土器	甌	116	SK58	蓋	ミガキ	灰黄褐色、にぶい黄褐色	つまみ部全周	内外面部赤彩	N22
			46			ミガキ	にぶい黄褐色	口縁部1/4		
268	29次 弁生土器	甌	148	SK58	頭部径	ミガキ	にぶい黄褐色、黒褐色、橙	口縁部1/2	外面部	N24
			98			ミガキ	にぶい黄褐色、黒褐色			
269	29次 弁生土器	甌	124	SK59	頭部径	ナデ	橙、明褐色	口頭部1/4	擬凹線6条	N19
			108			ヨコナデ	灰黄褐色			
270	29次 弁生土器	甌	202	SK59	頭部径	ヨコナデ、ハケ	にぶい橙、橙、黒褐色	口頭部1/18	擬凹線8条	N20
			194			ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙、黒褐色			

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
						調整(内)					
271	29次	弥生土器 甕		(250)		ヨコナヂ、ハケ		橙、黒褐	口縁部1/8		N18
	SK59					ヨコナヂ、ケズリ		橙、にぶい黄橙			
272	29次	弥生土器 甕	146	頸部径 119		ヨコナヂ、ハケ	にぶい黄橙、灰黄褐、黒褐	口縁部1/4	外面煤		N10
	SK59					ヨコナヂ、ハケ	灰黄褐				
273	29次	弥生土器 甕	100	頸部径 68		ヨコナヂ	にぶい黄橙	口縁部1/6			N11
	SK59					ヨコナヂ	にぶい黄橙				
274	29次	弥生土器 高杯				ミガキ	にぶい橙	环部はね定形			N12
	SK59					ミガキ、ナヂ	にぶい橙				
275	29次	弥生土器 高杯		柱状部径 40		ミガキ	浅黄橙、にぶい黄橙	柱状部はね定形			N21
	SK59					ミガキ	浅黄橙、にぶい黄橙				
276	32次	弥生土器 甕	(172)	頸部径 (149)		ヨコナヂ、ハケ	淡黄	1/9	擬円錐6条、外面煤 指頭圧痕	H151	
	SK60					ヨコナヂ、ケズリ	淡黄				
277	32次	弥生土器 甕	192	頸部径 172		ヨコナヂ	にぶい黄橙、灰黄褐	口縁部1/9	外面煤、炭化物	H154	
	SK60					ヨコナヂ、ケズリ	にぶい黄橙	頸部1/6			
278	29次	弥生土器 甕	(162)	頸部径 (136)		ヨコナヂ、ハケ	にぶい黄橙	口縁部1/12			N116
	SK60					ヨコナヂ、ケズリ	にぶい黄橙				
279	29次	弥生土器 甕	150	頸部径 116		ミガキ	浅黄橙、にぶい橙	口縁部1/6	内面煤		N118
	SK60					ミガキ、ヨコナヂ	褐灰、にぶい黄橙				
280	29次	弥生土器 長甕	70			ヨコナヂ、ミガキ	浅黄橙、にぶい黄橙	口縁部1/2			N70
	SK60					ヨコナヂ、しばり口	にぶい黄橙、黄灰				
281	29次	弥生土器 高杯	227			ミガキ	浅黄橙、橙	环部1/9	284と同一か		N113
	SK60					ミガキ	にぶい黄橙、にぶい橙				
282	32次	弥生土器 高杯	(276)			ミガキ	橙	口縁部1/10			H150
	SK60					ミガキ					
283	29次	弥生土器 高杯	(240)			ミガキ	橙、にぶい黄橙	口縁部1/12			N117
	SK60					ミガキ	橙				
284	29次	弥生土器 高杯		柱状部径 34~37		ミガキ	にぶい黄橙	柱状部全周	透孔1		N114
	SK60					ミガキ	にぶい黄橙	281と同一か			
285	29次	弥生土器 鉢	198			ミガキ	にぶい黄橙	口縁部1/12			N69
	SK60					ミガキ	にぶい黄橙				
286	32次	弥生土器 鉢	140	86.5	46	ナヂ、ケズリ、ミガキ	橙	口縁部1/8、底部 1/4、底部全周			H153
	SK60					ミガキ、ハケ	橙				
287	29次	弥生土器 小型甕	70	70	42	ミガキ	にぶい黄橙、橙	底部全周			N115
	SK60					ナヂ	にぶい黄橙	頸部5/18			
288	29次	弥生土器 蓋	106	40	18~20	ナヂ、ミガキ	にぶい黄橙、褐灰	口縁部2/9	外面部赤彩		N119
	SK60					ナヂ、ミガキ	にぶい黄橙	体部4/9			
289	32次	弥生土器 甕	164	頸部径 128		ヨコナヂ、ハケ	橙	口縁部1/6			T275
	SK64					ヨコナヂ、ハケ	橙				
290	32次	弥生土器 甕			25	ハケ	黒褐、にぶい黄橙	底径全周			T280
	SK64					ケズリ	浅黄橙				
291	32次	弥生土器 穿孔土器	138~142	138~148	12~14	ナヂ、ハケ	にぶい黄橙、明黄褐、褐灰	完形	底部穿孔		N285
	SK64					ナヂ、ハケ	にぶい黄橙				
292	32次	弥生土器 鉢		頸部径 158	122	ヨコナヂ、ハケ、ミガキ	橙	頸部、体部径	外面部 内外面部赤彩		T273
	SK64				124	ミガキ	橙	1/3			
293	32次	弥生土器 高杯		柱状部径 40		ミガキ	にぶい黄橙	柱状部全周	透孔3		T278
	SK64					ミガキ	にぶい黄橙				
294	32次	弥生土器 高杯			274	ハケ、ナヂ	にぶい黄橙	口縁部1/9	海綿骨針		T279
	SK64					ミガキ	にぶい黄橙	坏部1/4			
295	32次	弥生土器 高杯				ミガキ	にぶい黄橙	坏部1/4	外面部		T274
	SK64					ミガキ、ナヂ	にぶい黄橙				
296	32次	弥生土器 甕			155	ヨコナヂ、ハケ	にぶい黄橙	口縁部1/3			T271
	SK65					ヨコナヂ、ケズリ	にぶい黄橙				
297	32次	弥生土器 甕		頸部径 164	130	ヨコナヂ、ハケ	黒褐	口縁部1/6	外面部		T281
	SK65				126	ヨコナヂ、ケズリ	にぶい黄橙	擬円錐4条、指頭圧痕			
298	32次	弥生土器 甕			52	ミガキ、ナヂ	にぶい黄橙	底部1/3	外面部		T272
	SK65					ミガキ	にぶい黄橙	台付			
299	32次	弥生土器 甕			62	ミガキ、ナヂ	にぶい黄橙	底部1/3			T277
	SK65					ミガキ	にぶい黄橙				
300	32次	弥生土器 高杯		柱状部径 40		ミガキ	にぶい黄橙	柱状部全周			T276
	SK65					ナヂ	にぶい黄橙				

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
						調整(内)					
301	弥生土器 SK65 鉢		114	61	26	ミガキ、ナデ	にぶい黄橙	口縁部1/3 底径全周		T282	
						ミガキ、ナデ	にぶい黄橙				
302	弥生土器 SK65 鉢		102	60	24	ミガキ	にぶい黄橙	口縁部5/6 底径全周	全体に歪み	T283	
						ミガキ、ハケ	にぶい黄橙				
303	弥生土器 SK72 鉢		132	33	ケズリ、ナデ	灰黄褐、褐灰	にぶい黄橙、褐灰	底部完形	外面焼	N131	
						ハケ、ナデ	にぶい黄橙、褐灰				
304	弥生土器 SK72 鉢		113	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐、黒褐	にぶい黄褐、にぶい黄橙	1/4		N135		
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄褐、にぶい黄橙				
305	弥生土器 SK72 鉢		150	136	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、灰黄褐	にぶい黄橙、灰黄褐	5/9		N134	
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、灰黄褐				
306	弥生土器 SK72 鉢		172	143	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、黒褐	にぶい黄橙、黒褐	1/4	外面焼	N133	
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙、黒褐				
307	弥生土器 SK72 鉢		162	134	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、黒褐	にぶい黄橙、黒褐	1/4	内外面焼	N132	
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、黒褐				
308	弥生土器 SK73 高杯		42	38	柱状部径	ミガキ	橙、にぶい橙	柱状部全周	透孔4	N108	
						しほり日、ナデ	しほり日、ナデ				
309	弥生土器 NR2 高杯		260	260	ナデ、ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、明赤褐	口縁部1/9		T101	
						ナデ、ミガキ	にぶい黄橙、明赤褐				
310	弥生土器 NR5 鉢		156	140	頭部径	ヨコナデ、ハケ	浅黄橙	口縁部4/9	連續刺突文	N228	
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙				
311	弥生土器 NR5 高杯		44	44	柱狀部径	ミガキ	明赤褐、赤褐	柱状部全周	透孔4 外面赤彩	N209	
						しほり日、ナデ	にぶい橙				
312	弥生土器 NR5 器台		(82)	50	ハケ、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	脚部2/9	透孔2	N210	
						ナデ	にぶい褐				
313	弥生土器 NR6 鉢		44	44	ヨコナデ、ナデ	ハケ、ナデ	にぶい褐	底部全周	T174		
						ナデ	にぶい褐				
314	弥生土器 NR6 鉢		44	44	ヨコナデ、ナデ	ハケ、ナデ	にぶい黄橙	底部1/3	T177		
						ナデ	浅黄				
315	弥生土器 NR6 鉢		36	36	ヨコナデ、ケズリ	ハケ、ナデ	にぶい橙、黒	底部全周	外雨煤	H184	
						ケズリ	にぶい黄橙				
316	弥生土器 NR6 鉢		150	150	ヨコナデ、ナデ	ハケ、ナデ	橙	頂部1/3	台付	T172	
						ナデ	脚底部1/3				
317	弥生土器 NR6 鉢		150	133	頭部径	ヨコナデ、ハケ	にぶい橙	口縁部1/9	擬凹綱2条	H182	
						ヨコナデ、ケズリ	橙				
318	弥生土器 NR6 鉢		140	116	頭部径	ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁部1/3	擬凹綱3条	N追加A	
						ナデ、ケズリ	にぶい黄橙				
319	弥生土器 NR6 鉢		(150)	120	頭部径	ヨコナデ	灰黄褐、褐灰	口縁部1/7	外雨煤	N42	
						ヨコナデ	にぶい黄橙				
320	弥生土器 NR6 鉢		165	140	頭部径	ヨコナデ、ケズリ	浅黄橙、明褐	口縁部1/7	擬凹綱6条	H183	
						ケズリ、ナデ	浅黄橙				
321	弥生土器 NR6 鉢		150	150	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁部1/6	擬凹綱3条	T171	
						ヨコナデ	にぶい黄橙				
322	弥生土器 NR6 鉢		170	170	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁部1/7	擬凹綱5条	N45	
						ヨコナデ	にぶい黄橙				
323	弥生土器 NR6 鉢		154	154	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	にぶい黄橙、にぶい橙	口縁部5/36		T7	
						ケズリ、ナデ	にぶい黄橙、浅黄橙				
324	弥生土器 NR6 鉢		116	116	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁部1/9	内面焼	T8	
						ヨコナデ、ハケ、ナデ	褐灰、にぶい黄橙				
325	弥生土器 NR6 鉢		178	136	頭部径	ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁部1/6	外雨煤	T176	
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙				
326	弥生土器 NR6 鉢		150	133	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、灰黄褐、橙	口縁部1/2		N40	
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、灰黄褐、橙				
327	弥生土器 NR6 鉢		148	116	頭部径	ヨコナデ	明褐、褐	口縁部1/9	指頭痕	H181	
						ヨコナデ、ケズリ	橙				
328	弥生土器 NR6 鉢		160	160	ヨコナデ	ナデ	にぶい橙	口縁部1/6		T4	
						ナデ	にぶい橙				
329	弥生土器 NR6 鉢		158	134	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁部1/7		N44	
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、褐灰				
330	弥生土器 NR6 鉢		(172)	(152)	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	にぶい橙	口縁部1/9		N194	
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙				

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)						
331	弥生土器 甕		120			ハケ、ナデ	灰黄褐色、にぶい黄橙、にぶい橙	口縁部7/9	T35			
						ナデ、ハケ	灰黄褐色					
332	弥生土器 甕	頸部径 132		40		ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙	口縁部1/4	N43			
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙					
333	弥生土器 甕	(186)		17		ハケ	にぶい黄橙	口縁部1/7	口縁部剥み	N190		
						ケズリ、ナデ	にぶい黄橙、褐灰					
334	弥生土器 穿孔土器			140	104	ハケ、ナデ	にぶい黄橙	底部全周	底部穿孔	T170		
						ハケ、ナデ	にぶい黄橙					
335	弥生土器 穿孔土器			140	104	ハケ、ミガキ	にぶい黄橙、褐灰	底部全周	底部穿孔	N169		
						ミガキ、ナデ、ハケ	にぶい黄橙					
336	弥生土器 穿孔土器			116	85	ナデ	明赤褐色	底部全周	底部穿孔	N193		
						ナデ	明赤褐色、灰黄褐色					
339	弥生土器 甕		152			ナデ	褐	口縁部5/36	内面煤	T3		
						ナデ、ミガキ	にぶい黄橙、褐灰、黑褐色					
340	弥生土器 甕		122			ミガキ	にぶい赤褐色、にぶい橙	口縁部1/7	内外面赤彩	N188		
						ミガキ	にぶい赤褐色、にぶい橙					
341	弥生土器 高杯		64			ナデ	浅黄褐色	底部5/9	T173			
						ナデ	浅黄褐色					
342	弥生土器 高杯		125			ミガキ	褐灰	底部11/12	透孔3	N41		
						ハケ	にぶい黄橙、褐灰					
343	弥生土器 高杯		140			ナデ	橙、褐灰、明黄褐色	底部1/4	N189			
						ナデ	橙、褐灰、明黄褐色					
344	弥生土器 高杯		(274)			ミガキ	明赤褐色	口縁部1/9	内外面赤彩	H180		
						ミガキ	明赤褐色、橙					
345	弥生土器 高杯		273			ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙	口縁部1/7	N37			
						ヨコナデ、ミガキ	黒褐色、にぶい黄橙					
346	弥生土器 甕	頸部径 36		46		ナデ	にぶい橙	底部全周	T175			
						ナデ	にぶい橙					
347	弥生土器 甕		44			ナデ	にぶい褐	坏部13/18	透孔4	T1		
						ナデ、ミガキ	にぶい褐					
348	弥生土器 甕	柱状部径 36 ~ 40		36 ~ 40		ミガキ	にぶい黄橙、橙	柱状部全周	N191			
						ミガキ、ナデ	明黄褐色					
349	弥生土器 甕		柱状部 38			ミガキ、ナデ	にぶい黄橙	柱状部1/2	透孔3	T2		
						ミガキ、ナデ	灰黄褐色					
350	弥生土器 鉢		40			ミガキ	橙、明赤褐色	底部2/3	外面部赤彩	H178		
						ミガキ、ナデ	にぶい黄橙					
351	弥生土器 鉢		110	54	40	ナデ、ハケ	にぶい黄橙、褐灰	底部全周	N38			
						ナデ、ハケ	にぶい黄橙					
352	弥生土器 鉢		110	51	45	ミガキ	にぶい黄橙、明赤褐色	全体1/3	内外面赤彩	N39		
						ミガキ	にぶい黄橙、明赤褐色					
353	弥生土器 底部	SD5		97		ナデ	橙、にぶい橙	底部完形	T111			
						ナデ	にぶい橙					
354	弥生土器 甕	(188)		126	10	ミガキ	灰黄褐色	口縁部1/8	O201			
						ミガキ	灰黄褐色					
355	弥生土器 甕	SD19		140	122	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙	口縁部1/4	O200			
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙					
356	弥生土器 甕	SD23		150	128	ヨコナデ、ケズリ	明黄褐色、にぶい黄橙	口縁部1/5	擬凹線6条	N231		
						ヨコナデ、ケズリ	明黄褐色、にぶい黄橙					
357	弥生土器 甕	SD34		183	(160)	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙	口縁部1/4	口縁部煤	H41		
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙					
358	弥生土器 甕	SD34		178	(146)	ナデ	にぶい黄橙	小片	範刻	H42		
						ナデ	にぶい黄橙					
359	弥生土器 甕	P5		183	(160)	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙	口縁部1/10	擬凹線7 ~ 8条	H20		
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙					
360	弥生土器 甕	P6		178	(146)	ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐色	口縁部1/13	H119			
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄褐色					

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
						調整(内)					
361	32次 P7	弥生土器 甕	160	頭部径 144		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ		橙 にぶい橙	口縁部1/4		T214
362	29次 P8	弥生土器 甕	150			ヨコナデ ヨコナデ		にぶい橙 橙	口縁部1/6	擬凹縁6条	T83
363	35次 P14	弥生土器 甕	(152)	頭部径 (132)	体部径 (140)	ヨコナデ ヨコナデ、ハケ		にぶい黄橙 浅黄橙	口縁部1/10 体部1/8		H22
364	35次 P15	弥生土器 甕	187	頭部径 171		ヨコナデ、ケズリ		浅黄橙	口縁部1/5	外面煤	O20
365	35次 P16	弥生土器 壺	80	143	29	ミガキ ミガキ、ハケ		橙 灰黄褐、橙	口縁部は全周 体部、底部全周		H44
366	32次 P17	弥生土器 甕	161	頭部径 105	体部径 280	ハケ、ミガキ ヨコナデ、ケズリ、ミガキ		橙 にぶい橙	口縁部4/5 体部1/5	口縁部煤	H268
367	32次 P18	弥生土器 甕	142	頭部径 122		ヨコナデ ヨコナデ		にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部1/6	外面煤	T265
368	32次 P18	弥生土器 甕	154			ヨコナデ ヨコナデ		橙 にぶい橙	口縁部1/6	外面煤	T255
369	32次 P18	弥生土器 甕	186	頭部径 54		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ハケ、ケズリ		にぶい黄橙 浅黄橙	口縁部4/9	外面煤	T253
370	32次 SB4,P18	弥生土器 高杯	160			ナデ ナデ		浅黄橙 灰	口縫小片		T254
371	32次 SB4,P19	弥生土器 甕	178	頭部径 152		ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ハケ		灰黄褐 灰褐	口縁部7/9		T260
372	32次 SB4,P19	弥生土器 甕	190			ヨコナデ ヨコナデ、ケズリ		にぶい橙 にぶい黄橙	口縁部1/4	外面煤 擬凹縁3条	T258
373	32次 SB4,P19	弥生土器 甕		32		ナデ ナデ		褐灰 黑褐	底部全周		T257
374	32次 SB4,P19	弥生土器 甕		34		ハケ、ナデ ケズリ、ナデ		にぶい橙 にぶい黄橙	底部1/2	外面煤	T259
375	32次 SB4,P19	弥生土器 高杯		132		ミガキ ナデ		にぶい黄橙 にぶい黄橙	底部1/6	透孔1	T256
376	32次 SB4,P20	弥生土器 甕	170	頭部径 144		ヨコナデ ヨコナデ		にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部1/6		T267
377	32次 SB4,P20	弥生土器 高杯	202			ヨコナデ ナデ、ミガキ		黄橙 浅黄橙	口縁部1/6		T266
378	32次 SB4,P21	弥生土器 壺	124	頭部径 97		ミガキ ミガキ、ナデ		褐灰 にぶい橙	口縁部1/4 頭部1/4	外面煤	T164
379	32次 SB4,P22	弥生土器 鉢	174	頭部径 158		ミガキ、ナデ ミガキ		にぶい黄橙 黑褐	口縁部1/9		T262
380	32次 SB4,P22	弥生土器 高杯		196		ミガキ、ヨコナデ ミガキ		にぶい橙 にぶい橙	底部1/9	外面赤彩	T263
381	32次 SB4,P22	弥生土器 壺	168	頭部径 108		ヨコナデ、ミガキ ヨコナデ、ハケ		にぶい橙 にぶい黄橙	口縁部7/12		T264
382	29次 SB3,P23	弥生土器 甕		42		ナデ ナデ		にぶい黄褐、にぶい黄橙 黒褐	底部全周		N107
383	29次 P25	弥生土器 鉢	103 ~ 105	51	23	ミガキ ミガキ		明赤褐、にぶい黄橙 明赤褐	全体6/7	内外面赤彩	N105
384	29次 池山上 甕	弥生土器 甕		158		ナデ、ミガキ ナデ、ミガキ		にぶい黄橙、灰黄褐 にぶい黄橙	体部11/12	底部煤 把手、外面赤彩	T31
385	29次 包含層 甕	弥生土器 甕		74		ナデ、ミガキ ナデ		にぶい黄橙 灰黄褐	底部2/9	網代庄痕	T148
386	31次 包含層 甕	弥生土器 甕	156	頭部径 125		ヨコナデ ヨコナデ		にぶい黄橙 にぶい黄橙	口縁部1/6	刺突文 外面煤	T7
387	31次 包含層 甕	弥生土器 甕	(116)	頭部径 (100)		ヨコナデ ヨコナデ		にぶい黄褐 にぶい黄褐	口縁部1/12 頭部1/6	擬凹縁6条 外面煤	N36
388	31次 包含層 甕	弥生土器 甕		45		ナデ ナデ、ハケ		にぶい黄橙 にぶい黄橙	底部全周		T6
389	31次 包含層 高杯	弥生土器 高杯		48		ナデ ナデ		褐灰 にぶい黄橙	柱状部1/2		T8
390	31次 包含層 器台	弥生土器 器台		44		ナデ		灰白	柱状部5/9		T10

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
						調整(内)					
391	弥生土器 壺		102			ヨコナデ	桜	口縁部1/7 にぶい黄橙～桜	内外面赤彩	O208	
						ナデ					
392	弥生土器 高杯		30			ミガキ	明褐	脚部4/5		H45	
						ナデ	桜				
393	弥生土器 包含層		174			ミガキ	にぶい桜	底部1/6		O73	
						ナデ	にぶい桜				
394	弥生土器 鉢		204			ミガキ	にぶい黄橙	体部1/6		O74	
						ミガキ	にぶい桜				
395	弥生土器 包含層	壺	(196) (178)			ナデ、ハケ	にぶい桜	口縁部1/9		O68	
						ナデ、ケズリ	にぶい桜				
396	弥生土器 包含層		186 160			ヨコナデ	浅黄橙	口縁部1/7 擬凹線5条 刺突文	擬凹線5条 刺突文	O69	
						ヨコナデ、ケズリ	浅黄橙				
397	弥生土器 包含層	壺	120	127		ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙	口縁部1/3 体部1/4	口縁部1/3 体部1/4	H43	
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙				
398	弥生土器 包含層	壺		53		ハケ	灰黃褐	胴下部全周 くびれ部1/4	内外面煤 台付	O16	
						ハケ	にぶい黄橙				
399	弥生土器 壺		124			ロクロナデ	灰	底部1/3 430と同一か		O23	
						ロクロナデ	灰				
400	弥生土器 壺		80			ロクロナデ	灰白	底部1/5 ヘラ切り	底部1/5 ヘラ切り	O24	
						ロクロナデ	灰白				
401	須恵器 壺		130 SK52	28	20	つまみ唇	灰黃褐、褐灰	1/4 つまみ部1/2		H4	
						ロクロナデ	暗灰黃				
402	須恵器 壺		140	33	93	ロクロナデ	黃灰	口縁部1/7 底部1/7	ヘラ記号「△」 ヘラ切り	H5	
						ロクロナデ	灰黃				
403	須恵器 壺		169			タタキ	灰白、灰	頸部1/7		H9	
						タタキ	黃灰				
404	須恵器 壺		104 SK52	197		タタキ	灰	体部2/3		O18	
						タタキ	灰				
405	須恵器 壺		143 SK52	143	185	タタキ	灰オリーブ、オリーブ黒	口縁部1/5 頸部1/2	自然釉	H3	
						ナデ	灰オリーブ				
406	須恵器 壺		100 SK52	124		ロクロナデ	黃灰	口縁部1/3 頸部1/2		H11	
						ロクロナデ	黃灰				
407	須恵器 壺		108 SK52	210		ロクロナデ	灰白、オリーブ黃	1/2 自然釉		H10	
						ロクロナデ	灰白				
408	須恵器 壺		186 SK52			ロクロナデ	灰	頸部3/4 体部1/3		O17	
						ロクロナデ	灰				
409	須恵器 横瓶		70 SK52			カキメ	灰褐～褐灰	全体1/4	内面煤	O19	
						タタキ	灰褐～褐灰				
410	須恵器 壺		232 SK52	192	446	タタキ	灰黃褐、褐褐	口縁部1/5 底部1/2		H11	
						タタキ	黃灰				
411	須恵器 壺		72 SK52			タタキ	明褐	小片		H6	
						タタキ	浅黃				
412	須恵器 有台壺		72 SD19			ロクロナデ	灰	底部1/3	ヘラ切り	T158	
						ロクロナデ	灰				
413	須恵器 壺		127 SD30	44	82	ロクロナデ	灰白	口縁部1/2 底部2/3		O27	
						ロクロナデ	灰白				
414	須恵器 壺		(110) SD30	20	(80)	ロクロナデ	淡黃	全体1/9	ヘラ切り	H16	
						ロクロナデ	淡黃				
415	須恵器 盤		158 SD30	21	136	ロクロナデ	灰黃褐、黃灰	口縁部1/3 底部1/3	ヘラ切り	H15	
						ロクロナデ	黃灰				
416	須恵器 壺		169 SD34			ロクロナデ	灰白	口縁部1/10 体部1/5		H39	
						ロクロナデ	灰白				
417	須恵器 壺		78 SD34			ロクロナデ	灰白	底部1/3		H19	
						ロクロナデ	灰白				
418	須恵器 壺		78 SD34			ロクロナデ	にぶい桜	底部1/4		H40	
						ロクロナデ	にぶい桜				
419	須恵器 壺		74 SD34			ロクロナデ	にぶい黄、灰黃	底部1/2		H18	
						ロクロナデ	浅黃、にぶい黄				
420	須恵器 壺		(120) SD37			ロクロナデ	浅黃	口縁部1/9		T160	
						ロクロナデ	浅黃				

番号	遺傳	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	色調(外)			
421	32次 SD37	須恵器 蓋			(128)	ロクロナデ	灰	底部1/9	ヘラ切り 重ね焼痕	T161
						ロクロナデ	灰			
422	32次 SD37	須恵器 蓋			(130)	ロクロナデ	灰	底部1/12		T162
						ロクロナデ	灰			
423	31次 SD40	須恵器 杯			80	ロクロナデ	灰	底部1/2		T4
						ロクロナデ	灰			
424	29次 NR2	須恵器 环	154	42	93	ロクロナデ	灰白, 黄灰	口縁部1/6		T99
						ロクロナデ	灰白, 黄灰			
425	32次 P3	須恵器 盤			124	ロクロナデ	灰黄	底部1/4	転用視	H18
						ロクロナデ	灰白			
426	35次 P9	須恵器 瓶			102	ロクロナデ	灰白	底部1/5	降灰, 自然釉	O30
						ロクロナデ	灰白			
427	35次 P9	須恵器 环			80	ロクロナデ	灰白	底部1/2	ヘラ切り	O31
						ロクロナデ	灰白			
428	35次 P10	須恵器 环	(124)			ロクロナデ	にぶい黄	口縁部1/10		H14
						ロクロナデ	灰黄			
429	35次 P11	須恵器 环	128	37	86	ロクロナデ	灰白, 灰	全体1/3		O26
						ロクロナデ	灰白, 灰			
430	35次 P13	須恵器 蓋			136	ロクロナデ	灰	底部1/4	399と同一か	O28
						ロクロナデ	灰			
431	32次 P30	須恵器 蓋			140	ロクロナデ	灰黄	全体1/3	内面焦 ヘラ切り	T163
						ロクロナデ	灰黄			
432	29次 包含層	須恵器 蓋			130	ロクロナデ	黄灰, 黄黄	全体1/6	ヘラ切り 重ね焼痕	N87
						ロクロナデ	黄灰			
433	29次 包含層	須恵器 环	126	31	84	ロクロナデ	灰	口縁部7/18	ヘラ切り 重ね焼痕	T147
						ロクロナデ	灰白			
434	31次 規乱	須恵器 杯			64	ロクロナデ	灰	底部1/3		N25
						ロクロナデ	灰			
435	32次 包含層	須恵器 环			112	ロクロナデ	灰	底部1/9		N195
						ロクロナデ	灰			
436	35次 包含層	須恵器 环			102	ロクロナデ	浅黄燈	底部1/5		O34
						ロクロナデ	灰白			
437	35次 包含層	須恵器 环			94	ロクロナデ	褐灰	底部1/7		O36
						ロクロナデ	褐灰			
438	35次 包含層	須恵器 环	110	28	79	ロクロナデ	灰白	口縁部1/8	ヘラ切り	O35
						ロクロナデ	灰白			
439	35次 包含層	須恵器 盤	(143)	19	116	ロクロナデ	褐灰	口縁部1/12		O37
						ロクロナデ	褐灰			
440	35次 包含層	須恵器 蓋			(121)	ロクロナデ	黄灰, 灰	底部1/8	重ね焼痕	O38
						ロクロナデ	黄灰, 灰			
441	35次 包含層	須恵器 壺			77	ロクロナデ	灰白, 灰, 帽オリーブ	底部3/4	ヘラ記号「×」 自然釉	H2
						ロクロナデ	黄灰, 灰			
442	35次 包含層	須恵器 壺	278	頭部径 240		ロクロナデ	黄灰	口部1/4	自然釉	H12
						ロクロナデ	暗灰, 黄			
443	35次 包含層	須恵器 环	144		98	ロクロナデ	灰黄, 黄灰	口縁部1/6		H28
						ロクロナデ	灰黄			
444	35次 包含層	須恵器 环	132			ロクロナデ	灰オリーブ	1/6		H27
						ロクロナデ	灰オリーブ			
445	35次 包含層	須恵器 环	110		82	ロクロナデ	灰黄	口縁部1/9	ヘラ切り	H38
						ロクロナデ	灰黄			
446	35次 包含層	須恵器 环			100	ロクロナデ	黄灰	底部1/7	ヘラ記号「×」	H25
						ロクロナデ	黄灰			
447	35次 包含層	須恵器 瓶	104			ロクロナデ	灰黄	頭部1/3	体部1/3	H36
						ロクロナデ	灰白			
448	35次 包含層	須恵器 蓋			(148)	ロクロナデ	灰黄	底部1/13		H29
						ロクロナデ	黄灰			
449	29次 SI16	土師器 壺	228			ヨコナデ	にぶい黄橙, 明黄褐	口縁部1/5		N104
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
450	32次 SD20	土師器 壺			64	ヨコナデ	にぶい橙	底部1/4		O197
						ヨコナデ	黒褐			

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
						調整(内)					
451	35次	土師器 甌	(382)		92	ヨコナデ、カキメ	淡黄	口縁部1/12		H13	
	SD32					ヨコナデ	にぶい黄				
452	32次	土師器 甌		172	158	ケズリ、ナデ	にぶい黄橙	底部1/6	回転系切り	O202	
	SD19					ロクロナデ	にぶい黄橙				
453	35次	土師器 甌	172	158	181	ヨコナデ、カキメ	橙にぶい黄橙	口縁部1/5	内外面煤 体部1/4	H7	
	SK52					ヨコナデ、カキメ	にぶい黄橙、橙				
454	35次	土師器 甌		140	133	ケズリ	にぶい橙	底部1/5		O32	
	P9					ケズリ、ナデ	浅黄橙				
455	35次	土師器 甌	172	142	ナデ	ナデ	灰褐	口縁部～体部 1/6	内外面煤	O29	
	P12					ナデ	にぶい黄橙				
456	35次	土師器 甌		194	76	ロクロナデ	淡黄、にぶい黄	底部1/4		H26	
	包含層					ロクロナデ	にぶい黄橙				
457	35次	土師器 甌	200	172	54	ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁部1/7		H30	
	包含層					ヨコナデ	にぶい黄橙				
458	35次	土師器 甌		80	11	ヨコナデ、カキメ	浅黄橙、橙	口縁部1/3	全体1/4	H34	
	包含層					ヨコナデ、カキメ	にぶい黄橙、橙				
459	32次	土師器 甌	S19	79.5	18	ナデ	にぶい橙	全体1/7		H14	
						ナデ	橙				
460	29次	土師器 甌	SD3	74	13	ナデ	にぶい橙	口縁部9/12	打芯油痕	T80	
						ナデ	浅黄橙				
461	29次	土師器 甌	SD14	80	11	ナデ	ナデ	口縁部1/6		T103	
						ナデ	橙				
462	29次	土師器 甌	P26	81	8	ナデ	ナデ	口縁部1/2		T62	
						ナデ	橙				
463	31次	土師器 甌	SD39	86	10	ナデ	ナデ	口縁部1/6	底部1/4	T12	
						ナデ	橙				
464	31次	土師器 甌		86		ナデ	浅黄橙	口縁部1/6		N27	
						ナデ	浅黄橙				
465	29次	土師器 甌	S112	10		ナデ	にぶい黄橙	口縁部1/6		T85	
						ナデ	浅黄橙				
466	32次	土師器 甌	SD37	(126)		ナデ	ナデ	口縁部1/9		T159	
						ナデ	橙				
467	29次	土師器 甌	SK66	132		ナデ	浅黄橙	全体1/12		N17	
						ナデ	黄橙				
468	31次	土師器 甌	SD35	138	37	ナデ	にぶい橙	全体1/5		N30	
						ナデ	にぶい橙				
469	29次	瓶 甌	SD27		132	ロクロナデ	にぶい黄橙	底部1/4	灰釉 漆黒ぎ痕	N89	
						ロクロナデ	にぶい橙				
470	29次	瓶 甌	SX3	112	22	ロクロナデ	黄灰	口縁部1/12	灰釉 漆黒ぎ痕	T78	
						ロクロナデ	灰灰				
471	29次	白磁 甌	SD25		40	ロクロナデ	底白、灰黄	底部2/3	白磁釉、削り出し高台 底部墨書き「十」	N91	
						ロクロナデ	灰白				
472	32次	白磁 甌	SX3	98		ロクロナデ	灰白	口縁部1/7	白磁釉	N11	
						ロクロナデ	灰白				
473	31次	白磁 甌	SD35	(140)		ロクロナデ	灰白	口縁部1/18	白磁釉	N29	
						ロクロナデ	灰白				
474	32次	珠洲燒 挂鉢	SD25	300	117	ロクロナデ	黄灰、灰黄	口縁部1/3	指頭圧痕 静止系切り	N1	
						ロクロナデ	灰灰				
475	29次	珠洲燒 挂鉢	SD38	332		ロクロナデ	灰、灰白	口縁部1/6	鉢目9本	T65	
						ロクロナデ	黄灰				
476	35次	珠洲燒 挂鉢		(276)		ロクロナデ	灰黄	口縁部1/13		H37	
						ロクロナデ	灰				
477	29次	珠洲燒 挂鉢	S12			ロクロナデ	灰	口縁部小片	鉢目5本	T86	
						ロクロナデ	灰				
478	32次	珠洲燒 挂鉢	SD41		(294)	ロクロナデ	灰	口縁部1/9	鉢目9本	N6	
						ロクロナデ	灰、灰オリーブ				
479	32次	珠洲燒 挂鉢	SD41		(312)	ロクロナデ	灰	口縁部1/9	漆黒ぎ 波状文、鉢目5本	N3	
						ロクロナデ	灰				
480	31次	珠洲燒 挂鉢	SD21			ロクロナデ	灰	口縁部小片		N43	

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	色調(外) 色調(内)			
481	32次 SX2	珠洲焼 擂鉢	(270)			ロクロナデ	灰白、灰、オーリーブ黒	口縁部小片	内外面塗 鉢口14~15本	N9
						ロクロナデ	灰、オーリーブ黒			
482	31次 SD22	珠洲焼 擂鉢				ロクロナデ	灰、灰オーリーブ	口縁部小片	波状文 鉢口8本	N40
						ロクロナデ	灰オーリーブ			
483	29次 SD27	珠洲焼 擂鉢		96		ロクロナデ	灰	口縁部小片	波状文	N88
						ロクロナデ	灰			
484	29次 SD8	珠洲焼 甕		(170)		ロクロナデ	灰	底部2/3		T98
						ロクロナデ	灰			
485	31次 SD21	珠洲焼 擂鉢		127		ロクロナデ	黄灰	底部小片	鉢口10本	N42
						ロクロナデ	灰白			
486	29次 SX3	珠洲焼 壺				ロクロナデ	灰、灰黄	底部1/9	ヘラ切り	T79
						ロクロナデ	灰、灰黄			
487	35次 SD34	越前焼 擂鉢				ロクロナデ	にぶい褐、にぶい黄	口縁部1/9	自然軸	H20
						ロクロナデ	にぶい黄褐			
488	32次 SD27	越前焼 甕	(400)	90		ロクロナデ	にぶい赤褐、灰褐	口縁部小片		N211
						ロクロナデ	灰褐			
489	32次 SD26	加賀焼 壺				ロクロナデ	灰、黄褐	底部7/18	自然軸 降低	N2
						ロクロナデ	にぶい黄、灰、灰オーリーブ			
490	32次 SD25					陶灰		小片	粘土斑痕 砥石仕様用	N5
						灰黄				
491	31次 SD40	青磁 端反皿	120	38	60	オーリーブ灰		口縁部1/4 青磁釉、漆緑苔	内面見込花文	T3
						オーリーブ灰				
492	29次 SX3	青磁 盤	260			灰オーリーブ、灰白		口縁部1/9 青磁釉		T77
						灰オーリーブ、灰白				
493	32次 SD18	青磁 盤	(272)			にぶい橙		口縁部1/14 青磁釉		O204
						にぶい橙				
494	32次 包含層	青磁 碗			62	オーリーブ黄		底部1/3 青磁釉		O241
						オーリーブ黄				
495	32次 SD18	青磁 碗	148			灰白		口縁~体部 1/7	青磁釉	O203
						灰白				
496	31次 包含層	陶器 甕	130			褐、黑		口縁部1/6 鉄軸		N23
						褐、黑				
497	31次 搅乱	磨面磁器 碗		30		灰白		底部1/3 染付、透明釉 團界線3条、釉調ぎ	染付、透明釉 團界線3条、釉調ぎ	N22
						暗青灰、青灰				
498	31次 搅乱	磁器 碗	103			灰白		口縁部1/6 透明釉	染付	T15
						灰白				
499	31次 搅乱	磁器 碗		37		灰白		底部全周 染付、透明釉 釉調ぎ、鉄軸	染付、透明釉 釉調ぎ、鉄軸	N17
						灰白				
500	31次 搅乱	磨面磁器 碗		40		灰白		底部5/6 透明釉 釉調ぎ、呉須	透明釉 釉調ぎ、呉須	T24
						灰白				
501	32次 壁面	磁器 碗	(103)			灰白		口縁部1/9 染付		O207
						灰白				
502	31次 搅乱	磁器 杯		88		灰白		底部4/9 内外面貫入、透明釉 團界線3~4条、染付		T14
						灰白				
503	31次 搅乱	白磁 小杯		37		灰白		底部1/2 白磁釉		N19
						灰白				
504	31次 搅乱	磁器 小杯		42		黒褐		底部2/3 内面青磁釉、外面鉄釉		N21
						オーリーブ灰				
505	31次 搅乱	磁器 小杯		29		灰白		底部1/3 染付、透明釉、釉調ぎ 團界線1条	染付、透明釉、釉調ぎ 團界線1条	N20
						灰白				
506	31次 搅乱	磁器 蓋		42		灰白		底部1/2 釉調ぎ		N16
						灰白				
507	31次 搅乱	磁器 瓶	74			灰白		口縁部4/9 透明釉 染付		T13
						灰白				
508	32次 包含層	磨面磁器 皿		36		灰白		底部全周 透明釉 蛇の目釉調ぎ		H21
						灰白				
509	31次 搅乱	磁器 皿	158			灰白		口縁部1/12 透明釉 染付		T18
						灰白				
510	29次 地直上	鋼碗	58	25	275	黒褐		口縁部5/9 底部完形	重量19.6g	T150

第18表 土製品・石製品観察表

番号	遺構	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考	実測 番号
			(mm)	(mm)	(mm)	(g)			
510	31次 SD22	フイゴ羽口	36	45	28	24			N41
511	35次 SK50	土鍤	49	14	12	7.6			H17
512	35次 SK51	土鍤	34	11	11	3.4			O25
513	35次 SD33	土鍤	41.5	12.5	12	5.8			H21
514	35次 包含層	土鍤	36.5	13.5	11	5.3			H35
515	32次 SD24	土鍤	33	38	37				N242
516	32次 SK20	土製品 不明	43	38	25	38.9			N66
517	32次 SK29	土製品 獸舞	(42)	(22)	(25)				N229
518	31次 壁面	面子	20	20	5	1.8			N38
536	29次 SD19	石鍤	191	95	31	620	火山礫凝灰岩	完形	T63
537	31次 SD40	石鍤	155	104	33	410	角閃石安山岩	完形	T2
538	31次 SD40	石鍤	(154)	(92)	(25)	(325)	角閃石安山岩		T1
539	29次 包含層	石鍤	(128)	(103.5)	(36)	(416)	凝灰岩		T146
540	32次 SD17	石鍤	155	76	24	342	火山礫凝灰岩		O196
541	32次 NR6	石鍤	(116)	(85)	(24)	(250)	火山礫凝灰岩		T167
542	29次 NR6	石鍤	(96)	(68)	(31)	(230)	火山礫凝灰岩		T5
543	32次 地山直上	石鍤	119	87	22	320	火山礫凝灰岩		N212
544	35次 包含層	石鍤	120	75	27	192	火山礫凝灰岩		O71
545	32次 NR6	石鍤	(118)	(77)	(31)	(235)	花崗斑岩		T165
546	32次 NR6	石鍤	(85)	86	23	(215)	火山礫凝灰岩		H187
547	29次 NR2	石鍤	(86)	(80)	(31)	190	角閃石安山岩		T102
548	32次 NR6	石鍤	(128)	(108)	(45)	(390)			T166
549	29次 包含層	石鍤	170	80	35	450	砂岩	ほぼ完形	T145
550	29次 SI5	石鍤	144	76	24	205	火山礫凝灰岩		T143
551	32次 P2	石鍤	(122)	84	18	(225)	火山礫凝灰岩		H19
552	32次 NR6	石鍤	202	101	37	668	火山礫凝灰岩	完形	T186
553	31次 包含層	石鍤	(91)	(99)	(24)	(210)	火山礫凝灰岩		T34
554	35次 地山直上	石鍤	(101)	84	32	(264)	火山礫凝灰岩		O21
555	32次 SD16	石鍤	(115)	(69)	(24)	(215)	火山礫凝灰岩		T198
556	29次 SK1	石鍤	96	68	30	230	火山礫凝灰岩		T97

番号	造構	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考	実測 番号
557	29次 NR6	石鉢	(66)	(66)	(18)	(90)	火山礫凝灰岩		T6
558	32次 SD16	石鉢	(75)	(60)	(20)	(97.5)	火山礫凝灰岩		T199
559	32次 SI9	敲石	(78.5)	37	28	(122)	凝灰岩		H13
560	32次 SI6	磨石類	73	58	31	180.8	凝灰岩		O144
561	29次 地山上直上	磨石類	(140)	(79)	(53)	(662)	綠色凝灰岩		T30
562	32次 NR6	磨石類	84	77	63	520	火山礫凝灰岩	完形	T168
563	29次 SI5	磨石類	(137)	(93)	(44)	(680)	安山岩		T144
564	31次 包含層	磨石類	115	105	32	510	砂岩	煤付着	N35
565	32次 NR6	磨石類	72.5	64	59	367	火山礫凝灰岩		H185
566	29次 SK1	自然石	110	98	55	650	凝灰岩	煤付着	T96
567	32次 SI6	自然石	134	85	63	696	輝石安山岩	煤付着	O132
568	32次 SD26	炉緑石	(101)	(106)	(67)	(360)	凝灰岩	煤付着、ノミ痕	N8
569	32次 SK65	砾石	(211)	(160)	(114)	(4,860)	砂岩		N284
570	32次 SK34	砾石	(132)	(92)	(49)	(550)	安山岩		H95
571	32次 SB4、P22	砾石	(72)	(65)	(26.5)	(100)	綠色凝灰岩		T261
572	29次 SD37	砾石	78	52	38	140	凝灰岩	中砾	T64
573	35次 SK56	砾石	(102)	(73)	(25)	(305)	安山岩	中砾	H66
574	32次 P4	砾石	152.5	(100)	56.5	(1,050)	角閃石安山岩	煤付着	H17
575	32次 SD26	砾石	(75)	(109)	(52)	(534)	安山岩		N7
576	31次 複合	砾石	(97)	(72)	(16)	(110)	凝灰岩		N28
577	32次 SD27	砾石	(47)	(35)	(27)	(55.8)	凝灰岩	中砾	N4
578	29次 SD10	砾石	(60)	(42)	(30)	(120)	凝灰岩	中砾	T112
579	29次 P27	砾石	(91)	(59)	(52)	(300)	凝灰岩	中砾	T61
580	29次 P24	砾石	(78)	(30.5)	(22)	(82)	凝灰岩	中砾	T106
581	32次 SI6	砾石	31.5	25	(17.5)	(24)	輝石		H124
582	35次 包含層	砾石	161	29	8	21.6	泥岩	仕上砾	O70
583	29次 SK45	砾石	47.5	24	14	20	凝灰岩	中砾	T84
584	32次 SK13	砾石	(32)	25	8	(9.4)	凝灰岩	中砾	H12
585	32次 SX2	砾石	(59)	(31)	(5)	(14.5)	泥岩	仕上砾	N10
586	35次 包含層	砾石	43	34	9	17.4	泥岩	仕上砾	O33
587	32次 SI3	管玉	12	2	2		綠色凝灰岩		H31

番号	遺構	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考	実測番号
			(mm)	(mm)	(mm)	(g)			
588	29次 地山直上	玉未製品	(59)	(93)	(31)	(180)	石英	荒削	T25
589	29次 地山直上	管玉未製品	70	49	45	165	緑色凝灰岩	荒削	T28
590	29次 包含層	管玉未製品	(99)	(70)	(28)	(125)	緑色凝灰岩	荒削	T36
591	29次 地山直上	管玉未製品	64	72	45	204	緑色凝灰岩	荒削	T29
592	29次 包含層	管玉未製品	51	45	45	105	緑色凝灰岩	荒削	T26
593	31次 SD40	管玉未製品	25	14	10	2.8	緑色凝灰岩	形削	T11
594	32次 SI2	管玉未製品	22	21	19	8.3	緑色凝灰岩	形削A2	O43
595	32次 SI2	管玉未製品	18	10	9	1.0	緑色凝灰岩	形削R2	O44
596	32次 SD19	勾玉未製品	14	9	3	0.8	蛇紋岩		T157
597	35次 SI2	玉未製品	43	(165)	20	(20.1)	翡翠		H76
598	29次 地山直上	玉未成品	36	25	15	18	翡翠	原石	T27

第19表 金属製品観察表

番号	グリッド 遺構	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	実測 番号
			(mm)	(mm)	(mm)	(g)		
520	29次 SK66	銅銛	25	25	3	23	2枚重ね 元祐通寶	N16
521	31次 拂土	銅銛	25	25	15	3.6	寛永通宝	N39
522	32次 SI6	棒状製品	68	8	3	4.6	鉄製	H125
523	35次 SK52	釘	47.5	5~11.5	6~8	42	鉄製	H8
524	35次 包含層	釘	28	5.5	5	2.0	鉄製	H31
525	35次 包含層	釘	25	10	7	1.4	鉄製	H24
526	35次 包含層	釘	31	9	6	2.5	鉄製	H33
527	35次 包含層	棒状製品	34	10.5	7	3.3	鉄製	H23
528	31次 SD35	刀子	(154)	(60)	(39)	238.4	鉄製	N31 N33
529	32次 SK12	刀子	82	40	31	53.6	鉄製	O205
530	32次 SK40	刀子	(60)	(15)	(16)	(8)	鉄製	N57
531	31次 包含層	刀子	(68)	(30)	(11)	(16.1)	鉄製	T5
532	32次 P29	ヤリガンナ	77	38	12	25.6	鉄製	H269
533	32次 SD29	鉄滓	61	62	47	185		N230
534	35次 包含層	鉄滓	81	71	23	150		H32
535	32次 SI8	鉄滓	56	41	21	57.9		O206

第12章 第34次調査の成果

第1節 遺構

本調査で発見された主要な遺構は、井戸、土坑などである。以下は、各遺構の個別の概要である。

① 井戸

SE1 (第125・126図)

調査区南端で検出している。形状は略楕円形をしており、穴内には幅約40cm、深さ約70cmのテラスを有する掘方が認められる。規模は長辺約3.0m、短辺約2.6m、井戸側の径が約1.5mを測る。深さは2.5m掘削したが、底までは確認できなかった。井戸枠は確認できず素掘りと想定されるが、木組みや桶組みなどが後に抜き取られた可能性もある。

② 土坑

SK1 (第125・127図)

調査区西端の自然河道NRI西岸で確認した略円形をした土坑である。直径約1.0m、深さ約1.4mを測る。井戸になるかもしれない。

SK2 (第125・127図)

調査区中央部で検出した東西に長い楕円形をした土坑である。南北長約1.8m、東西長約3.0m、深さ約1.2mを測る。

SK3 (第125・127図)

調査区南端で確認した略方形の土坑であるが、西側大部分は調査区外となるため全容はわからない。南北長約3.0m、東西長80cm以上、深さ約70cmを測る。形状から竪穴状遺構になるかもしれない。また、図示していないが、人頭大の自然石が南北方で1列に並んでおり、造り替えの際に置いた可能性がある。

③ 不明遺構

SX1 (第125・126図)

調査区北東端で検出した土坑状遺構である。複数のピット等が錯綜しており、本遺構の形状は判然としない。規模は南北長約2.2m、東西長約5.0m、最深部の深さ約65cmを測る。

④ 自然河道

NR1 (第125図)

調査区中央部を南北に縱断する自然河道である。河幅は6～8m、最深部約1.3mを測る。本調査区南側の第32次調査区で見つかっている自然河道と一体のものである。

第2節 遺物

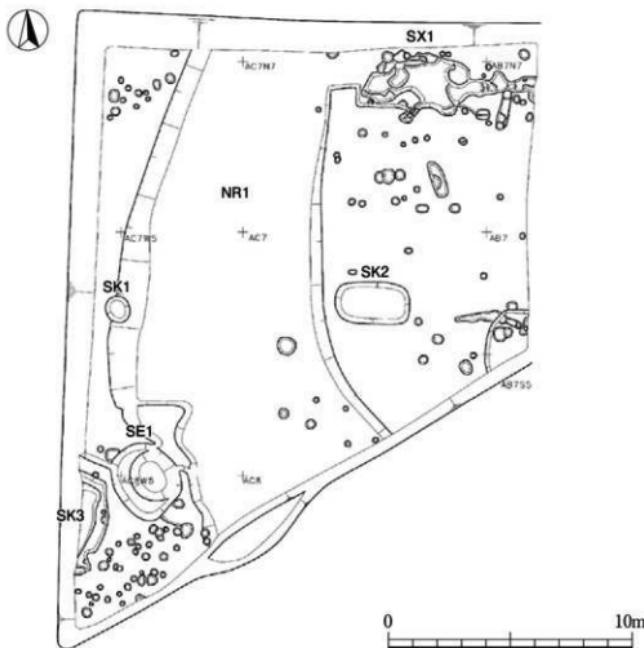
遺物は中世土師器・陶磁器と石製品を中心とする。1～3は中世土師器皿で、1と2は口縁端部に一段のヨコナデを施し大きな変化のないタイプ、3は体部が屈曲・外反し、端部が先細りになるタイプである。2は厚みをもつ。4～7は中国製輸入陶磁器である。4の白磁皿の高台の一部に抉りが入っている。9～14は株洲焼である。9と10の擂鉢と12の壺の体部には波状文が施される。15と16は石鍬、17は磨石類で弥生時代以前のものである。石鍬はいずれも使用に伴う欠損が見られる。19～22は中世の

行火の部位である。いずれにも煤が付着しているが、割れ口や外底部にも煤が付いているため、損壊後に火受けがあったようである。

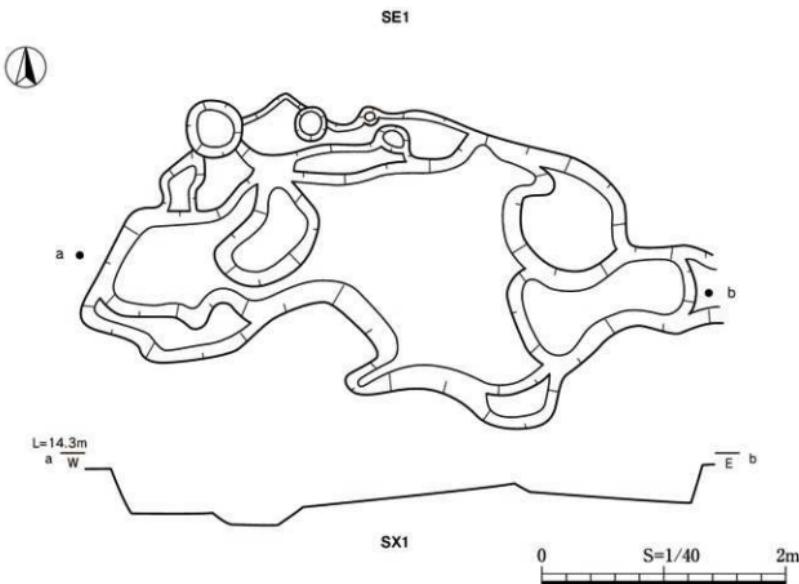
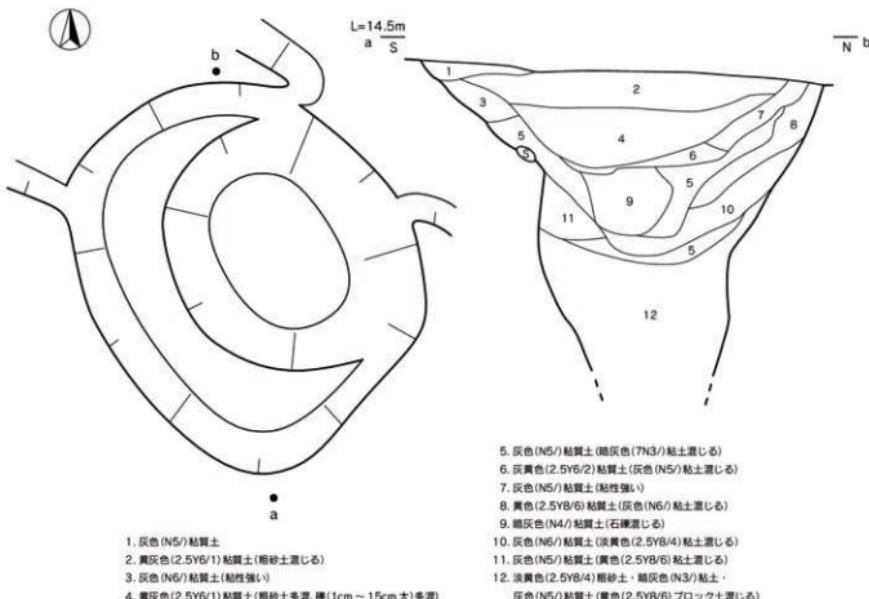
第3節まとめ

本調査区では弥生時代以前の石製品が中世の井戸など各遺構から見つかっているが、中心となる時期は中世後半である。本調査区における弥生期以前の時期は調査区中央を横断する自然河道NR1に留まると考えられる。

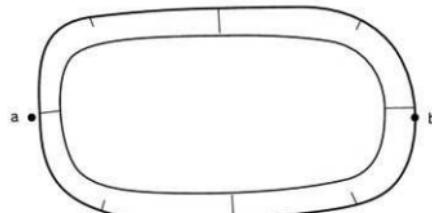
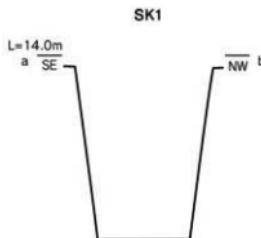
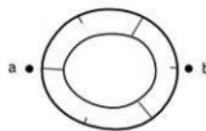
中世については、遺物の様相から13～14世紀と推測する。調査区南西端では井戸SE1が存在し、その南側には掘立柱建物の存在を想定できるピット群が認められる。また、隣接するSK3はその形状から竪穴状遺構と推測することができ、一帯は居住城があったと考えることができる。また、本調査区の南側に位置する第29次・35次においても中世の竪穴状遺構や掘立柱建物などを確認している。これらの遺構は、現在の二日市と三日市の集落を往来する生活道路沿いに並ぶようにして見つかっている。本調査区の西側の現道を越えた第14次及び第29次（未報告）でも南北溝を検出し、その溝の脇には本次調査区と同様掘立柱建物や井戸などの遺構が並んでいる様相を示している。以上から、現道の場所は中世においても道路として機能し、その両側には掘立柱建物や竪穴状遺構、井戸で構成された市庭的な空間地であったことが想定される。



第125図 第34次遺構全体図 (S=1/200)



第126図 SE1、SX1 (S=1/40)

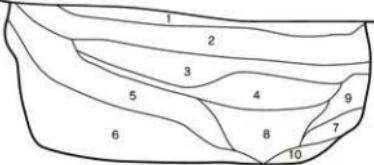


L=14.7m

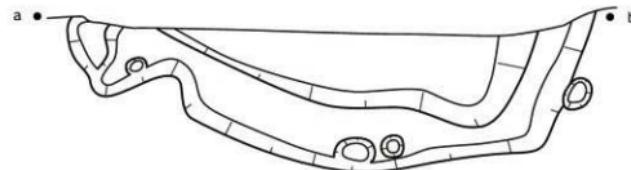
a E

SK2

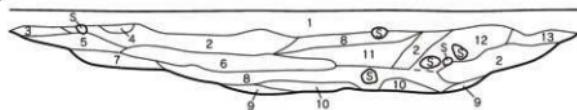
W b



1. 黒灰色(2.5Y6/1)粘質土(灰色(N4/))ブロック土混じる)
2. 黒灰色(2.5Y6/1)粘質土(粘性強い・灰色(N4/))ブロック土・炭化物混じる)
3. 灰黄色(2.5Y6/2)粘質土(粗砂土混じる)
4. 棕灰色(10YR5/1)粘質土(粘性強い)
5. 灰黄色粗砂土(灰色(N4/))ブロック土・灰黄色粘質土混じる)
6. 褐色(2.5Y6/2)粘質土(灰色(N4/))ブロック土・褐灰色粘質土混じる)
7. 黑色(N2/1)粘質土(粘性強い・同褐色(10YR6/6)粘土混じる)
8. 灰色(N6/1)粘質土
9. 棕灰色(10YR4/1)粘質土(粘性強い)
10. 黑色(N2/1)粘質土

L=14.6m
a S

N b



1. 黄色(N5/1)粘質土
2. 黄灰色(2.5Y5/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土・炭化物混じる)
3. 黄灰色(2.5Y5/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土混じる)
4. 黄色(2.5Y8/6)粘質土(黄色(2.5Y5/1)粘土混じる)
5. 棕灰色(10YR5/1)粘質土(褐色(10YR2/1)ブロック土混じる)
6. 黄色(2.5Y8/6)粘質土(黄色(10YR2/1)・灰色(N5/1)粘土混じる)
7. 黄灰色(2.5Y5/1)粘質土(灰色(N5/1)ブロック土・黄灰色(2.5Y7/3)粗砂土混じる)
8. 黄灰色(2.5Y5/1)粘質土
9. 棕灰色(10YR4/1)粘質土(粗砂土混じる)
10. 棕灰色(10YR4/1)粘質土
11. 黄灰色(2.5Y5/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)・黄灰色(2.5Y5/1)ブロック土混じる)
12. 黄灰色(2.5Y6/1)粘質土(黄色(2.5Y8/6)ブロック土・浅黄色(2.5Y7/3)粗砂土混じる)
13. 黄色(2.5Y8/6)粘質土(灰白色(7.5Y7/7)粗砂土混じる)

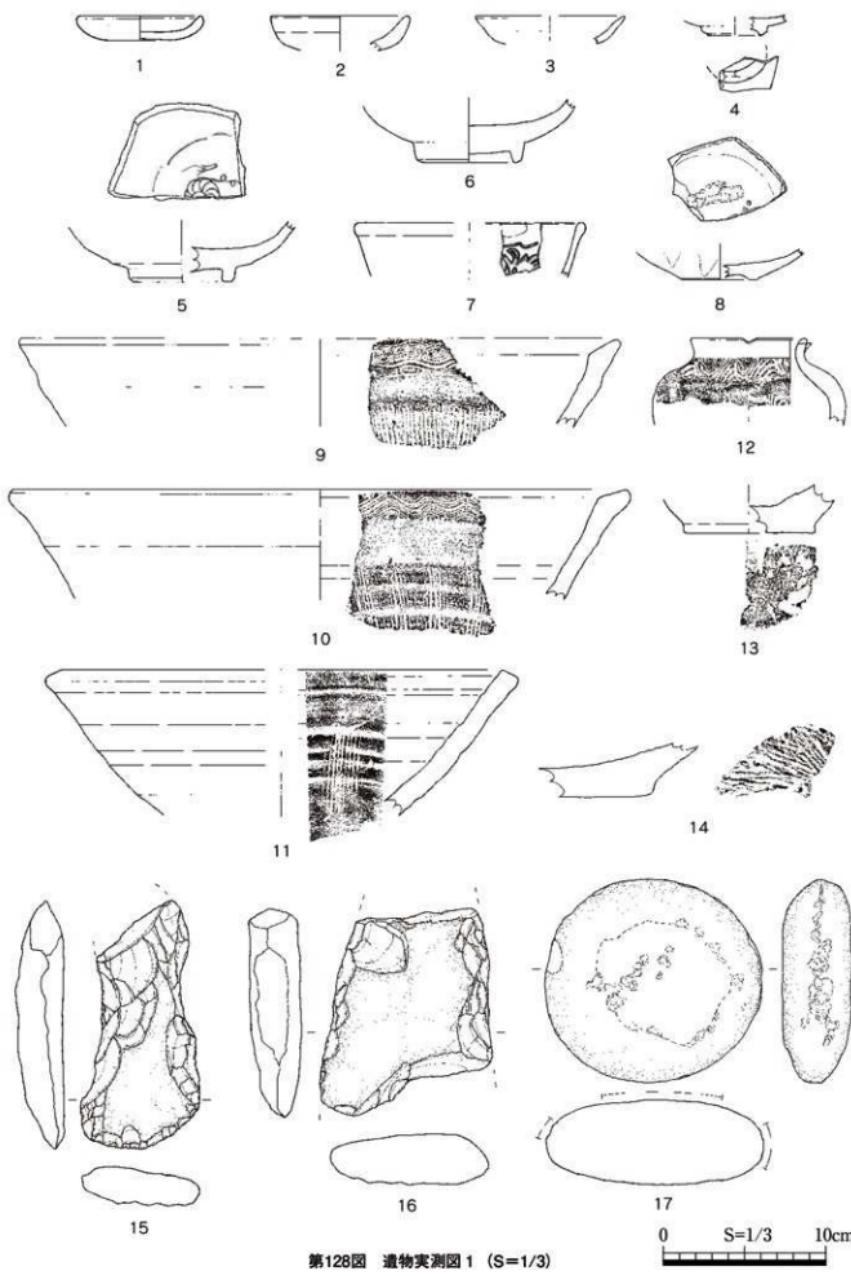
SK3

0

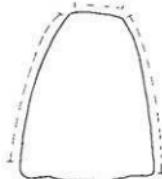
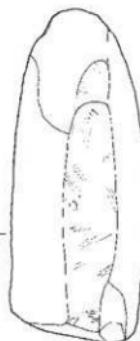
S=1/40

2m

第127図 SK1～3 (S=1/40)



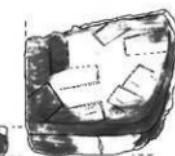
第128図 遺物実測図1 ($S=1/3$)



18

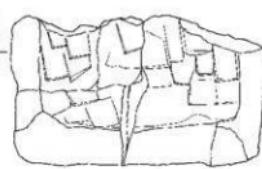


19



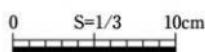
21

20



22

第129図 遺物実測図2 (S=1/3)



第20表 土器・陶磁器観察表

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	色調(外) 色調(内)			
1	34次	土師器 皿	78	15	50	ヨコナデ	にぶい黄橙	1/4		N7
	SE1					ヨコナデ	にぶい黄橙			
2	34次	土師器 皿	86				にぶい黄橙	口縁部1/2		N3
	34次						にぶい黄橙			
3	34次	土師器 皿	92			ヨコナデ	にぶい黄橙	1/12		T12
	P2					ヨコナデ	灰黄褐			
4	34次	白磁 皿			40		灰白	底部1/4	白磁釉 抉り高台	N4
	斐面						灰白			
5	34次	青磁 碗		66			灰オリーブ	底部1/3	青磁釉 漆黒ぎ直	T16
	SK1						灰オリーブ			
6	34次	青磁 碗		66			灰オリーブ	底部2/3	青磁釉 内面煤	T17
	SK1						灰オリーブ			
7	34次	青磁器 碗	142				オリーブ灰	小片	青磁釉	N6
	SK2						オリーブ灰			
8	34次	肥前陶器 皿		46			灰オリーブ	底部1/3	珪砂	T10
	P1						浅黄			
9	34次	珠洲焼 搖鉢	370				灰	小片	鉗目 波状文	T20
	SK1						灰			
10	34次	珠洲焼 搖鉢	382				灰	口縁部1/18	海綿骨封 鉗目16本	T18
	SK1						灰			
11	34次	珠洲焼 搖鉢	290			ロクロナデ	灰	1/9	内外面煤 鉗目18本	N1
	SE1					ロクロナデ	灰			
12	34次	珠洲焼 壺	72			ロクロナデ	灰	口縁部1/3	波状文	T19
	SK1					ロクロナデ	灰			
13	34次	珠洲焼 壺		80		ナデ	オリーブ黒	1/4	静止糸切り	N5
	P3					ナデ	灰			
14	34次	珠洲焼 壺				タタキ	灰	小片		T21
	SK1					ナデ	灰			

第21表 石製品観察表

番号	遺構	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石	材	実測 番号
15	34次	石蹴	153	73	30	340			T11
	SX1								
16	34次	石蹴	127	107	33	570			T22
	SK1								
17	34次	磨石類	125	135	52	1240		煤付着	N8
	SE1								
18	34次	砥石	216	84	104	2650			N2
	SE1								
19	34次	行火	97	91	69	150	凝灰岩	煤付着	T9
	NRI								
20	34次	行火	82	86	43	140	凝灰岩	煤付着	T15
	SK1								
21	34次	行火	117	85	43	200	凝灰岩	煤付着	T14
	SK1								
22	34次	行火	93	156	44	412	凝灰岩	煤付着	T13
	SK1								

第13章 第36次調査の成果

本調査区は2箇所の区域に分かれており、第17次調査区に囲まれた区域をA区、第29次調査区の北側の区域をB区とする。

第1節 遺構

本調査で発見された主要な遺構は、竪穴状遺構、掘立柱建物、井戸、土坑、溝などである。以下は、各遺構の個別の概要である。

A区

① 竪穴状遺構

S11 (第133・137図)

隅丸方形をした中世の竪穴状遺構であるが、本遺構内外に土坑やピットなど複数の遺構が錯綜しており、形状は明瞭ではない。規模は、南北約2.4m、東西約2.6m、深さ約70cmを測る。方位はN5° Eである。

S12 (第133・137図)

正方形をした中世の竪穴状遺構であるが、土層断面の様相から、複数回掘り直しが認められる。規模は、南北約3.2m、東西約3.5m、深さ約60cmを測る。方位はS11と同様N5° Eである。

② 掘立柱建物

SB1 (第130・137図)

調査区北西隅にある中世の総柱式掘立柱建物である。南北2間以上×東西2間で、方位はN4° Eである。南西側の一部は調査区外へと延びる。柱間の長さは南北が1.8～2.2m、東西が2.0～2.4mである。柱穴は略円形で、直径30～60cm、深さ25～35cmを測る。

SB2 (第130・137図)

調査区中央で確認した中世の総柱式掘立柱建物である。南北・東西いずれも2間で、方位はほぼ真北である。柱間の長さは南北が2.0～2.8m、東西が2.2～2.6mである。柱穴は略円形で、直径30～40cm、深さ10～30cmを測る。建物北列の柱穴は2基の穴が切りあつた状態で検出したことから、本建物は一度建て替えを行った可能性がある。

SB3 (第131・137図)

調査区中央のSB2の南で確認した中世の総柱式掘立柱建物である。南北2間×東西3間で、方位はN5° Wである。柱間の長さは南北が1.6～2.0m、東西が1.5～1.8mである。柱穴は略円形で、直径20～40cm、深さ10～30cmを測る。SB2と同様、北列の柱穴は2基の穴が切りあつてあるものが多数あることから、本建物も建て替えが行われたものと思われる。

SB4 (第131・137図)

調査区南側で確認した中世の掘立柱建物である。南北2間×東西2間で、方位はN7° Wである。東南側の一角は調査区外へと延びる。真中の柱穴は他の柱穴の軸にのってこないが、総柱になるとを考えている。柱間の長さは南北が1.6～1.8m、東西が約2.0mである。柱穴は略円形で、直径25～40cm、深さ25～35cmを測る。調査区東側には第8次調査区が隣接しており、そこで検出したSB02は同一の建物になるかもしれない。同一建物になった場合、規模は南北2間、東西4間となる。(野々市市2012)

SB5 (第132・137図)

調査区南側のSB4西隣にある中世の総柱式掘立柱建物である。南北2間×東西3間で、方位はN 3°Eである。南列柱穴の一部はSII内に位置することから、穴の形状が他よりも小さくなっている。柱間の長さは南北が1.6～2.0m、東西が1.8～2.2mである。柱穴は略円形で、直径20～45cm、深さ15～75cmを測る。建物北列の柱穴は2基分の穴が切り合うか近接した状態で検出していることから、本建物は一度建て替えを行った可能性がある。

SB6 (第132・137図)

調査区南側のSB5の西隣にある中世の総柱式掘立柱建物である。南北2間×東西2間で、方位はN 5°Eである。北西側の一角は調査区外へと延びる。柱間の長さは南北が1.8～2.2m、東西が約2.0mである。柱穴は略円形で、直径20～45cm、深さ15～25cmを測る。

③ 井戸

SE1 (第134・137図)

調査区北方に位置する。東西に長い略楕円形をしており、内部には幅約30cm、深さ20～40cmのテラスを有する。長辺約2.6m、短辺約2.3m、深さ約1.7mを測る。覆土はレンズ状の自然堆積である。井戸枠は見られず素掘りであるが、木組みなどが抜き取られた可能性も残る。

④ 土坑

SK1 (第134・137図)

調査区北端でSE1の北側に位置する略長方形をした土坑である。北東端は自然河道NR1により塞がれ詳細規模はわからない。北東～南西が長辺で2.5m以上、北西～南東長が約95cm、深さ20～60cmを測る。

SK2 (第133・137図)

調査区南側のSIIに接する土坑である。東西に長い略楕円形をし、SK3とは接しており、本土坑が切られている。南北長約1.2m、東西長約1.8m、深さ35～50cmを測る。

SK3 (第133・137図)

前述したSK2の南側にあり、切り合いで本土坑が新しい。形状は略円形をしており、直径約1.4m、深さ20～50cmを測る。

SK4 (第134・137図)

調査区中央の西端で検出した略方形した土坑である。西半は調査区外へと延びるため全容は明らかでない。南北長1.6m以上、東西長70cm以上、深さ20～30cmを測る。

⑤ 溝

SD1 (第137図)

調査区北側で検出した東西方向の溝であるが、西から東方へ約10m進んだところで、南方に直角に向きを変えていく。溝幅は110～180cm、深さ35～55cmを測る。方位は南北方がN 3°Eで、東西方がW 5°Nである。

SD2 (第137図)

東西方向のSD1から派生するように走る南北溝である。長さは約7.5m、溝幅は40～65cm、深さ8～15cmを測る。方位はN 7°Eである。

④ 自然河道

NR1（第137図）

調査区北方に位置する自然河道で、本調査区北側で確認した第17次調査区のNR1と同じ流路である。本調査区内での幅は約9mである。検出作業段階で1～5、7～9の縄文土器や、26、27などの石鉢を検出したが、掘削作業は行っていないことから、深さは確認できていない。

B区

① 土坑

SK5（第134・137図）

調査区西側で検出した円形土坑である。規模は、直径約2.1m、深さ約80cmを測る。中から弥生土器12が出土しており、近隣に同時期の竪穴建物SI1（第29次調査区）が所在することから、この建物に関わると考えられる。

第2節 遺物

1～10は縄文土器で、2・4・6は口縁部に沈線を有する鉢である。時期は全体的に晩期が主体と考える。14～18は中世土師器皿である。14、15、17は口縁端部に大きな変化のないタイプ、16と18は口縁部が外反するタイプである。時期は13～14世紀である。22～24は鉄製品で、鎧の付着が著しい。23は刀子状になるかもしれないが半分に折れ曲がっており、明確な器種の判断はできなかった。26～35は石鉢である。そのほとんどはNR1からの出土で、26は類例の少ない小型製品である。28は短冊型、30～33等は撥形である。28～33は欠損部があまり見られず、使用頻度が短かったかもしれない。

第3節 まとめ

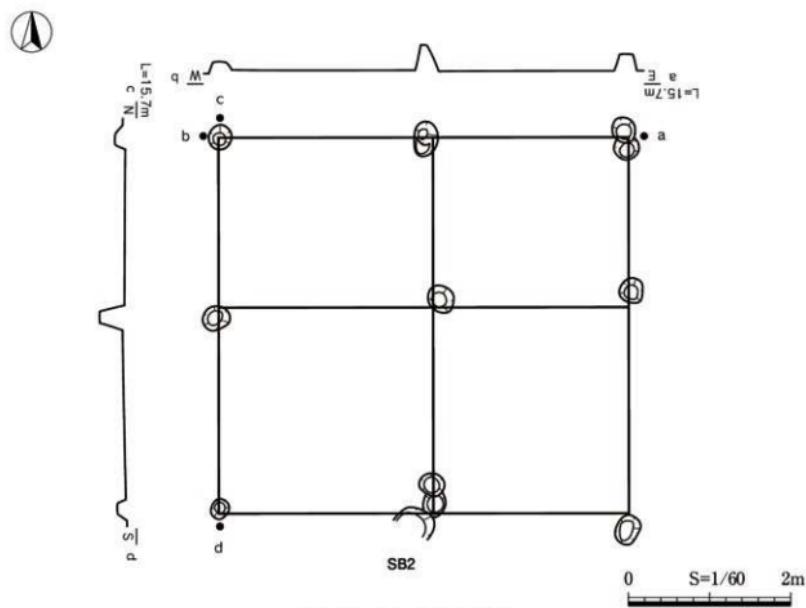
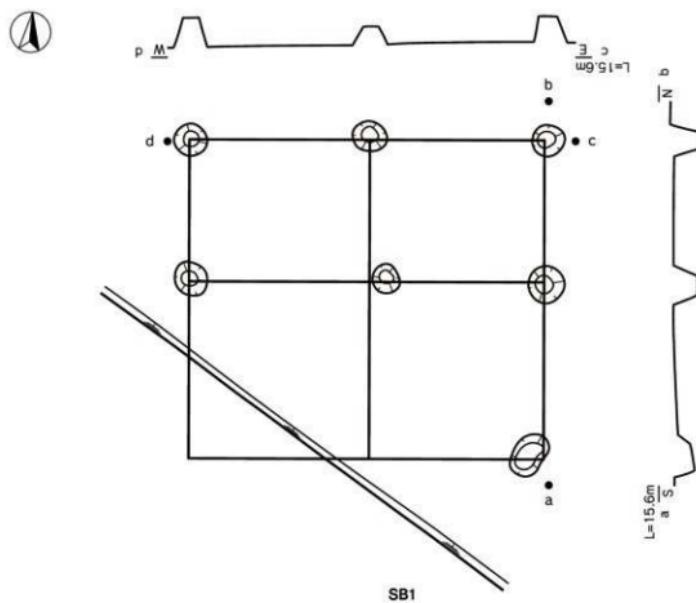
A区

本調査区では縄文時代と中世後半の2時期の遺構・遺物を確認した。縄文時代は晩期を主体とする土器等が自然河道NR1で集中して見つかっており、河道の存続時期を示すことができる。

中世は、竪穴状遺構や掘立柱建物、井戸、溝などが認められる集落跡である。掘立柱建物は2間×2間の小規模タイプが複数にわたって、竪穴状遺構周辺に集中して見つかっており、竪穴状遺構と掘立柱建物はセット関係にあったと考えられる。この掘立柱建物と周囲を走るSD1の軸はほとんど合致するところから、SD1は建物群を囲繞する溝で、第17次調査区で見つかったSD5・6と連動して宅地を区画する役割を担っていたと考えられる。井戸SE1は区画溝SD1に近接しており、別時期にそれぞれ機能していたか、同時期に井戸SE1からSD1の溝へ排水施設になっていたと推察する。

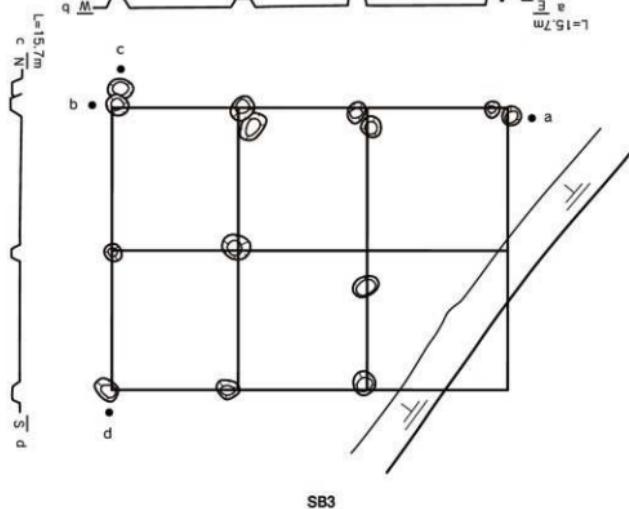
B区

本調査区でピットや溝などを検出したが、主要遺構は土坑SK5だけである。本調査区のすぐ南には第29次調査区が隣接しており、弥生時代後期後半の竪穴建物SI1が存在する。SK5は第29次竪穴建物SI1と同時期の土器が出土し、第29次調査区内にはこれと同タイプの土坑がSI1を囲うようにして複数個られている。SK5もこれらの土坑群と同じ位置づけにある円筒土坑と考える。

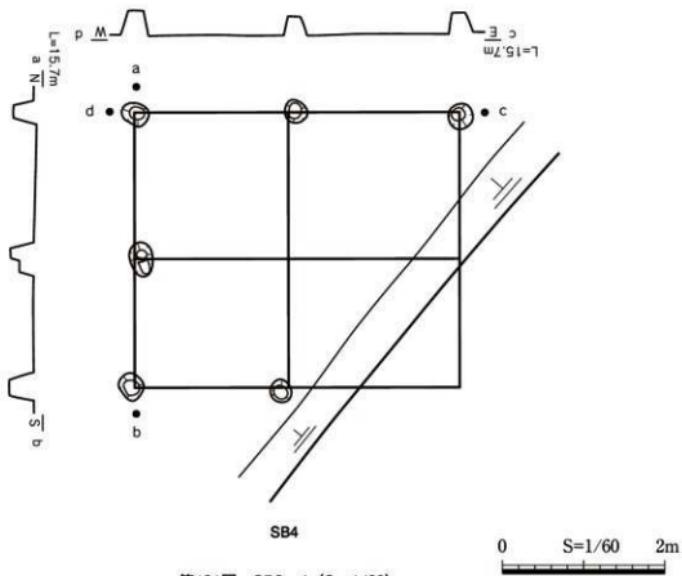


第130図 SB1、2 ($S = 1/60$)

Ⓐ

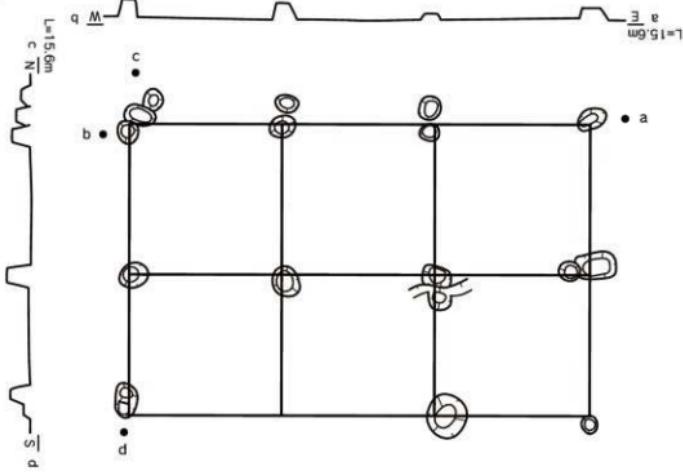


Ⓑ



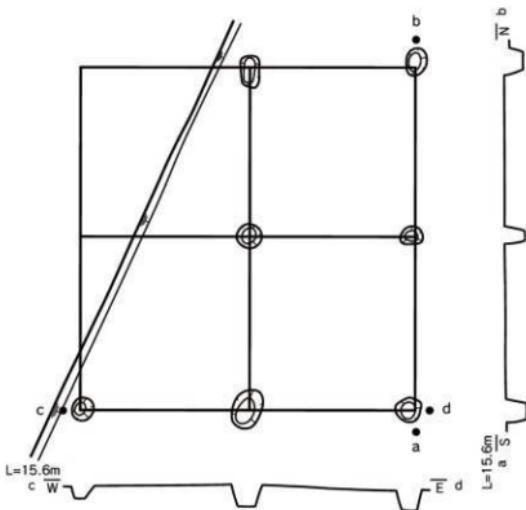
第131図 SB3、4 (S=1/60)

(A)



SB5

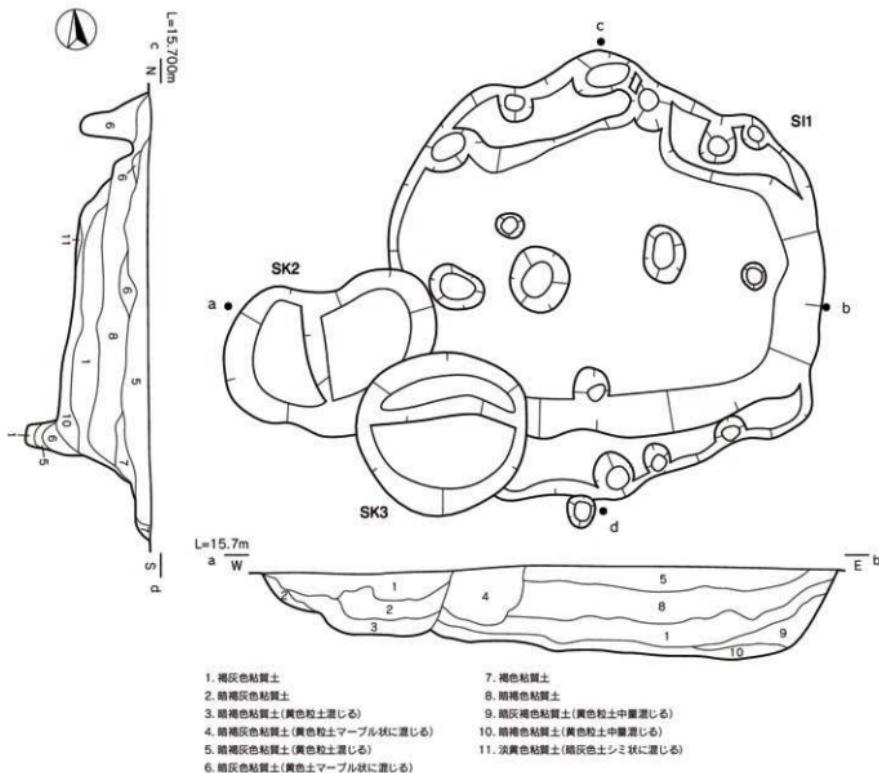
(B)



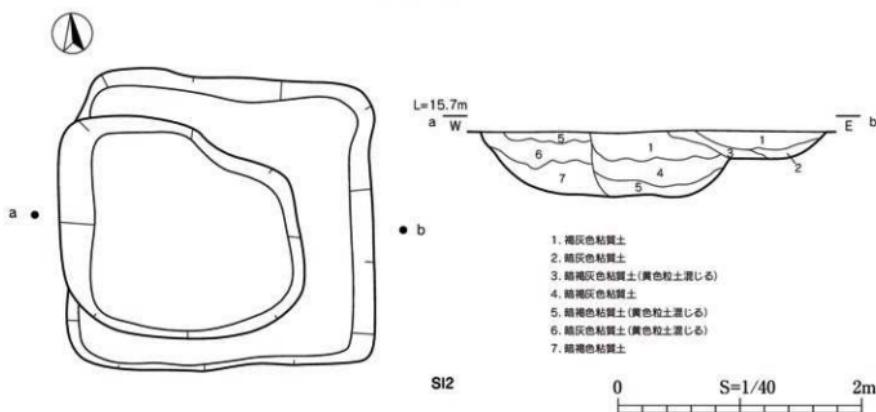
SB6

0 S=1/60 2m

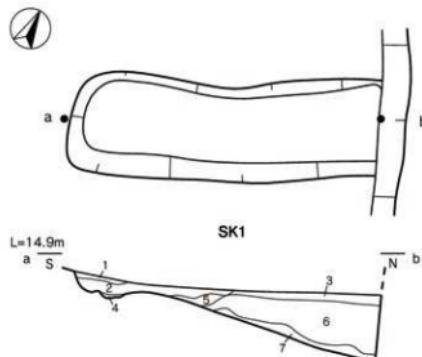
第132図 SB5, 6 (S=1/60)



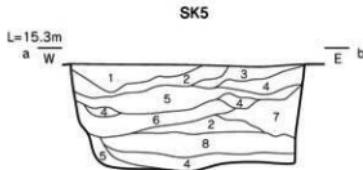
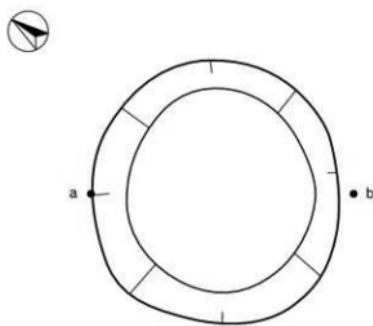
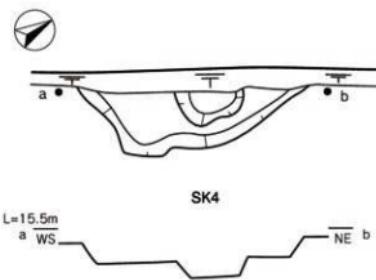
SI1、SK2、3



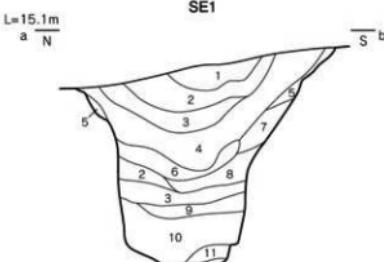
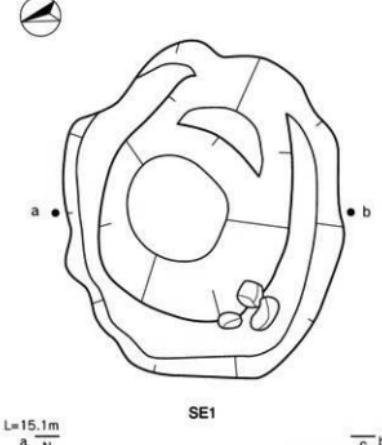
第133図 SI1・2、SK2・3 (S=1/40)



1. 褐色粘質土
2. 褐褐色粘質土
3. 黑褐色粘質土
4. 淡黄色粘質土
5. 淡灰黄色粘質土
6. 灰灰色粘質土
7. 黄褐色粘質土
1 ~ 4 層, 中世土坑
5 ~ 7 層, 部



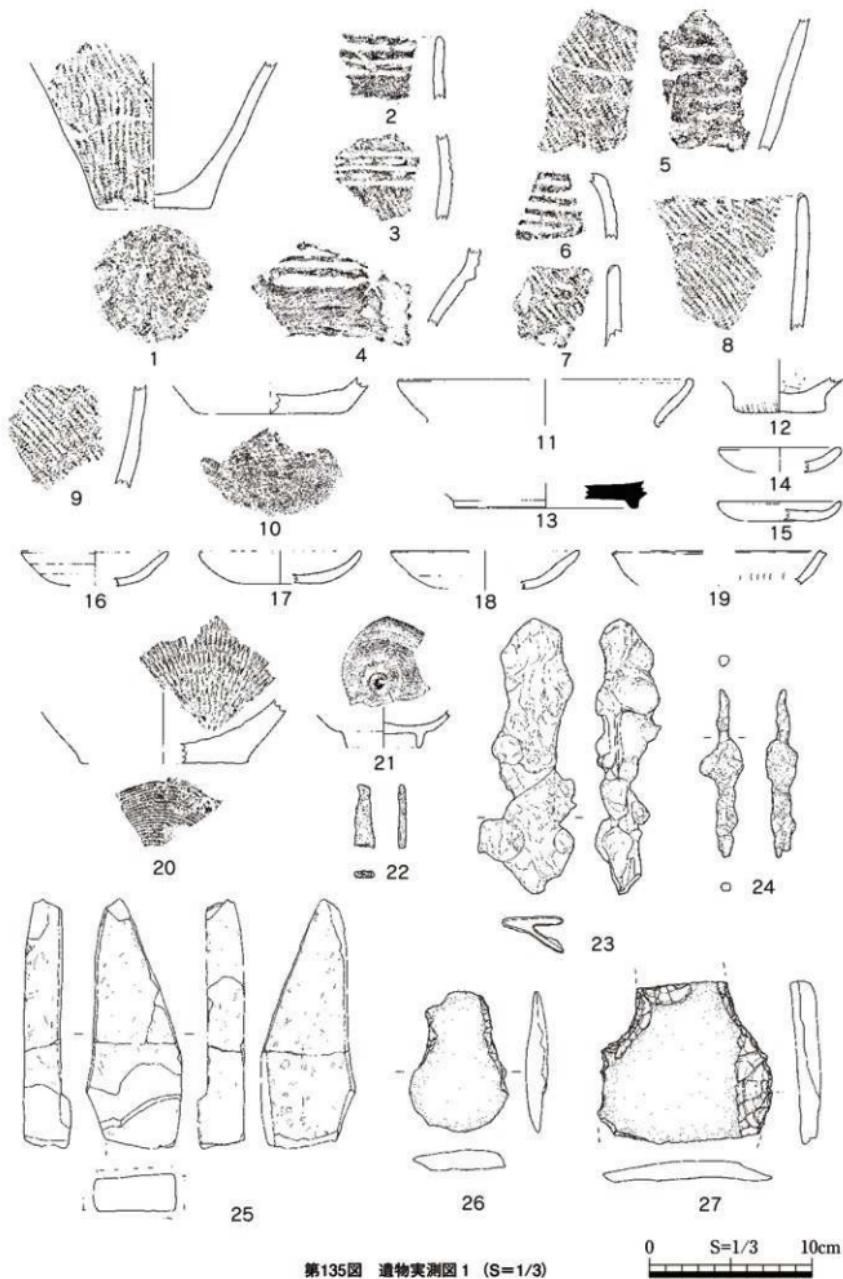
1. 褐灰褐色粘質土(黄色土混じる)
2. 淡灰黄色粘質土(褐色粘質土混じる)
3. 褐灰褐色粘質土
4. 淡黄色粘質土
5. 灰灰色粘質土(黄色粒土混じる)
6. 褐灰褐色粘質土
7. 黑灰褐色粘質土
8. 灰灰色粘質土(石礫多く混じる)



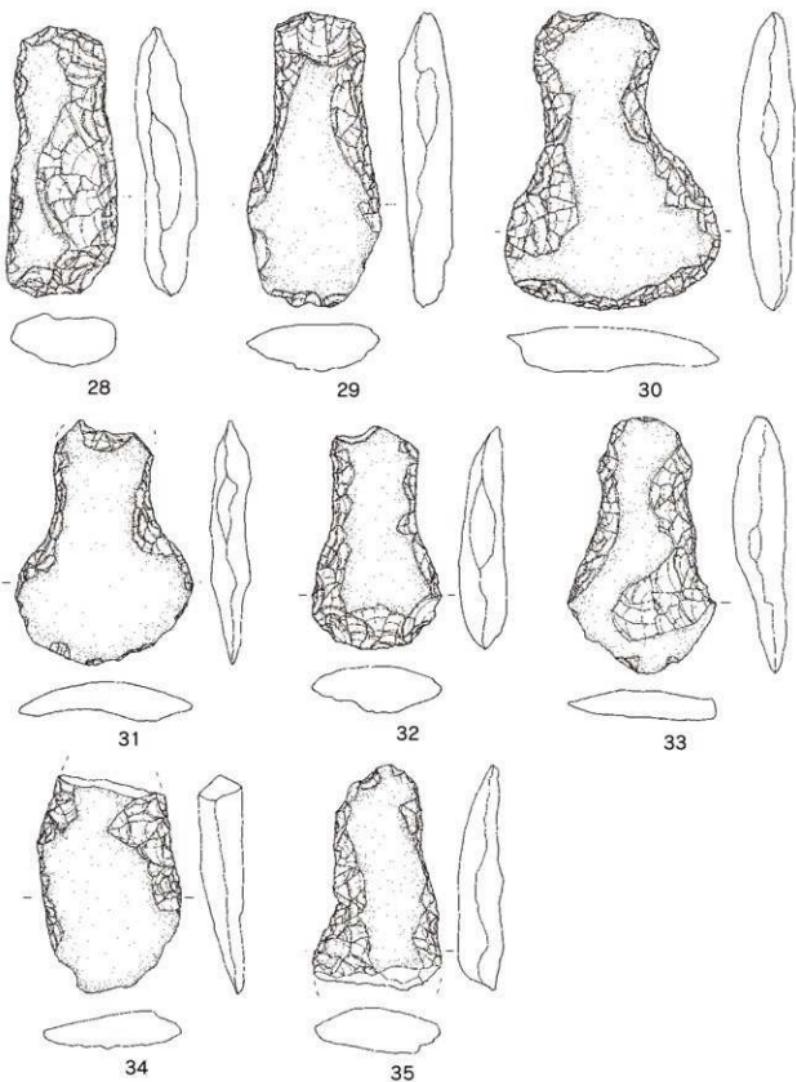
1. 淡褐色粘質土
2. 褐色粘質土
3. 褐褐色粘質土
4. 褐灰色粘質土
5. 褐灰褐色粘質土
6. 淡褐色粘質土
7. 褐色粘質土
8. 褐褐色粘質土
9. 黑色粘質土
10. 海褐色粘質土
11. 海褐色砂質土
12. 茶褐色粗砂土

0 S=1/40 2m

第134図 SK1、4、5、SE1 (S=1/40)



第135図 遺物実測図1 (S=1/3)



0 S=1/3 10cm

第136図 遺物実測図2 (S=1/3)

第22表 土器・陶器観察表

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	色調(外) 色調(内)			
1	36次	縄文土器		70		縄文	にぶい橙	底部全周	底部灰痕 内面煤	O22
	NR1	深鉢				ナデ	灰褐			
2	36次	縄文土器				精製	にぶい黄橙	小片	沈縞	O28
	NR1	深鉢				ナデ	にぶい黄橙			
3	36次	縄文土器				精製	にぶい橙	小片	外面煤	O27
	NR1	深鉢				ナデ	灰褐			
4	36次	縄文土器				ナデ	にぶい黄橙	口縁下角1/15	沈縞	O21
	NR1	深鉢				ナデ	にぶい黄橙			
5	36次	縄文土器				縄文	にぶい橙	小片	内外面煤 7、8と同一か	O25
	NR1	深鉢				ナデ	黒褐			
6	36次	縄文土器				精製		小片	沈縞	O11
	SK1	浅鉢				ナデ				
7	36次	縄文土器				縄文	灰褐	小片	内外面煤 5、8と同一か	O24
	NR1	深鉢				ナデ	黒褐			
8	36次	縄文土器	266			縄文	にぶい褐	口縁部1/12	内外面煤 5、7と同一か	O23
	NR1	深鉢				ナデ	にぶい褐			
9	36次	縄文土器				縄文	にぶい褐	小片	内面煤	O26
	NR1	深鉢				ナデ	黒褐			
10	36次	縄文土器		94		ナデ	にぶい橙	底部1/3	底部灰痕 網代灰痕	O12
	SK1	鉢				ナデ	にぶい橙			
11	36次	土師器	181			ヨコナデ	にぶい橙	口縁部1/10		O29
	NR1	甕				ヨコナデ	にぶい橙			
12	36次	弥生土器		57		ハケ、ナデ	黄橙、灰褐	底部全周		H33
	SK4	甕				ケズリ	橙			
13	36次	須恵器		114			灰	高台部1/6		O30
	包含層	有台坏					灰			
14	36次	土師器	75	15	40	ナデ	橙	口縁部1/7		O4
	SD2	皿				ナデ	橙			
15	36次	土師器	76	12	45	ナデ	にぶい橙	1/5		O31
	包含層	皿				ナデ	にぶい橙			
16	36次	土師器	90			ヨコナデ	にぶい橙	口縁部1/4		N3
	SD1	皿				ヨコナデ	にぶい黄橙			
17	36次	土師器	100	20	50	ナデ	にぶい橙	口縁部1/12	腰部1/7	O32
	包含層	皿				ナデ	にぶい橙			
18	36次	土師器	115	23	60	ナデ	橙	口縁部1/12		O7
	SK2	皿				ナデ	にぶい橙			
19	36次	瀬戸焼	131				浅黄	口縁部1/9	内外面灰釉	O6
	SK2	御皿					浅黄			
20	36次	肥前陶器		104			灰褐	1/5		H35
	包含層	擂鉢					灰褐			
21	36次	肥前陶器		46			灰白	高台部3/4	陶胎染付	H34
	P2	碗					暗灰黄、灰白			

第23表 石製品観察表

番号	造構	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石 材	備 考	実測 番号
			(mm)	(mm)	(mm)	(g)			
25	36次	砾石	153	58	29	300	砂岩		N2
	SI2								
26	36次	石歛	87	61	13.5	70	砂岩	完形	T16
	NR1								
27	36次	石歛	100	104	19	190	砂岩		T19
	NR1								
28	36次	石歛	167	69	38	460	砂岩	完形	T13
	P1								
29	36次	石歛	182	82	33	560	花崗岩	完形	T14
	NR1								
30	36次	石歛	183	133	35	848	流紋岩	完形	T20
	NR1								
31	36次	石歛	150	110	24.5	385	流紋岩		T5
	SE1								
32	36次	石歛	137	80	30	335	火山凝灰岩		T1
	SD1								
33	36次	石歛	157	91	33	380	火山凝灰岩	完形	T15
	NR1								
34	36次	石歛	134	89	28	320	火山凝灰岩		T18
	NR1								
35	36次	石歛	138	80	28	290	凝灰岩		T17
	NR1								

第24表 鉄製品観察表

番号	グリッド 造構	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備 考	実測 番号
			(mm)	(mm)	(mm)	(g)		
22	36次	不明	39	13	5	28		O9
	SK2							
23	36次	板状製品	169	60	40	240		O10
	SK2							
24	36次	棒状製品	103	27	19	25.9		O8
	SK2							

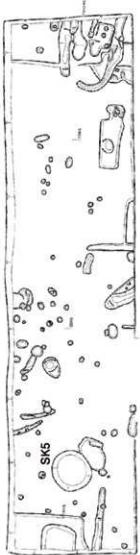
参考文献

- 田嶋明人 1986 「IV 考察 漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡 I』
石川県立埋蔵文化財センター
- 吉岡康暢 1994 「中世須恵器の研究」吉川弘文館
- 藤田邦夫 1997 「中世加賀国の土師器様相」「中近世の北陸－考古学が語る社会史－」桂書房
- 田嶋明人 1998 「古代土器編年軸の設定」「シンポジム 北陸の古代土器研究の現状と課題」
石川考古学研究会 北陸古代土器研究会
- 河合忍 安英樹 1999 「石鍬雜考」「石川県考古資料調査・集成事業報告書 農工具」
石川考古学研究会
- 柿田祐司 2006 「加賀・能登の様相」「中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品」
北陸中世考古学研究会
- 藤澤良祐 2008 「中世瀬戸窯の研究」高志書院
- 水澤幸一 2009 「中世後期の貿易陶磁」「日本海流通の考古学」高志書院
- 向井裕知 2010 「中世加賀の町場と区画」「中世都市研究 15 都市を区切る」山川出版社
- 山本直人 2013 「植物質食料と打製石斧からみた生業活動」「縄文時代の生業と社会」同成社
2010 「徳丸ジョウジャダ遺跡」石川県教育委員会（財）石川県埋蔵文化財センター
2012 「三日市 A 遺跡 4」野々市市教育委員会
2012 「三日市 A 遺跡 5」野々市市教育委員会
2013 「三日市 A 遺跡 6」野々市市教育委員会
2015 「郷クボタ遺跡 3」野々市市教育委員会

A☒



B☒



第137図 第36次遺構全体図 (S=1/200)



7次 完掘 (SD6から西側)



13次 SI1 (西から)



7次 SD6 ~ 8 (南から)



13次 SI2 (東から)



13次 全景 (西から)



13次 SK3 (南から)



13次 全景 (東から)



13次 SK10 (西から)



13次 SK11 (東から)



17次 調査区北側全景 (西から)



13次 SD1・2 (西から)



17次 調査区北側全景 (東から)



13次 SD1・2・5・6 (南から)



17次 調査区西側全景 (北から)



13次 SD8 (東から)



17次 調査区南側全景 (東から)



17次 SK1～8、SD1・3・4（東から）



17次 SB1、SD5（東から）



17次 SK6（北から）



17次 SD6・7（北西から）



17次 SK8（南から）



23次 全景（南から）



17次 SD1・2（西から）



23次 SD1（北から）



24次 全景（北から）



24次 SZ1・2、SD4～6（東から）



24次 SI1、SZ2・4、ST1、SD6（北から）



24次 SZ3、SK2（南東から）



24次 SZ1、SD2～4（南東から）



24次 SZ4、SK2（南東から）



24次 SZ1、SD3・4（東から）



24次 SZ6、SD5（北から）



24次 SX1 石製品出土状況（西から）



25次 全景（西から）



24次 五輪塔（水輪）63 出土状況



27次 北側調査区全景（西から）



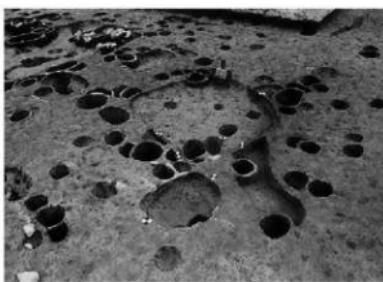
24次 五輪塔（空風輪）56 出土状況



27次 北側調査区全景（東から）



24次 SI1（西から）



27次 SI1、SB1（南東から）



27次 SI2、SB2、SK3・4（北から）



29次 全景 NR1付近（南から）



27次 南側調査区全景（東から）



29次 全景 SD8付近（北から）



27次 SD2（西から）



29次 全景 SD15、NR3付近（北西から）



31次 全景 SD35、SE1付近（北東から）



29次 全景 NR3付近（北東から）



32次 全景 SI7、SD19付近（北から）



29・31・32次 全景 NR7、SD23付近（東から）



31・32次 全景 SD27、SX3付近（北東から）



29・31・32次 全景 SI5付近（東から）



29・31・32次 全景 NR6・7付近（東から）



29次 SI1（南東から）



29・31・32次 全景 SB4、SD19付近（北東から）



29次 SI1、SK5～8（北西から）



29次 SI2 (南西から)



29次 SI6 遺物出土状況 (北東から)



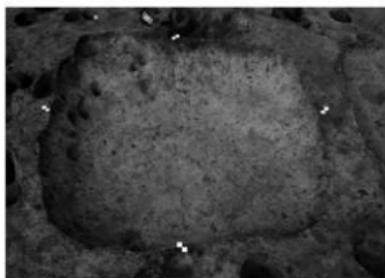
29次 SI5 (南西から)



29次 SI7 (西から)



29次 SI5 遺物出土状況 (南西から)



32次 SI9 (東から)



29次 SI6 (北東から)



29次 SI11、SK46 (東から)



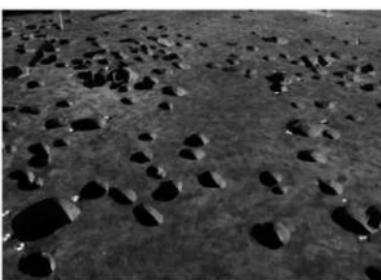
32次 SI13（西から）



29次 SB3（北西から）



32次 SI13・SB16（東から）



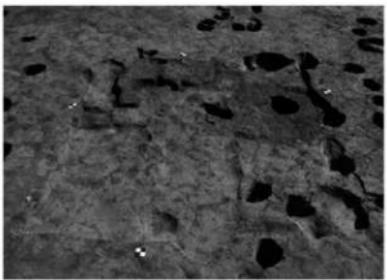
32次 SB4（南東から）



32次 SI14、SB17（南から）



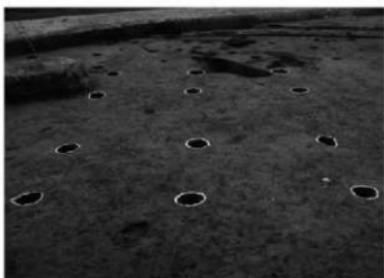
29次 SB6（東から）



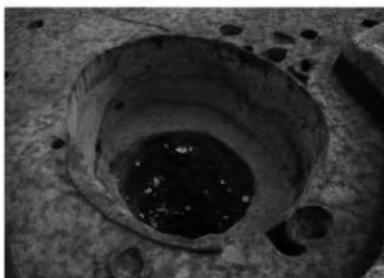
32次 SI15・16（北から）



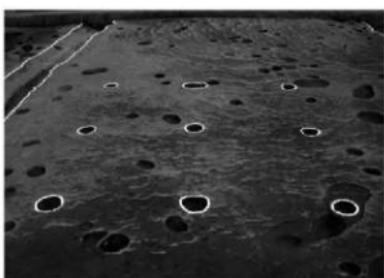
29次 SB8・9、SD1・2（北から）



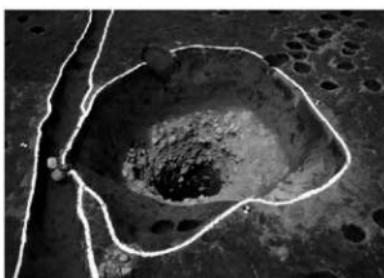
29次 SB9 (北から)



31次 SE1 (北から)



29次 SB14 (南から)



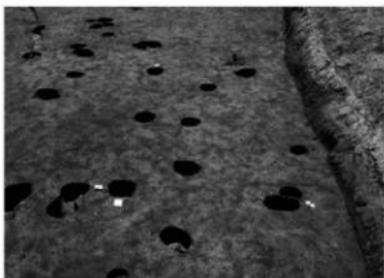
29次 SE2 (東から)



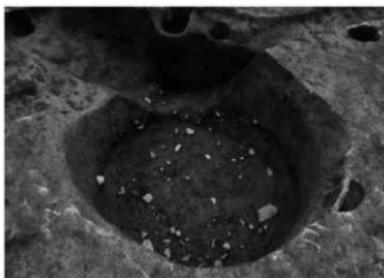
31次 SB18(西から)



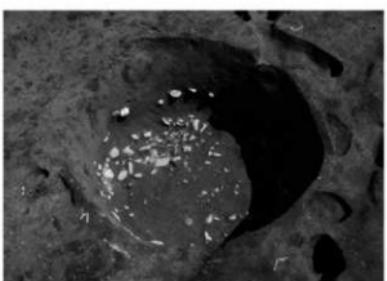
29次 SK5 (南から)



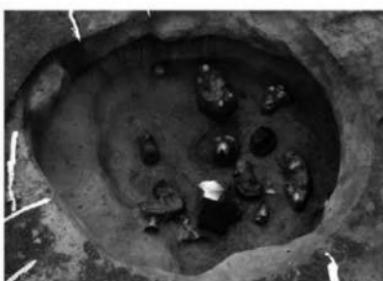
29次 SB19 (北から)



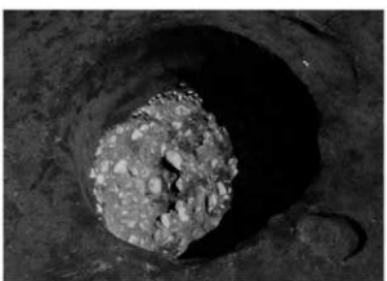
29次 SK6 (北から)



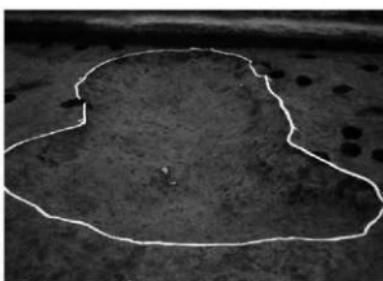
29次 SK7 (西から)



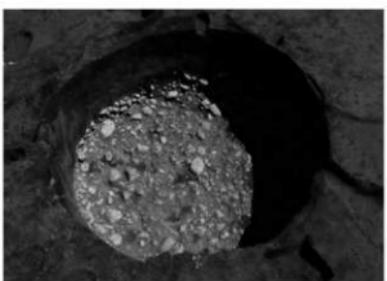
32次 SK30 遺物出土状況 (北から)



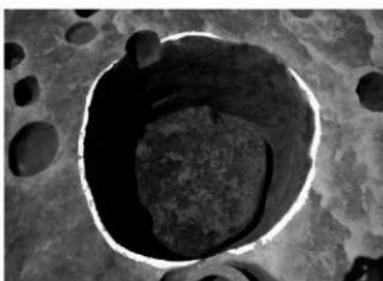
29次 SK8 (西から)



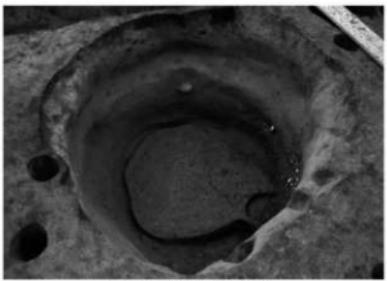
29次 SK47・48 (北から)



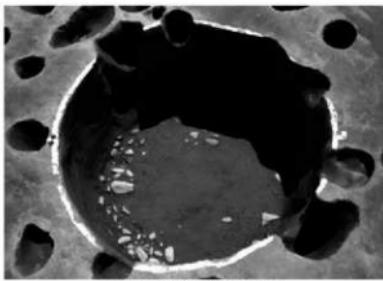
29次 SK9 (西から)



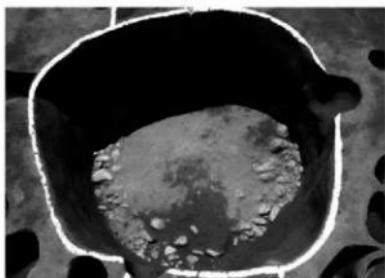
29次 SK57 (東から)



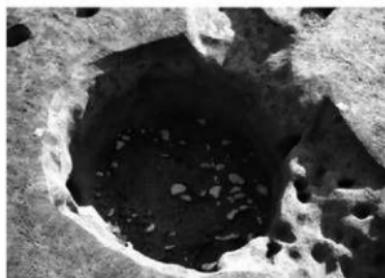
32次 SK25 (東から)



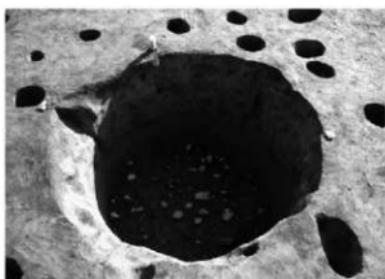
29次 SK58 (北西から)



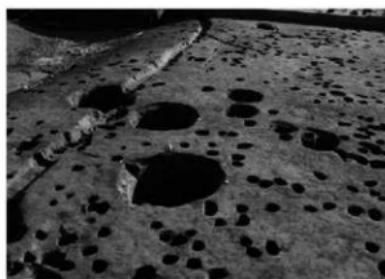
29次 SK59 (北から)



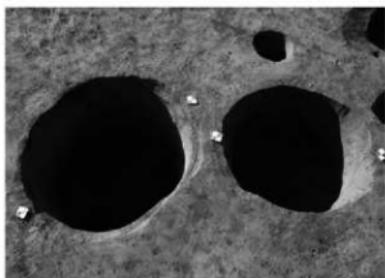
29次 SK65 (北から)



29次 SK60 (北から)



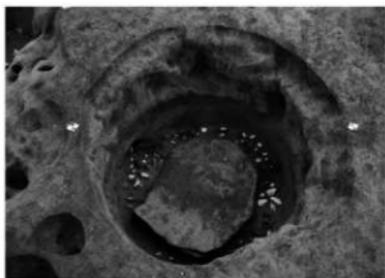
29次 SK60 ~ 65 (北から)



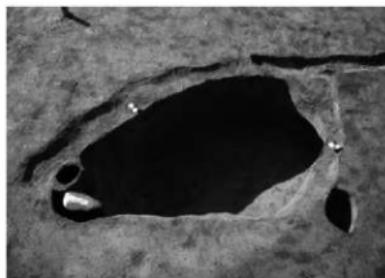
29次 SK62・63 (東から)



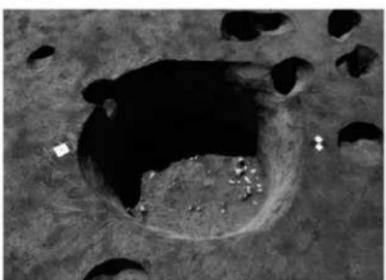
31次 SK67 (南から)



29次 SK64 (北から)



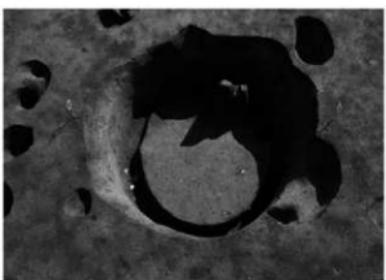
32次 SK68 (東から)



29次 SK70 (北から)



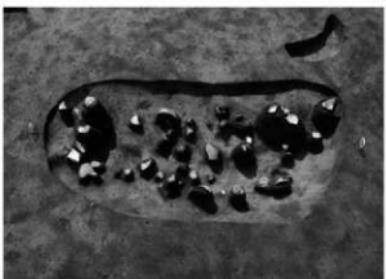
29次 SD3・4 (西から)



29次 SK71 (北から)



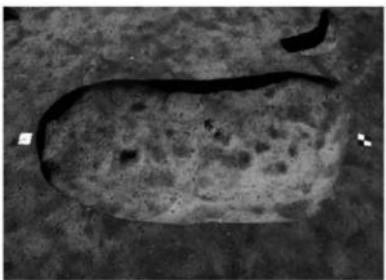
29次 SD6・7 (南西から)



29次 SK72 遺物出土状況 (北東から)



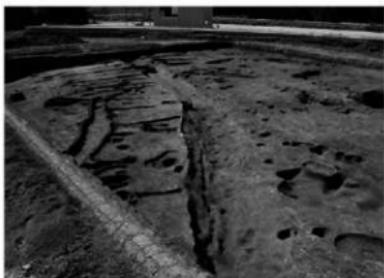
29次 SD12 (北から)



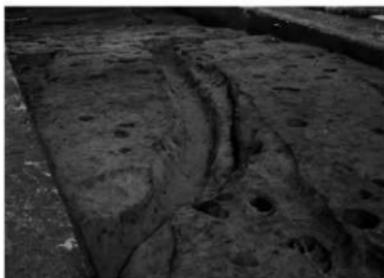
29次 SK72 (北東から)



29次 SD13～15 (西から)



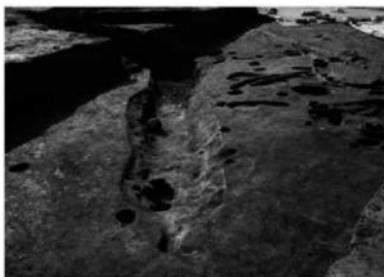
29次 SD15 (南東から)



32次 SD20 (南西から)



32次 SD15, NR3 (南東から)



31次 SD21 (北から)



32次 SD19 (南から)



32次 SD23 (南から)



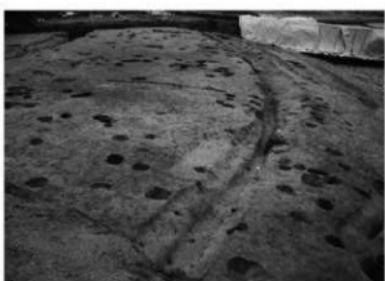
32次 SD19, NR3 (南東から)



29次 SD23, SK64・65 (北から)



32次 SD27 (東から)



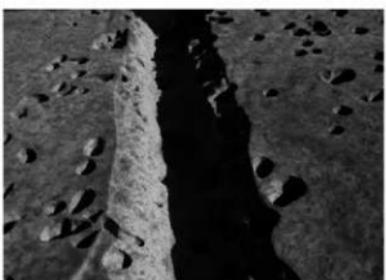
32次 SD37 (北から)



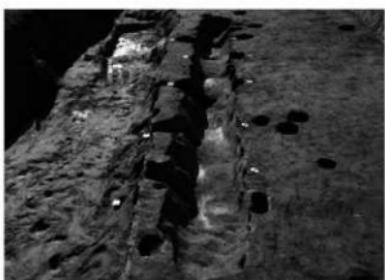
35次 SD31 (北から)



31・32次 SD36・37、NR6 (南東から)



31次 SD35 (西から)



31次 SD39 (東から)



31・32次 SD36 (南から)



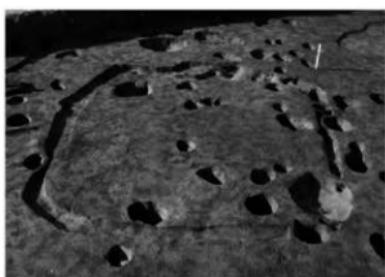
31次 SD40 (西から)



31次 SD40内青磁皿出土状況



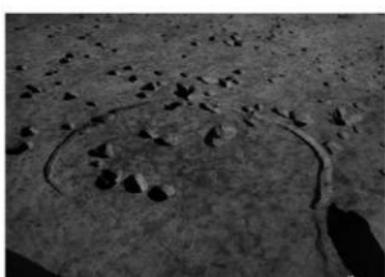
29次 NR2 (東から)



31・32次 SD41 (南東から)



29次 NR2 (北東から)



32次 SD42・43 (南から)



31次 NR4 (北東から)



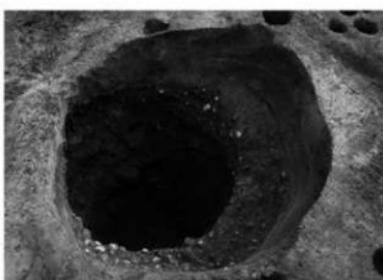
29次 NR1 (南西から)



29・31・32次 NR6、SD23・37 (南東から)



34次 完掘（東から）



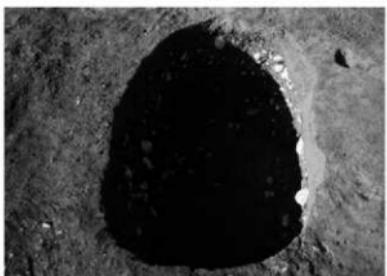
34次 SE1（北西から）



34次 SK1（東から）



34次 SE1断面（北東から）



34次 SK2（東から）



34次 SX1（東から）



34次 SK3（南西から）



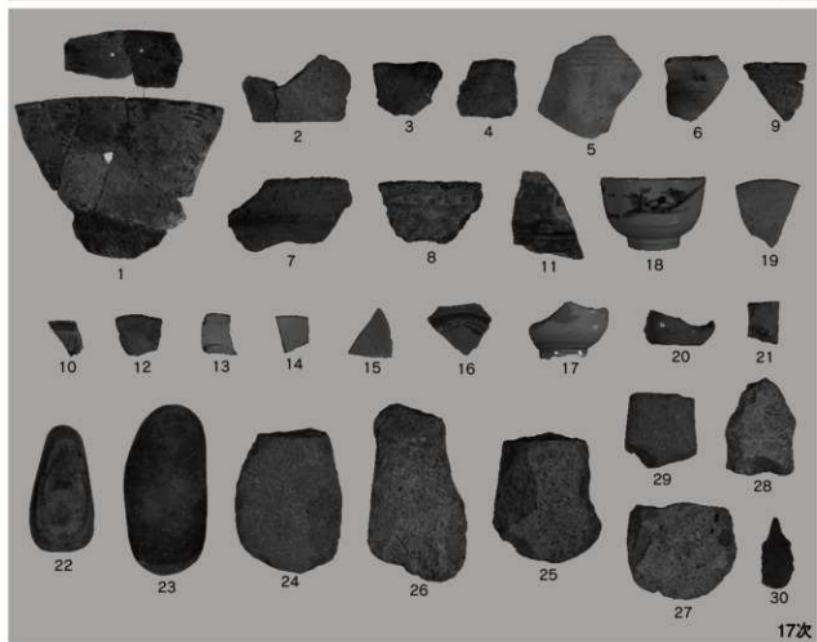
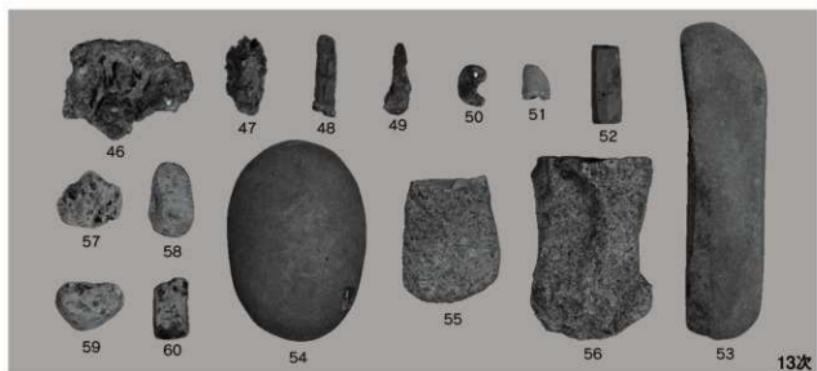
34次 NR1（北西から）



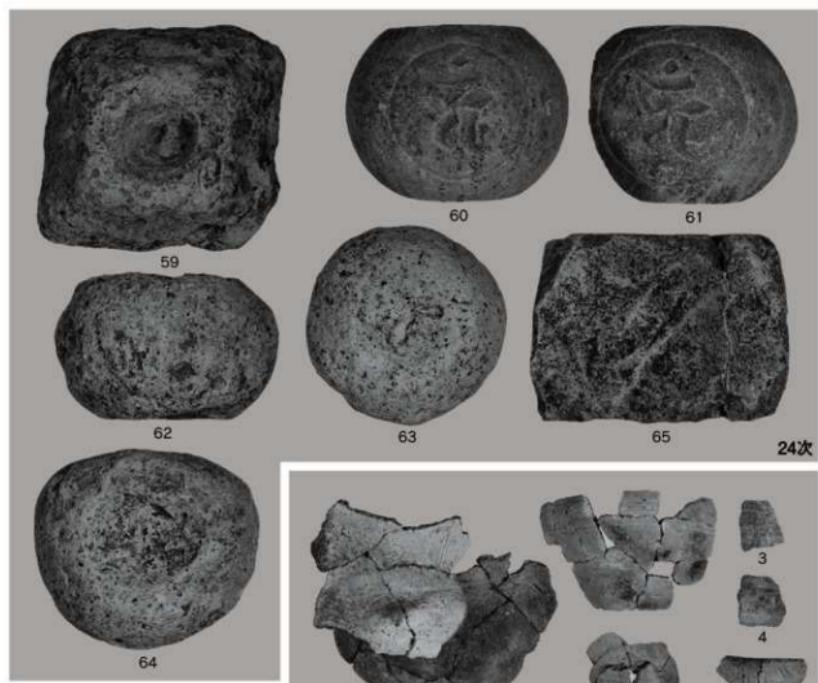
7次



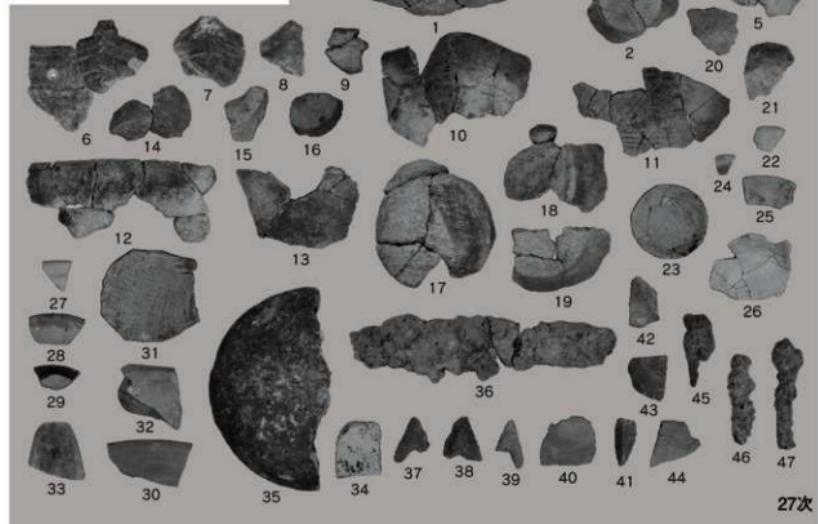
13次



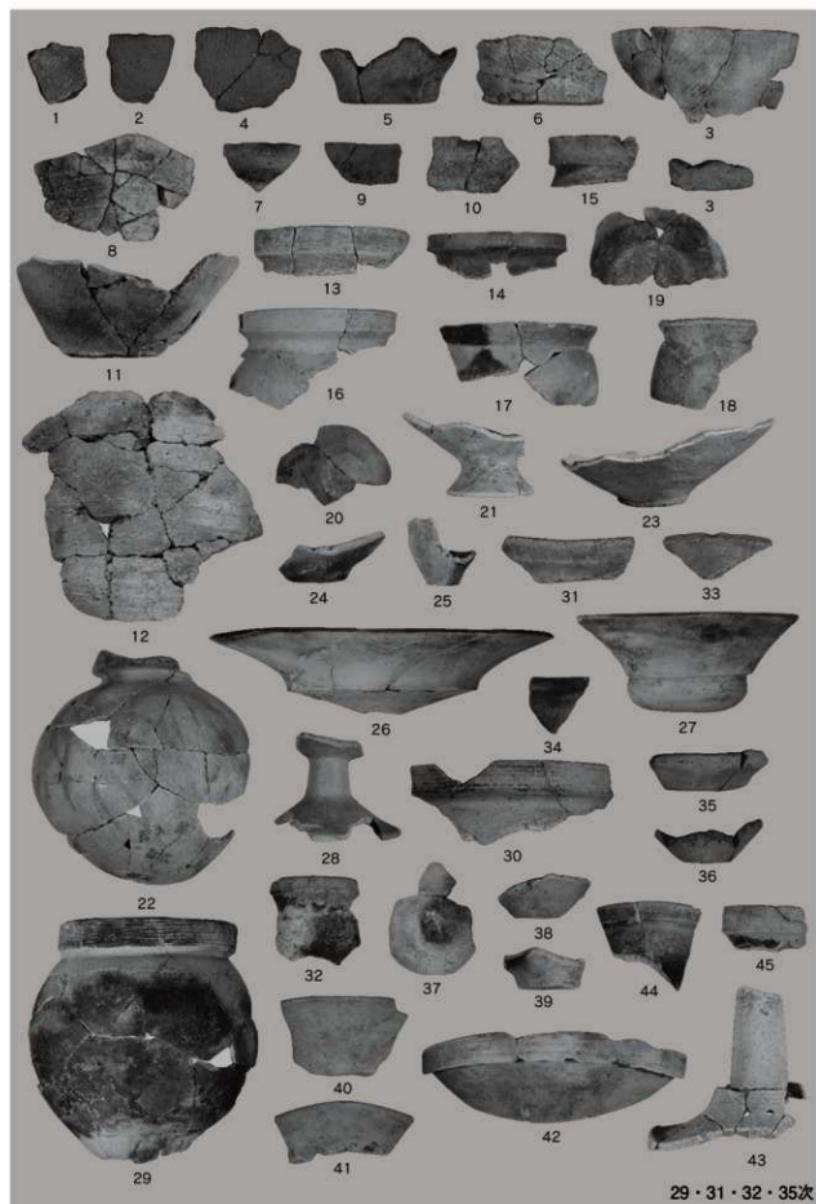




24次

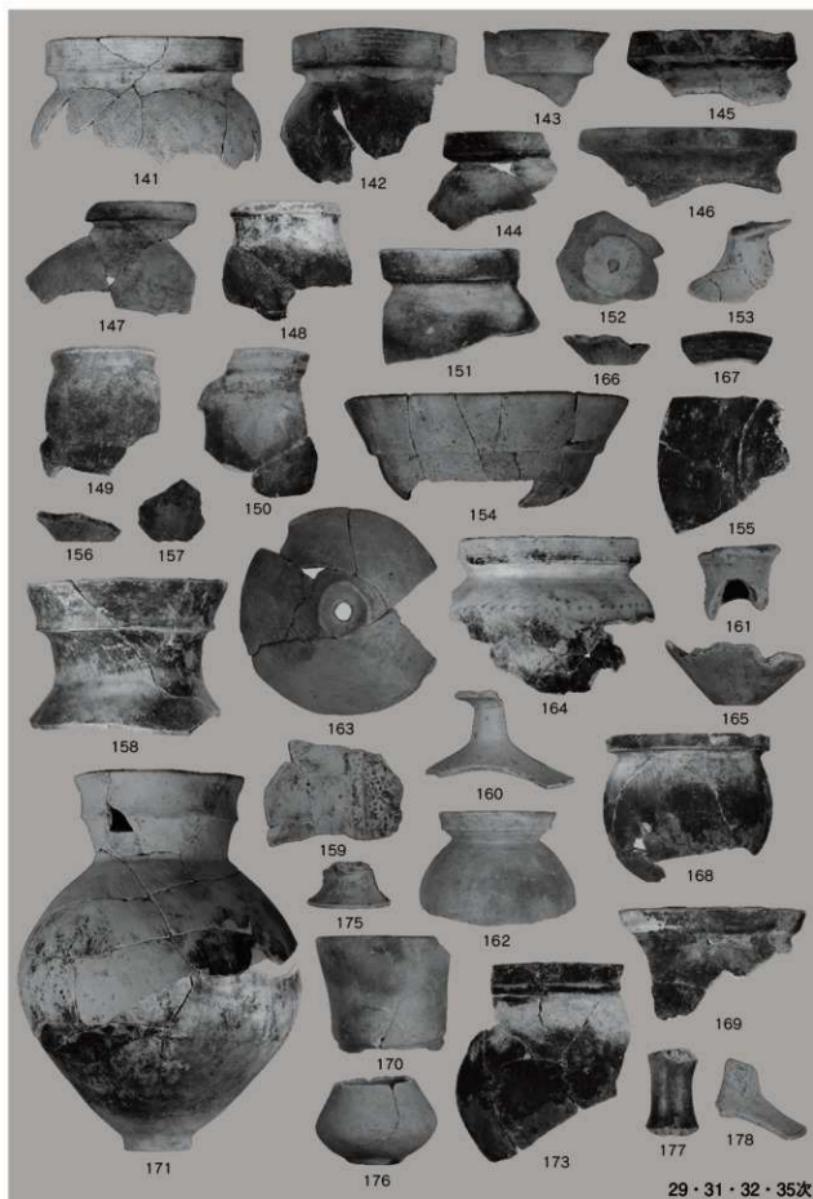


27次













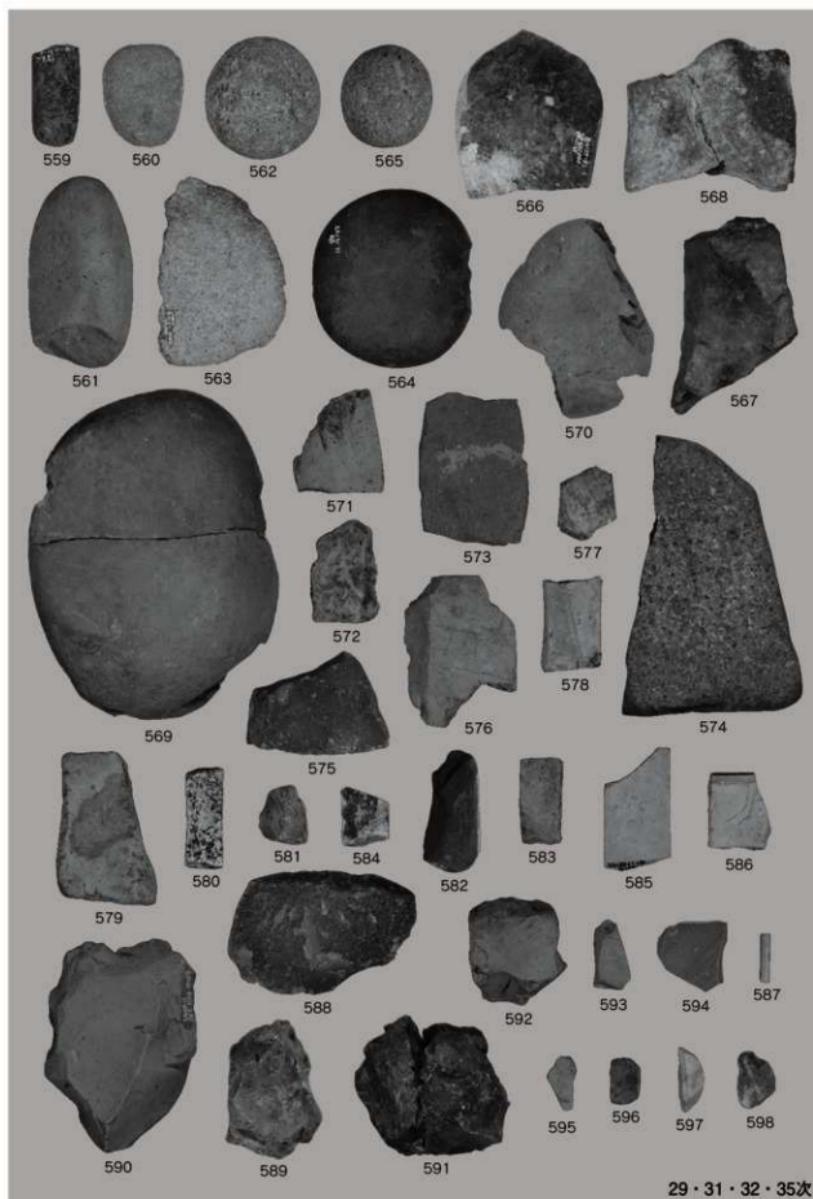


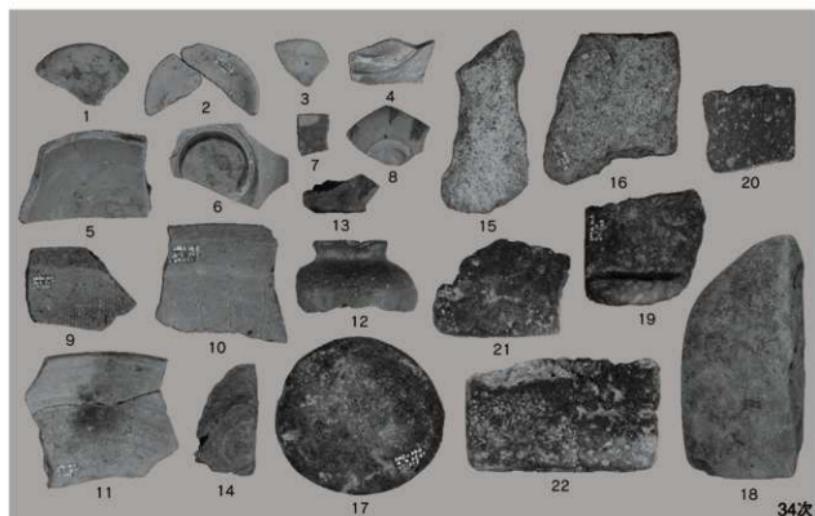




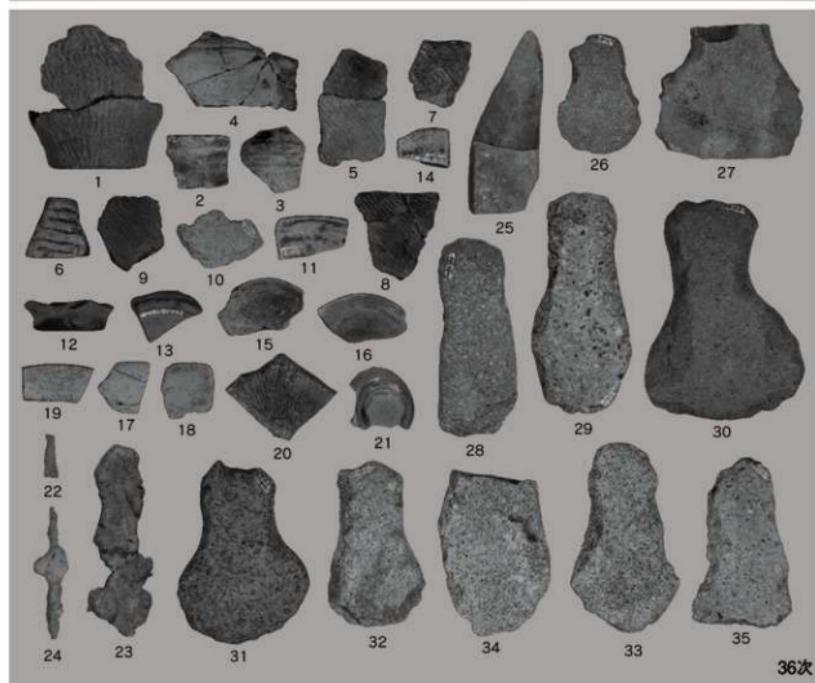








34次



35次

報告書抄録

ふりがな	みっかいちAいせき							
書名	三日市A遺跡8							
副書名								
シリーズ名	北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	13							
編著者名	田村昌宏							
編集機関	野々市教育委員会							
所在地	〒921-8510 石川県野々市市三納一丁目1番地 TEL076-227-6122							
発行年月日	西暦 2016年3月29日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯 度数	東経 度数	発掘期間	発掘面積m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
三日市A遺跡 7次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 86"	136° 59' 78"	20021008 ~ 20030328	1,450	記録保存 調査
三日市A遺跡 13次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 88"	136° 59' 83"	20030901 ~ 20031212	2,350	記録保存 調査
三日市A遺跡 17次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 79"	136° 59' 80"	20041014 ~ 20041209	2,160	記録保存 調査
三日市A遺跡 23次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 83"	136° 59' 87"	20051128 ~ 20060119	280	記録保存 調査
三日市A遺跡 24次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 84"	136° 59' 86"	20051128 ~ 20060112	596	記録保存 調査
三日市A遺跡 25次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 90"	136° 59' 92"	20060928 ~ 20061005	132	記録保存 調査
三日市A遺跡 27次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 86"	136° 59' 78"	20060613 ~ 20060630	563	記録保存 調査
三日市A遺跡 29次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 73"	136° 59' 77"	20070412 ~ 20080221	7,144	記録保存 調査
三日市A遺跡 31次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 75"	136° 59' 76"	20070528 ~ 20080208	2,372	記録保存 調査
三日市A遺跡 32次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 75"	136° 59' 72"	20070927 ~ 20080208	5,286	記録保存 調査
三日市A遺跡 34次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 80"	136° 59' 66"	20071210 ~ 20071227	402	記録保存 調査
三日市A遺跡 35次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 75"	136° 59' 69"	20080514 ~ 20080730	1,150	記録保存 調査
三日市A遺跡 36次調査	石川県野々市市 二日市町	17344	1202000	36° 53' 77"	136° 59' 75"	20080620 ~ 20081114	1,271	記録保存 調査

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三日市A遺跡 7次調査	集落	縄文、弥生 中世	竪穴建物、掘立柱建物、 土坑、溝	縄文土器、弥生土器、中世陶磁器	
三日市A遺跡 13次調査	集落	弥生、古代 中世	竪穴建物、掘立柱建物、 土坑、溝	弥生土器、須恵器、軒丸瓦、中世陶磁器、 砥石、勾玉、管玉	
三日市A遺跡 17次調査	集落	縄文、弥生 中世	掘立柱建物、土坑、溝、 自然河道	縄文土器、弥生土器、中世陶磁器、石鍬、 石礫未成品	
三日市A遺跡 23次調査	集落	弥生、中世 近世	溝、自然河道	弥生土器、中世・近世陶磁器、砥石	
三日市A遺跡 24次調査	集落 墓	弥生、中世	竪穴建物、周溝墓、配石 墓、溝	弥生土器、中世陶磁器、石鍬、五輪塔	
三日市A遺跡 25次調査	集落	弥生、中世	溝、ピット	弥生土器、中世陶磁器	
三日市A遺跡 27次調査	集落	縄文、中世	竪穴状遺構、掘立柱建物、 土坑	縄文土器、中世土師器・陶磁器、石鍬、 鉄釘、刀子状鉄製品	
三日市A遺跡 29次調査	集落 墓	縄文、弥生 中世	竪穴建物、竪穴状遺構、 掘立柱建物、井戸、土坑、 溝、自然河道、方形周溝 墓	縄文土器、弥生土器、中世土師器・陶 磁器、石鍬、管玉未成品	
三日市A遺跡 31次調査	集落	縄文、弥生 中世	井戸、溝、自然河道	縄文土器、弥生土器、中世土師器・陶 磁器	
三日市A遺跡 32次調査	集落	弥生、古代 中世	竪穴建物、竪穴状遺構、 掘立柱建物 土坑、溝、自然河道	弥生土器、須恵器、中世土師器・陶磁器、 石鍬、砥石、管玉未成品、刀子状鉄製品	
三日市A遺跡 34次調査	集落	弥生、中世	井戸、土坑、自然河道	中世土師器・陶磁器、石鍬、行火	
三日市A遺跡 35次調査	集落	弥生、古代 中世	竪穴建物、掘立柱建物、 土坑、溝	弥生土器、須恵器、土師器、中世陶磁器、 石鍬、砥石、鉄釘	
三日市A遺跡 36次調査	集落	縄文、弥生 中世	竪穴状遺構、掘立柱建物、 井戸、土坑、溝、自然河道	縄文土器、弥生土器、中世土師器・陶器、 石鍬	
要 約	縄文時代後期、弥生時代後期、古代、中世の遺跡である。 縄文時代は第27次調査区で後期後半を主とする土器がまとまって見つかったが、地山下及び地山直上からの出土で、主要な遺構は検出できなかった。 弥生時代は後期後半を中心とする集落跡で、竪穴建物と掘立柱建物をセットとする居住域を確認した。中で、第29・32・35次では、竪穴建物・掘立柱建物のほかに、直径1~2m程の円筒土坑が70基近く検出しており、周辺地で見つかっている当該時期の集落とは異とする性格をもっている。				
	古代は第29・32・35次で8世紀後半~9世紀半ばを中心とした竪穴建物1棟、掘立柱建物2棟と土坑1基を確認した。集落の一端であるが、集落の中心は本報告の調査地より南側に所在する。 中世は14世紀を中心とした集落跡である。集落内の宅地は、第27・29・36次で検出した掘立柱建物、竪穴状遺構、井戸で構成されていると推測できるが、井戸の確認数は少なく共同利用であったようである。第29・35次の一角には、掘立柱建物が南北方に列のようにして並んで見つかっており、その配置状況から市庭の可能性をもつ。集落の縁辺にあたる第24次には、周溝や配石を有した墓が造立されている。				

2016年3月29日 発行

北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書13

三日市A遺跡8

著作権所有 石川県野々市市三納一丁目1番地

発 行 者 野々市市教育委員会

印 刷 者 石川県野々市市矢作三丁目18

高桑美術印刷株式会社
